挿表18　グリッド毎の素材及び石器・石核の石材別個数表

（遺構内出土・表採分を除く）

	剝片			横形剝片			石刃			石刃状剝片			細石刃			石器・石核		
	Ob	San	Jp	Ob	San	Jp	Ob	San	Jp	Ob	San	Jp	Ob	San	Jp	Ob	San	Jp
1D	1			1														
1E	1															1	1	
2D	56			45	4	1				1			6			7	1	
2E	11	3		11	8	1				1	1		2		1			
3C				4									1			1		
3D	27	1		33	1	1							6			1	1	
3E	7		2	9	3	1				1			1			1		
3F	2			3														
4C	2			2														
4D	17	2	1	20				1					4					
4E	6	6	1	8	10	1										2		1
4F	22	5	5	15	5	1	1						4			2		5
4G	5		2	9		3	1						3			2		
5C	2			3	1								1			1		
5D	1		1	1														
5E	3	3	1	1	9	1					1							
5F	14	6	1	1	1													
5G	5	4	4	4	10	3							1		3	2	1	
6A				1														
6B	1			4														
6C	3			2									2					
6D	4	1		4	2													
6E	1			2			1											
6F	7	2	1	4		2										1	1	
6G	1	3	1	4	4	4		1					1					1
7B	6			4	1								1					
7C	5	1		2	1	1								1				
7D	14	3	1	5	7	2			1						1	1		
7E	8		2	4	1	1												
7F	6		1	8	2								1	1		1		
7G	1		2		1													
7H						1												
8B	6		1	6	1													
8C	5	2		4											1			
8D	1	2		5									1					1
8E	1		1	1									1			1		
8F	7			7		1							2		1	1		
8G			2	1	4	2								1				
9B				2	1													
9C	4	3	1		3	1												
9D	10	4	6	10	7	4							1	1		2	1	1
9E	7	4	3	3	7	2							1				1	1
9F	2	2	2	4	10	5	1		1			1						
9G	3	9	13	12	8	3							2				2	
9H	2	1	1	1	9	1												
10C		1		1														
10D	5	6	2	5	5	2												
10E	3	6		4	10	1		1										
10F	1	1	2	1	3			1					2					
10G	14	7	2	7	12	2			1				1		2	1	1	1
10H	4	4	3	11	4	2							1	1			1	
10I	1	1																
11C	1																	
11D				1	1													
11E																1		
11F	1			1	2													
11G	2			3	4			1					1					
11H	13	1		22	13			1			1		2					
11I	2			3	3													
12D	1																	
12E				1														
12F	1																1	
12G			1															
12H		3		4	3	1							1					
12I	19			20									2			1		
13E					1													
13H	1				1													
15H				1														
計	356	97	66	355	183	51	4	6	3	3	3	1	52	5	9	30	12	11

註1　山中一郎（1978）「長原遺跡出土の石器について」長原遺跡調査会編『大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告書』大阪

註2　註1に同じ。P164

註3　山中氏らは、提示したノートをもとに一度以上の分析を行ない、その結果によりノートの修正を行なっている。研究法の固定化をさけるためである。

註4　山中氏の用語では、石鏃とは、両縁が完全に整形されている剝片石器で、最大長が3cm以下のものを示す。本遺跡において、最大長が3cm以上のものが2点あるが、便宜的に石鏃の範疇に入れて述べる。

挿表19　上福万遺跡石鏃観察表

※単位は全てmm、mgで残存長には（　　）をつけた。

No	取り上げNo	出土位置	基部形	基部の細部調整	調整	整形	中央断面形	欠　損	尖端	原面	長	幅	厚	重	石　材
1	257	表採	極凹	薄両	両面	非極	五角形	—	○	／	16.0	16.0	4.1	700	サヌカイト
2	不明	表採	凹	平両	両面	厚形	菱形	尖端	—	／	(11.0)	16.0	4.1	550	黒曜石A
3	29	表採	極凹	厚両	両面	厚形	菱形	—	◎	×	14.0	14.0	3.0	300	黒曜石B
4	3384	排土中	凹	薄両	両面	非極	扁平五角形	尖端	—	×	(16.2)	19.7	4.9	1300	石英
5	不明	B区表採	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	31.5	22.0	5.2	2600	黒曜石B
6	256	表採	直線	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	13.5	12.4	4.0	400	無斑晶安山岩
7	2574	SI—01	凹	平両	両面	厚形	平凸	尖端	—	×	(27.0)	26.0	7.0	3100	サヌカイト
8	2560	SI—03	凹	薄両	両面	非極	平凸	脚部	×	×	(20.0)	(16.0)	5.0	1200	サヌカイト
9	2602	SI—03	極凹	薄両	両面	非極	六角形	脚部	×	×	11.5	(19.0)	2.8	600	黒曜石B
10	1875	SI—03	凹	薄両	両面	非極	五角形	尖端	—	×	(18.5)	19.0	4.0	1100	サヌカイト
11	1875②	SI—03	凹	薄両	両面	非極	—	半欠(基部・尖端)	○	×	(21.1)	(18.0)	4.7	900	サヌカイト
12	1839	SI—04	極凹	薄両	両面	非極	六角形	—	○	×	23.8	19.0	4.2	1100	めのう
13	2142	SI—05	直線	薄両	両面	非極	平凸	尖端	—	×	(17.5)	20.5	4.0	1000	サヌカイト
14	3499	SI—05	直線	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	21.0	20.0	4.0	1300	流紋岩
15	1840	SI—05	凹	薄両	両面	非極	両凸	尖端	—	×	(10.0)	18.2	5.5	800	黒曜石A
16	3202	SI—05	—	薄両	両面	非極	両凸	基部・尖端	—	○	(16.0)	(15.5)	4.0	900	鉄石英
17	3381	SB-06pit 1	凹	薄両	両面	非極	平凸	左脚部端	○	×	24.6	(18.2)	4.8	2100	サヌカイト
18	3583	SB-06pit 1	—	—	片面	非極	平凸	基部	○	×	(29.0)	(18.4)	7.2	2200	サヌカイト
19	3598	SB-07pit 2	凹	薄両	両面	非極	菱形	右脚部端	×	×	17.4	(16.5)	3.7	1200	黒曜石C
20	55	集石20	極凹	薄両	両面	非極	平凸	脚部	○	×	19.0	(16.2)	3.0	700	サヌカイト
21	29	集石21・22	凹	薄両	両面	非極	菱形	尖端	—	×	26.0	20.0	4.0	1500	サヌカイト
22	37	集石25	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	23.0	17.5	4.2	1000	サヌカイト
23	20	集石27	極凹	薄両	両面	非極	二等辺三角形	尖端	○	×	(22.6)	19.8	2.8	1300	サヌカイト
24	239③	JSK—15	凹	薄両	両面	非極	台形	脚部端	×	×	22.3	18.0	3.6	850	サヌカイト
25	96	JSK—17	ほぼ直線	薄両	両面	非極	平凸	尖端(磨滅)	○	×	18.5	18.5	3.6	900	サヌカイト
26	116	JSK—26	凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端	—	×	19.0	17.0	4.3	1000	サヌカイト
27	38	JSK—48	極凹	平両	両面	非極	六角形	—	×	×	32.0	22.0	3.8	1600	サヌカイト
28	43	JSK—48	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	22.3	21.4	5.9	2200	ガラス質流紋岩
29	3930	18FJPit	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	20.6	17.2	5.2	1000	石英
30	115	2D、12トレンチ	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	22.2	17.8	3.0	900	黒曜石B
31	217	2D、12トレンチ	凹	平両	両面	厚形	菱形	—	○	×	27.2	26.0	7.5	2700	黒曜石B
32	218	2D、12トレンチ	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	19.0	17.0	4.0	700	黒曜石B
33	219	2D、12トレンチ	極凹	薄両	両面	非極	菱形	脚部	○	×	11.0	(13.0)	3.0	400	サヌカイト
34	4832	2D	極凹	薄両	両面	非極	両凸菱形	—	○	×	26.0	17.1	3.0	900	黒曜石B
35	87	2D、12トレンチ	直線	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	18.0	15.2	5.3	1300	黒曜石C
36	3684	2E	凹	薄両	周縁	非極	平凸	—	○	×	25.0	18.0	3.0	900	無斑晶安山岩
37	4750	3E	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	19.0	15.0	4.0	700	黒曜石B
38	4099	4B、撹乱中	極凹	薄両	両面	非極	両凸	脚部	○	×	22.0	(17.4)	4.6	1200	黒曜石B
39	3995	4C	凹	平両	両面	非極	菱形	—	◎	×	26.0	16.0	3.5	800	黒曜石B
40	3986	4D	凹	厚両	両面	厚形	菱形	—	○	×	21.0	19.5	6.0	1600	黒曜石B

No	取り上げNo	出土位置	基部形	基部の細部調整	調整	整形	中央断面形	欠　損	尖端	原面	長	幅	厚	重	石　材
41	不明	4 D	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	17.3	16.6	2.7	600	黒曜石B
42	3986⑲	4 D	凹	薄両	両面	非極	—	脚部のみ残る	—	×	—	—	—	400	黒曜石B
43	3379	4 E	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	15.0	14.0	3.9	400	サヌカイト
44	不明	4 E	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	◎	×	18.1	15.5	2.1	550	めのう
45	150	4 F	—	薄両	両面	非極	平凸	脚部	○	×	25.2	(15.0)	4.0	900	めのう
46	3159	4 F	凹	薄両	両面	非極	六角形	—	×	×	16.9	12.0	3.4	700	黒曜石B
47	3160	4 F	極凹	厚両	両面	非極	両凸	脚部	○	×	25.3	(16.5)	6.0	1300	サヌカイト
48	142	4 F、6トレンチ	凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端	—	—	13.4	19.6	3.0	1000	サヌカイト
49	3317	4 G	凹	薄両	両面	非極	扁平五角形	—	○	×	16.5	15.5	2.4	500	サヌカイト
50	不明	4 G	凹	薄両	両面	非極	両凸	基部	◎	×	—	—	—	200	黒曜石B
51	161	5 F	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	21.3	18.3	3.2	800	サヌカイト
52	1465①	5 F	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	22.0	11.0	4.0	1000	サヌカイト
53	1465②	5 F	凹	薄両	両面	非極	三角形	脚部	○	×	25.0	19.5	5.0	1700	サヌカイト
54	158	5 F	凸	薄両	両面	非極	平凸	脚部？	○	×	24.1	14.3	3.5	1100	サヌカイト
55	2893	5 G	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	23.5	17.5	4.3	1100	サヌカイト
56	2871	5 G	凸	平両	両面	非極	両凸	—	○	×	25.0	22.0	9.5	4800	サヌカイト
57	19	6 E	凸	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	23.0	13.2	4.1	1300	黒曜石B
58	3060	6 E	凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端	—	×	23.3	13.0	2.6	1000	サヌカイト
59	264	6 G	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	22.0	19.3	4.1	1200	めのう
60	4293	7 B	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	20.0	15.0	4.0	1000	鉄石英
61	77	7 C	凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端	—	×	(14.8)	18.0	3.1	700	サヌカイト
62	64	7 D	極凹	厚両	両面	厚形	両凸	—	○	×	14.4	16.0	5.3	700	黒曜石A
63	77	7 D	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	28.9	18.9	3.5	1400	サヌカイト
64	104	7 D	凹	薄両	両面	非極	菱形	尖端左右脚部端	—	×	(18.0)	19.2	4.7	1000	サヌカイト
65	4265	7 D	極凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	19.7	17.0	4.6	700	石英
66	121	7 D	凹	薄両	両面	非極	六角形	—	○	×	19.7	13.0	3.9	900	サヌカイト
67	24	7 E	凹	平両	両面	非極	六角形	左脚部端	—	×	19.4	15.8	4.7	1300	サヌカイト
68	1209	7 F	極凹	薄両	両面	非極	両凸	右脚部端	○	×	28.9	20.5	3.4	1550	無斑晶安山岩
69	84	8 B	凹	薄両	両面	非極	平凸	左脚部端	○	×	19.9	17.0	1.8	500	サヌカイト
70	44	8 C	極凹	薄両	両面	非極	平凸	—	◎	×	14.4	14.4	2.4	300	サヌカイト
71	182	8 D	凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端	○	×	(27.7)	21.0	6.6	2500	サヌカイト
72	1124	8 E	凹	薄両	両面	非極	長扁平菱形	左脚部端	○	○	23.0	20.0	5.2	2100	ジャスパー
73	64	8 F	—	薄両	両面	非極	両凸	脚部	○	×	24.2	13.0(17.0)	3.8	900	サヌカイト
74	51	8 F	凹	薄両	両面	非極	両凸	脚部端	◎	×	15.6	16.0(16.1)	4.6	700	石英
75	3464	8 F	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	20.0	14.8	4.2	700	サヌカイト
76	2777	8 F	凸	薄両	両面	非極	菱形	脚部	○	×	27.3	(18.2)	5.0	1800	サヌカイト
77	70	8 F	極凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	22.0	17.3	4.2	900	サヌカイト
78	89	9 C	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	◎	×	19.8	18.3	3.3	1000	ジャスパー
79	90	9 C	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	25.0	11.5	3.0	1000	サヌカイト
80	19	9 C	極凹	薄両	両面	非極	両凸	脚部	◎	×	27.4	19.5(21.0)	5.0	1800	サヌカイト
81	282	9 D	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	14.0	14.0	3.1	400	石英
82	294	9 D	極凸	薄両	両面	非極	不等辺三角形	脚部	○	×	18.7	(16.0)	3.1	800	サヌカイト
83	4362②	9 D	直線	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	18.0	15.5	4.0	800	サヌカイト
84	4362③	9 D	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	18.5	17.0	4.6	1000	サヌカイト
85	4343	9 E	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	19.0	20.0	5.0	1300	黒曜石B
86	4953	9 E	直線	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	24.0	19.0	3.4	1100	サヌカイト

No	取上げNo	出土位置	基部形	基部の細部調整	調整	整形	中央断面形	欠　損	尖端	原面	長	幅	厚	重	石　材
87	4370	9 E	凹	薄両	両面	非極	両凸	尖端・脚部	—	×	(18.8)	(18.6)	8.0	2600	石英
88	132	9 E	凹	薄両	両面	非極	六角形	—	○	×	21.5	19.0	4.2	1100	サヌカイト
89	4859	9 F	直線	薄両	両面	非極	両凸	左脚部端	○	×	28.6	22.4	9.6	2850	サヌカイト
90	231	9 F	ほぼ直線	薄両	両面	非極	平凸	脚部端	×	×	17.5	(17.2)	4.0	700	サヌカイト
91	291	9 F	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	22.7	17.0	3.8	1300	サヌカイト
92	1653	9 F	凹	薄両	両面	非極	菱形	—	○	×	16.0	16.2	3.5	600	サヌカイト
93	276	9 G	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	23.9	19.2	4.9	1750	石英
94	22	9 G	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	22.6	20.5	3.6	1100	サヌカイト
95	3820	9 H	凹	薄両	両面	非極	五角形	尖端	—	×	18.0	14.2	3.2	600	サヌカイト
96	54	10D	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	◎	×	22.0	16.8	3.3	800	サヌカイト
97	1	10D	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	21.9	21.5	3.2	1300	サヌカイト
98	147	10E	凹	厚両	両面	厚形	両凸	—	○	×	19.35	19.85	5.6	1500	黒曜石B
99	4	10F	凹	薄両	両面	非極	五角形	左右脚部端	×	×	23.0	15.6	3.0	900	サヌカイト
100	523	10G	凹	薄両	両面	非極	両凸	—	○	×	22.5	20.0	5.4	2100	ジャスパー
101	417	10G	凹	薄両	両面	非極	扁平菱形	右脚部端	×	×	21.9	18.4	3.4	1000	サヌカイト
102	25	10G	極凹	薄両	両面	非極	平凸	尖端(磨滅)	—	×	(18.0)	(20.0)	4.3	1100	サヌカイト
103	90①	10H	凹	薄両	両面	厚形	三角形	—	×	×	17.0	14.0	5.0	800	黒曜石A
104	19	10H、5トレンチ	凹	薄両	両面	非極	四角形	—	○	×	28.7	23.1	3.2	1700	サヌカイト
105	2606	10H	凹	平両	両面	厚形	菱形	左半分	×	×	20.0	(13.0)	5.0	1000	黒曜石A
106	87	11G	凹	薄両	両面	非極	平凸	脚部	○	×	24.8	(17.0)	3.6	1100	サヌカイト
107	246	11H	凹	薄両	両面	厚形	平凸	右縁部	—	×	16.8	11.0	3.0	300	黒曜石B
108	4130	11 I	極凹	薄両	両面	非極	三角形	—	○	×	18.0	18.0	4.5	600	黒曜石B
109	4211	11 I	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	23.0	21.0	5.0	1900	黒曜石A
110	1724	12G	極凹	厚両	両面	非極	菱形	—	○	×	28.0	17.0	5.0	1700	黒曜石B
111	1721	12H	凹	平両	両面	非極	六角形	左脚部端	×	×	25.9	16.6	5.7	1600	サヌカイト
112	128	12H	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	19.6	16.0	3.4	800	無斑晶安山岩
113	132①	12H	凸	薄両	両面	非極	平凸	—	×	×	21.6	19.0	4.4	1800	サヌカイト
114	13	12 I	極凹	厚表平裏	両面	厚形	六角形	左脚部端	×	×	19.0	13.3	2.6	550	サヌカイト
115	39	12 I	—	—	両面	非極	菱形	—	×	×	24.0	15.3	5.1	1500	サヌカイト
116	220①	12 I	凹	薄両	両面	非極	両凸	尖端	—	×	15.6	13.6	2.3	350	黒曜石B
117	220②	12 I	凹	薄両	両面	非極	両凸	尖端・脚部	—	×	(12.0)	(13.4)	2.7	250	黒曜石C
118	79	12 I	凹	薄両	両面	非極	平凸	脚部	○	×	16.0	(12.0)	2.0	300	サヌカイト
119	1	14H	極凹	薄両	両面	非極	両凸	尖端	—	×	(19.0)	18.0	3.0	700	サヌカイト
120	2	14H	凹	薄両	両面	非極	平凸	—	○	×	23.1	16.7	2.6	700	サヌカイト
121	1	16H	—	薄両	両面	非極	平凸	脚部	○	—	(14.0)	(13.0)	2.2	300	黒曜石A
122	1	17H	凹	薄両	両面	非極	平凸	左脚部	○	×	23.0	(14.3)	3.0	800	サヌカイト

略号及び用語解説（石鏃）

1．基部形
　極凹形：凹み部の長さに対してその深さが９分の１より大きくなるもの。
　凹　形：凹み部の長さに対してその深さが10分の１から20分の１のもの。
　直線形：凹み部及び突出部の幅に対して、その深さもしくは高さが20分の１以下のもの。

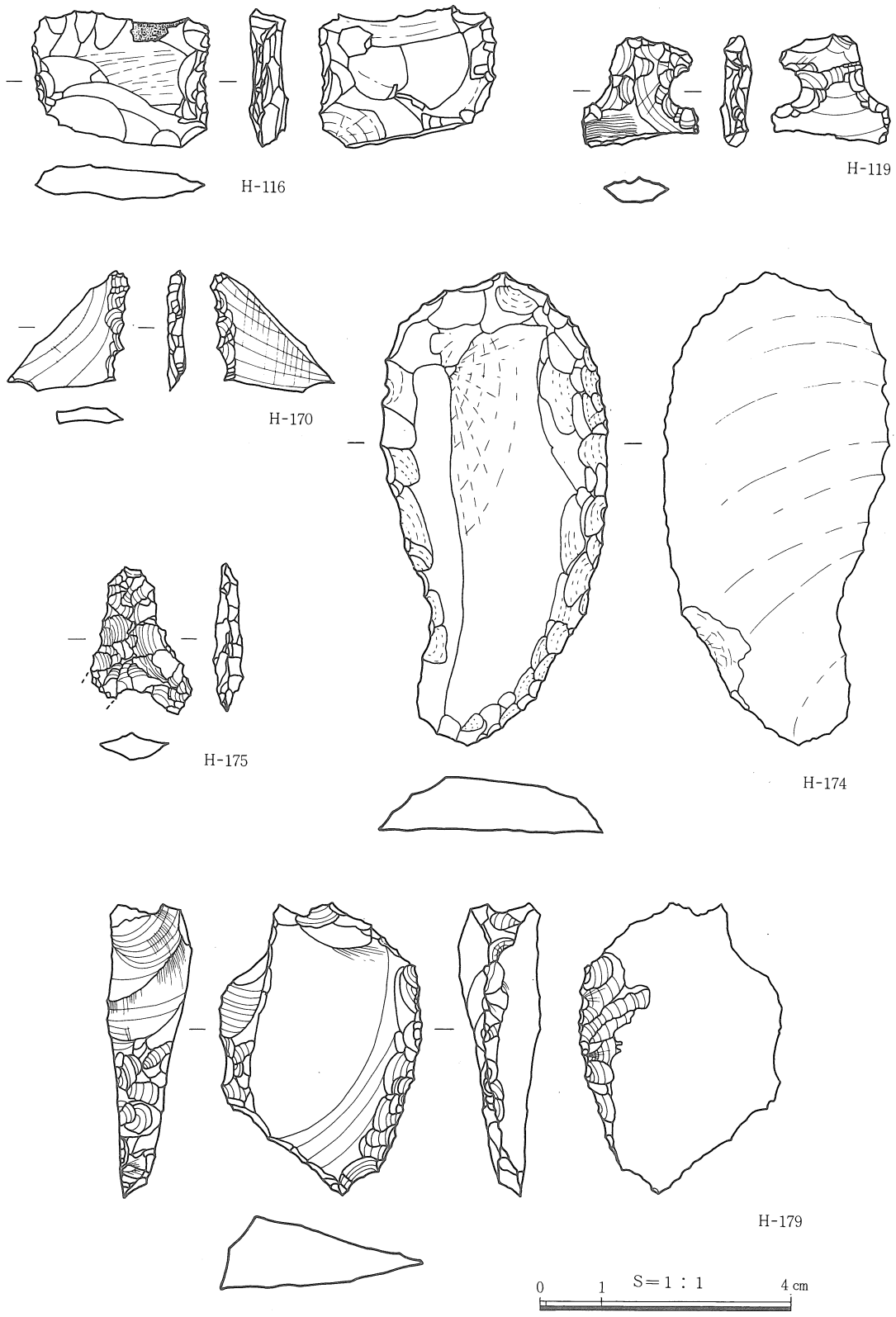
2．細部調整
　薄両：薄形両面細部調整、厚両：厚形両面細部調整、厚表・平裏：厚形表面細部調整、平形裏面細部調整
　平形細部調整：打撃角が25度以下、薄形細部調整：打撃角が25～55度、厚形細部調整：打撃角が55～70度

3．調整
　両面：両面細部調整、片面：片面細部調整

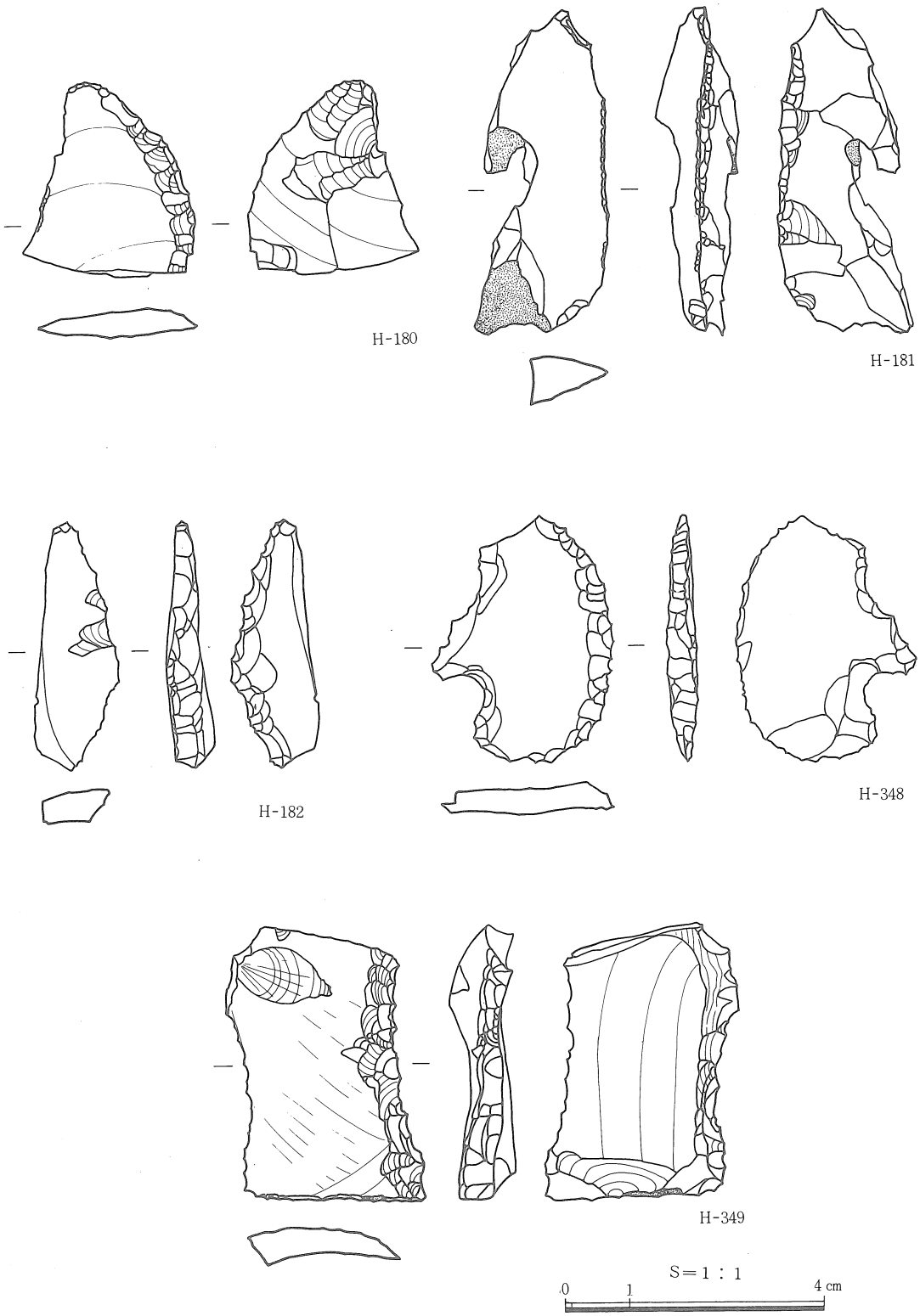
4．整形
　非極：平形及び薄形細部調整による整形

5．尖端
　◎：特に鋭い、○：鋭い、×：鋭くない

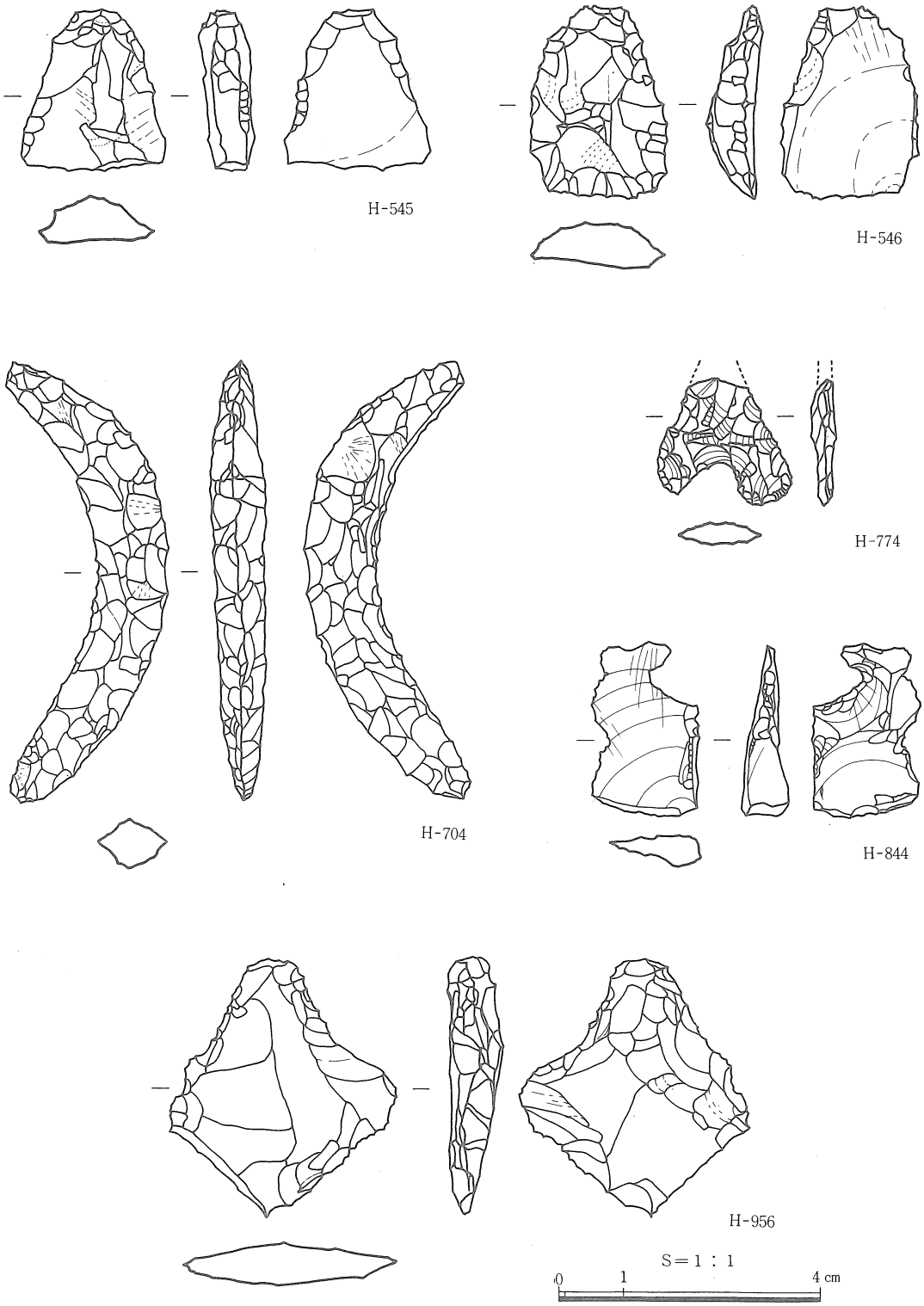
6．原面
　○：あり、×：なし



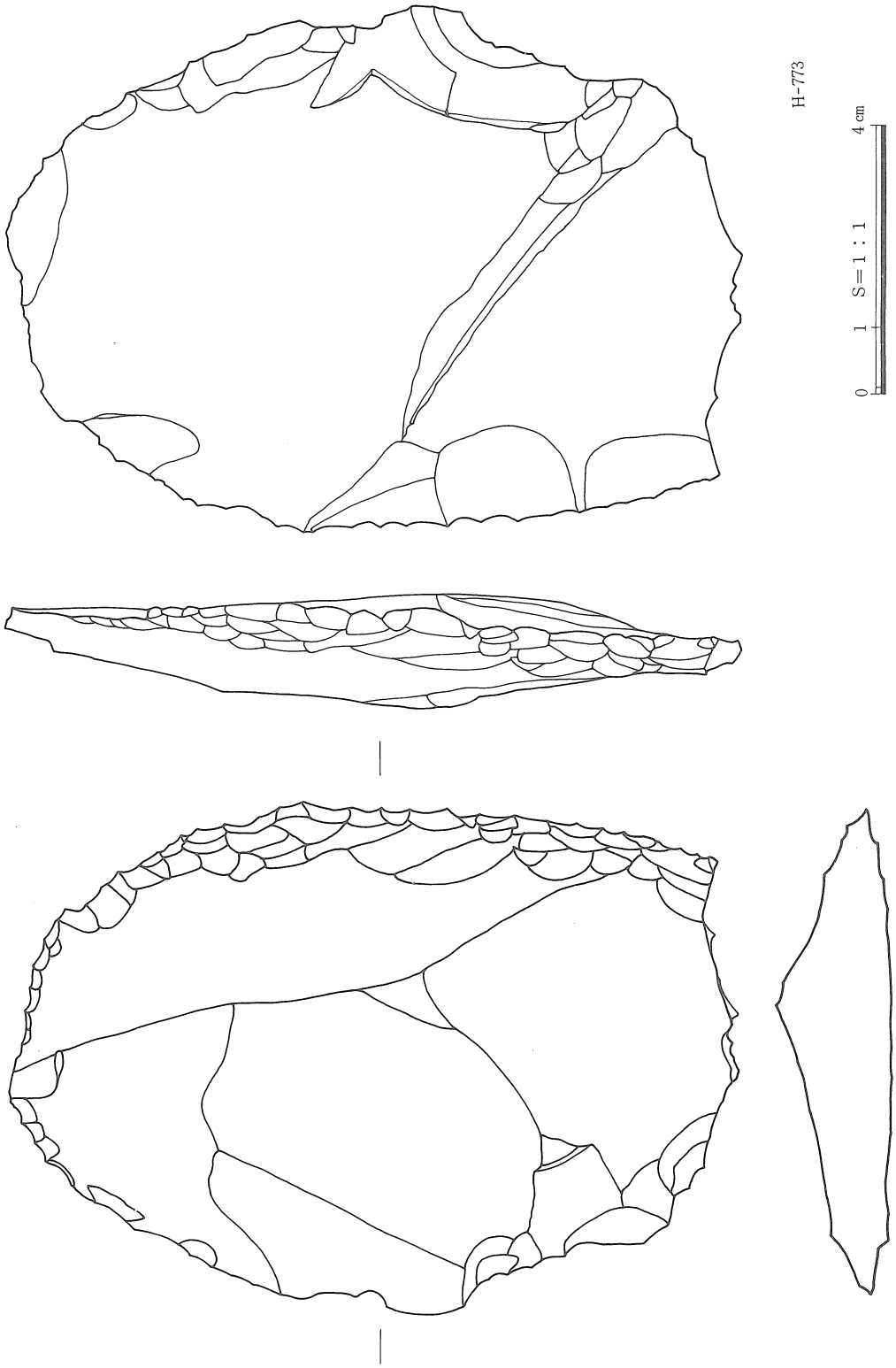
挿図152　石器実測図 1



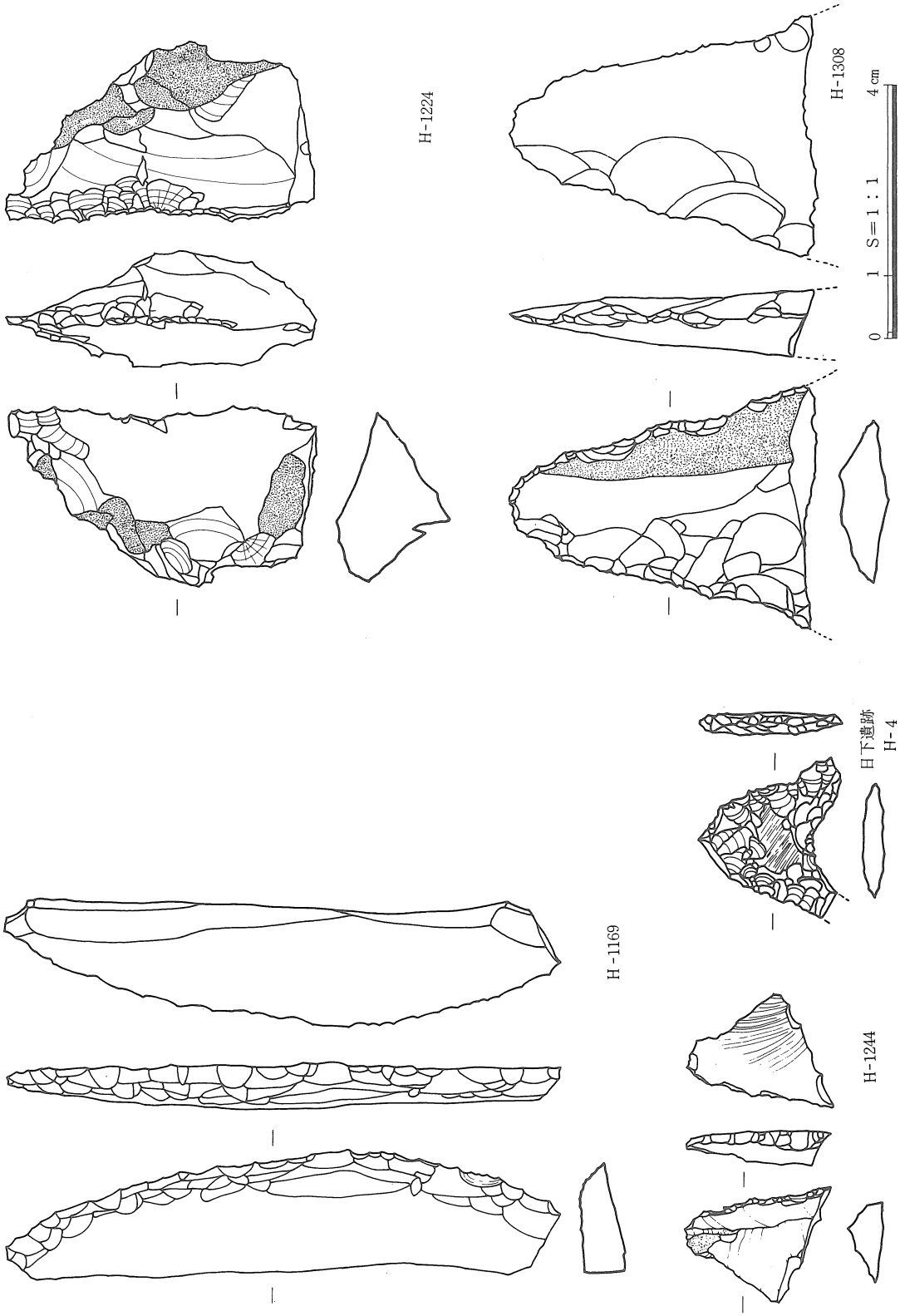
挿図153　石器実測図 2



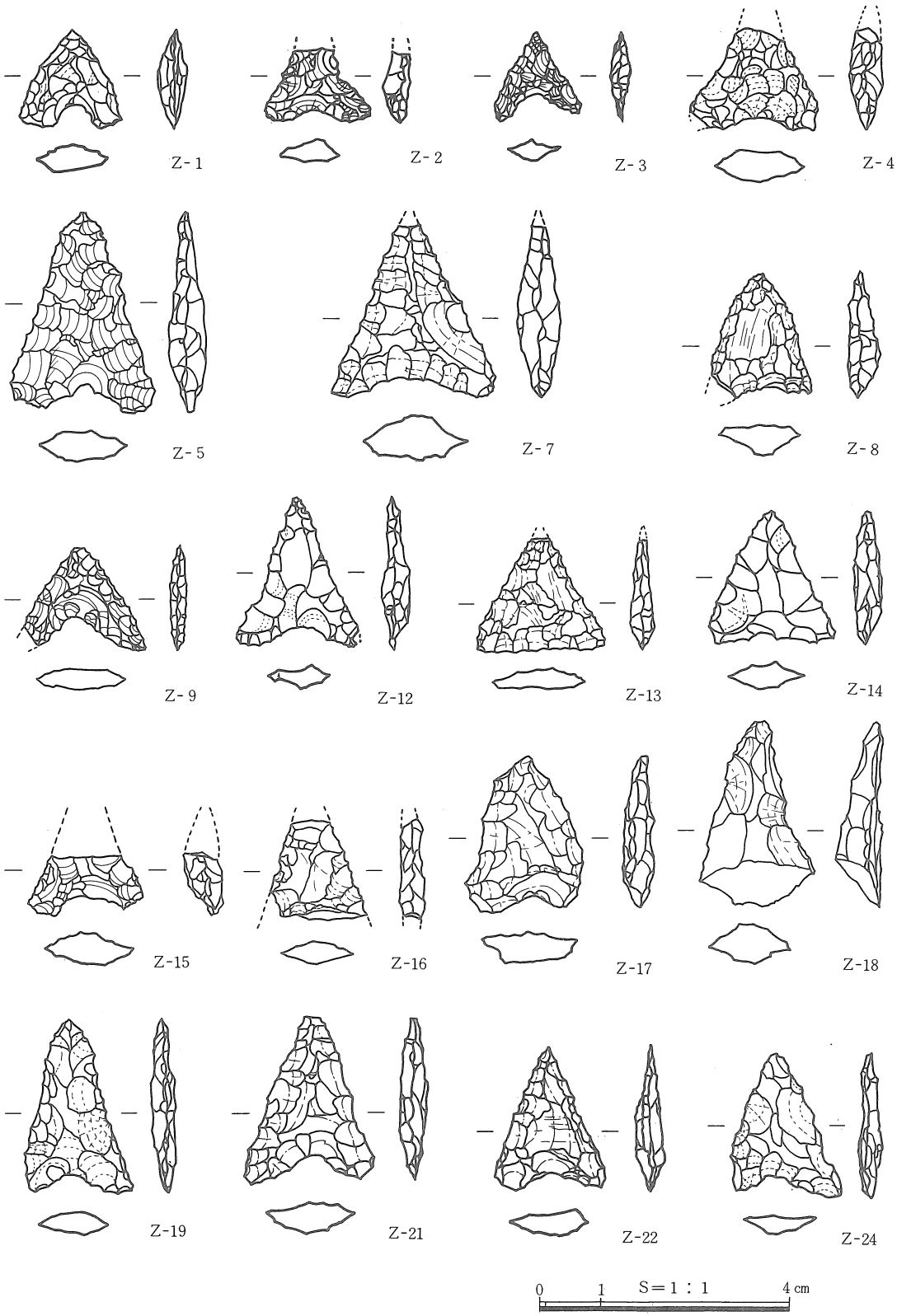
挿図154　石器実測図 3



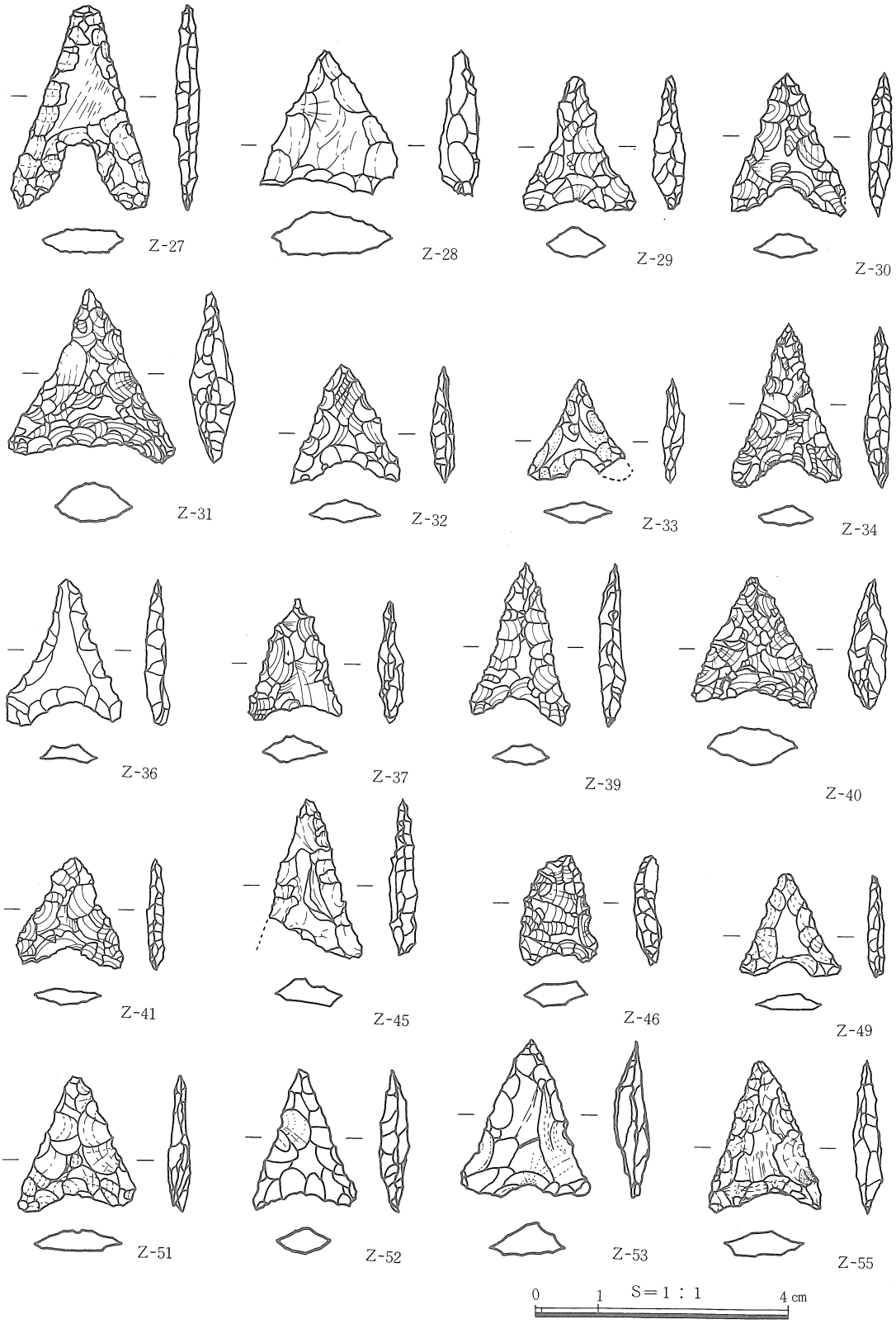
挿図155　石器実測図 4



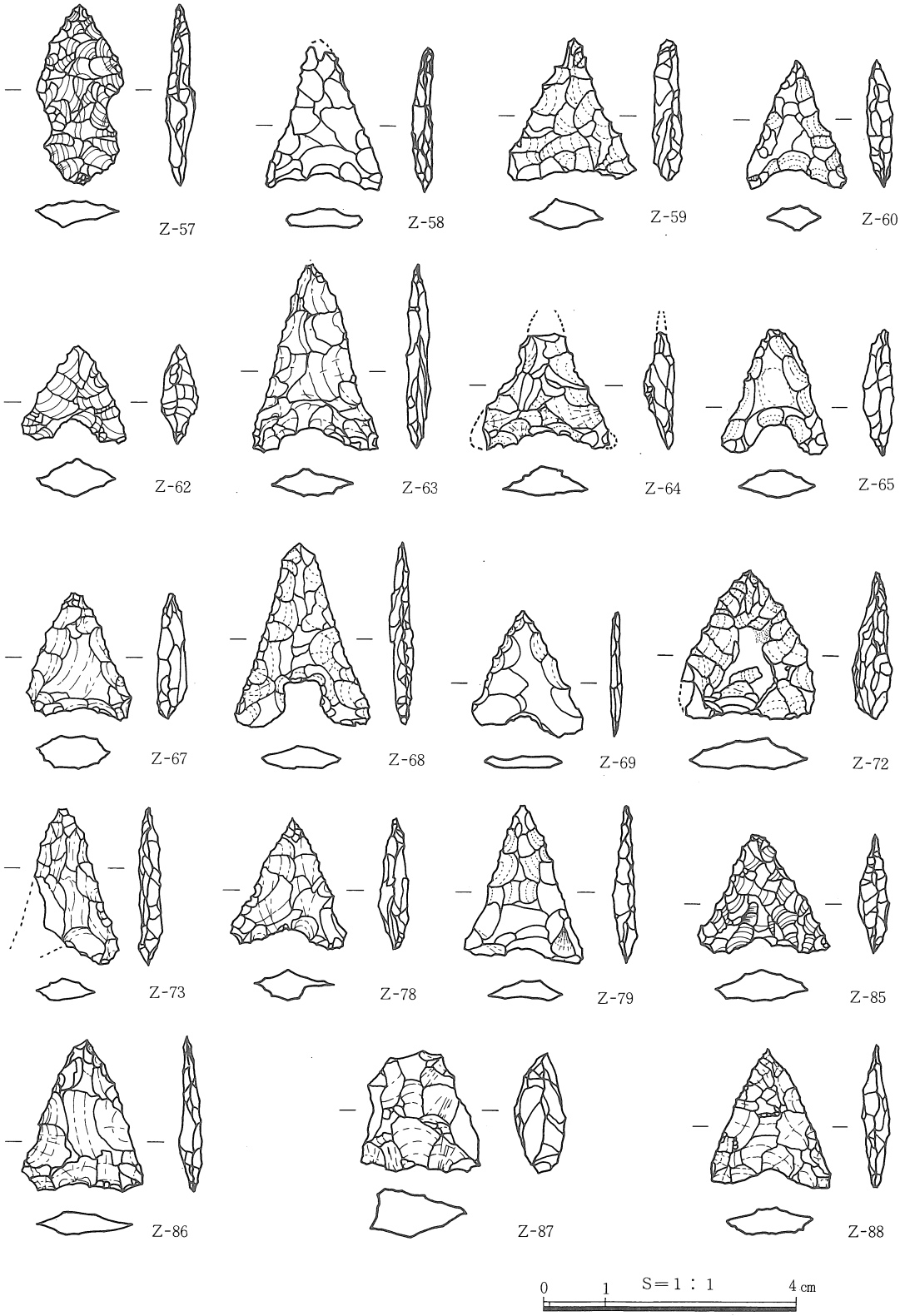
挿図156　石器実測図 5



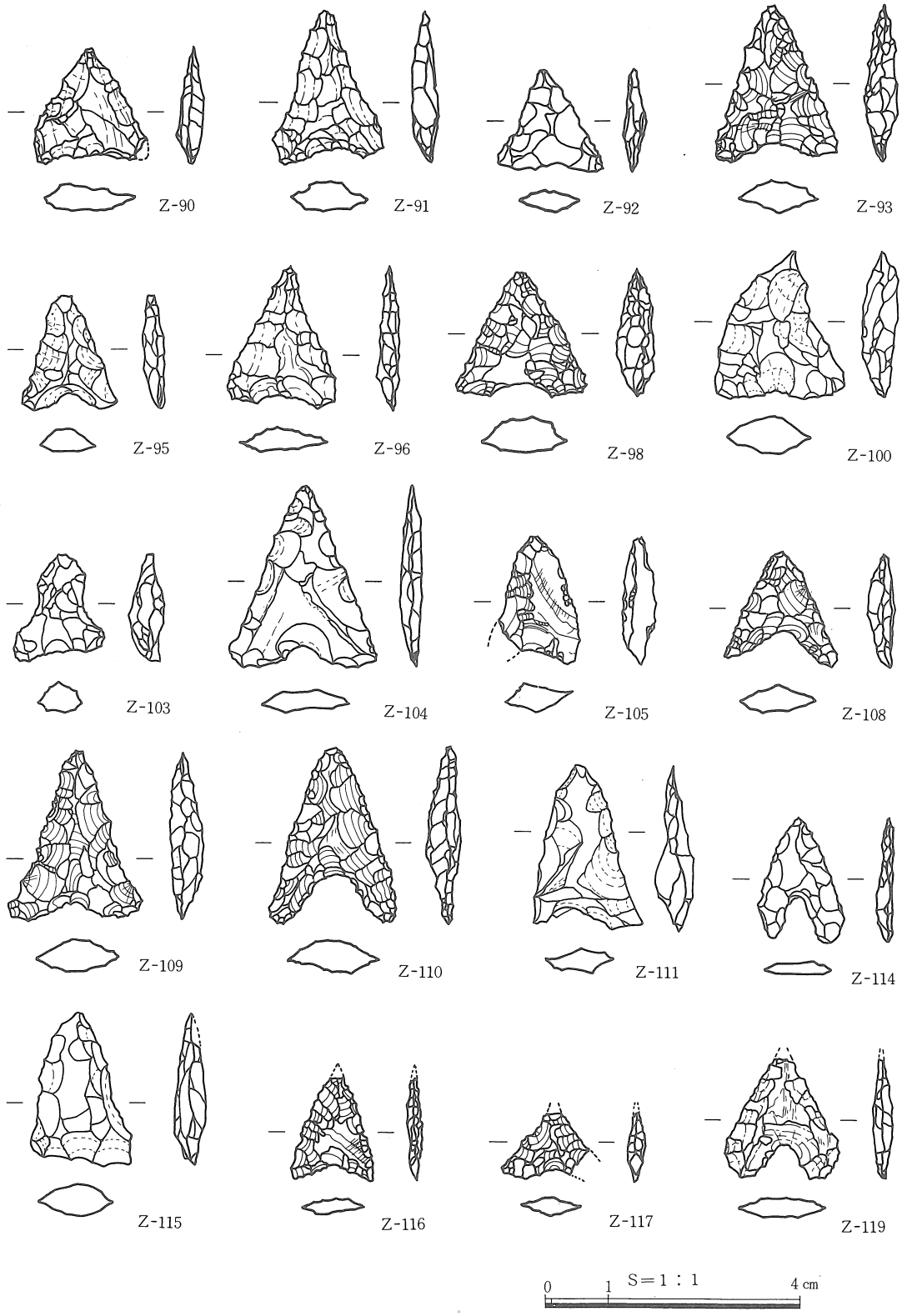
挿図157　石鏃実測図 1



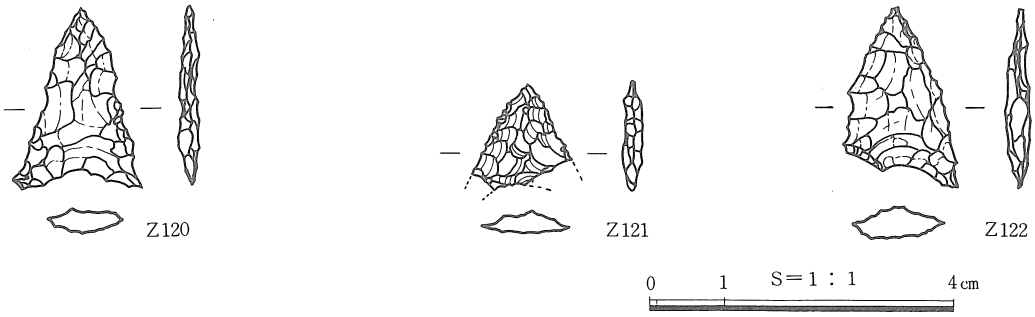
挿図158　石鏃実測図 2



挿図159　石鏃実測図 3



挿図160　石鏃実測図 4



挿図161　石鏃実測図 5

3　石皿・磨石・敲石・砥石・石斧・石錘・特殊石器・ペンダント他石製品について

石皿・磨石・敲石は上福万遺跡A区の南側約⅓を除いた、ほぼ全域から出土しているが、特に集中すると見られる部分は、10G・10E・5Fグリッド付近である。これは土器の多く出土している部分と重なっている。石鏃の出土状況もほぼ同じである。

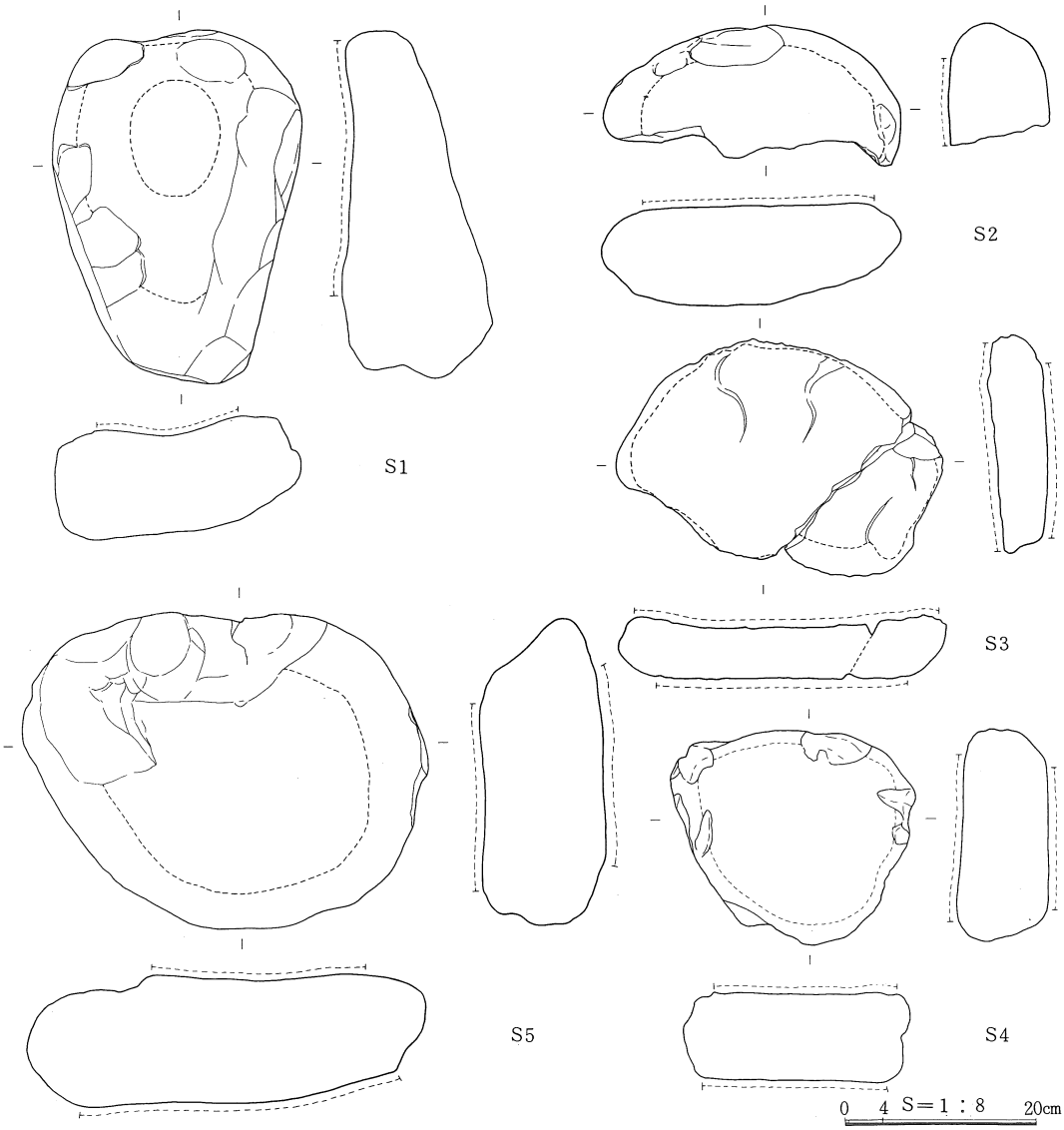
磨石・敲石は、使用痕によって細かく分類したが、分類毎に集中するような傾向は見られなかった。

石斧・石錘は、調査地区の北側で多く、環状石斧は10H・11Hグリッドで出土している。

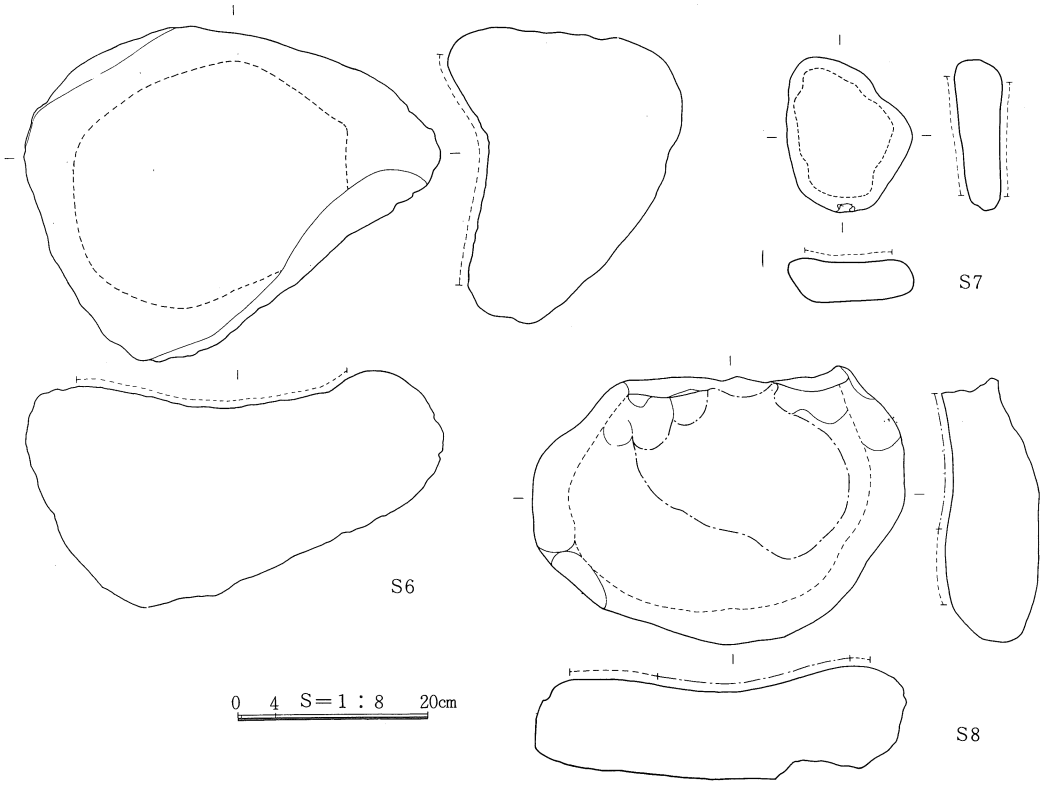
石皿　(挿図162・163、挿表20、図版60・61)

65点出土した。

ほとんどが、扁平な石を使用しており、両面または片面に若干の磨耗痕を持つ凹みを有



挿図162　石皿実測図1



挿図163　石皿実測図 2

するが、明確な縁を持たず、また磨面から石皿縁辺までの変化は乏しい。

石材は、角閃石安山岩をはじめとして、輝石安山岩、無斑晶安山岩等が使用されている。

磨石　(挿図164・165、挿表21・22、図版62)

礫表面に凹みがなく、磨耗痕と周縁部の敲打痕が組み合わされたものを磨石とした。挿表31に示すとおり、総点数359個を出土し、平均重量は746gを測る。

その使用痕の組み合わせから、磨石は二類に分類した。

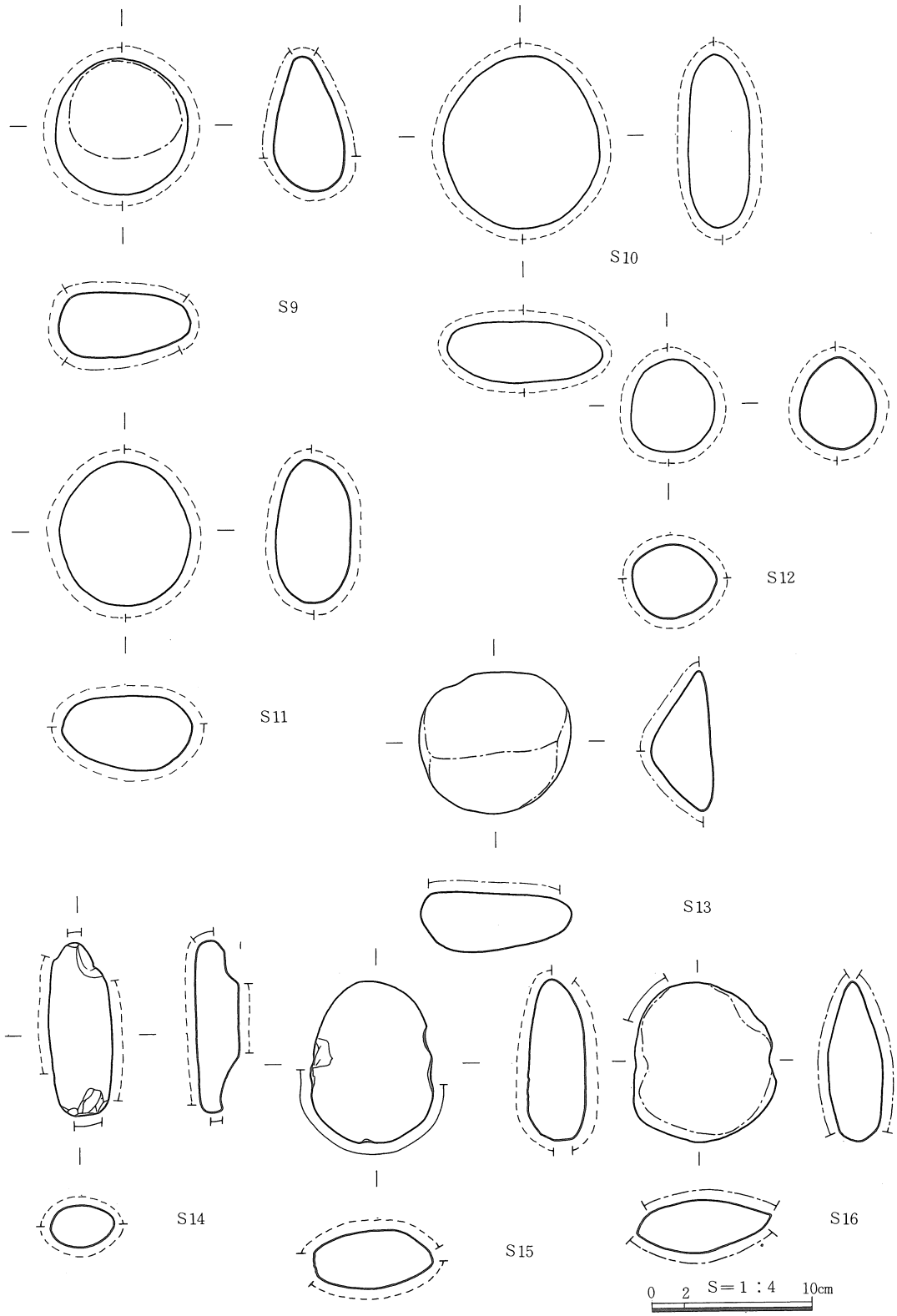
Ⅰ類　礫表面に磨耗痕（片面・両面を問わず）の認められるもの（挿図164—Ｓ９～13、挿表21）

162点出土した。両面に磨耗痕が認められるものがほとんどであるが、過度の使用により、面の一部が平坦になっているもの（Ｓ９・13他８点）がある。

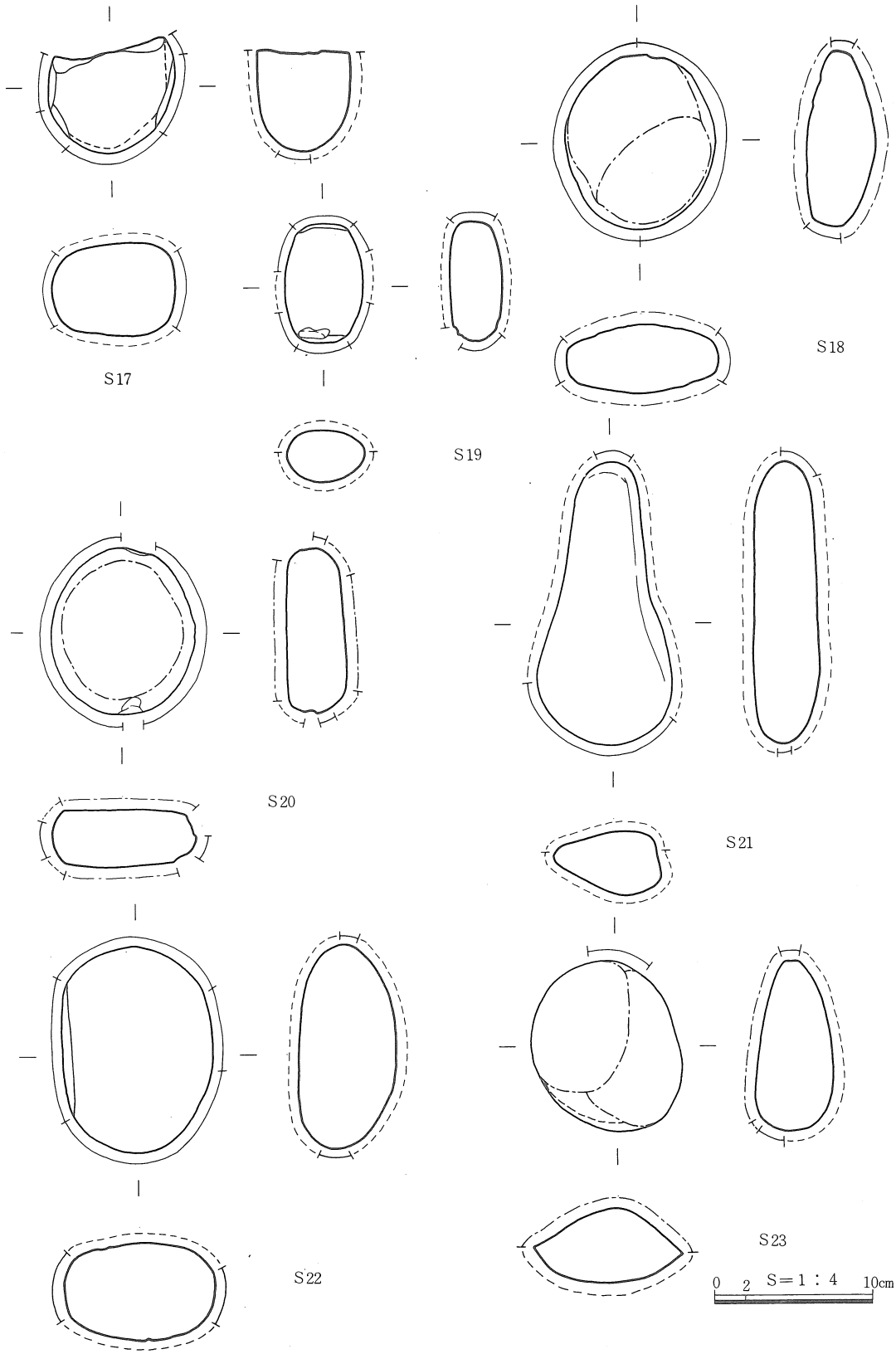
Ⅱ類　磨耗痕の他に、周縁部に敲打痕が認められるもの（挿図164・165—Ｓ14～23、挿表22）

197点出土した。多くは両面に磨耗痕を有し、周縁部をほぼ全周する敲打痕を持つ。過度の磨耗により、表面の一部が平坦になったもの（Ｓ16・17・18・20・23他36点），過度の敲打により、円礫の側面が平坦になったもの（Ｓ22他18点）が認められる。

使用されている石材は、大山火山岩類の角閃石安山岩、角閃石石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩が多い。他に花崗岩・玢岩・砂岩・閃緑岩等もみられる。



挿図164　磨石実測図１



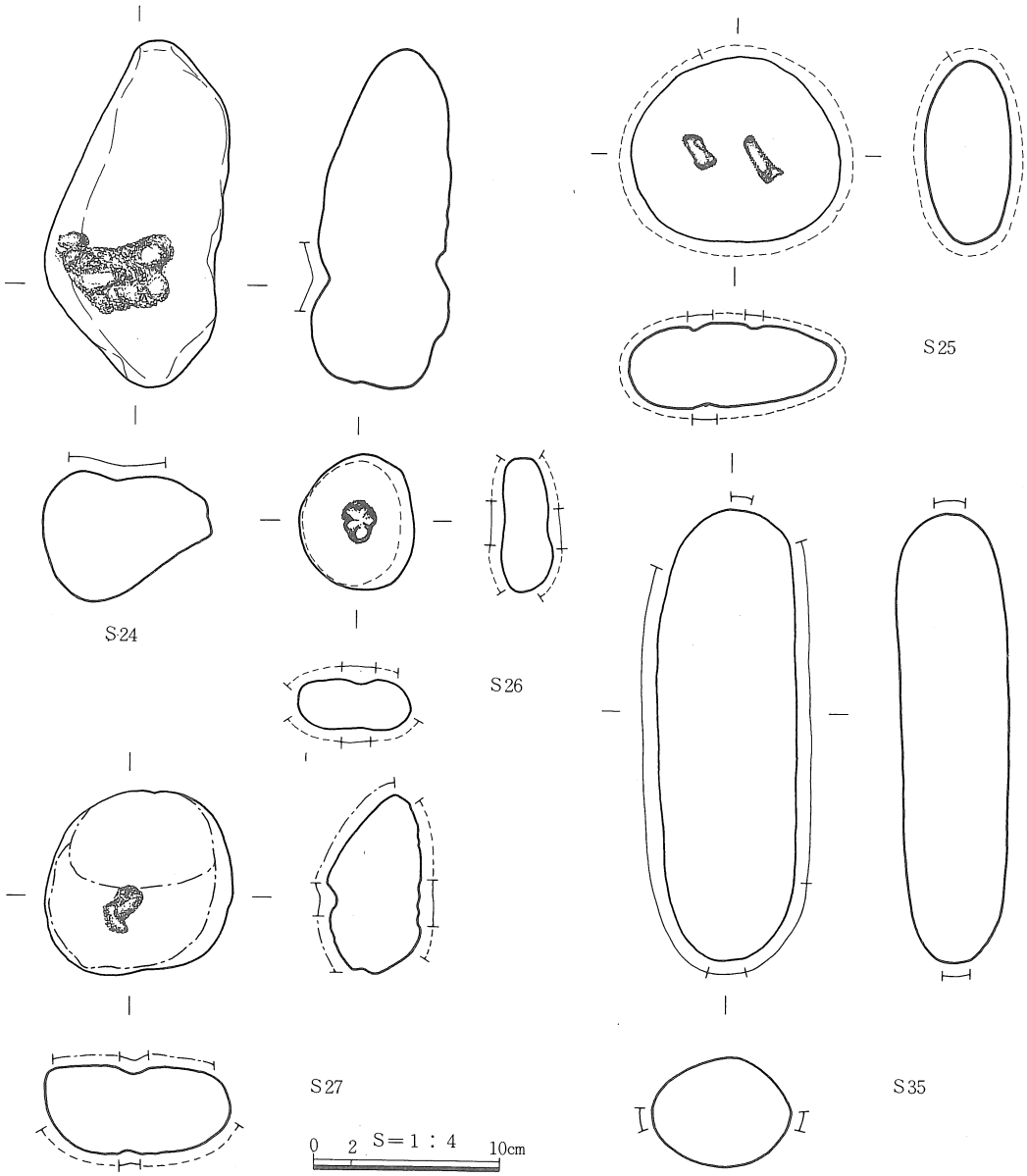
挿図165　磨石実測図 2

敲石　(挿図166・167、挿表23～26、図版62)

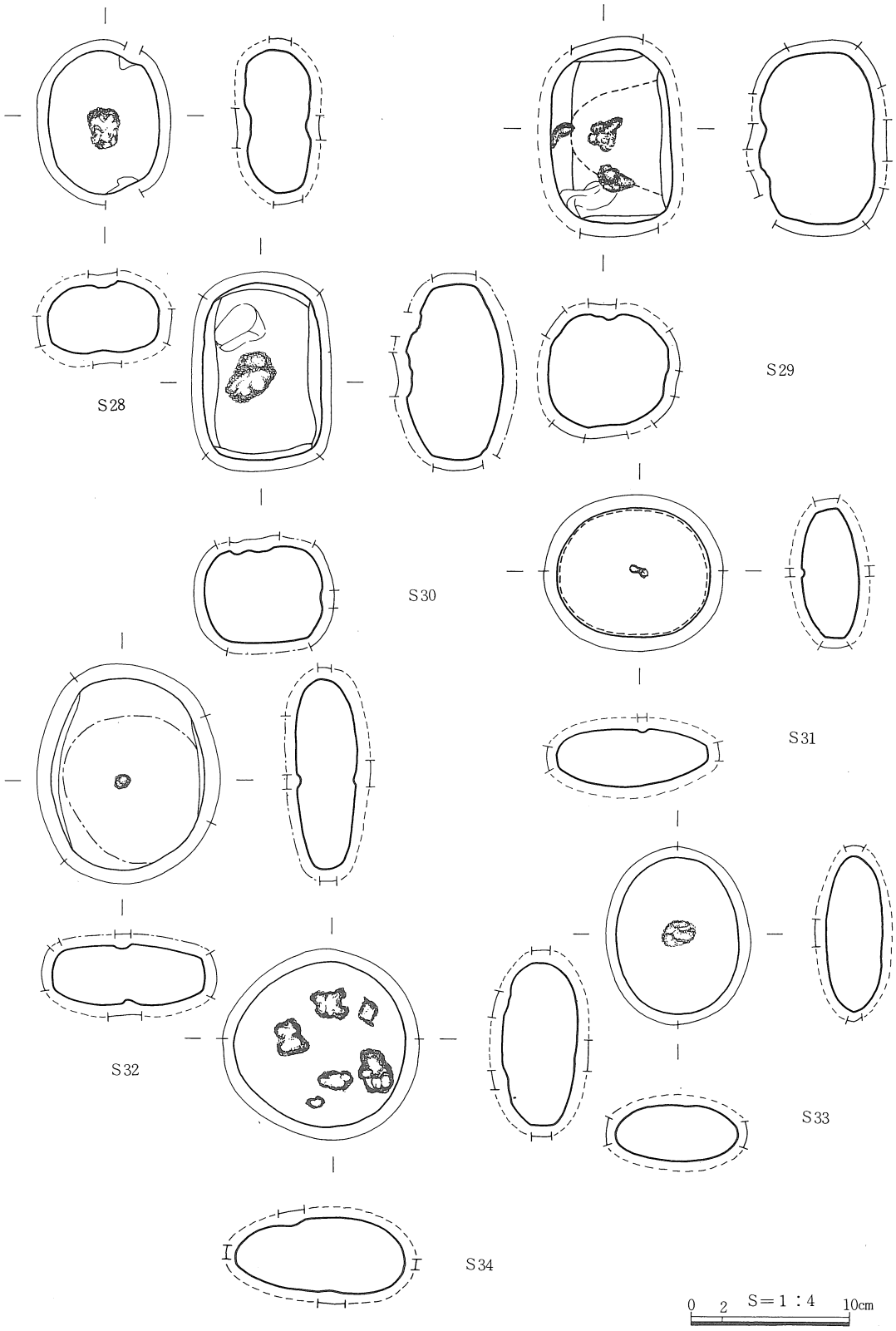
礫表面に敲打痕による凹みを有するものを敲石として分類した。挿表31に示すとおり、総点数266個を出土し、その平均重量は896gを測る。片手で持って作業するには手頃な大きさのものが多い。

敲石の使用痕の組み合わせにより、敲石は五類に分類した。(凹み、磨耗痕を持たないが、周縁部に敲打痕の認められるものがあり、一応敲石の中で分類した。)

Ⅰ類　表面に敲打痕のある凹み(上・下、両面、凹みの個数を問わず)を有するもの。(挿図166—S24、挿表23) 11点出土している。



挿図166　敲石実測図1



挿図167　敲石実測図 2

Ⅱ類　凹みを持ち、表面に磨耗痕の認められるもの（挿図166―Ｓ25～27、挿表24）

51点出土。Ｓ27他１点は過度の磨耗により、表面の一部が平坦になっている。

Ⅲ類　凹みを持ち、周縁部に敲打痕の認められるもの（挿図41―Ｓ15）

集石25で１個出土している。

Ⅳ類　凹みを持ち、表面に磨耗痕、周縁部に敲打痕の認められるもの

（挿図167―Ｓ28～34、挿表25）

196点出土しているが、表面の一部が過度の磨耗により平坦になっているもの（Ｓ29・30・32他37点）。側面部が、過度の敲打により平坦になったもの（Ｓ30・32他33点）も認められる。

Ⅴ類　凹みは持たないが、周縁部に敲打痕の認められるもの（挿図166―Ｓ35、挿表26）

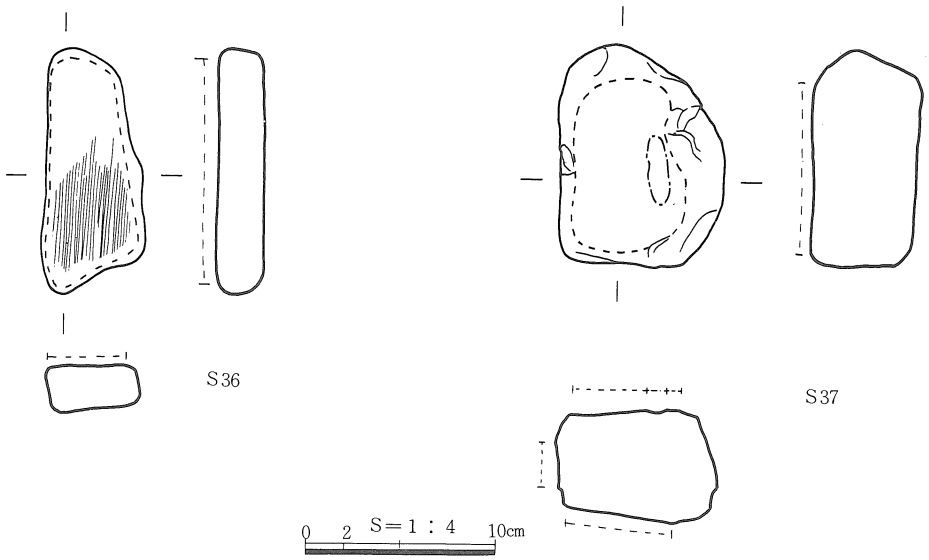
７点出土している。扁平な棒状の石が多く使用されている。

使用されている石材は、磨石と同じで、主に大山火山岩類の角閃石安山岩、角閃石石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩である。

砥石　（挿図168、挿表27、図版63）

22点出土している。

比較的小型の扁平な角礫の表面に、幅広く、浅い砥面をもつものを砥石とした。石材は、角閃石安山岩、安山岩質凝灰岩、輝石安山岩、黒雲母花崗岩が使用されている。



挿図168　砥石実測図

石斧　（挿図169・170、挿表28、図版63）

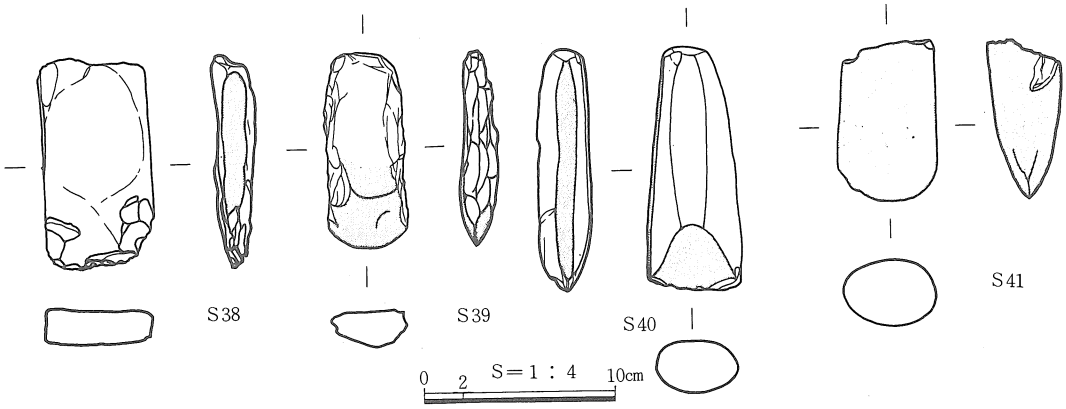
打製石斧１点、磨製石斧３点、環状石斧２点が出土している。

打製石斧は、短冊形のもの（Ｓ38）で、粘板岩である。刃部は石の片方の端の両面を剝離して製作している。

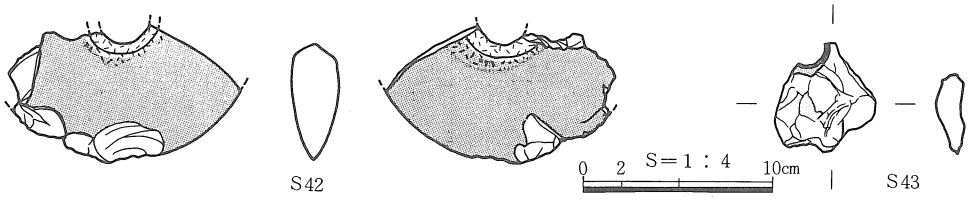
磨製石斧３点（Ｓ39・40・41）は、いずれも砂岩である。Ｓ39は打撃により全体の形を整

えた後、刃部を磨いて整形している。S40・41は敲打により全体の形を整えた後、やはり刃部を磨いて整形している。

環状石斧S42は玢岩製である。約⅔が欠損しているが、直径は約15cm程度であろう。中央の穿孔部には、敲打によって付いたと思われる痘痕状の凹みが多数認められ、これが刃部にも若干認められることから、敲打による大まかな整形の後、磨って形を整えていったものと考える。S43は無斑晶安山岩であるが、破損が著しく、直径等は不明である。穿孔部に磨耗痕は認められたが、S42に見られるような敲打痕は認められなかった。



挿図169　石斧実測図1



挿図170　石斧実測図2（環状石斧）

石錘　（挿図171、挿表29、図版63）

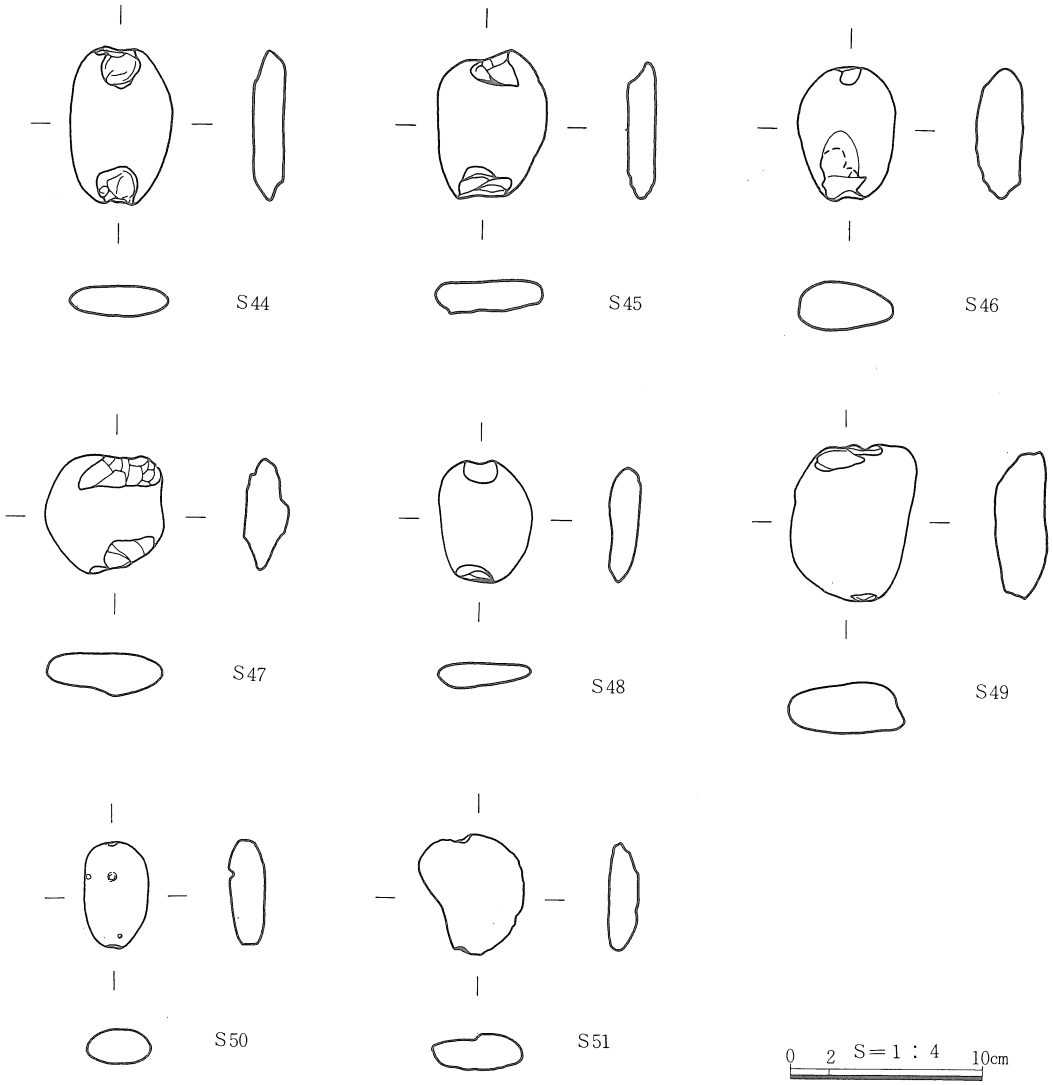
13点出土している。

本遺跡で出土した石錘は、すべて礫石錘である。（古墳時代等の遺構出土のものを除き、縄文早期と考えられるもの）

石材は、凝灰岩質砂岩のものが最も多く、他に角閃石安山岩、安山岩質凝灰岩、閃緑岩が使用されている。

糸掛けは、長軸両端部に両面から、数回の打撃を加えて作り出したものが主体を占める。

大きさについては、特に大きなＪＳＫ—58出土のものを除いて、長さは6.3cm、幅4.3cm、重さ83.5gをその平均値とする。



挿図171　石錘実測図

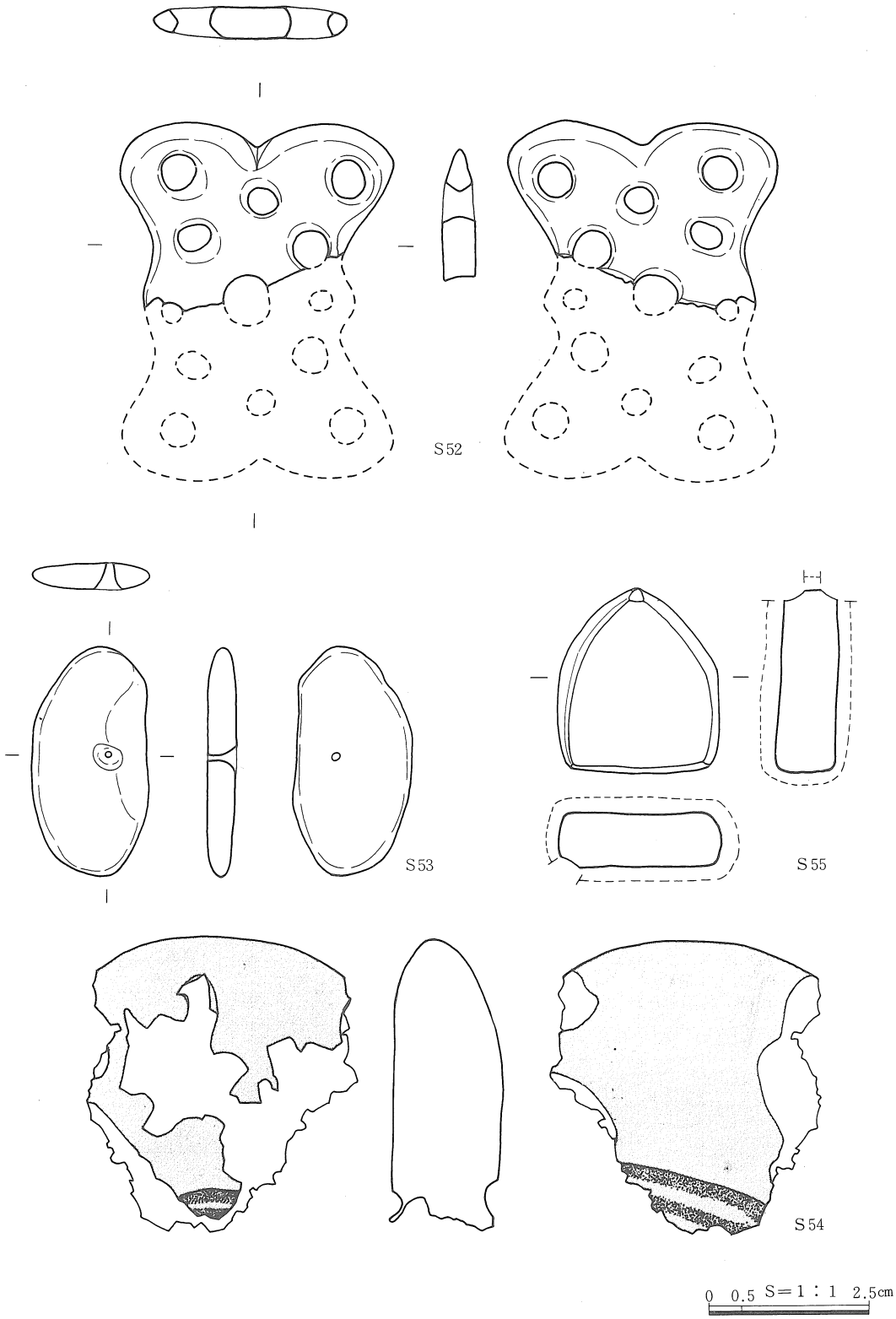
特殊石器　（挿図39・41—S20・50—S 4、図版32）

集石25・30より、円礫の一方を敲打して細くし、その先端を平らに加工した石器２点（集石25—S21、集石30—S 4）が出土しているが、用途は不明である。石材は、２点とも安山岩質凝灰岩である。また集石25では、粘板岩製の石器が出土しているが、棒状の石の片方に打撃による破損が認められる他、表面が磨いてある。この石器も用途は不明である。（集石25—S20）

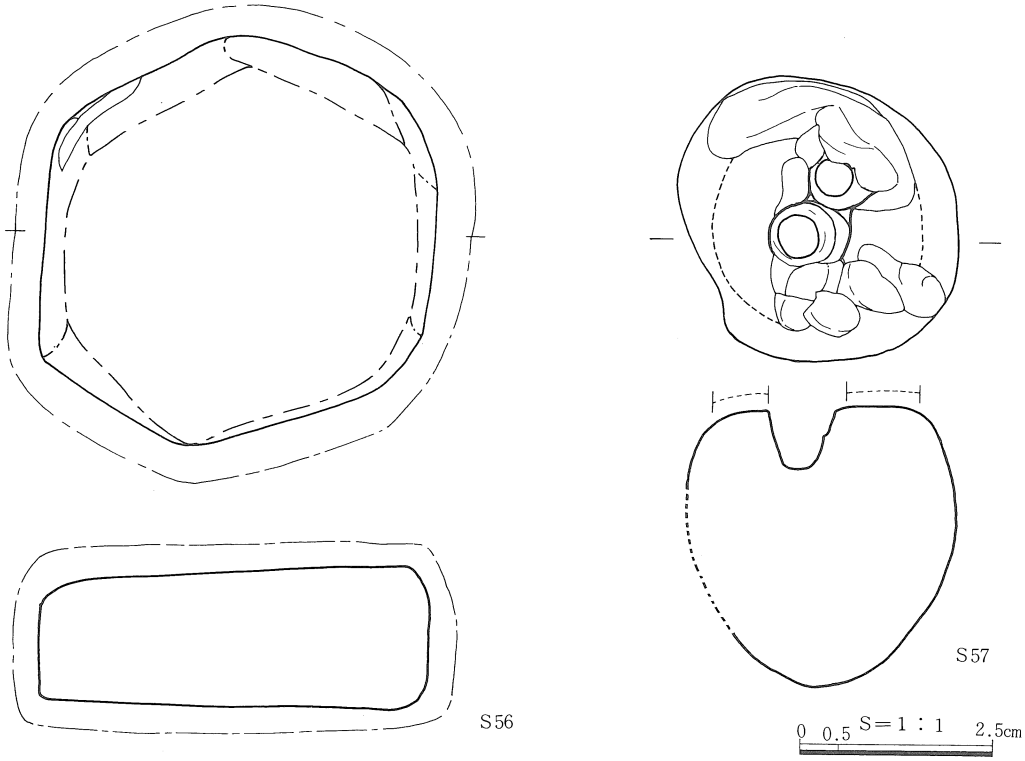
ペンダント他石製品　（挿図172・173、挿表30、図版64）

ペンダントは２点出土している。

S52は、６Eグリッドで出土した。硬玉製で、約½を欠損しているが、蝶が羽を広げた形



挿図172　石製品実測図 1



挿図173　石製品実測図２

をしていたものと思われ、残存部では７個の穿孔が認められた。

Ｓ53は、10Ｇグリッドで出土した。結晶片岩製で、長径3.6cm、短径1.8cmの楕円形を呈し中央部付近が穿孔されている。

その他の石製品は４点出土している。

Ｓ54は、復元径８cmの円盤状を呈していたと考えられるが、中央部付近の上・下面に溝が認められる。表面、溝とも磨いて整形されている。

Ｓ53・Ｓ54ともその用途は不明であるが、ペンダントのような、装飾品に使用していたと考えたい。

Ｓ55は、９Ｅグリッドで出土した。将棋の駒形（2.9cm×2.5cm－0.9cm）を呈し、全面を磨いて整形している。

Ｓ56は、４Ａグリッドで出土した。六角形（径５cm－1.8cm）を呈し、上・下面、周辺部とも磨いて整形している。

Ｓ57は、４Ｆグリッドで出土した。ほぼ球径（径3.5cm）を呈する。一部欠損しているが、上部に２個の穿孔が認められる。

挿表20　石皿一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		6 C	101	84.10.27	角閃石安山岩	1/5欠	35.0	(29.2)	10.4	(14,603)	
		7 C	4408	7.26	〃	完	23.4	20.3	5.2	4,318	
		8 C	103	10.27	〃	1/10欠	(28.7)	24.5	12.5	(8,505)	
		9 D	169	9.24	無斑晶安山岩	完	38.5	22.4	13.1	13,950	
		〃	197	8.24	角閃石安山岩	〃	27.7	22.9	15.7	13,679	
		〃	204	〃	〃	1/5欠	(30.0)	21.8	13.2	(11,908)	
		〃	206	〃	〃	完	24.5	19.1	9.2	5,235	
		〃	234	〃	〃	〃	27.0	17.0	10.4	5,829	
		〃	302	〃	〃	1/2欠	(11.0)	(11.7)	4.0	(744)	
		〃	307	8.28	〃	完	13.0	8.8	8.2	1,257	
		〃	323	〃	〃	〃	27.8	25.3	12.7	10,714	
		〃	325	〃	〃	〃	26.4	20.8	11.4	5,934	
		3 E	126	9.01	無斑晶安山岩	〃	19.5	17.1	6.0	3,063	
		〃	220	9.12	角閃石安山岩	〃	28.8	22.3	12.4	8,656	
162—S1	60	3 E	221	84. 9.12	角閃石安山岩	完	36.6	26.2	15.5	18,800	
		8 E	16	9.30	〃	〃	29.8	23.7	7.3	7,608	
162—S2	60	8 E	5038	—	角閃石安山岩	3/5欠	(13.8)	(31.5)	(10.6)	(4,739)	
		9 E	103	84. 8.25	〃	1/2欠	(18.6)	(16.0)	(8.8)	(3,349)	
162—S3	60	10E	155	84. 9.20	黒雲母花崗岩	1/10欠	(23.0)	(35.6)	(6.3)	(7,532)	10F No122と接合
		〃	156	〃	角閃石安山岩	完	35.7	27.3	8.8	10,563	
		〃	210	10.12	〃	〃	27.5	24.9	12.2	9,889	
		3 F	105	9.01	無斑晶安山岩	1/10欠	29.6	(27.8)	8.1	(9,848)	
162—S4	60	4 F	198	84.10.13	角閃石安山岩	完	22.4	24.0	9.7	812	
		6 F	185	10.22	〃	4/5欠	(12.1)	(17.2)	(7.2)	(1,382)	
162—S5	61	6 F	208	84.10.04	角閃石安山岩	完	32.4	42.3	13.5	25,900	
163—S6	61	7 F	74	84.10.26	角閃石安山岩	完	44.2	34.8	26.8	33,600	
		8 F	92	10.22	無斑晶安山岩	〃	24.5	24.4	9.7	7,400	
		10F	191	10.05	角閃石安山岩	〃	23.7	20.5	8.6	5,838	
		〃	2025①	6.05	無斑晶角閃石安山岩	〃	20.1	14.0	9.1	3,422	
		9 G	302	10.27	無斑晶安山岩	〃	26.7	25.1	9.6	8,939	
		〃	303	〃	〃	〃	40.0	34.9	9.8	22,810	
		10G	318	9.20	〃	〃	31.6	25.2	12.0	12,629	
163—S7	61	10G	549	84.10.01	角閃石安山岩	完	15.9	13.3	4.5	1,292	
163—S8	61	石垣出土分	5037	不明	角閃石安山岩	1/10欠	(28.0)	(39.4)	(10.4)	(14,400)	

集石出土石皿　25点　　ＪＳＫ出土石皿　7点

挿表21　磨石Ｉ類一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		7 B	56	84. 8.21	角閃石石英安山岩	完	10.6	10.2	6.5	783	
		8 B	2	〃	〃	〃	9.8	9.1	5.6	597	
		〃	18	〃	細粒石英安山岩質凝灰岩	〃	7.4	4.9	1.7	73	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		8 B	90	84. 8.21	角閃石安山岩	完	11.7	8.8	5.0	625	
164—S9	62	8 B	174	84. 8.24	角閃石安山岩	完	8.5	8.3	4.2	375	
		6 C	56	10.18	閃緑岩	⅓欠	(11.0)	(7.6)	(4.6)	(540)	
		7 C	4321	7.23	角閃石安山岩	完	15.0	8.4	5.1	867	
		8 C	95	10.27	角閃石石英安山岩	〃	13.2	8.0	5.9	843	
		〃	102	〃	安山岩質凝灰岩	〃	12.7	6.4	4.0	387	
		〃	4266	7.21	角閃石石英安山岩	〃	12.9	7.3	5.3	498	
		9 C	4321	7.24	無斑晶安山岩としておく?	8/10欠	(3.5)	(4.9)	(2.5)	(28)	
		2 D	4046①	7.21	角閃石安山岩	ほぼ完形	7.2	6.9	3.8	(230)	
		〃	4046②	〃	石英安山岩質凝灰岩	完	8.4	4.8	1.9	73	
		〃	4046③	〃	花崗岩	〃	6.4	5.0	4.1	188	
		3 D	6	9.13	安山岩質凝灰岩	〃	10.5	5.8	3.4	252	
164-S10	62	3 D	22	84. 9.13	角閃石安山岩(大山火山岩類外)	完	10.9	9.8	3.9	610	
		〃	40	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	7.2	6.4	3.4	171	
		〃	4063	7.14	〃	〃	11.6	8.4	4.1	453	
		4 D	13	8.04	角閃石安山岩	〃	8.8	7.0	5.1	392	
		〃	68	8.10	角閃石石英安山岩	〃	11.9	9.6	7.6	984	
		〃	3990①	7.11	角閃石安山岩	〃	6.6	6.4	4.0	199	
		〃	3990②	〃	〃	〃	9.2	8.3	4.6	423	
		6 D	3335	6.23	石英安山岩	4/5欠	(7.7)	(2.1)	(3.5)	(78)	
		7 D	36	8.07	安山岩質凝灰岩	完	14.9	9.5	5.9	955	
		〃	40	〃	無斑晶安山岩	4/5欠	(6.2)	(4.1)	(3.7)	(84)	
		〃	143	8.09	角閃石安山岩	完	10.5	7.8	2.7	271	
		8 D	4306①	7.23	角閃石安山岩質火砕岩	〃	9.0	7.2	3.8	297	
		〃	4306③	〃	アプライト(半花崗岩)	〃	11.8	5.6	3.4	300	
		9 D	183	8.24	ひん岩	〃	9.8	5.5	2.4	209	
		〃	212	〃	角閃石安山岩	1/5欠	9.5	6.5	2.0	175	
		〃	219	〃	中生代火山岩類	完	10.8	9.7	4.0	560	
		〃	237	〃	角閃石安山岩	〃	7.6	7.2	3.0	219	
		〃	305	9.14	石英安山岩質凝灰岩	〃	8.9	4.7	5.8	219	
		〃	4657の1	7.31	角閃石石英安山岩	7/10欠	7.0	(4.9)	4.5	(168)	
		10D	3	9.14	〃	完	11.1	10.6	4.3	583	
		〃	5	〃	角閃石安山岩	〃	10.6	7.0	4.5	430	
		〃	7	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	12.2	10.1	5.3	727	
		2 E	不明	不明	無斑晶安山岩	1/2欠	(13.4)	(5.4)	(3.8)	(427)	
		3 E	140	9.11	角閃石安山岩	完	11.8	9.7	4.3	499	
		〃	198	9.12	石英安山岩質凝灰岩	1/2欠	(7.0)	(7.6)	(3.0)	(185)	
		〃	4556	7.30	石英安山岩	3/4欠	(8.9)	(7.2)	(3.3)	(250)	
		4 E	21	9.11	角閃石石英安山岩	完	9.1	7.9	4.5	343	
		〃	31	〃	角閃石安山岩質凝灰岩	〃	13.3	8.2	5.0	585	
164-S11	62	4 E	140①	84. 9.11	中生代火山岩類	完	9.1	8.3	4.7	490	
		〃	144	9.13	角閃石安山岩	〃	10.5	9.1	4.3	459	
		〃	157	10.13	花崗岩	〃	11.8	9.2	4.0	645	
		6 E	91	10.04	角閃石石英安山岩	〃	11.4	11.0	4.2	626	
		〃	3341	6.23	角閃石安山岩	〃	9.5	8.1	4.5	438	
		8 E	6	8.29	石英安山岩質凝灰岩	〃	8.1	7.6	3.7	255	
		〃	3846	7.10	〃	2/3欠	(6.1)	(5.8)	(2.4)	(65)	
		9 E	78	8.25	石英安山岩	4/5欠	(6.1)	(3.9)	(2.8)	(60)	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		9E	89	84. 8.25	石英安山岩質凝灰岩	完	7.9	4.6	2.9	103	
		〃	102	〃	砂岩	8/10欠	(6.8)	(9.1)	(1.9)	(136)	
		〃	143	10.16	斑晶の小さい角閃石安山岩	完	7.1	6.7	4.7	263	
		〃	3870	8.02	石英安山岩質凝灰岩	8/10欠	(2.6)	(5.7)	(3.1)	(31)	
		〃	4872	8.02	角閃石安山岩(大山火山岩類外)	1/2欠	(8.2)	5.3	3.8	(265)	
		〃	4878	〃	角閃石石英安山岩	完	10.1	8.3	5.3	520	
		〃	4880	〃	〃	4/5欠	(6.4)	(5.7)	4.5	(142)	
		〃	4887	〃	〃	〃	6.9	6.4	4.1	202	
		〃	4908	〃	石英安山岩質凝灰岩	2/3欠	(15.2)	(6.0)	(6.6)	(590)	
		〃	4914	〃	角閃石石英安山岩	1/10欠	(11.7)	10.0	5.3	(890)	
		〃	4917	〃	角閃石安山岩	完	11.8	9.0	5.2	652	
		〃	4923	〃	石英安山岩質凝灰岩	1/5欠	(10.9)	7.1	3.3	(294)	
		〃	4923	〃	角閃石石英安山岩	完	10.0	8.5	5.6	511	
		〃	4938	〃	角閃石安山岩	〃	9.4	8.3	5.6	425	
164-S12	62	10E	9	84. 9.12	角閃石安山岩	完	9.0	9.5	4.9	300	
		〃	95	9.13	角閃石安山岩質凝灰岩	〃	10.8	8.6	5.8	615	
		〃	101	9.20	角閃石安山岩	〃	9.5	7.1	3.2	310	
		10E	212	10.22	〃	〃	9.2	6.6	3.2	204	
		4F	47	8.03	〃	〃	7.7	7.5	2.7	243	
		〃	99	〃	〃	〃	10.8	6.8	4.5	366	
		5F	1	〃	〃	1/10欠	(9.5)	7.6	5.0	(387)	
		〃	22②	〃	石英安山岩質凝灰岩	1/4欠	(8.3)	(6.0)	(1.3)	(90)	
		〃	117	9.05	角閃石安山岩	完	5.7	4.9	3.7	138	
		〃	133	〃	無斑晶板状安山岩	1/2欠	(11.9)	(10.2)	(2.1)	(376)	
		〃	147	9.07	閃緑岩	1/5欠	(11.1)	9.1	3.4	(579)	
		〃	187	10.27	角閃石石英安山岩	1/10欠	(23.3)	(22.0)	(11.0)	5,538	
		〃	3017	6.15	玄武岩質(塩基性)安山岩	1/4欠	(6.7)	4.4	3.2	(134)	
		6F	45②	8.29	石英安山岩	8/10欠	(7.2)	(5.9)	(1.6)	(93)	
		〃	123	9.03	角閃石安山岩	完	11.5	7.1	4.3	544	
		〃	164	9.05	〃	〃	13.6	10.4	5.0	870	
		〃	3424①	6.28	玄武岩質(塩基性)安山岩	1/5欠	(5.8)	(3.9)	(4.6)	(152)	
		〃	3424②	〃	角閃石石英安山岩	1/2欠	(5.6)	(8.2)	(4.1)	(214)	
		7F	41	8.29	角閃石安山岩	2/3欠	(5.1)	(8.5)	(4.8)	(225)	
		〃	48	〃	角閃石石英安山岩	完	12.1	12.0	5.7	1,116	
		〃	72	10.22	角閃石安山岩	〃	9.9	10.4	3.3	442	
		〃	1193	5.09	石英粗面岩	1/5欠	(7.7)	(5.4)	1.8	(96)	
		8F	59①	8.29	石英安山岩質凝灰岩	1/2欠	(13.2)	(5.5)	(3.3)	(306)	
		〃	59②	〃	〃	3/4欠	(8.8)	(6.3)	(2.8)	(214)	
		〃	4839	8.01	片麻状花崗岩	完	17.8	6.4	4.3	926	
		〃	4842	〃	結晶片岩	〃	17.4	4.5	3.8	428	
		〃	4845	〃	角閃石安山岩	〃	20.7	9.7	6.4	1,460	
		〃	4852	〃	〃	〃	8.8	5.2	3.8	143	
164-S13	62	8F	4851	84. 8.01	流紋岩質凝灰岩	完	5.8	5.3	4.7	165	
		〃	4853	〃	角閃石安山岩	1/2欠	(9.3)	(8.3)	(3.4)	(327)	
		〃	4840	〃	〃	完	14.1	6.3	3.8	486	
		9F	133	8.30	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.8	5.7	4.1	295	
		〃	271	10.21	角閃石安山岩	〃	9.4	7.4	2.7	293	
		〃	976	5.08	玄武岩	8/10欠	(4.6)	(1.9)	(4.8)	(47)	
		10F	76	9.20	角閃石石英安山岩	完	9.7	8.8	4.5	378	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		10F	1956	84. 9.13	石英安山岩質凝灰岩	3/4欠	(8.6)	(7.4)	(5.0)	(187)	
		〃	2009①	6.05	角閃石石英安山岩	完	7.5	7.3	4.0	243	
		〃	2222①	〃	〃	4/5欠	(7.9)	(4.3)	(1.7)	(70)	
		〃	2222②	〃	〃	1/2欠	(7.2)	(5.5)	(2.9)	(147)	
		11F	4835	8.01	黒雲母角閃石安山岩	完	11.5	10.3	6.5	990	
		4G	42	9.10	角閃石安山岩	〃	15.7	11.3	5.0	1,046	
		5G	12	9.03	角閃石石英安山岩	〃	9.3	8.9	4.5	457	
		〃	52	9.05	角閃石安山岩	〃	9.0	6.9	3.8	278	
		〃	66	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	5.3	5.2	1.6	65	
		〃	4769	8.01	〃	1/5欠	(7.9)	6.4	2.3	(130)	
		5G～6G	98	10.17	角閃石石英安山岩	完	10.9	10.7	4.6	636	
		6G	11	8.30	角閃石安山岩	〃	9.3	7.5	4.9	330	
		〃	169	9.03	角閃石石英安山岩	〃	9.5	6.0	4.8	397	
		〃	1270	5.09	角閃石安山岩	1/10欠	(7.2)	5.2	3.2	(150)	
		7G	1265	〃	角閃石石英安山岩	完	6.6	6.0	5.1	240	
		8G	3855①	7.10	花崗岩	〃	10.5	7.3	3.6	386	
		〃	3855②	〃	角閃石安山岩	〃	8.3	5.0	3.2	286	
		9G	12	9.18	角閃石安山岩質火砕岩	〃	9.3	8.0	4.2	373	
		〃	21	〃	角閃石安山岩	〃	10.3	8.3	3.0	288	
		〃	45	〃	〃	3/4欠	(10.9)	(5.3)	(2.3)	(131)	
		〃	301	10.25	石英安山岩質凝灰岩	完	12.3	6.6	3.6	372	
		10G	8	9.19	角閃石石英安山岩	〃	10.3	9.5	6.1	776	
		〃	10	〃	角閃石安山岩	〃	10.6	8.1	4.4	505	
		〃	13	〃	安山岩質凝灰岩	〃	11.2	10.1	4.5	538	
		〃	18	〃	角閃石安山岩	1/10欠	10.9	(8.8)	(3.6)	(496)	
		〃	319	9.20	〃	完	13.4	6.1	5.0	483	
		〃	566	10.05	角閃石石英安山岩	〃	11.4	8.3	4.9	538	
		〃	1919	6.04	角閃石安山岩質凝灰岩	1/2欠	(7.4)	9.1	3.2	(221)	
		18G	926	5.08	石英安山岩質凝灰岩	4/5欠	(9.9)	(2.8)	(5.2)	(141)	
		9H	2432	6.07	黒雲母角閃石安山岩	完	10.1	9.0	4.1	473	
		11H	3897	7.10	石英安山岩質凝灰岩	〃	9.3	8.4	3.1	290	
		〃	3891	9.10	角閃石安山岩	〃	10.7	4.7	3.9	337	
		12H	141	10.17	角閃石石英安山岩	〃	10.7	7.5	6.0	618	
		11I	3591	7.03	〃	1/3欠	(10.6)	13.2	7.8	(1,410)	
		12I	195	10.22	〃	完	7.6	8.8	5.2	419	
		排土中	4986	9.05	〃	8/10欠	(4.3)	(4.2)	(1.7)	(26)	
		不明	不明	不明	安山岩質凝灰岩	完	12.4	10.4	3.4	600	
		〃	3856	84. 7	花崗岩	〃	7.0	6.2	4.1	375	

集石出土磨石Ⅰ類　21点　　ＪＳＫ出土磨石Ⅰ類　3点

挿表22　磨石Ⅱ類一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		6B	4142	84. 7.17	角閃石安山岩	完	11.8	9.8	4.7	647	
		7B	109	8.23	石英安山岩質凝灰岩	〃	9.2	8.6	5.0	519	
		〃	138	〃	花崗岩	〃	11.0	8.8	4.9	728	
		8B	36	8.21	石英安山岩質凝灰岩	2/3欠	(5.2)	(9.9)	(5.1)	(263)	
		〃	190	10.22	角閃石安山岩	完	9.9	9.8	4.3	565	
		〃	4296	7.23	〃	〃	11.4	9.1	5.5	670	
		〃	4318	〃	〃	〃	10.2	10.0	5.0	652	
		9B	4378	7.25	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.1	9.3	4.9	591	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		6 C	4157	84. 7.18	花崗岩	完	11.4	8.6	6.2	865	
		8 C	4230①	7.21	石英安山岩質凝灰岩	⅔欠	(5.1)	(4.4)	(3.6)	(83)	
		〃	4230②	〃	結晶片岩	完	9.9	4.3	3.0	197	
		〃	4230③	〃	花崗岩	〃	11.2	7.9	4.1	556	
		〃	4833①	8.07	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.8	10.2	6.5	825	
164-S14	62	2 D	3671	84. 7.09	安山岩質凝灰岩	1/10欠	(11.0)	4.0	2.8	(160)	
		3 D	88	9.14	角閃石安山岩	完	8.4	8.1	3.9	315	
		4 D	110	7.11	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.1	7.8	5.5	534	
		〃	3990	〃	〃	〃	10.7	8.3	5.6	560	
		6 D	4128	〃	角閃石安山岩	〃	10.5	8.7	5.1	501	
		〃	4170①	7.18	〃	〃	9.0	6.6	3.7	288	
		〃	4170②	〃	〃	〃	10.3	8.6	4.2	433	
		7 D	41①	8.07	安山岩質凝灰岩	½欠	(7.2)	(3.7)	(2.8)	(111)	
		〃	41②	〃	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	完	10.5	8.7	5.2	531	
		〃	251①	7.18	石英安山岩質凝灰岩	⅓欠	(15.0)	(9.6)	(4.3)	(721)	
		〃	251②	〃	角閃石安山岩	完	9.7	7.6	5.8	496	
		9 D	176	8.24	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.9	11.2	5.2	883	
		〃	177	〃	〃	〃	10.9	8.8	5.6	628	
		〃	179	〃	〃	〃	10.9	6.8	5.1	424	
		〃	182	〃	〃	〃	9.2	7.6	4.4	365	
164-S15	62	9 D	191	84. 8.24	アプライト(半花崗岩)	完	10.2	7.5	3.5	418	
		〃	196	〃	角閃石安山岩	〃	10.3	8.1	4.5	485	
		〃	207	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	8.9	8.1	5.6	417	
		〃	215	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.4	11.7	6.2	1,082	
164-S16	62	9 D	223	84. 8.24	安山岩質凝灰岩	完	10.2	8.9	3.4	303	
		〃	224	〃	黒雲母角閃石安山岩	⅓欠	(9.4)	(7.6)	4.3	(452)	
		〃	230	〃	〃	完	9.7	8.4	7.4	586	
		〃	236	〃	〃	¼欠	(10.1)	(8.8)	(5.8)	(384)	
		〃	296	8.28	〃	⅖欠	10.3	(8.7)	(5.6)	(385)	
		〃	297	〃	〃	完	10.1	8.1	5.8	633	
		〃	414	10.17	花崗岩	〃	11.0	9.4	4.9	810	
		〃	4666	7.31	角閃石安山岩	〃	7.3	5.2	4.3	187	
		10D	4	9.14	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.1	8.4	4.5	492	
		〃	8	〃	角閃石安山岩	〃	10.7	9.0	6.1	512	
		〃	4996②	9.06	閃緑玢岩	〃	11.9	9.2	4.6	709	
		3 E	129	9.01	粗粒花崗岩	〃	9.7	8.7	4.9	569	
		〃	219	9.12	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.7	9.2	5.4	483	
		4 E	140②	9.11	〃	〃	12.5	11.7	5.3	1,062	
		〃	140③	〃	角閃石石英安山岩	〃	12.8	9.6	7.1	570	
		〃	141	9.13	中生代火山類流紋岩質凝灰岩	½欠	(12.7)	6.0	5.1	(742)	
		6 E	91①	10.04	黒雲母角閃石安山岩	完	10.0	9.8	6.3	726	
		〃	91②	〃	花崗岩	〃	11.7	10.9	5.9	1,178	
		7 E	19	10.16	〃	1/10欠	(11.1)	(5.4)	(4.3)	(278)	
		〃	3321	6.23	角閃石安山岩	完	11.9	9.0	5.4	681	
		8 E	16	8.30	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.6	8.1	5.1	529	
		〃	2495	6.07	花崗岩	½欠	(7.9)	(7.3)	(5.2)	(377)	
		9 E	46	8.24	角閃石安山岩	〃	9.1	7.0	5.8	495	
		〃	85	8.25	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.9	9.5	3.8	515	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		9 E	86	84. 8.25	角閃石安山岩	½欠	(11.7)	8.6	4.2	(510)	
		〃	101	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.5	9.6	4.4	520	
		〃	3807	7.10	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.4	6.3	5.7	390	
165-S17	62	9 E	4819	84. 8.02	閃緑岩	½欠	(6.4)	(7.9)	(6.0)	(611)	
		〃	4879	9.18	黒雲母角閃石安山岩	1/10欠	(9.3)	(5.4)	(3.4)	(212)	
		〃	4886	8.02	角閃石安山岩	完	10.7	8.8	5.0	610	
		〃	4889	〃	角閃石石英安山岩	〃	15.2	6.4	6.0	852	
		〃	4890	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	8.0	6.4	5.0	260	
		〃	4898	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.7	9.0	4.0	541	
165-S18	62	10E	10	84. 9.20	安山岩質凝灰岩	完	10.9	9.4	4.4	510	
		〃	19	9.12	角閃石安山岩	〃	10.9	8.7	5.2	443	
		〃	69	9.13	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.7	7.1	2.6	190	
		〃	71	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.8	9.2	7.0	1,046	
		〃	129	9.20	角閃石安山岩	〃	10.5	7.6	4.1	373	
		〃	135	〃	〃	〃	14.7	9.7	5.1	825	
		〃	162	10.08	〃	〃	10.8	9.6	4.0	506	
		〃	211	10.22	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.5	9.5	6.8	745	
		〃	4998	9.06	角閃石安山岩	1/10欠	10.7	7.6	(4.2)	(438)	
		12E	22	9.21	黒雲母角閃石安山岩	完	12.9	7.4	4.4	537	
165-S19	62	4 F	168①	84. 9.10	輝石安山岩	完	7.5	5.0	3.3	195	
		〃	168②	〃	角閃石安山岩	〃	11.0	10.1	5.3	694	
		〃	168③	〃	石英安山岩質凝灰岩	¾欠	(7.6)	(5.4)	(4.4)	(269)	
		〃	4778	8.01	細粒石英安山岩質凝灰岩	完	10.8	7.6	2.5	214	
		5 F	22②	8.03	石英安山岩質凝灰岩	½欠	(8.4)	(7.7)	(5.0)	(305)	
		〃	31	〃	黒雲母(含有)角閃石安山岩	完	10.8	7.6	4.8	492	
		〃	46	8.30	〃	〃	8.8	8.4	3.6	308	
		〃	50	〃	黒雲母角閃石石英安山岩	〃	11.5	10.0	4.5	520.2	
165-S20	62	5 F	139	84. 9.06	角閃石安山岩	完	11.5	10.1	4.4	523	
		〃	185	10.27	花崗岩	〃	9.6	9.4	5.4	724	
		6 F	45①	8.29	黒雲母角閃石安山岩	〃	8.1	5.4	6.3	348	
		〃	45②	〃	〃	〃	14.0	9.6	4.7	757	
		〃	162	9.03	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.7	9.0	5.1	649	
		7 F	66	10.22	黒雲母角閃石安山岩	〃	14.2	11.0	5.2	1,065	
		8 F	93	〃	角閃石安山岩	〃	11.9	8.6	5.7	666	
		〃	4846	8.01	〃	〃	11.3	6.3	4.9	444	
		〃	4850	〃	石英安山岩質凝灰岩	1/10欠	9.9	9.1	(3.3)	(382)	
165-S21	62	8 F	4841	84. 8.01	中生代火山岩	完	18.1	8.5	4.3	791	
		9 F	80	8.24	黒雲母角閃石安山岩	〃	7.5	5.8	3.2	174	
		〃	82	〃	角閃石安山岩	〃	11.4	9.5	6.5	728	
		〃	85①	〃	〃	〃	8.2	7.5	4.3	281	
		〃	85②	〃	黒雲母角閃石石英安山岩	〃	10.0	8.6	5.6	469	
		〃	91②	8.25	黒雲母角閃石安山岩	1/10欠	(11.1)	5.4	4.2	(274)	
		〃	232	10.11	角閃石安山岩	完	11.1	8.8	5.4	639	
		〃	270	10.12	石英安山岩質凝灰岩	〃	13.3	8.3	5.1	726	
		〃	292	10.18	角閃石安山岩	〃	8.7	8.7	4.7	472	
		〃	1002	5.08	〃	〃	9.1	8.4	4.6	457	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		10F	42	84. 9.20	角閃石安山岩	完	12.3	9.5	5.2	728	
		〃	82	〃	〃	〃	11.6	10.0	5.0	756	
		〃	89	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.3	8.9	4.2	433	
		〃	1974	6.05	角閃石安山岩	〃	10.6	10.3	6.3	741	
		〃	2223	〃	黒雲母角閃石安山岩	⅔欠	(5.2)	(7.9)	(5.2)	(162)	
		〃	5008	9.07	〃	1/10欠	10.5	(8.9)	(4.0)	(486)	
		11F	4836	8.01	〃	完	11.8	9.0	5.9	860	
		4G	1600	5.10	石英安山岩質凝灰岩	〃	6.5	7.8	4.1	238	
		5G	53	9.05	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	〃	7.9	7.3	4.4	252	
		〃	55	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.7	9.2	5.0	620	
		〃	66	〃	〃	〃	10.0	8.1	6.9	645	
		〃	1570	5.10	細粒石英安山岩質凝灰岩	〃	13.8	11.9	5.1	1,014	
		6G	2454	6.07	石英安山岩質凝灰岩	〃	9.1	9.0	3.7	342	
		〃	2466	〃	石英斑岩	〃	12.9	9.2	5.6	1,065	
		〃	4605	7.31	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.1	10.1	4.8	774	
		9G	8	9.18	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.0	8.7	4.7	514	
		〃	9	〃	角閃石安山岩質火砕岩	〃	12.2	6.4	2.9	302	
		〃	13	〃	角閃石安山岩	〃	10.1	10.0	4.0	363	
		〃	16	〃	〃	〃	10.4	9.1	3.4	369	
		〃	18	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.1	8.8	4.9	568	
		〃	19	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	12.5	10.3	6.6	1,088	
		〃	20	〃	花崗岩	〃	11.5	9.0	5.1	802	
		〃	41	〃	角閃石安山岩	〃	10.6	8.0	5.6	589	
		〃	42	〃	〃	〃	9.1	7.0	3.6	398	
		〃	268	10.05	〃	〃	11.0	8.5	4.6	528	
		〃	279	10.16	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.3	9.0	4.1	484	
		〃	298	10.17	〃	〃	10.5	8.9	4.8	530	
		〃	2088	6.05	角閃石安山岩	〃	11.1	9.4	4.3	547	
		10G	5	9.19	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.8	10.4	4.2	581	
		〃	6	〃	角閃石安山岩	〃	11.2	8.8	6.3	749	
		〃	7	〃	黒雲母(含有)角閃石安山岩	〃	14.2	9.0	6.0	1,000	
		〃	9	〃	角閃石安山岩	〃	10.4	8.6	5.6	524	
165-S22	62	10G	11	84. 9.19	角閃石安山岩	完	13.2	9.6	6.3	980	
		〃	12	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.0	8.7	5.2	485	
		〃	14	〃	角閃石安山岩	〃	11.7	10.0	5.7	873	
		〃	15	〃	〃	〃	11.9	10.0	4.3	529	
		〃	17	〃	〃	〃	10.5	9.4	5.2	612	
165-S23	62	10G	67	84. 9.19	角閃石安山岩	完	11.0	9.3	4.9	486	
		〃	246	〃	粗粒花崗岩	〃	10.0	8.1	5.6	572	
		〃	247	〃	角閃石安山岩	〃	7.7	7.1	4.5	248	
		〃	280	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	13.5	12.3	7.2	1,325	
		〃	321	9.20	角閃石安山岩	〃	11.8	8.8	4.8	568	
		〃	432	9.27	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	〃	11.9	8.8	4.8	616	
		〃	439	〃	角閃石安山岩	〃	10.4	8.6	4.3	427	
		〃	440	〃	黒雲母角閃石石英安山岩	〃	9.8	8.0	4.7	402	
		〃	467	〃	〃	〃	11.7	8.9	5.2	680	
		〃	548	10.01	角閃石安山岩	½欠	(8.9)	(9.8)	(5.8)	(587)	
		〃	2221	6.15	石英安山岩質凝灰岩	¾欠	(5.3)	(4.5)	(3.8)	(107)	
		11G	3872	7.10	角閃石安山岩	完	9.2	8.6	6.0	600	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		9H	23	84. 9.20	角閃石安山岩	完	10.0	8.7	4.9	472	
		〃	24	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.5	10.4	5.7	870	
		10H	2181	6.05	〃	〃	8.5	6.6	4.9	312	
		11H	9	9.19	〃	〃	10.8	9.4	4.3	435	
		〃	10	〃	〃	〃	9.8	8.7	4.8	514	
		〃	2220	6.06	角閃石安山岩	½欠	(9.5)	(9.2)	(5.5)	(468)	
		12H	2	9.19	黒雲母角閃石安山岩	完	10.6	6.6	4.5	425	
		〃	141	10.17	角閃石安山岩	⅓欠	(13.1)	(10.7)	(6.7)	(1,025)	
		10I	10	9.20	〃	完	11.9	7.1	4.7	477	
		排土中	5032①	10.21	〃	〃	10.4	8.8	5.9	728	
		〃	5032②	〃	花崗岩	〃	10.0	8.2	4.5	529	
		表採	593	4.28	〃	〃	7.8	6.4	3.8	254	
		〃	594	〃	安山岩質凝灰岩	〃	10.7	8.6	5.0	670	
		〃	595	〃	石英安山岩質凝灰岩	⅔欠	(7.1)	(8.3)	(3.1)	(138)	
		不明	3838	7	輝石安山岩	完	10.6	8.5	5.4	709	
		〃	不明	不明	角閃石石英安山岩	〃	12.3	7.8	3.8	490	

集石出土磨石Ⅱ類　22点　　ＪＳＫ出土磨石Ⅱ類　4点

挿表23　敲石Ⅰ類一覧表

〔単位cm生びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		8B	37	84. 8.21	軽石質黒雲母角閃石安山岩	4/6欠	12.9	8.6	6.4	591	
		9D	304	8.28	〃	完	16.6	11.0	10.6	1,232	
		〃	369	8.30	角閃石安山岩	〃	11.3	9.3	6.0	639	
		8E	16	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	15.8	6.3	5.1	550	
		9E	4913	8.02	角閃石石英安山岩	〃	14.7	12.2	7.4	1,394	
		9F	2	8.24	石英安山岩質凝灰岩	4/5欠	(11.6)	(4.0)	(2.3)	(176)	
166-S24	62	8G	8	84.10.27	安山岩質凝灰岩	完	18.6	9.0	7.0	1,210	

集石出土敲石Ⅰ類　2点　　ＪＳＫ出土敲石Ⅰ類　2点

挿表24　敲石Ⅱ類一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		2D	4046①	84. 7.12	角閃石安山岩	完	13.8	8.5	5.4	707	
166-S25	62	2D	4046②	84. 7.12	角閃石安山岩	完	11.2	10.1	4.7	688	
		3D	43	9.03	〃	〃	20.0	15.2	9.2	3,100	
		4D	116	10.25	〃	〃	12.9	10.3	7.2	1,050	
		9D	170	8.24	石英安山岩質凝灰岩	〃	13.0	11.6	6.7	1,097	
		〃	213	〃	紫蘇輝石角閃石安山岩	〃	8.9	6.5	5.5	347	
		10D	4996①	9.06	角閃石石英安山岩	〃	10.1	9.2	4.9	552	
		3E	184	9.12	石英安山岩質凝灰岩	⅔欠	(9.3)	7.0	3.7	(225)	
		4E	146	10.13	〃	完	9.0	7.1	2.8	155	
		5E	130	9.06	紫蘇輝石角閃石安山岩	½欠	(7.8)	(10.3)	(6.3)	(545)	
		8E	8	8.29	角閃石安山岩	⅕欠	(16.6)	11.5	7.6	(434)	
		〃	16	8.30	石英安山岩質凝灰岩	完	9.0	5.1	4.6	250	
		〃	3854	7.10	紫蘇輝石角閃石安山岩	〃	9.3	8.0	6.7	542	
		9E	101	8.25	〃	⅕欠	(9.3)	7.7	(4.4)	(326)	
		〃	4903	8.23	石英安山岩質凝灰岩	完	12.1	10.2	7.0	126	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		10E	67	84. 9.13	石英安山岩質凝灰岩	完	12.5	7.3	5.2	490	
		〃	68	〃	角閃石安山岩	〃	11.2	8.6	5.8	583	
		〃	91	8.25	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.5	6.6	4.2	400	
		〃	120	9.20	〃	〃	9.6	7.1	4.5	330	
		〃	126	〃	角閃石安山岩	〃	10.3	9.0	6.1	672	
		5F	127①	9.05	中生代火山岩類	〃	7.8	7.6	3.9	431	
		〃	127②	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.4	6.6	5.2	385	
		6F	174	9.03	〃	〃	9.1	8.6	2.5	206	
		7F	44	8.29	紫蘇輝石角閃石安山岩	⅓欠	(10.6)	(10.1)	(5.3)	(682)	
		〃	45	〃	石英安山岩質凝灰岩	完	10.0	8.1	3.8	326	
		9F	9	8.24	角閃石安山岩	⅕欠	(9.6)	(7.0)	(5.6)	(386)	
		〃	30	〃	〃	¾欠	(11.5)	(8.3)	(5.0)	(435)	
		〃	80①	〃	石英安山岩質凝灰岩	完	16.7	10.2	9.2	1,762	
		〃	80②	〃	黒雲母角閃石石英安山岩	〃	9.7	6.0	4.2	282	
		10F	1②	9.07	石英安山岩質凝灰岩	1/10欠	(9.0)	(6.4)	(3.9)	(217)	
		〃	1963	6.04	〃	完	6.3	4.9	1.8	74	
166-S26	62	10F	5008	84. 9.07	黒雲母角閃石安山岩	完	7.3	6.1	2.7	140	
		4G	1①	〃	角閃石安山岩	〃	11.7	11.1	7.2	966	
		〃	1②	〃	〃	〃	9.2	6.5	3.9	217	
		5G	82	〃	紫蘇輝石角閃石安山岩	〃	7.8	7.3	4.4	259	
		8G	1①	10.18	黒雲母角閃石石英安山岩	1/10欠	(7.0)	(5.1)	(4.8)	(209)	
		〃	1②	〃	〃	完	7.4	5.0	3.6	137	
		9G	44	9.18	角閃石安山岩	1/10欠	(9.8)	4.9	3.1	(171)	
		10G	434	9.27	石英安山岩質凝灰岩	完	10.6	9.4	5.7	637	
		11G	1741	5.25	〃	〃	6.2	5.9	2.2	80	
166-S27	62	12I	130	84. 9.26	黒雲母角閃石安山岩	完	9.8	10.0	4.9	541	
		表採	3201	5	石英安山岩質凝灰岩	½欠	(5.8)	(7.8)	(2.8)	(146)	

集石出土敲石Ⅱ類　8点　　ＪＳＫ出土敲石Ⅱ類　1点

挿表25　敲石Ⅳ類一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		5B	4101	84. 7.17	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	完	9.8	6.9	4.9	444	
		7B	12	8.21	石英安山岩質凝灰岩(鮮新世)	4/5欠	(3.3)	(6.1)	(4.9)	(156)	
		〃	18	〃	中世代火山岩類流紋岩質凝灰岩	完	10.4	7.3	5.9	613	
		〃	167	10.22	角閃石石英安山岩	1/10欠	(13.0)	11.1	6.2	(1,132)	
		8B	173	8.24	角閃石安山岩	完	9.9	7.0	4.2	369	
		〃	4318	8.23	石英安山岩質凝灰岩	〃	9.9	7.8	2.8	230	
		10B	4507	7.28	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	〃	9.8	7.9	5.2	472	
		5C	4115	7.17	〃	1/10欠	(9.9)	(7.2)	(4.5)	(362)	
		6C	62	10.22	角閃石安山岩	完	11.2	4.9	4.8	325	
		7C	4321①	7.23	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.4	8.2	5.6	696	
		〃	4321②	〃	石英安山岩質凝灰岩(鮮新世)	〃	12.1	6.5	3.4	262	
		8C	94	10.26	角閃石安山岩	〃	12.2	7.8	4.4	496	
		〃	100	10.18	〃	〃	10.4	9.3	5.0	577	
		〃	4833	8.01	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.4	9.5	5.0	520	
		〃	4995	9.06	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.1	8.2	4.6	497	
		9C	6	10.15	角閃石安山岩	1/10欠	(12.5)	7.9	5.5	(735)	
		〃	4341①	7.24	〃	完	7.0	6.3	2.6	124	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		9 C	4341②	84. 7.24	角閃石安山岩	½欠	(4.6)	(5.8)	(2.7)	(89)	
		4 D	110①	10.25	石英安山岩質凝灰岩	完	11.2	7.4	3.5	508	
		〃	110②	〃	角閃石安山岩	⅓欠	(10.2)	8.7	5.3	(532)	
		7 D	97	7.08	黒雲母角閃石安山岩	完	11.7	9.5	6.3	810	
		〃	247	10.25	角閃石安山岩	〃	10.6	8.3	5.0	546	
		8 D	4306	7.23	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.2	8.8	4.4	350	
		9 D	167	8.20	石英安山岩質凝灰岩	〃	12.2	8.1	4.5	615	
		〃	216	8.24	角閃石安山岩	〃	11.8	9.7	5.7	696	
		〃	262	8.27	〃	〃	21.1	10.6	4.8	792	
		〃	295	8.28	黒雲母角閃石安山岩	〃	13.2	9.6	7.4	1,130	
		〃	319	〃	角閃石石英安山岩	〃	19.4	10.9	8.3	1,721	
		〃	368	8.30	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	〃	11.7	9.2	6.0	782	
		〃	4628	7.31	角閃石石英安山岩	〃	14.0	9.6	5.9	962	
		〃	4668	〃	角閃石安山岩	〃	9.2	8.6	4.6	378	
		〃	4727	8.01	石英安山岩質凝灰岩(鮮新世)	〃	12.4	4.9	3.4	253	
167-S28	62	9 D	4787	84. 8.01	安山岩質凝灰岩	完	9.1	7.1	4.3	333	
		10D	6	9.14	角閃石安山岩	〃	8.6	6.7	4.8	314	
		1 E	3999②	7.11	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.1	9.7	4.2	681	
		3 E	129	9.01	〃	〃	11.8	6.6	5.0	514	
		4 E	97	7.31	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	½欠	(8.6)	(9.7)	(6.4)	(595)	
		〃	4624	〃	細粒花崗岩	完	10.2	7.8	5.2	592	
		5 E	72	8.28	角閃石安山岩	〃	11.1	9.6	4.8	663	
167-S29	62	5 E	152	84.10.19	角閃石安山岩	完	10.7	8.8	3.8	489	
		〃	153①	10.25	黒雲母角閃石安山岩	〃	12.2	7.1	6.1	689	
		〃	153②	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.7	8.9	4.0	490	
		〃	3342	6.23	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.5	7.7	4.5	336	
		〃	149	10.17	角閃石安山岩	〃	13.5	10.7	5.5	943	
		7 E	3321①	6.23	角閃石石英安山岩	〃	8.6	8.5	4.7	432	
		〃	3321②	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	8.7	7.8	4.0	321	
		8 E	3	8.29	〃	〃	11.6	10.3	4.7	649	
		9 E	142	10.16	石英安山岩質凝灰岩	〃	12.2	8.4	4.7	562	
		〃	4877	8.02	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.8	8.4	4.9	558	
		〃	4905	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	15.3	8.9	5.7	1,041	
		〃	4910	〃	〃	¼欠	(9.1)	(6.3)	(4.6)	(346)	
		〃	4927	〃	角閃石安山岩	完	10.9	9.1	5.0	611	
		〃	4928	〃	粗粒花崗岩	〃	11.0	10.1	6.4	974	
		〃	4937	〃	角閃石安山岩	〃	12.4	7.4	6.2	700	
		〃	4943	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.9	9.5	4.1	503	
167-S30	62	9 E	4947	84. 8.02	角閃石安山岩	完	11.1	7.4	6.1	705	
		10E	17	9.11	〃	〃	10.5	8.7	5.6	660	
		〃	18	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.1	10.5	5.5	619	
		〃	80	9.13	角閃石安山岩	〃	10.5	7.4	5.2	562	
		〃	108	9.20	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.6	8.8	4.2	394	
		〃	134	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.8	8.1	5.3	653	
		〃	170	10.08	黒雲母角閃石安山岩(中粒)	〃	21.8	19.0	7.5	3,111	
		〃	209	10.22	〃	〃	13.0	11.1	6.8	1,160	
		〃	4827	8.01	〃	〃	14.2	10.6	7.0	1,308	
		11E	2	10.27	閃緑岩	〃	11.4	7.9	4.1	542	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		4 F	100	84. 8.03	石英安山岩質凝灰岩	⅕欠	(8.4)	7.3	3.2	(297)	
		〃	101	〃	角閃石石英安山岩	完	11.5	12.2	6.7	1,124	
		〃	197	10.13	角閃石安山岩	〃	9.6	6.8	4.7	380	
		5 F	75	8.30	〃	〃	10.0	7.3	4.9	452	
		〃	116	9.05	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.4	8.2	6.0	657	
		〃	183	10.26	角閃石安山岩	1/10欠	12.8	7.0	(5.4)	(604)	
		6 F	163	9.05	黒雲母角閃石安山岩	完	12.2	11.1	6.2	884	
		〃	199	10.04	〃	〃	12.6	9.0	6.5	887	
		〃	207	〃	角閃石安山岩	〃	13.0	10.6	6.0	918	
		〃	202	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	12.7	7.9	5.4	640	
		〃	3025	6.15	角閃石石英安山岩	〃	8.7	5.5	3.4	189	
		7 F	42	8.29	石英安山岩質凝灰岩	〃	10.0	8.8	4.6	584	
		〃	2728	6.13	角閃石安山岩	¼欠	(10.1)	7.0	3.3	(343)	
		8 F	45③	8.29	黒雲母角閃石安山岩	完	13.0	11.0	5.5	824	
		〃	1135	5.08	鮮新世火山岩類 細粒石英安山岩質凝灰岩	½欠	(7.9)	(8.1)	(3.6)	(291)	
		〃	4849	8.01	細粒花崗岩	完	11.5	7.8	4.0	546	
167-S31	62	9 F	43	84. 8.24	角閃石安山岩(大山火山岩類外)	完	9.6	8.3	3.6	450	
		〃	79	〃	角閃石安山岩	〃	11.5	7.9	6.0	661	
		〃	80①	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.2	8.3	5.0	577	
		〃	176	8.30	花崗岩	〃	11.9	10.7	5.2	899	
		〃	237	10.11	角閃石安山岩	〃	11.5	9.2	4.5	522	
		10F	1①	9.07	〃	〃	10.7	7.6	3.7	432	
		〃	23	9.20	花崗岩	〃	13.5	9.3	6.0	1,168	
		〃	31	〃	角閃石安山岩	〃	9.8	9.0	4.3	431	
167-S32	62	10F	44	84. 9.20	角閃石石英安山岩	完	11.5	9.2	5.3	617	
		〃	135	〃	安山岩質凝灰岩	〃	12.0	9.6	3.9	598	
		4 G	1③	9.07	角閃石安山岩	〃	14.4	10.6	4.5	912	
		〃	1710①	4.25	黒雲母角閃石安山岩	¼欠	10.7	10.1	(6.0)	(662)	
		〃	3185①	6.18	〃	⅕欠	(10.1)	(8.5)	(4.4)	(357)	
		〃	3185②	〃	〃	完	9.5	7.6	5.1	540	
		〃	3185③	〃	角閃石石英安山岩	〃	8.8	8.0	2.8	265	
		〃	3185④	4.25	黒雲母角閃石安山岩	〃	8.9	6.8	4.2	289	
		5 G	45	9.03	角閃石安山岩	〃	11.1	8.6	5.2	594	
		〃	81	9.05	黒雲母角閃石安山岩	〃	13.6	10.7	5.5	1,010	
		〃	2878	6.14	角閃石安山岩	〃	7.1	5.2	3.4	116	
		〃	77	10.17	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.5	10.5	4.5	710	
		6 G	169	9.03	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.8	7.4	4.5	382	
		〃	176	〃	〃	〃	10.3	10.3	5.4	701	
		〃	184	〃	角閃石安山岩	〃	10.2	9.7	6.3	676	
		7 G	33	9.10	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.7	9.3	6.7	943	
		〃	1265①	5.09	角閃石石英安山岩	〃	11.8	8.8	5.0	530	
		〃	1265②	〃	角閃石安山岩	1/10欠	(11.5)	(9.5)	(3.8)	(426)	
		〃	3852	7.10	〃	完	11.1	10.8	5.1	711	
		〃	3853	〃	石英安山岩質凝灰岩	〃	9.7	7.6	5.2	500	
		8 G	1	10.18	黒雲母角閃石安山岩	〃	10.9	9.4	4.3	462	
		〃	2	10.27	角閃石安山岩	〃	17.9	9.3	7.3	1,472	
		〃	3858	7.10	石英安山岩質凝灰岩	〃	8.9	7.9	3.9	274	
167-S33	62	9 G	7	84. 9.18	花崗閃緑岩	完	10.0	7.8	3.6	435	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		9 G	10	84. 9.18	角閃石安山岩	完	8.4	6.6	3.4	235	
		〃	11	〃	〃	3/5欠	(7.7)	(8:1)	(3.1)	(247)	
		〃	14	〃	黒雲母角閃石安山岩	完	9.2	6.7	5.1	337	
		〃	15	〃	角閃石安山岩	〃	9.1	8.2	5.3	568	
		〃	17	〃	〃	〃	11.2	9.3	5.6	638	
		〃	43	〃	花崗岩	〃	9.4	8.7	4.3	572	
		〃	278	10.16	石英安山岩質凝灰岩	〃	11.7	9.5	4.6	604	
		〃	301	10.25	角閃石安山岩	〃	12.8	8.8	6.2	888	
		〃	2027	6.05	石英安山岩質凝灰岩	〃	8.6	7.7	3.6	295	
		10G	316	9.20	角閃石安山岩	〃	9.6	8.0	5.0	435	
		〃	322	〃	黒雲母角閃石安山岩	〃	11.8	8.8	5.8	689	
		〃	433	〃	〃	〃	11.6	9.9	5.1	840	
		〃	435	〃	〃	〃	9.9	8.0	4.9	400	
		〃	436	〃	角閃石安山岩	〃	11.5	10.2	5.2	923	
		〃	438	〃	黒雲母角閃石安山岩	1/3欠	(11.3)	(8.9)	(6.1)	(570)	
		〃	441	〃	石英安山岩質凝灰岩	完	13.2	9.4	5.9	898	
		〃	505	〃	〃	〃	9.0	6.6	3.8	254	
		〃	559	10.15	角閃石安山岩	〃	10.0	8.9	4.0	397	
		〃	582	〃	〃	〃	9.8	8.0	3.7	311	
		〃	1925	9.20	角閃石石英安山岩	〃	10.7	8.1	5.4	631	
		〃	1936	〃	黒雲母角閃石安山岩	1/5欠	(10.2)	(6.8)	(4.2)	(258)	
		〃	3965	7.11	石英安山岩質凝灰岩	完	12.0	9.3	4.3	581	
		〃	5015	10.05	角閃石安山岩	〃	10.6	8.4	3.6	301	
		11G	129	9.27	角閃石石英安山岩	〃	13.8	9.3	5.8	868	
		〃	3378	9.10	角閃石安山岩	1/5欠	(11.4)	(9.1)	(4.3)	(544)	
		6 H	8	9.05	黒雲母角閃石安山岩	完	9.6	9.4	4.9	589	
		9 H	905	5.08	石英安山岩質凝灰岩	〃	13.5	5.7	3.7	345	
167-S34	62	9 H	2443	84. 6.07	角閃石安山岩(大山火山岩類外)	完	10.4	10.9	4.7	819	
		10H	86	9.20	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.4	6.6	4.3	272	
		11H	3	9.19	角閃石安山岩	〃	12.6	10.0	3.9	632	
		〃	4	〃	〃	〃	11.7	9.7	4.7	606	
		〃	5	〃	花崗岩	1/10欠	(11.1)	(9.2)	(5.2)	(689)	
		〃	6	〃	角閃石安山岩	完	11.8	10.4	5.0	669	
		〃	7	〃	黒雲母角閃石安山岩	1/10欠	11.0	(9.1)	5.6	(685)	
		〃	8	〃	〃	完	11.6	9.3	4.4	644	
		〃	3898	7.10	角閃石安山岩	〃	11.7	9.1	4.3	572	
		排土中	5027	9.10	黒雲母角閃石安山岩	〃	9.8	8.8	4.5	354	

集石出土敲石Ⅳ類　43点　　ＪＳＫ出土敲石Ⅳ類　2点

挿表26　敲石Ⅴ類一覧表

〔単位cm及びg　(　)を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		6 C	4292	84. 7.23	安山岩質凝灰岩	9/10欠	(6.8)	(2.3)	(2.6)	(29)	
		4 D	50	8.08	〃	完	11.3	4.8	3.4	294	
		8 D	4306②	7.23	閃緑岩	〃	6.0	4.6	1.2	51	
		3 E	4551	7.30	ひん岩	〃	14.6	5.0	3.7	443	
		8 F	4852	8.01	角閃石安山岩	〃	8.8	5.2	3.8	143	
166-S35	62	10G	16	84. 9.19	閃緑岩	完	24.4	7.5	5.9	1,833	

集石出土敲石Ⅴ類　1点

挿表27　砥石一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		6 B	15	84.10.18	安山岩質凝灰岩	完	6.0	5.0	3.2	189	
		7 B	93	8.23	〃	½欠	(8.2)	(5.6)	(4.2)	(386)	
		8 C	4230	7.21	黒雲母花崗岩	½欠	(8.1)	(8.4)	(5.7)	(544)	
		6 D	4128	7.17	角閃石安山岩	⅓欠	(10.2)	(6.7)	(5.2)	(629)	
168-S36	63	8 D	4306④	84. 7.23	安山岩質凝灰岩	完	12.8	5.3	2.6	389	
		9 E	74	8.25	角閃石安山岩	〃	14.9	7.5	7.5	1,070	
		〃	4911	8.02	〃	〃	9.6	5.8	5.5	370	
		5 F	2	〃	安山岩質凝灰岩(大山火山岩類外)	〃	11.9	11.6	3.9	856	
168-S37	63	6 F	45	84. 8.29	角閃石安山岩	完	11.5	8.6	6.0	898	
		4 G	56	9.10	輝石安山岩	〃	12.6	4.3	2.7	284	
		12 I	83の8	9.27	角閃石安山岩	〃	11.1	9.5	5.4	844	

集石出土砥石　11点

挿表28　石斧一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
169-S38	63	4 F	3377	84. 6.27	粘板岩	完	11.1	5.6	2.35	2222	打製石斧
169-S39	63	3 D	4534	84. 7.30	砂岩	完	10.3	4.2	2.1	133	磨製石斧
169-S40	63	3 E	161	84. 9.12	砂岩	ほぼ完	(12.8)	4.8	2.8	(260)	磨製石斧
169-S41	63	7 G	1230	84. 5.09	砂岩	½欠	(7.8)	5.2	3.8	(242)	磨製石斧
170-S42	63	10H	3884	84. 7.10	無斑晶安山岩	⅘欠	?	?	?	33	環状石斧
170-S43	63	11H	1716	84. 5.22	玢岩	⅔欠	復元径15cm		2.6	268	環状石斧

挿表29　石錘一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
171-S44	63	1 D	93	84. 4.12	角閃石安山岩	完	7.7	5.2	1.7	100	
171-S45	63	2 E	3685①	84. 7.09	安山岩質凝灰岩	完	5.7	4.3	2.0	60	
		〃	3685②	〃	砂岩	〃	7.0	5.5	1.5	108	
171-S46	63	3 E	207	84. 9.12	角閃石安山岩	完	6.7	5.0	2.5	110	
171-S47		6 D	4828	84. 8.01	凝灰質砂岩	完	5.7	6.0	2.2	110	
171-S48	63	5 E	36	84.10.17	凝灰質砂岩	完	6.1	4.7	1.5	64	
		10E	4499	7.28	〃	¼欠	(4.6)	4.2	1.5	(40)	
171-S49	63	6 F	46	84. 8.29	凝灰質砂岩	完	8.9	6.0	2.5	180	
171-S50	63	7 G	1265	84. 5.09	閃緑岩	完	5.6	3.4	1.8	55	
		11H	3906	7.10	凝灰質砂岩	〃	6.1	5.5	1.5	60	

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
		表採	4251	84. 7.21	凝灰質砂岩	完	4.6	3.4	1.3	22	
171-S51	63		21	84. 4.10	凝灰質砂岩	完	5.6	4.7	1.6	50	

ＪＳＫ出土石錘　１点

挿表30　ペンダント他石製品一覧表

〔単位cm及びg　（　）を付したものは現存値を示す〕

挿図番号	図版番号	出土グリッド	個体番号	出土年月日	材質	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	備考
172-S52	64	6E	3054	84. 6.15	軟玉(ネフェリン輝石)	½欠	(3.0)	(4.2)	(0.48)	(7.9)	ペンダント
172-S53	64	10G	471	84. 9.28	結晶片岩	完	3.65	1.83	0.45	4.85	ペンダント
172-S54	64	10D	4986	84. 9.05	球果流紋岩	⅙欠	(4.33)	(3.81)	(1.79)	(24.1)	
172-S55	64	9E	4920	84. 8.02	安山岩質凝灰岩	ほぼ完	(2.84)	2.48	0.9	(8.3)	
173-S56	64	4A	4103	84. 7.17	安山岩質凝灰岩	完	5.56	5.2	1.79	55.9	
173-S57	64	4F	1628	84. 5.10	凝灰質砂岩	1/10欠	(3.7)	(3.4)	(3.4)	(35.9)	

挿表31　石皿、磨石、敲石、砥石、石斧、石錘、特殊石器、ペンダント他石製品一覧表

分類／地区遺構	石皿	磨石		敲石					砥石	石斧	石錘	不明石器	石製品	計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ						
集石－1		1							2					3
集石－2														
集石－3														
集石－5	2	1	1				1							5
集石－6	1		1		1		1							4
集石－7							3							3
集石－8	2	2	4				1							9
集石－9					2		1		1					4
集石－10	3								2					5
集石－11							1							1
集石－12		2	2				3							7
集石－13	2	2			1		1							6
集石－14	1		3				2							6
集石－15							1							1
集石－16			2				1							3
集石－17							2		1					3
集石－18		1		1			2							4
集石－19	2						1							3
集石－20	2		1				1							4
集石－21			1		1		1							3
集石－22	1						1							2
集石－23														
集石－24									1					1
集石－25		7	1	1	1		4	1	4			2		21
集石－26	3						1							4
集石－27	1													1
集石－28														

分類 / 地区遺構	石皿	磨石		敲石					砥石	石斧	石錘	不明石器	石製品	計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ						
集石—29	3	5	3		2		12							25
集石—30	1		1				1					1		4
集石—31	1		2				1							4
集石—32														
計	25	21	22	2	8		43	1	11			3		136
ＪＳＫ— 2		1												1
ＪＳＫ—11	1													1
ＪＳＫ—16	1						1							2
ＪＳＫ—19		1		1	1									3
ＪＳＫ—26			1											1
ＪＳＫ—31				1			1							2
ＪＳＫ—33	1													1
ＪＳＫ—40	1	1	1											3
ＪＳＫ—43			1											1
ＪＳＫ—44	1													1
ＪＳＫ—47	1													1
ＪＳＫ—51	1													1
ＪＳＫ—58			1								1			2
計	7	3	4	2	1		2				1			20
4 A													1	1
5 A														
6 A														
4 B														
5 B							1							1
6 B			1						1					2
7 B		1	2				3		1					7
8 B		4	4	1			2							11
9 B			1											1
10 B							1							1
4 C														
5 C							1							1
6 C	1	1	1				1	1						5
7 C	1	1					2							4
8 C	1	3	4				4		1					13
9 C		1					3							4
10 C														
1 D											1			1
2 D		3	1		2									6
3 D		4	1		1					1				7
4 D		4	2		1		2	1						10
5 D														
6 D		1	3						1		1			6
7 D		3	4				2							9
8 D		2					1	1	1					5
9 D	9	6	16	2	2		10							45
10 D		3	3		1		1							8
11 D														
12 D														

分類 / 地区遺構	石皿	磨石		敲石					砥石	石斧	石錘	不明石器	石製品	計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ						
13 D														
1 E							1							1
2 E		1									2			3
3 E	3	3	2		1		1	1		1	1			13
4 E		5	3		1		2							11
5 E					1		6				1			8
6 E		2	2										1	5
7 E			2				2							4
8 E	2	2	2	1	3		1							11
9 E	1	15	11	1	2		9		2				1	42
10 E	3	4	9		5		8				1			30
11 E							1							1
12 E			1											1
13 E														
14 E														
15 E														
16 E														
3 F	1													1
4 F	1	2	4				3			1			1	12
5 F		7	6		2		3		1					19
6 F	2	5	3		1		5		1		1			18
7 F	1	4	1		2		2							10
8 F	1	9	4				3	1						18
9 F		3	9	1	4		5							22
10 F	2	5	6		3		5							21
11 F		1	1											2
12 F														
13 F														
14 F														
15 F														
16 F														
3 G														
4 G		1	1		2		6		1					11
5 G		5	4		1		4							14
6 G		3	3				3							9
7 G		1					5			1	1			8
8 G		2		1	2		3							8
9 G	2	4	13		1		11							31
10 G	2	7	20		1		14	1					1	46
11 G			1		1		2							4
12 G														
13 G														
14 G														
15 G														
18 G		1												1
5 H														
6 H							1							1
7 H														
8 H														
9 H		1	2				2							5

分類 / 地区遺構	石皿	磨石		敲石					砥石	石斧	石錘	不明石器	石製品	計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ						
10 H			1				1			1				3
11 H		2	3				7			1	1			14
12 H		1	2											3
13 H														
14 H														
15 H														
16 H														
10 I			1											1
11 I		1												1
12 I		1			1				1					3
13 I														
14 I														
15 I														
16 I														
表採			3		1						2			6
排土中		1	2				1							4
不明		2	2										1	5
石垣出土	1													1
計	34	138	167	7	42		151	6	11	6	12		6	580
総計	66	162	193	11	51	0	196	7	22	6	13	3	6	736

第４節　縄文時代のまとめ

１　集石について

集石は31基検出されており、その報告を行ってきたが、ここではその性格についてまとめてみたい。

集石は、Ａ区のほぼ中央部から北東側にかけて集中しているが、後世の攪乱を受けているため31基のうちその形を完全にとどめているものは少ないと考えられる。
さらには、消失したものもあると考えられ、５Ｆグリッド付近にも何基かの集石が存在していたと思われる。

集石のなかには、火を受けた石が１～２個含まれていることはあっても、全体が赤変しているような状態は認められず、灰・炭化物も検出されていない。このため、集石炉跡とは判断し難い。そこで土壙の状態・石の配し方・遺物などから性格を考えてみたい。

①　土壙について

土壙を伴うものは10基ある。土壙は、楕円形を呈していたものと考えられ、大きさは長径１～２ｍ、深さ0.15～0.6m 前後である。土壙の石は、土壙底部から浮いた状態で検出されており、0.1～0.2m の間隙を持つ。また、集石の断面をみると、土壙中央部にむかって石が落ち込んでいることが判る。このことから、もともとは中空であったか、土壙上を石で覆っていたものが後に土壙内に落ち込んでいったものと考えられる。

土壙を持たないとしている集石の中には、断面を観察すると中央部にむかって凹んでいるものがあり、土壙を有していた可能性が強いと考えられる。

②　石の配し方について

石を無作為に並べたというものはあまりないようである。土壙の有無とも関連させて、遺存状態のよいものを次のようにまとめてみた。

土壙を伴う集石	花弁状に石を配する	Ⅰ類	集石03
	土壙の縁に沿って、平石を方形に配する（石棺状）	Ⅱ類	集石32
	中央に核となる石を置き、その周囲に小さな石を配する	Ⅲ類	集石10・26
	土壙を中心として、広範囲に石を配する	Ⅳ類	集石29
	核となる石がなく、単に挙大の石を円形又は不定形に配する	Ⅴ類	集石01・20

土壙を伴わない集石	平石を円形に配する	Ⅵ類	集石05
	周縁に平石を配する	Ⅶ類	集石19・21・22・27
	中央に核となる石を置き、その周囲に小さな石を配する	Ⅷ類	集石06
	核となる石がなく、単に挙大の石を円形又は不定形に配する	Ⅸ類	集石18
	石器を半円形に配する	Ⅹ類	集石25

このほか、集石15のように平石が斜めに立った形で検出されているものもある。

③　遺物について

土器は破片ばかりで、一個体分が埋められているような状態はなかったが、石皿、磨石、敲石、砥石はほぼ全部の集石から検出されており、石皿を核に置いている集石（06・10・19）や、中央部付近に磨石、敲石を置く集石（16・17・18）が認められる。

以上、①・②・③のことから、当遺跡出土の集石は埋葬施設であったと考えたい。つまり、土壙はやや小さめのものもあるが、遺体を埋葬するためのものであり、配石はその上部を覆う墓標のようなものであろう（土壙を有する集石）。また、土壙を掘らずに、遺体を石で覆うという埋葬方法もあったかも知れない（土壙が無い集石）。

集石内でみられる石製品については、単なる集石の材料であったものもあろうが、石皿を核として置いたり、磨石、敲石を中央部に置いていることから、何らかの風習に基づいたものではないかと考える。

2　まとめ

当遺跡では、縄文時代の遺構として集石31基、土坑56基、ピット109基、遺物として、縄文早期土器約33,600点、石器・石鏃・石製品888点を検出した。ほとんどの遺構、遺物は縄文時代早期後半のものであるが、前期・晩期の土器の出土もみられる。ＪＳＫ56は、晩期の土坑である。なお、集石04、ＪＳＫ23、37、51は検討の結果、遺構ではないと判断したため削除した。

今回の調査は、上福万遺跡の一部を調査したにすぎないが、発掘された成果をもとにある程度生活を推測してみたい。

遺構、遺物はＡ区の13ラインより北側で検出しており、それより南側及びＢ区ではほとんど検出されていない。

Ａ区では、自然堆積による礫群が広く検出されているが、土坑、ピットは礫群を避けて中央より北西側に集中している。

集石も礫群をさけるように作られているが、中央部より北東側に集中するようである。

先に集石を埋葬施設として考えたこと。集石と土坑、ピットの分布範囲にある程度の区分ができること。

以上のことから、土坑、ピットの集中する箇所を日常の生活空間とし、その東側に埋葬施設としての集石が存在していたと考える。しかし、土坑、ピットの集中はみられるものの、その上部構造を明確に想起し得るような遺構の配置はみられなかった。

第５節　古墳時代以降の遺構

１　竪穴住居（ＳＩ）（挿図174～207、挿表32・33、図版65～69・79～84）

竪穴住居はＡ区で13棟、Ｂ区で１棟の計14棟を検出した。

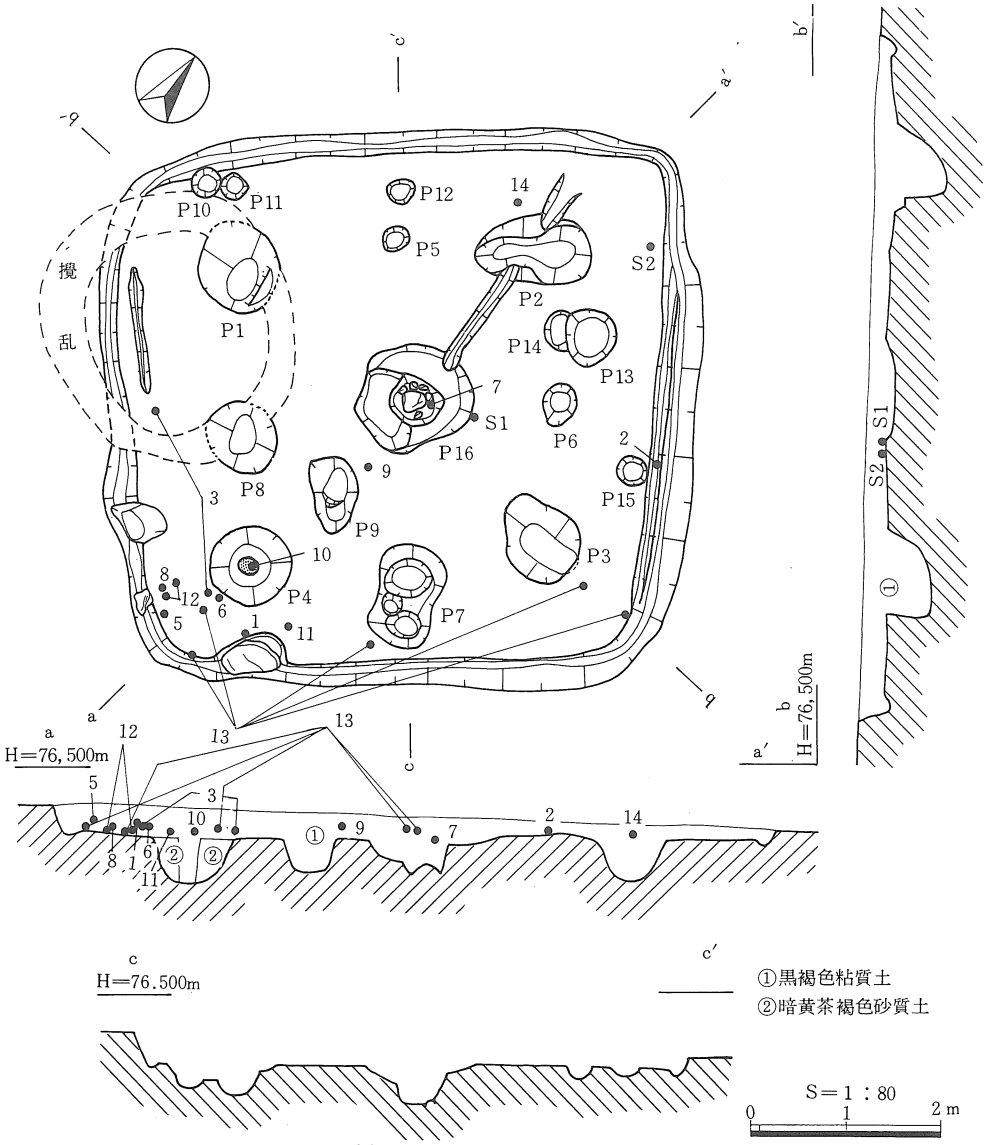
ＳＩ—01（挿図174～176、挿表32・33、図版65・79）

位　　置　９Ｇ・10Ｇ・９Ｈ・10Ｈグリッドにわたり位置する。

形　　態　平面形は隅丸方形で、床面は長辺5.55m、短辺5.35m を測り、床面積は約30㎡である。残存壁高は東側で0.29m、北側で0.14m を測る。

側　　溝　幅0.2m、深さ0.05m の溝がめぐっているが、東側で二重になっている。

柱　　穴　主柱穴４本（Ｐ１～Ｐ４）、補助柱５本（Ｐ５～Ｐ９）を確認した。Ｐ４では柱痕（径0.16m）が認められた。主柱穴間はＰ１より、3.08m —3.2m —3.12m —3.12m



挿図174　ＳＩ01遺構図

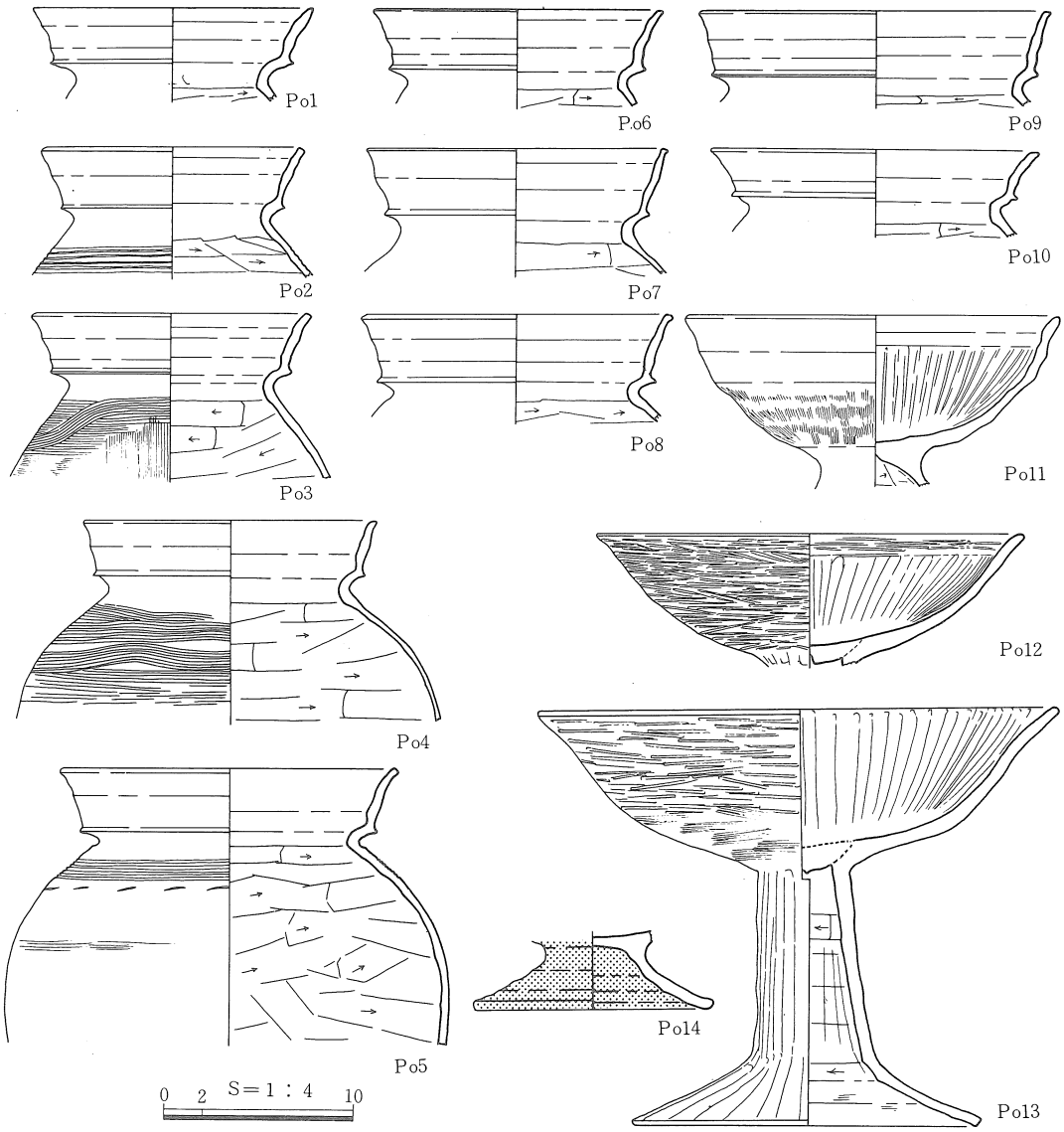
各主柱穴の規模はＰ１より(1.0×0.85－0.53)（1.2×0.7－0.25）（0.9×0.77－0.43）（0.85×0.85－0.42)m。補助柱はＰ５より（0.3×0.25－0.13）(0.45×0.35－0.27)（1.1×0.7－0.31）（0.8×0.6－0.36)m を測る。

特殊ピット　中央にあり、二段掘りで、規模は（1.2×1.2・0.55×0.5－0.37）m を測る。

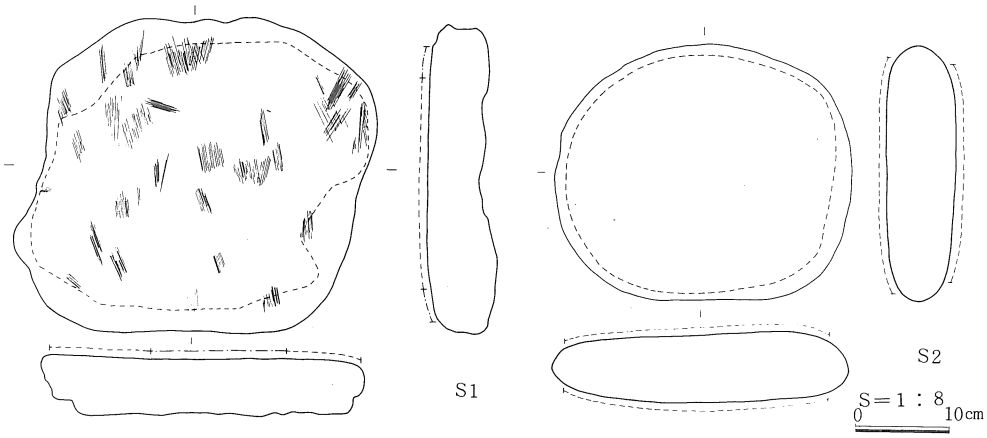
特筆事項　中央ピットから北側に向けて、幅0.15m 、深さ0.08m の溝を検出した。

遺　　物　床面では、甕（Po１～６・８～10)、高坏（Po11～14)、砥石（Ｓ１・２）が出土した。中央ピット内では、甕（Po７）を検出している。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図175　ＳＩ01遺物図１



挿図176　ＳＩ01遺物図２

ＳＩ—02・07（挿図177～180、挿表32・33、図版65・67・80・81）

位　　置　８Ｅグリッドに位置する。

形　　態　隅丸方形（ＳＩ—02）と隅丸五角形（ＳＩ—07）が切り合う。ＳＩ—02の床面は、長辺4.8m、短辺4.72mを測り、床面積22.66㎡である。ＳＩ—07の床面は長径6.52m短径6.52mを測り、床面積約33㎡である。ＳＩ—02の壁高は確認できなかった。ＳＩ—07の残存壁高は北側で0.6m、南側で0.24mを測る。

側　　溝　ＳＩ—02は、幅0.2m、深さ0.08mの側溝が残る。

ＳＩ—07は、幅0.16m、深さ0.12mの側溝がめぐっている。

柱　　穴　ＳＩ—02の主柱穴は４本（Ｐ１～Ｐ４）で、主柱穴間はＰ１より、3.04m—3.04m—2.6m—2.96mを測る。規模はＰ１より、(0.44×0.44—0.24)(0.48×0.48—0.56)(0.64×0.56—0.4)(0.64×0.8—0.4)mを測る。各主柱穴とも柱痕が認められた。

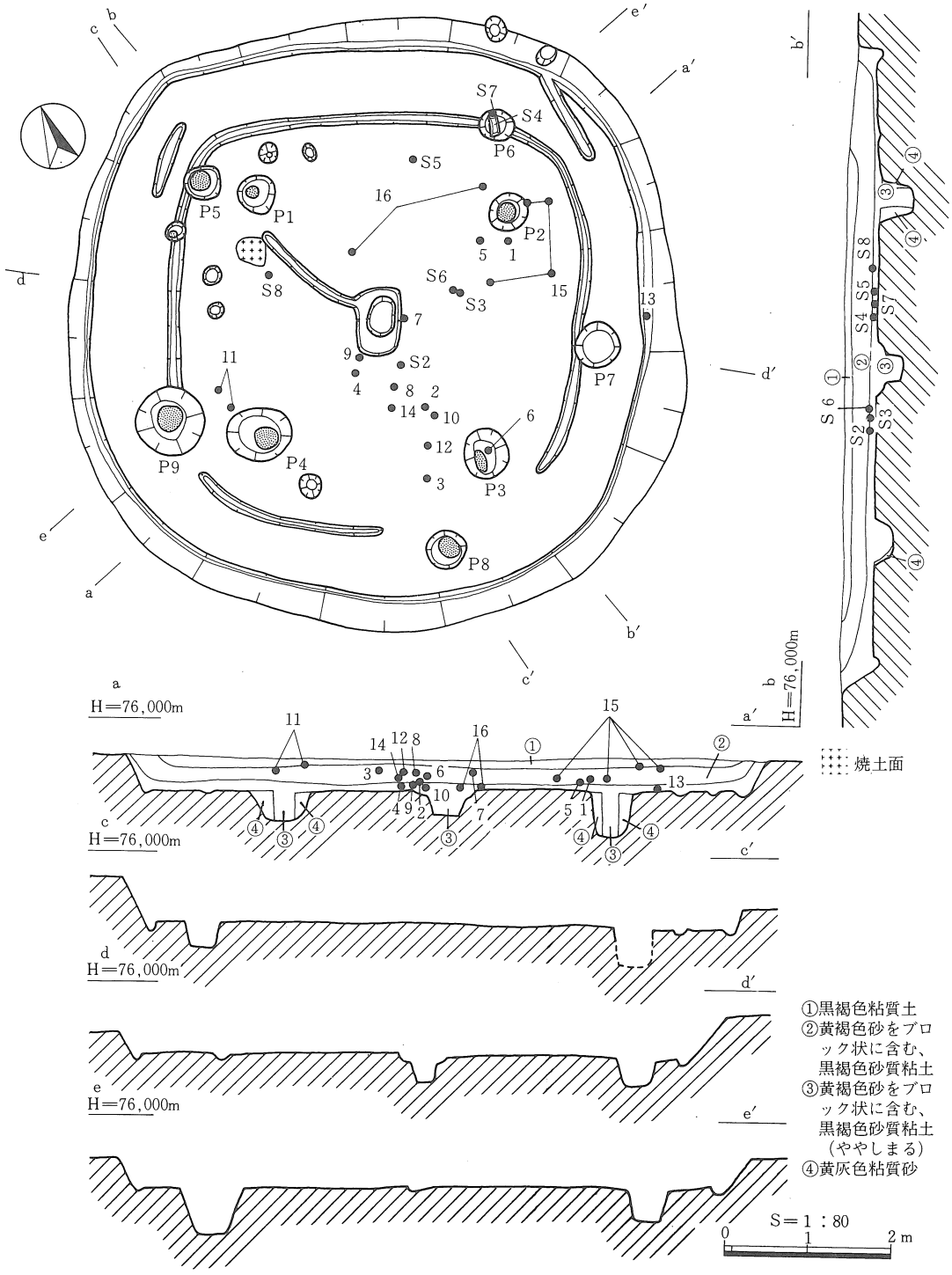
ＳＩ—07の主柱穴は５本（Ｐ５～Ｐ９）で、主柱穴間はＰ５より、3.6m—2.96m—3.0m—3.68m—2.92mを測る。規模はＰ５より、(0.44×0.44—0.36)(0.4×0.44—0.4)(0.56×0.56—0.36)(0.48×0.48—0.48)(0.84×0.84—0.6)mを測る。Ｐ５・Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９では柱痕が認められた。Ｐ６では、Ｓ４を掘方内に置いた形で検出した。

特殊ピット　中央にあり、二段掘りである。規模は(0.84×0.56・0.52×0.32—0.36)mを測る。中央ピットは、ＳＩ—02・07ともに共有していたと考えられる。

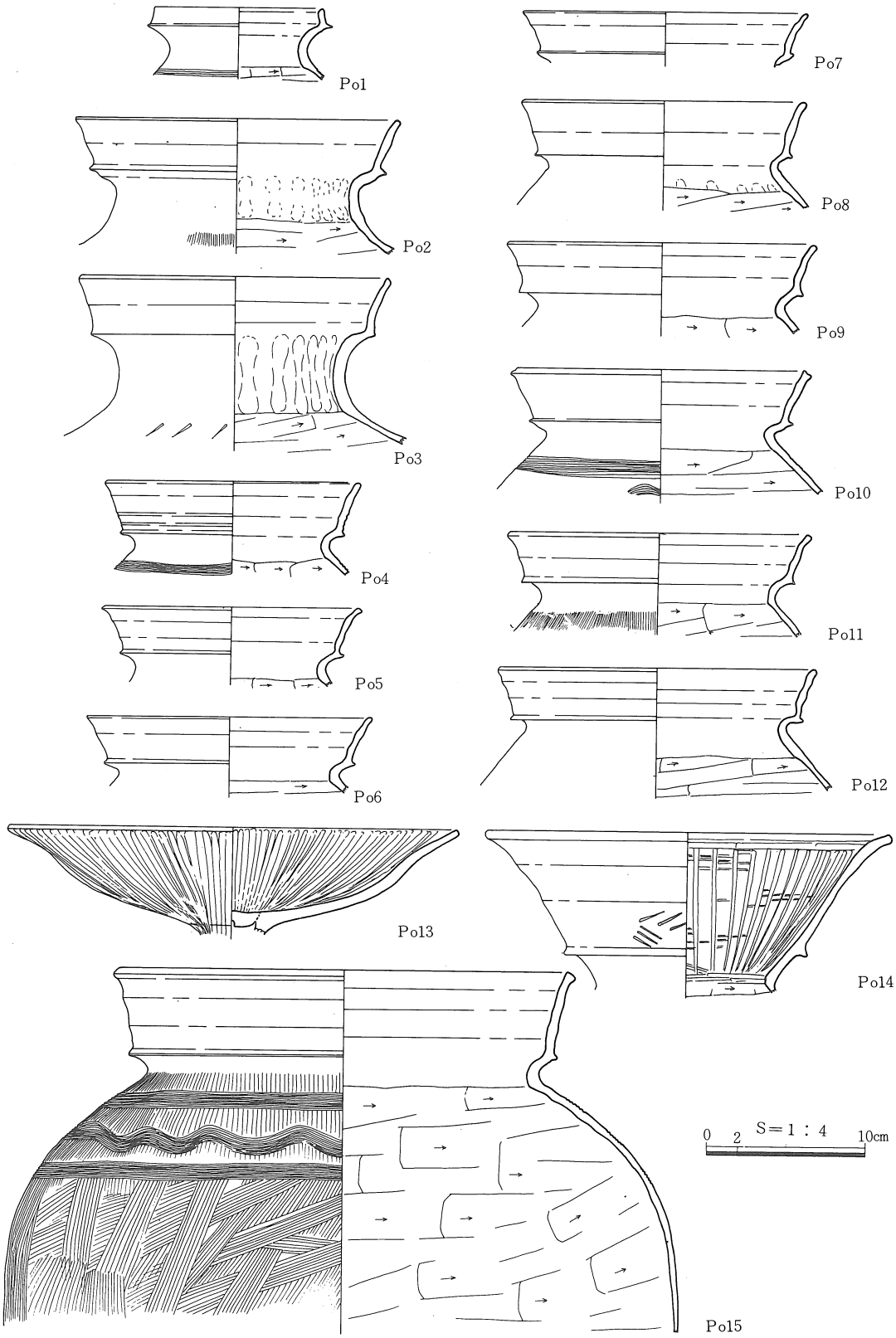
特筆事項　ＳＩ—02・07は切り合うが、断面観察ではＳＩ—02の肩は検出できなかった。ＳＩ内の北西で焼土面を検出したが、ＳＩの構造から推測して、ＳＩ—07に伴う焼土面と考えられる。この他、中央ピットから北へ溝（幅0.16・深さ0.08m）がのびる。

遺　　物　壺（Po１～３）、甕（Po４～12・15）、高坏（Po13）、鼓形器台（Po14）、甑型土器（Po16）、石錘（Ｓ１）、砥石（Ｓ５・６・８）、磨石（Ｓ２・３・４・７）、石製玉（Ｊ１）を検出した。Po16は半分欠いた状態で、中央ピットの上縁肩部に伏せて置かれていた。

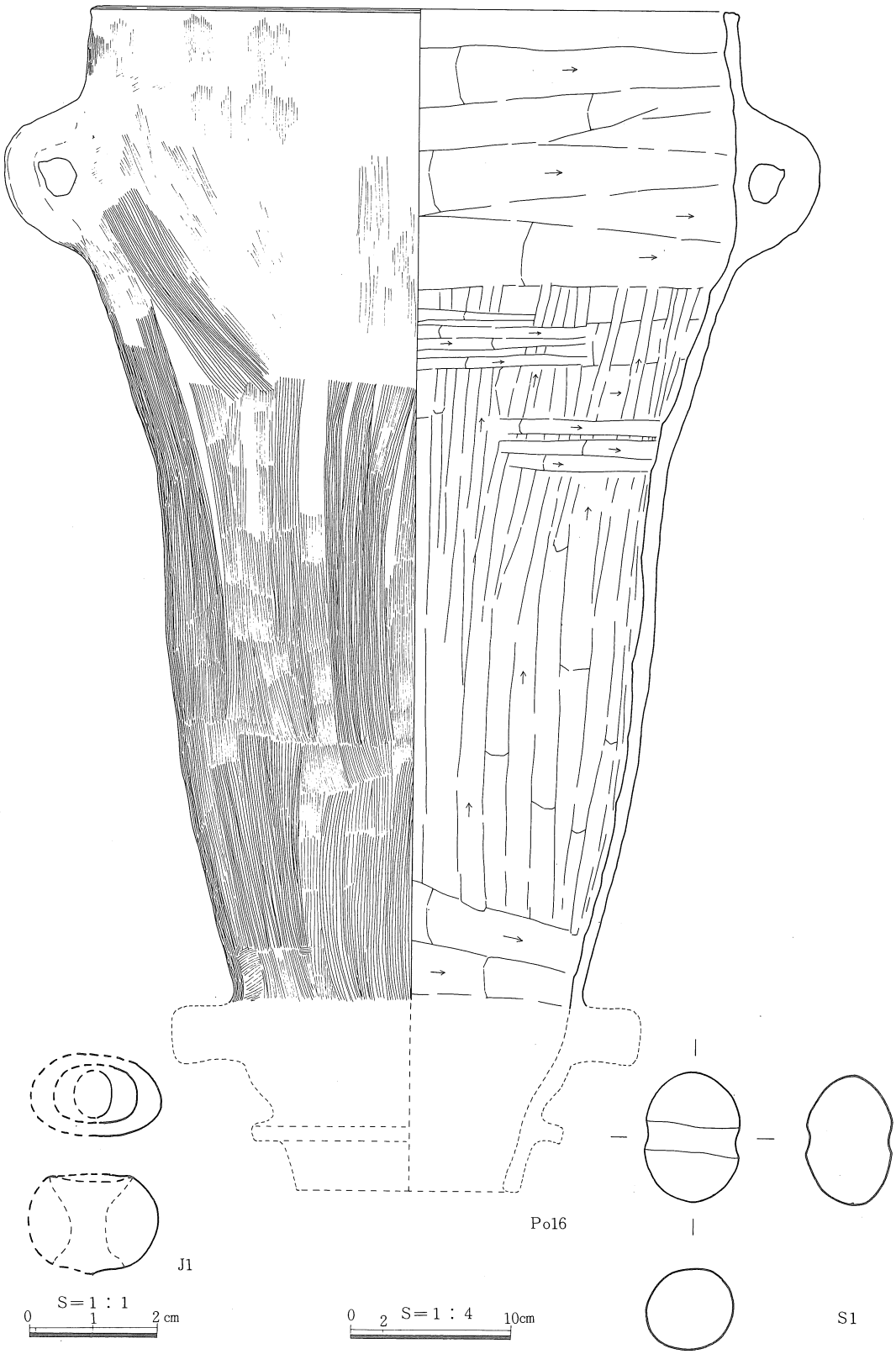
時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



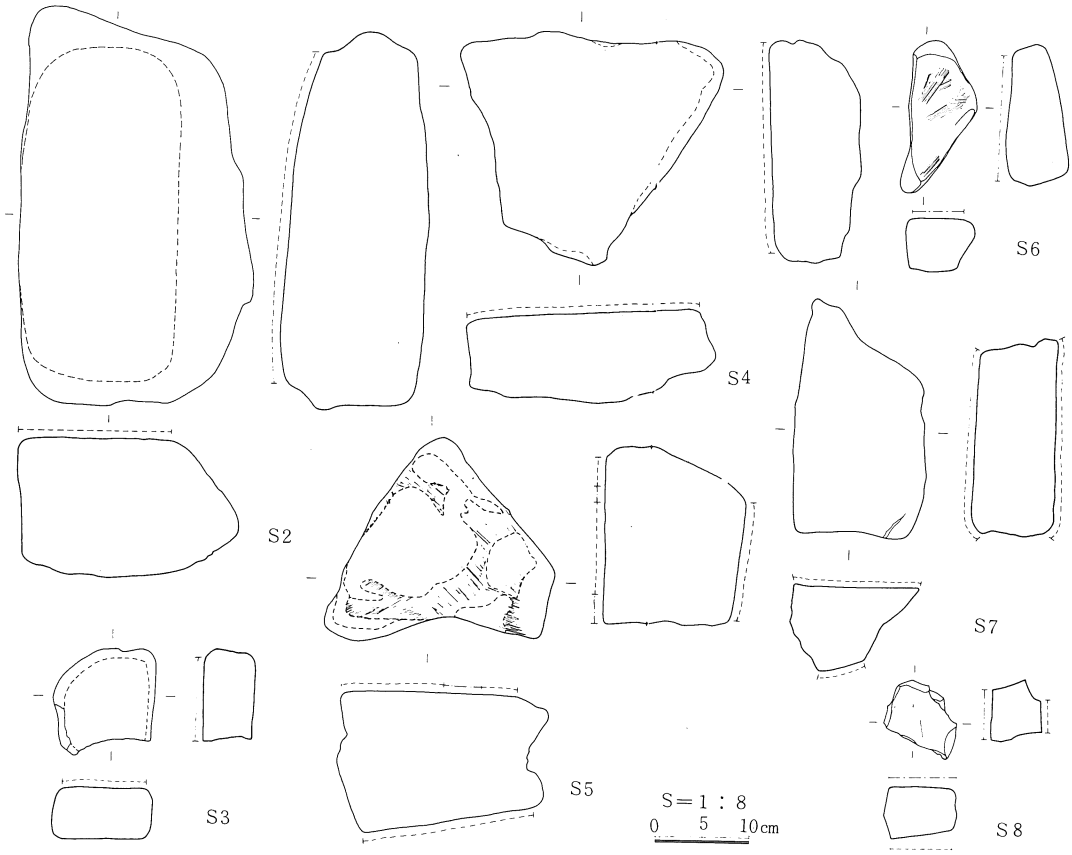
挿図177　S I 02・07遺構図



挿図178　S I 02・07遺物図 1



挿図179　S I 02・07遺物図 2



挿図180　ＳＩ 02・07遺物図３

ＳＩ—03（挿図181～184、挿表32・33、図版65・66・81・82）

位　置　10Ｈグリッドの北東に位置する。

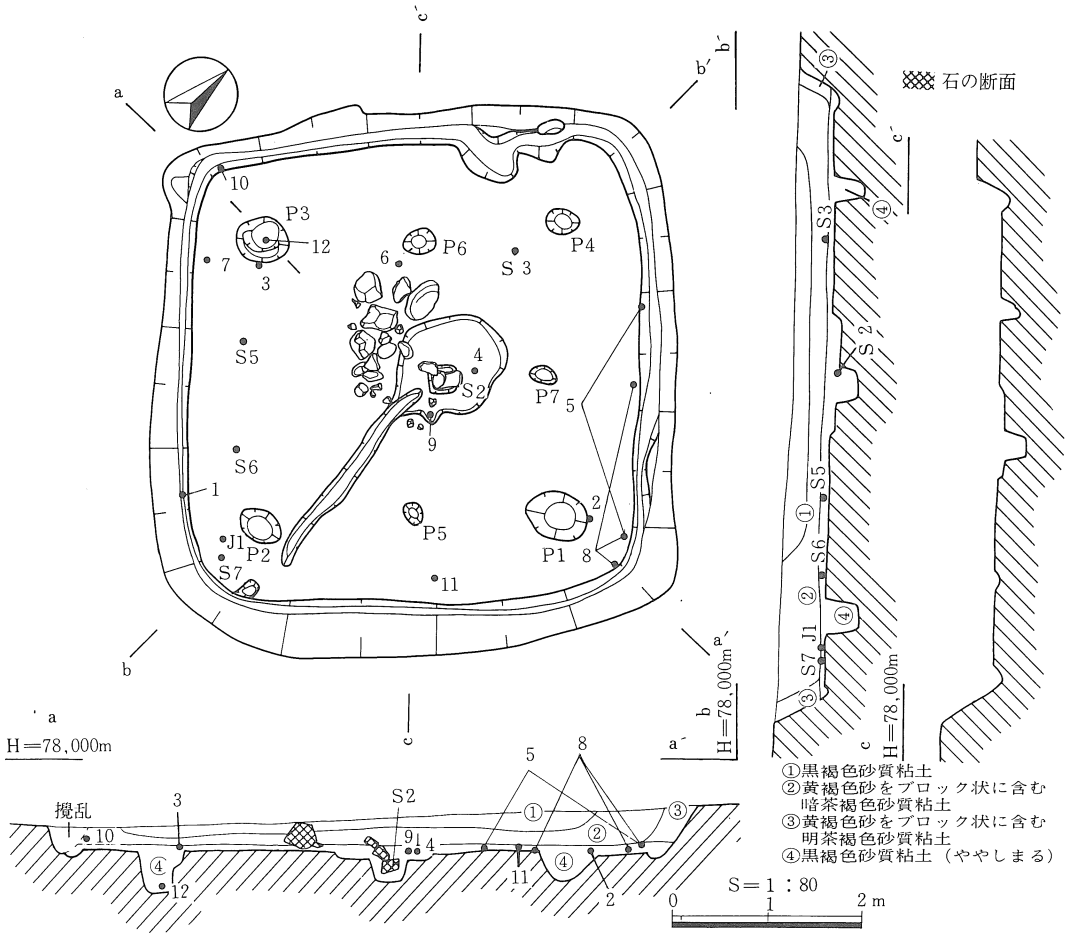
形　態　平面形は隅丸方形で、床面は長辺4.8m、短辺4.68m を測り、床面積約22㎡である。残存壁高は南東側で0.65m、北西側で0.34m を測る。

側　溝　幅0.2m、深さ0.1m の側溝がめぐる。住居の北西部で側溝が乱れ、床面とは別の平らな面が存在することから、この部分が出入口であったのではないかと推測する。

柱　穴　主柱穴４本（Ｐ１～Ｐ４）、補助柱３本（Ｐ５～Ｐ７）を確認した。また確認できなかったが、Ｐ２～Ｐ３間にも補助柱が存在していたと推測される。なおＰ１には、柱の根固めに利用したと考えられる石が落ち込んでいた。主柱穴間はＰ１より、3.0m —2.5m —3.0m —2.5m。各主柱穴の規模はＰ１より（0.65×0.49—0.29）（0.52×0.34—0.35）（0.56×0.48—0.46）（0.37×0.26—0.33）m。各補助柱穴は、Ｐ５より（0.24×0.2—0.06）（0.36×0.28—0.2）（0.3×0.18—0.13）m を測る。

特殊ピット　ほぼ中央にあり、二段掘りである。規模は（1.32×1.2・0.3×0.3—0.38）m を測る。二段目の内部で砥石（Ｓ２）を検出した。この砥石の上面は黒灰色に変色していた。

特筆事項　Ｐ３の底面近くの中央より、完形に近い形の低脚坏（Po12）を、伏せた状態で検出

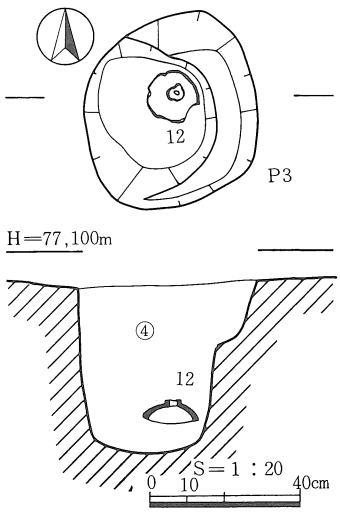


挿図181　S I 03遺構図

した。この事から居住者が住居を放棄する際、柱を抜き取り、何らかの目的を持って置いたものと考える。

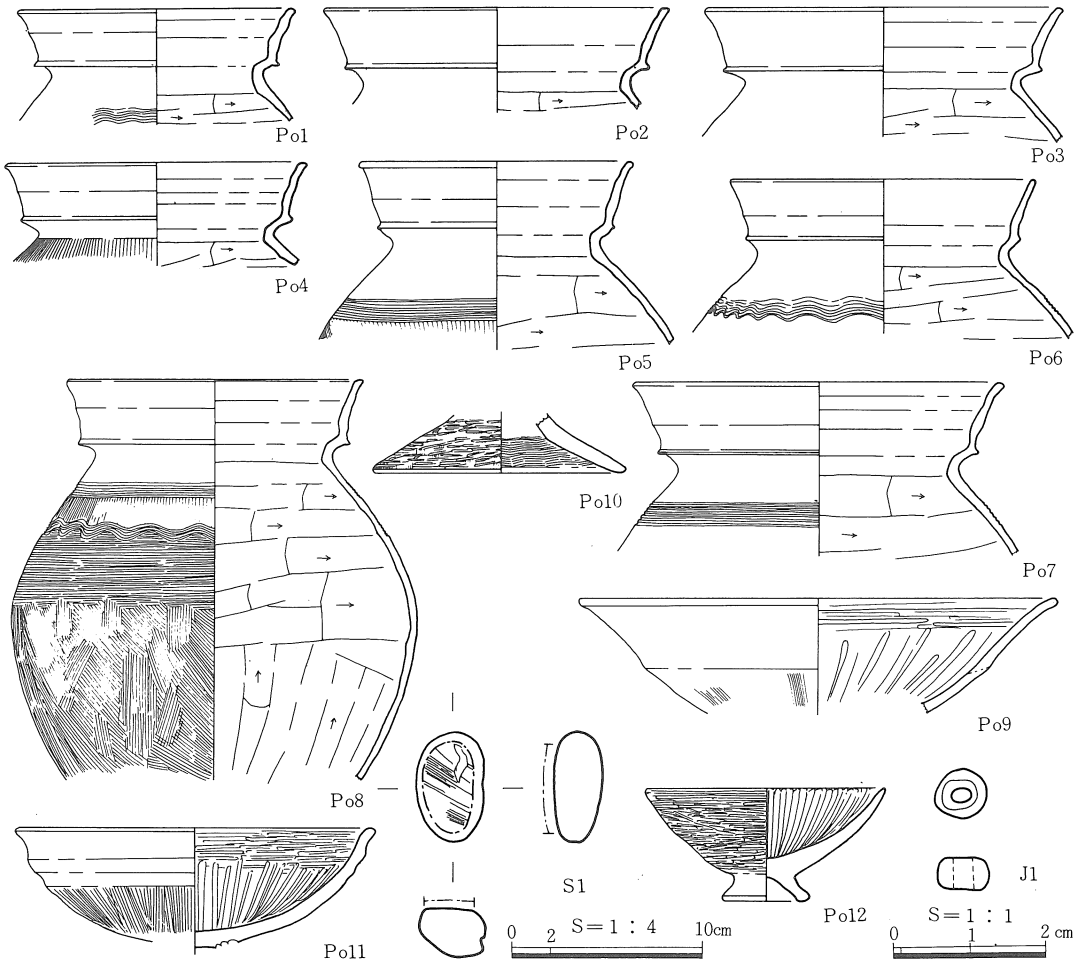
側溝とは別に、特殊ピット南端を起点とする溝（幅0.18m・深さ0.06m）を検出した。溝は一部途切れるが側溝まで達していたと考えられる。

住居の北側中央部及び南端において、砥石（S 3・7）を検出した。住居においてこの砥石の持つ意味は不明であるが、ただS 7の下部より、ガラス製小玉（J 1）が出土したことから、砥石周辺は作業場であったのではないかと推測する。住居の中央部において多量の石を検出した。居住期間中または、住居を放棄する際に人為的に積まれたか、または投げ込まれたものではないかと推測する。

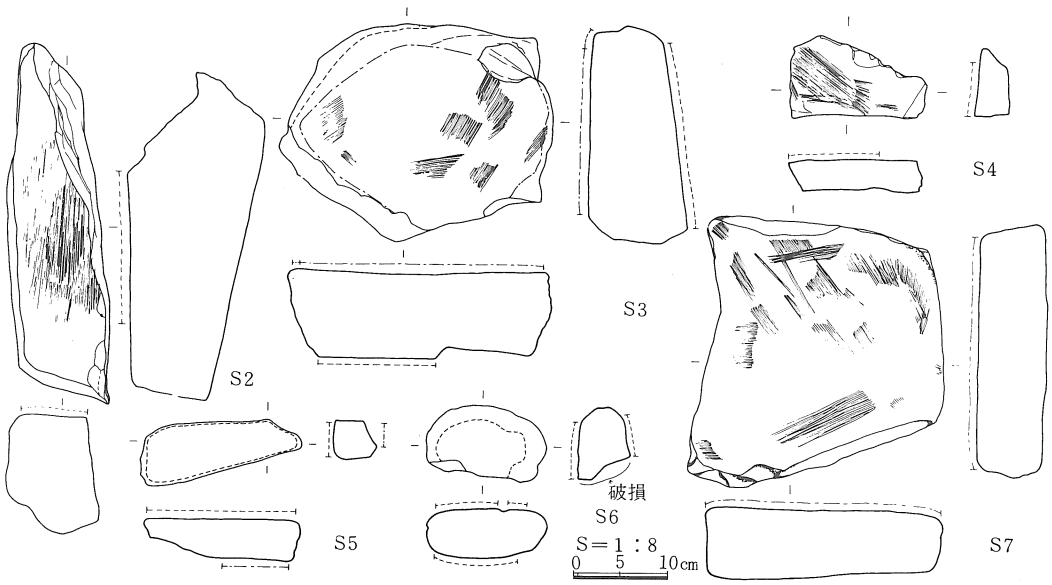


挿図182 SI 03遺物出土状況図

遺　物　甕（Po 1～8）、高坏（Po 9～11）、低脚坏（Po12）、ガラス製小玉（J 1）、



挿図183　ＳＩ03遺物図１



挿図184　ＳＩ03遺物図２

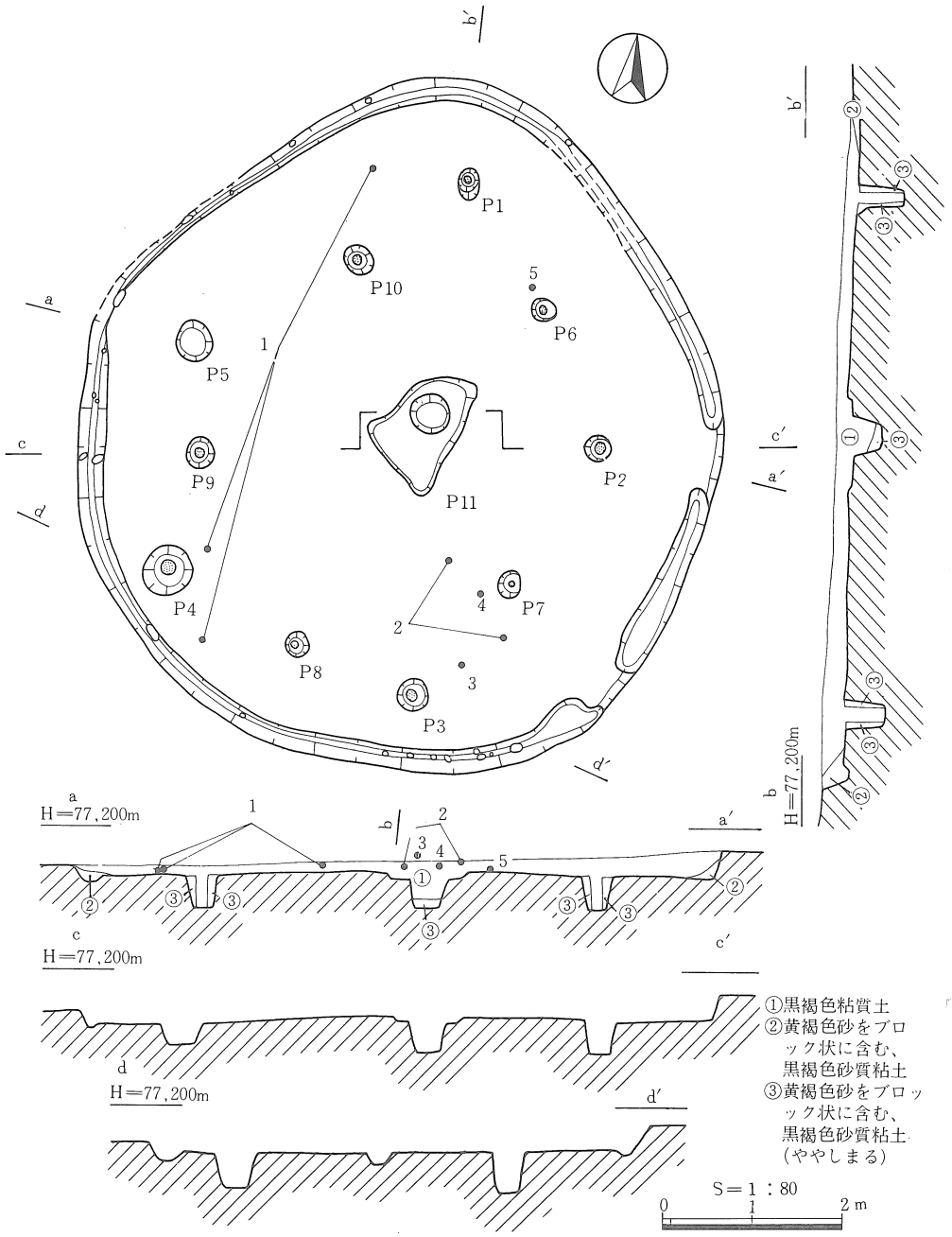
砥石（Ｓ２～７）、軽石（Ｓ１）を検出した。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。

ＳＩ—04（挿図185～188、挿表32・33、図版66・82）

位　　置　10Ｆ・11Ｆグリッドにわたり位置する。

形　　態　平面形は隅丸五角形で、床面は長径7.2m、短径6.72m を測り、床面積は約38㎡である。残存壁高は東側で0.36m、北側で0.1m を測る。

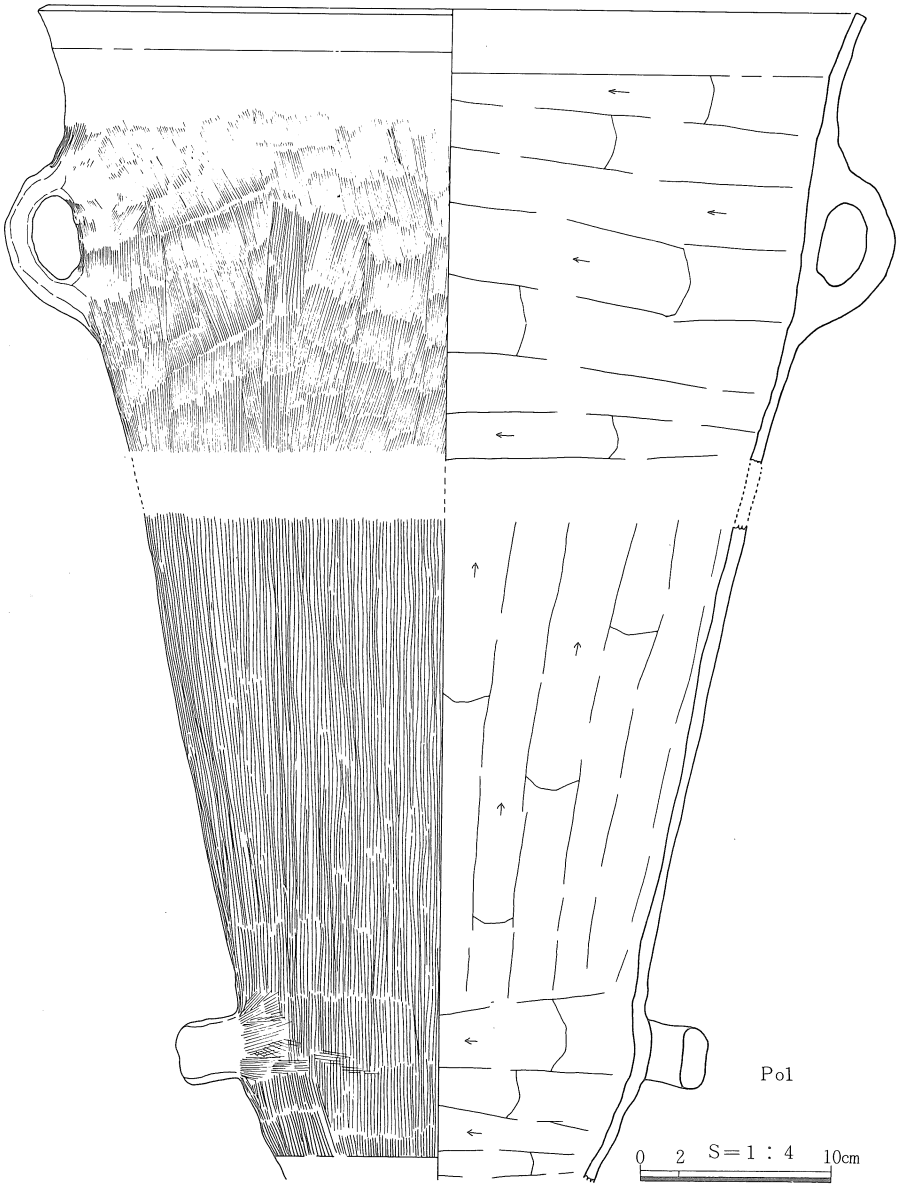


挿図185　ＳＩ04遺構図

側　溝　幅0.36m、深さ0.09mの側溝がめぐる。

柱　穴　主柱穴５本（Ｐ１～Ｐ５）、補助柱穴５本（Ｐ６～Ｐ10）を確認した。Ｐ５以外の柱穴では、柱痕が認められる。主柱穴間はＰ１より、3.36m－3.48m－3.12m－2.6m－3.56m。各主柱穴の規模はＰ１より（0.36×0.24－0.51）（0.28×0.32－0.16）（0.36×0.36－0.36）（0.56×0.56－0.2）（0.48×0.4－0.44）m。補助柱穴はＰ６より（0.28×0.28－0.15）（0.32×0.24－0.42）（0.28×0.28－0.38）（0.36×0.32－0.22）（0.36×0.28－0.38）mを測る。

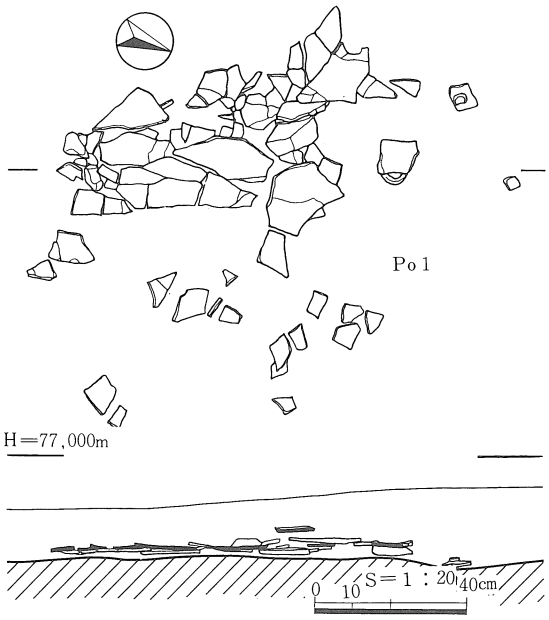
特殊ピット　ほぼ中央にあり、二段掘りで、規模は（1.24×0.74・0.44×0.44－0.42）mを測る。



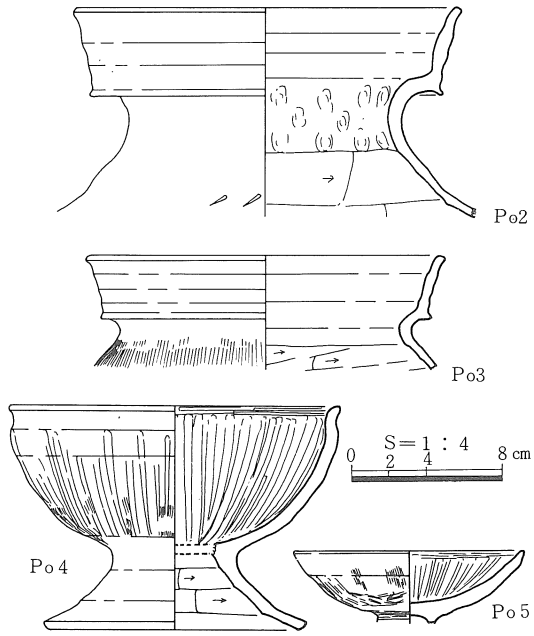
挿図186　ＳＩ04遺物図１

遺　　物　壺（Po2）、甕（Po3）、高坏（Po4・5）、甑型土器（Po1）を検出した。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図187　ＳＩ04甑型土器出土状況図



挿図188　ＳＩ04遺物図２

ＳＩ—05（挿図189・190、挿表32・33、図版67・82・83）

位　　置　９Ｇグリッドに位置する。

形　　態　平面形は隅丸五角形で、床面は長径8.0m、短径7.55m を測り、床面積は約47㎡である。残存壁高は南側で0.45m、北側で0.31m を測る。

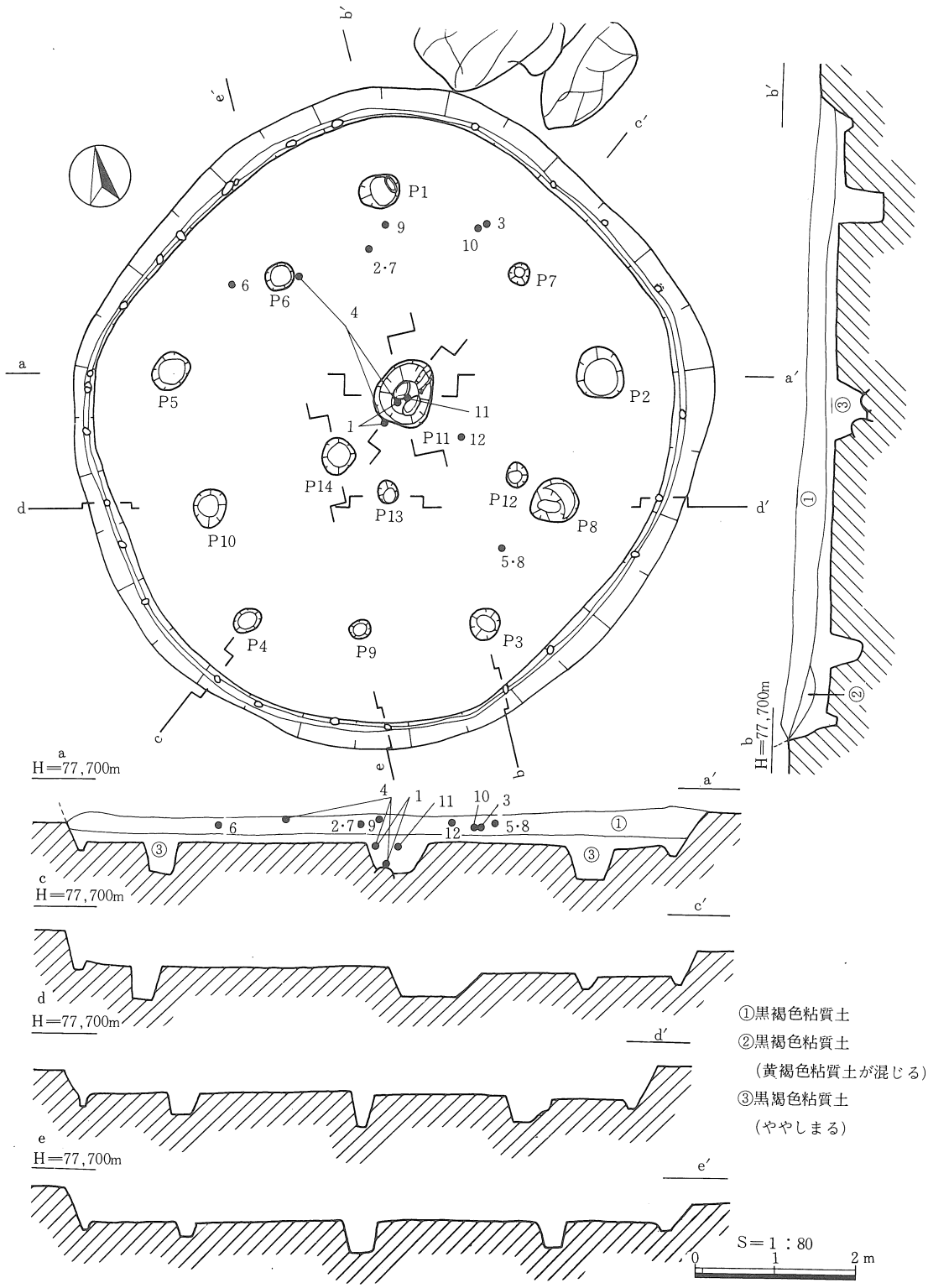
側　　溝　幅0.2m、深さ0.12m の溝がめぐっている。性格は不明であるが、側溝内に小ピットを25基検出した。

柱　　穴　主柱穴５本（Ｐ１～Ｐ５）、補助柱穴５本（Ｐ６～P10）を確認した。各主柱穴間はＰ１より、3.6m －3.44m －2.96m －3.32m －3.38m。各主柱穴の規模はＰ１より（0.5×0.42－0.55）（0.6×0.6－0.4）（0.4×0.4－0.4）（0.35×0.3－0.45）（0.5×0.4－0.4）m を測る。補助柱穴はＰ６より（0.35×0.35－0.35）（0.28×0.28－0.19）（0.6×0.55－0.33）（0.28×0.23－0.2）（0.6×0.5－0.25）m を測る。

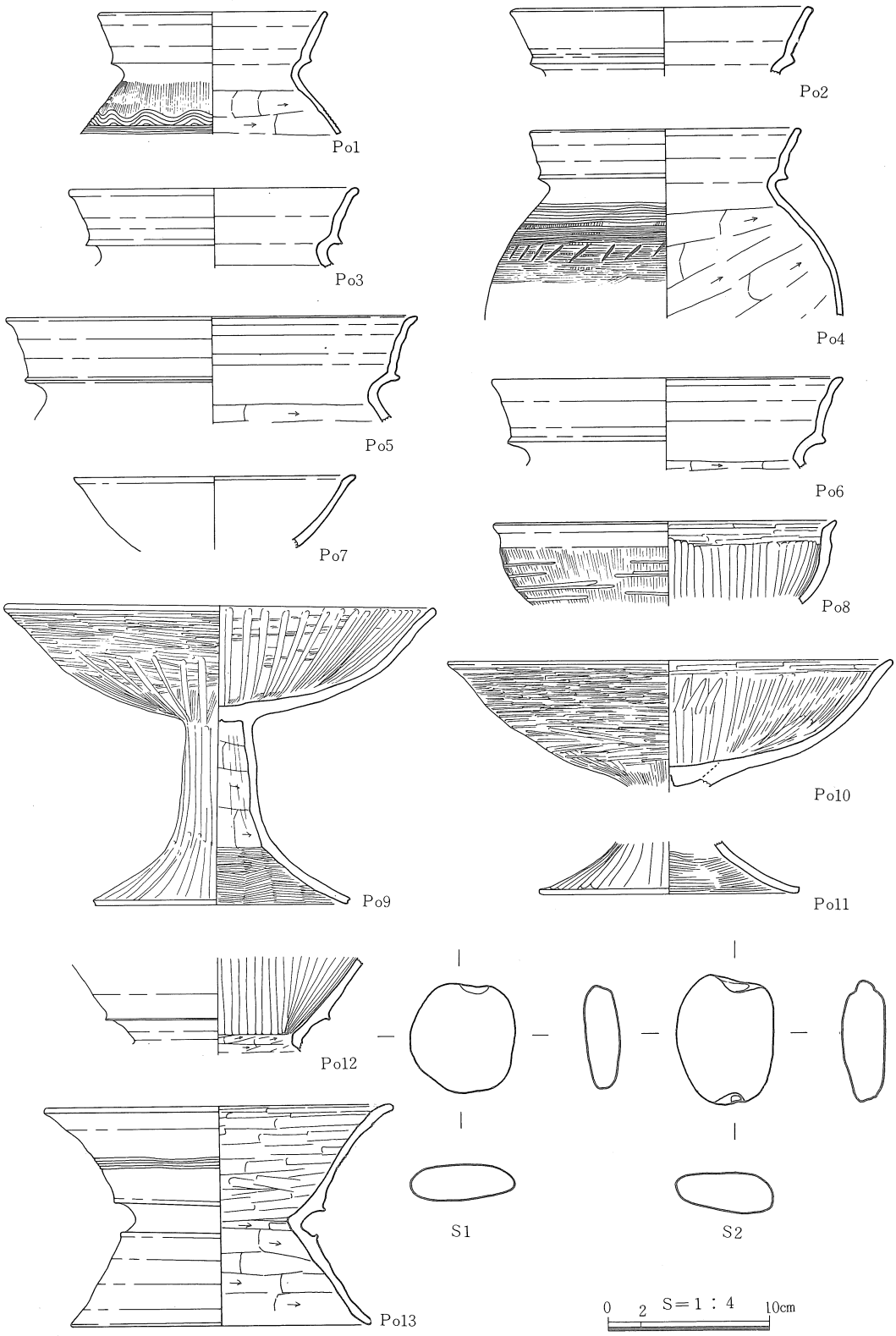
特殊ピット　ほぼ中央にあり、（0.85×0.75－0.4）m を測る。また中央特殊ピットより、甕（Po１）が出土している。

遺　　物　甕（Po１～６）、高坏（Po７～11）、鼓形器台（Po12・13）、石錘（Ｓ１・２）を検出した。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図189　ＳＩ05遺構図



挿図190　ＳＩ05遺物図

ＳＩ—06（挿図191・192、挿表32・33、図版67）

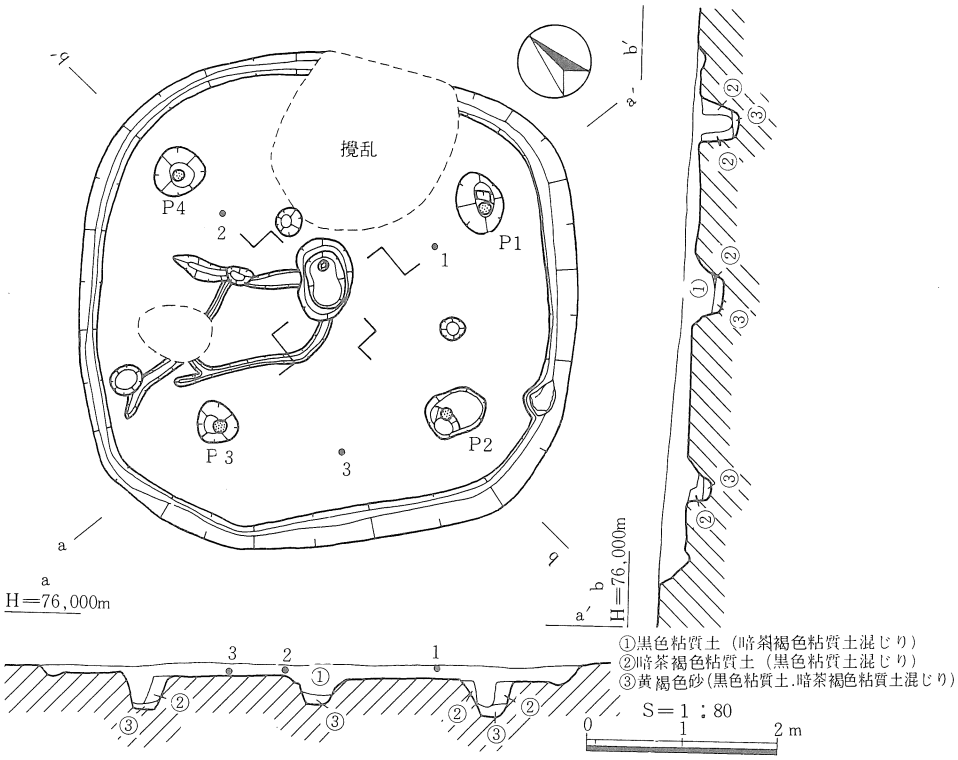
位　　置　６Ｇグリッドの北に位置する。

形　　態　平面形は隅丸方形で、床面は長辺4.72m、短辺4.6m を測り、床面積は約22㎡である。残存壁高は南東側で0.37m、北西側で0.08m を測る。

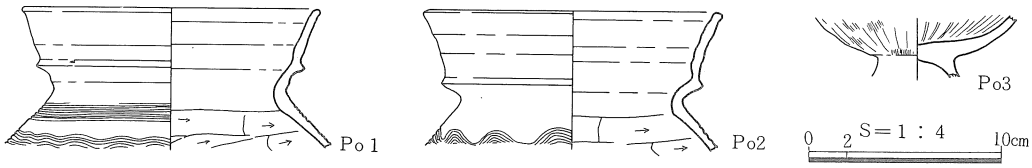
側　　溝　北東側で攪乱を受けているが、幅0.12m、深さ0.06m の溝がめぐる。住居の西側で側溝が乱れ、床面とは別の平らな面が存在することから、ここが出入口ではないかと推測される。

柱　　穴　主柱穴は４本（Ｐ１～Ｐ４）で、それぞれ柱痕を確認した。主柱穴間はＰ１より2.2m —2.48m —2.65m —3.28m。各主柱穴の規模はＰ１より（0.65×0.5—0.37）（0.65×0.45—0.23）（0.48×0.44—0.39）（0.57×0.5—0.42）m を測る。各柱痕の規模はＰ１より（径0.18m・深さ0.2m）（径0.18m・深さ0.12m）（径0.14m・深さ0.3m）（径0.16m・深さ0.32m）を測る。

特殊ピット　ほぼ中央にあり、二段掘りで（0.84×0.58・0.64×0.38—0.27）m を測る。



挿図191　ＳＩ06遺構図



挿図192　ＳＩ06遺物図

特筆事項　側溝とは別に、溝を３本確認した。特殊ピット西側を起点とする溝の規模は、幅0.18m、深さ0.06m。さらに、この溝を起点とする溝の規模は、幅0.12m、深さ0.04m、特殊ピットの南側を起点とする溝の規模は、幅0.1m、深さ0.08mを測る。

各柱穴の柱痕を線で結ぶと、不規則な台形となることから、攪乱内に柱穴を想定して、主柱穴５本の住居であった可能性が考えられる。

遺　　物　甕（Po１・２）、低脚坏（Po３）が出土した。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。

ＳＩ—08（挿図193・194、挿表32・33、図版67・83）

位　　置　４Ｆグリッドの北西に位置する。

形　　態　平面形は方形を呈するものと推測される。床面は長辺8.5m（推定）、短辺7.7mを測り、推定床面積約26㎡。残存壁高は北側で0.16m、東側で0.2mを測る。

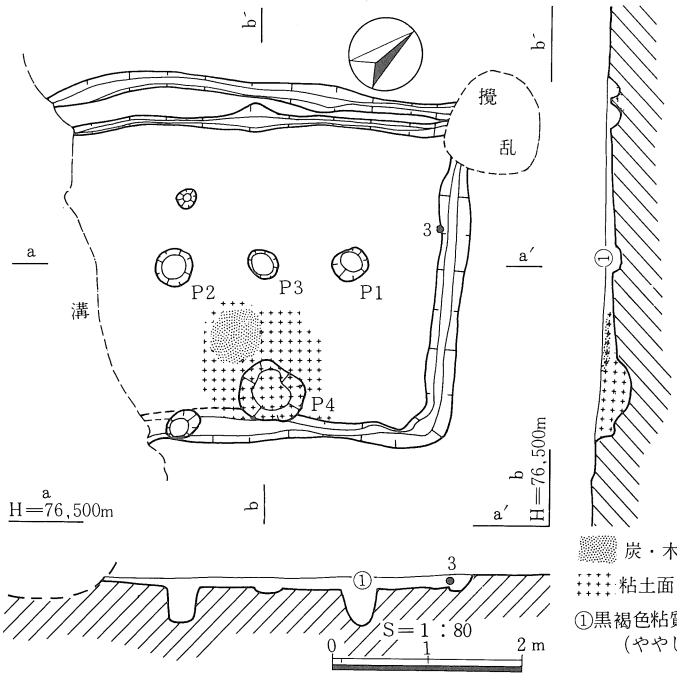
側　　溝　幅0.4m、深さ0.16mの溝がめぐる。西側では二重の側溝が認められた。

柱　　穴　主柱穴２本（Ｐ１・２）を確認した。主柱穴規模はＰ１より（0.4×0.4—0.4）（0.4×0.4—0.4）mを測る。柱穴間は1.88mを測る。

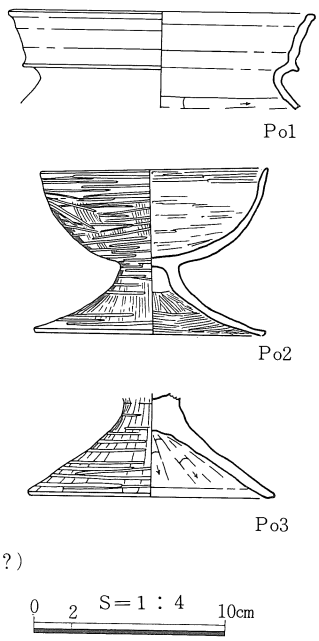
特殊ピット　中央にＰ３（0.32×0.39—0.12）mをもち、東側隅にＰ４（0.6×0.72—0.2）mが、側溝を切る状態で作られている。

特筆事項　Ｐ４の周辺には炭と粘土面（焼土面か）がみられる。この事から、Ｐ４は炉として利用されていたと考えられる。

遺　　物　甕（Po１）、高坏（Po２・３）を検出した。Po２・３は脚底部を上に向けた状態で



挿図193　ＳＩ08遺構図



挿図194　ＳＩ08遺物図

検出された。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。

ＳＩ—09（挿図195～198、挿表32・33、図版68・83）

位　　置　５Ｅグリッドの中央に位置する。

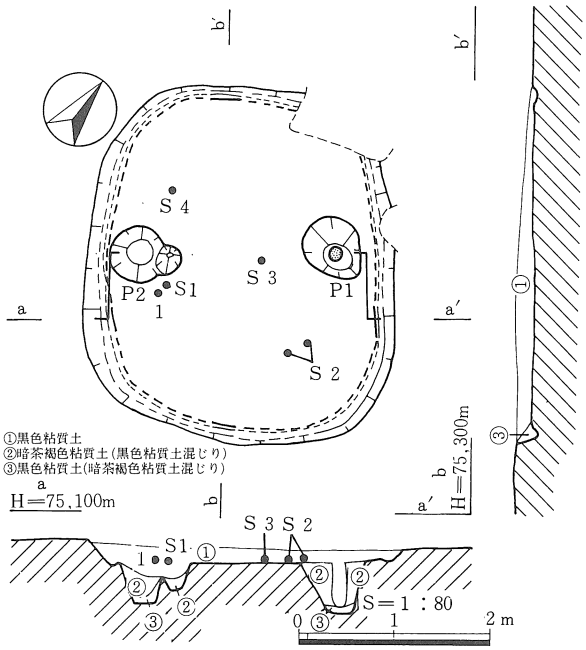
形　　態　平面形は隅丸方形で、床面は長辺3.44m、短辺2.8m を測り、床面積は約９㎡である。残存壁高は、南西側0.26m、北西側0.04m を測る。

側　　溝　幅0.15m、深さ0.04m を測る溝がめぐると推測する。

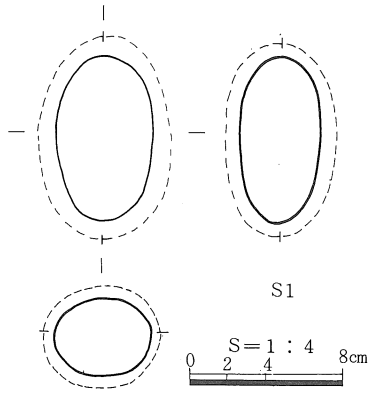
柱　　穴　主柱穴２本（Ｐ１・２）を確認した。主柱穴間は2.04m。各主柱穴の規模は、Ｐ１より（0.6×0.54—0.4)(0.7×0.56—0.5）m を測る。なおＰ１では、柱痕（径0.14m・深さ0.46）を確認した。

遺　　物　甕（Po1）、磨石（Ｓ１）、砥石（Ｓ２）、平石（Ｓ３・４）を検出した。

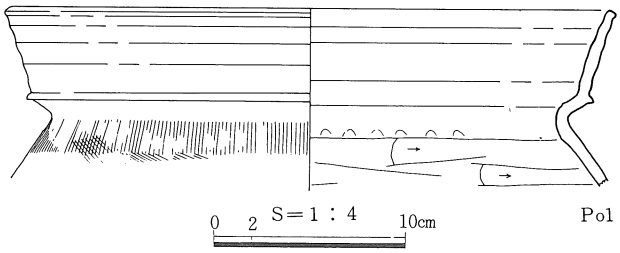
時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



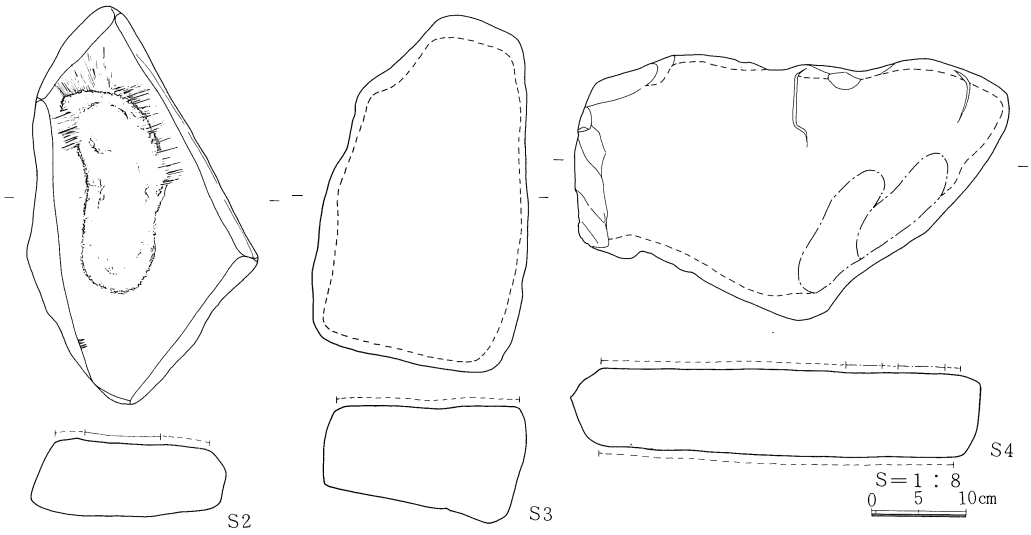
挿図195　ＳＩ09遺構図



挿図196　ＳＩ09遺物図１



挿図197　ＳＩ09遺物図２



挿図198　ＳＩ09遺物図３

ＳＩ—10（挿図199・200、挿表32・33、図版68・83）

位　置　３Ｄグリッドの中央に位置する。

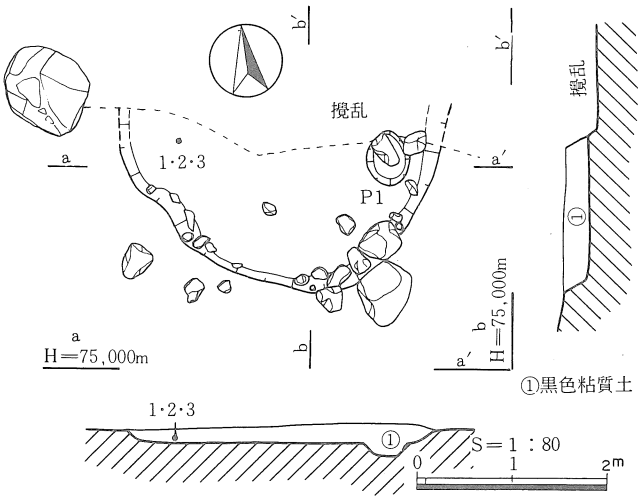
形　態　北側が攪乱によって壊されているが、平面形は隅丸方形であろうと推測する。残存床面積は、約1.8㎡である。残存壁高は、南側0.24m、西側0.1mを測る。

側　溝　存在しない。

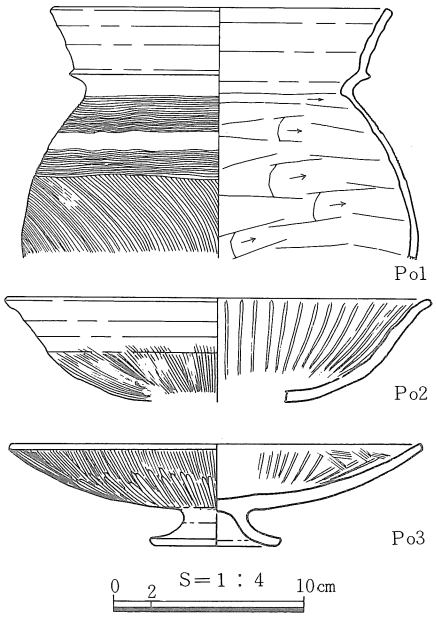
柱　穴　Ｐ１（0.6×0.46—0.1）mを検出した。主柱穴の一つであろうと推測する。

遺　物　甕（Po１）、高坏（Po２）、低脚坏（Po３）を検出した。

時　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図199　ＳＩ10遺構図



挿図200　ＳＩ10遺物図

ＳＩ—11（挿図201～203、挿表32・33、図版68・84）

位　　置　８Ｃグリッドのほぼ中央に位置する。

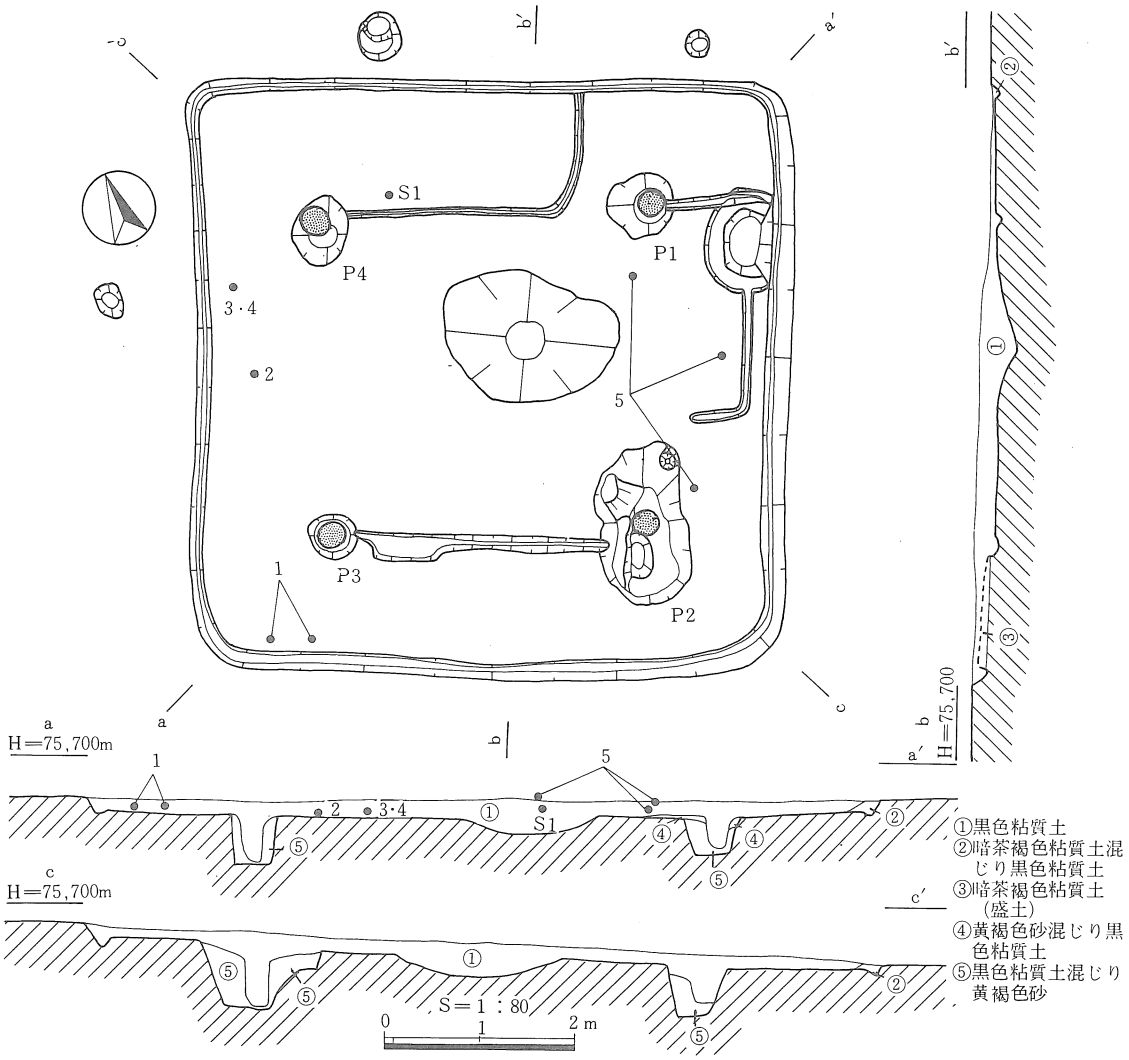
形　　態　平面形は方形で、床面は長辺6.4m、短辺5.84m を測り、床面積は約37㎡である。残存壁高は南南東側で0.25m、北北西側で0.03m を測る。

側　　溝　幅0.08m、深さ0.07m を測る溝がめぐる。

柱　　穴　主柱穴は４本（Ｐ１～Ｐ４）で、それぞれ柱痕を確認した。主柱穴間は、Ｐ１より3.4m —3.24m —3.31m —3.52m、各主柱穴の規模は、Ｐ１より（0.7×0.64—0.43）（1.7×0.92—0.63）（0.5×0.46—0.54）（0.72×0.57—0.51）m、各柱痕の規模は、Ｐ１より（径0.14m・深さ0.35m）（径0.16m・深さ0.56m）（径0.15m・深さ0.51m）（径0.14m・深さ0.42m）を測る。

特殊ピット　住居のほぼ中央にあり、規模は（1.86×1.4—0.26）m の楕円形である。

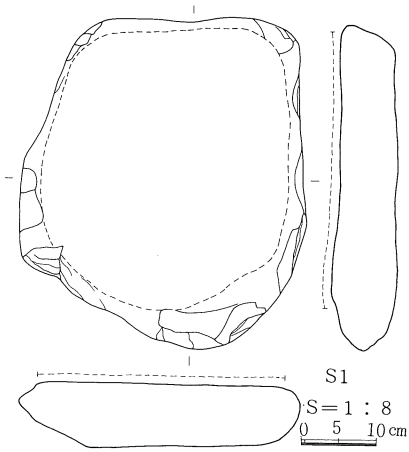
特筆事項　側溝とは別に、溝を４本確認した。各々の規模は、Ｐ４を起点とする溝（3.4×0.06



挿図201　ＳＩ 11遺構図

—0.08）m、P1を起点とする溝（1.02×0.12
—0.09）m、土坑を起点とする溝（1.86×0.1
—0.04）m、P2を起点とする溝（2.66×0.16
—0.09）mを測る。P4を起点とする溝と、P2を起点とする溝で区切られた北側及び南側の一区画の床面が、住居中央部よりも高いこと、北側で平石（S1）を検出したこと、南側が盛土されていること等々から、住居内でそれぞれ特別な空間として存在したと考えられる。

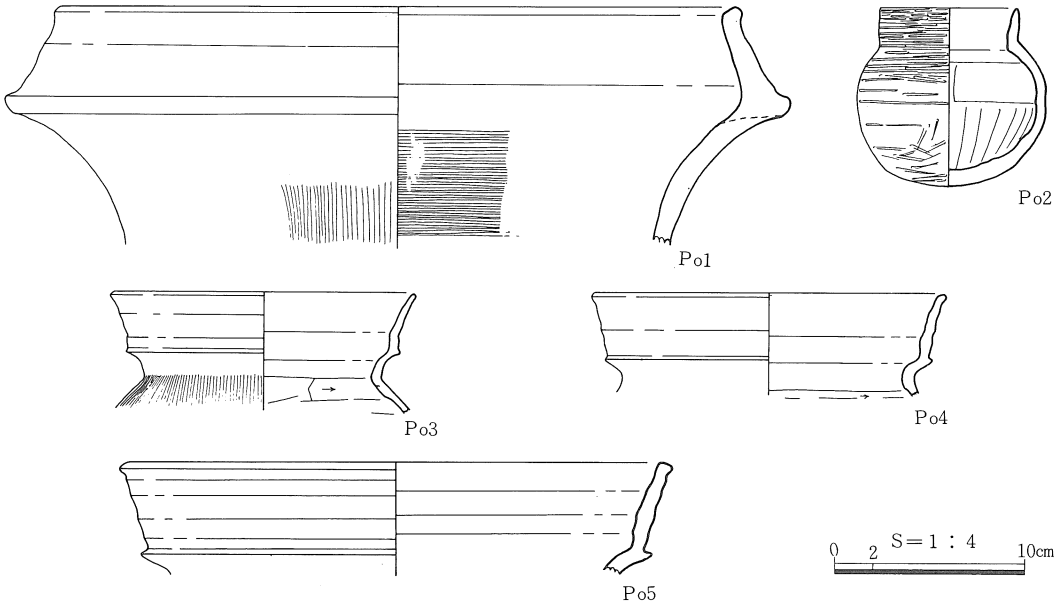
住居北北東隅に土坑を確認した。形態は（1.08×0.7—0.97）（0.72×0.5—0.4）mを測る二段掘りを呈する。側溝を侵してないことから、居住期に使用されたと考えられ、炉として利用されたと考えられる。



挿図202　S I 11遺物図1

遺　物　壺（Po1）、小型丸底壺（Po2）、甕（Po3～5）、平石（S1）を検出した。

時　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図203　S I 11遺物図2

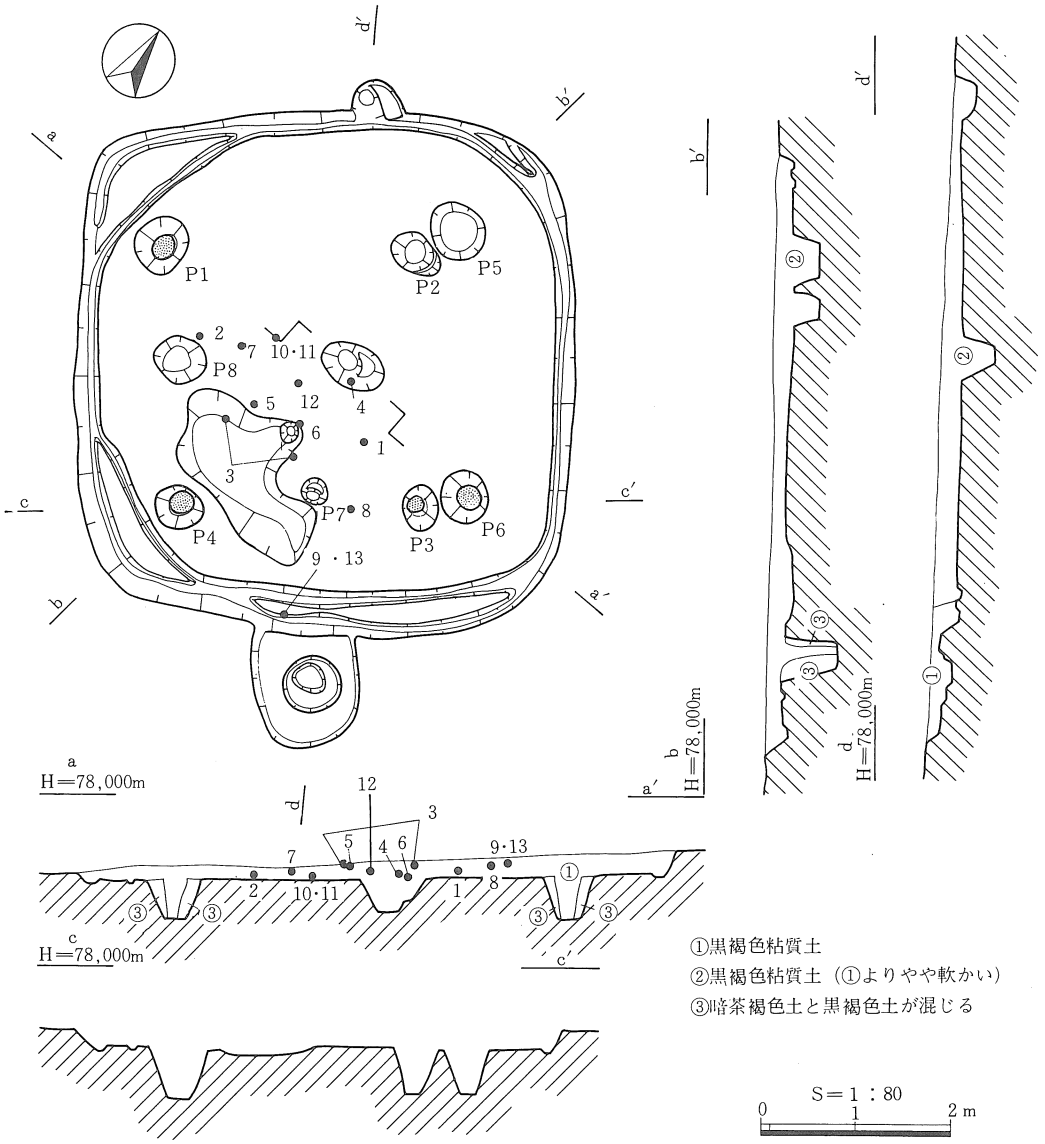
S I—12・13（挿図204・205、挿表32・33、図版68・69・84）

位　置　12E・13E・12F・13Fグリッドに位置する。

形　態　平面形は、ほぼ円形（S I—12）と隅丸方形（S I—13）が切り合う。S I—12の床面は長径4.8m、短径4.8mを測り、床面積約18㎡である。S I—13の床面は長辺5.04m、短辺4.8mを測り、床面積約24㎡である。残存壁高は南側で0.25m、北側で0.7mを測る。

側　溝　幅0.15・深さ0.05m（ＳＩ—12)、幅0.15m・深さ0.05m（ＳＩ—13）を測る溝がめぐる。

柱　穴　ＳＩ—12の主柱穴は４本(Ｐ１～Ｐ４）で、主柱穴間はＰ１より、2.6m —2.7m —2.5m —2.7m を測る。ＳＩ—13の主柱穴は４本（Ｐ１・４・５・６）で、主柱穴間はＰ１より、3.1m —2.8m —3.2m —2.7m を測る。Ｐ１・４は、ＳＩ—12・13とも共有していたと考えられる。各主柱穴の規模はＰ１より（0.6×0.54—0.3）（0.65×0.57—0.28）（0.6×0.4—0.27）（0.48×0.38—0.47）（0.53×0.46—0.45）（0.54×0.45—0.6）m を測る。柱痕がＰ１（径0.15m・深さ0.3m）、Ｐ４（径0.1m・深さ0.47m)、Ｐ６（径0.2m・深さ0.6m）で認められた。Ｐ７（0.3×0.26—0.29）m、Ｐ８（0.56×0.5—0.46）m は補助柱穴と考えられる。



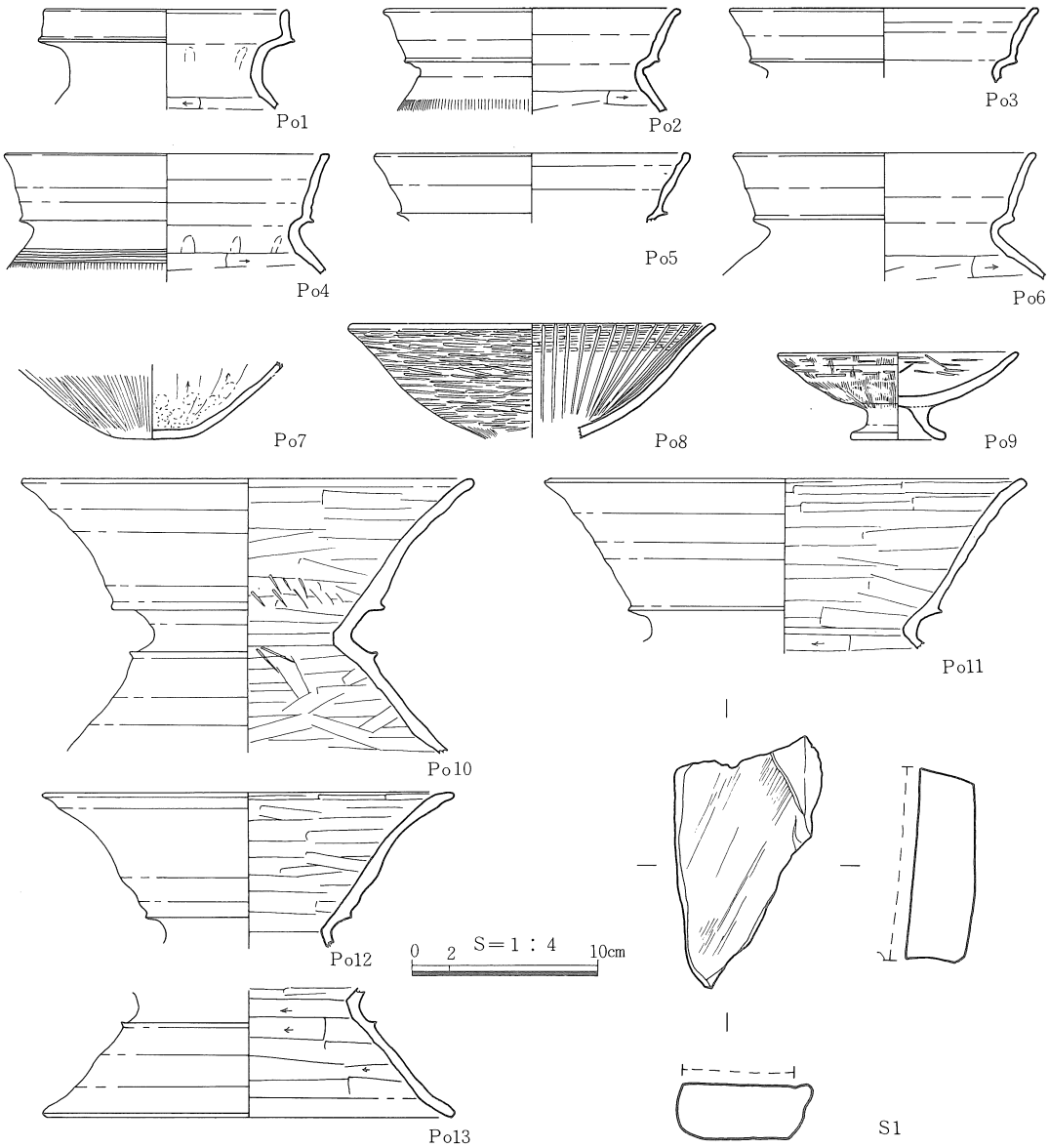
挿図204　ＳＩ12・13遺構図

特殊ピット　ほぼ中央にあり、規模は（0.7×0.47－0.33）m を測る。

特筆事項　ＳＩ－12・13は切り合っているが、断面観察では、ほぼ円形のＳＩ－12を切る形で、ＳＩ－13が建てられたものと考えられる。ＳＩ－12の南側には、三段掘りのピット（1.2×1.14・0.6×0.6・0.36×0.32－0.24）m が検出されているが、性格は不明である。

遺　　物　床面より、壺（Po１）、甕（Po２～５・７）、高坏（Po８）、低脚坏（Po９）、鼓形器台（Po10～13）、砥石（Ｓ１）、中央ピットより甕（Po６）が出土している。

時　　期　遺物より、古墳時代前期中頃のものと考えられる。



挿図205　ＳＩ12・13遺物図

ＳＩ—14（挿図206・207、挿表32・33、図版69）

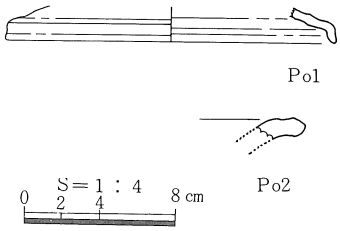
位　置　26Ｉ・27Ｉグリッドに位置する。

形　態　平面形は隅丸方形で床面は長辺4.9m、短辺4.6mを測り、床面積約22㎡である。残存壁高は東側で0.05m、西側で0.1mを測る。

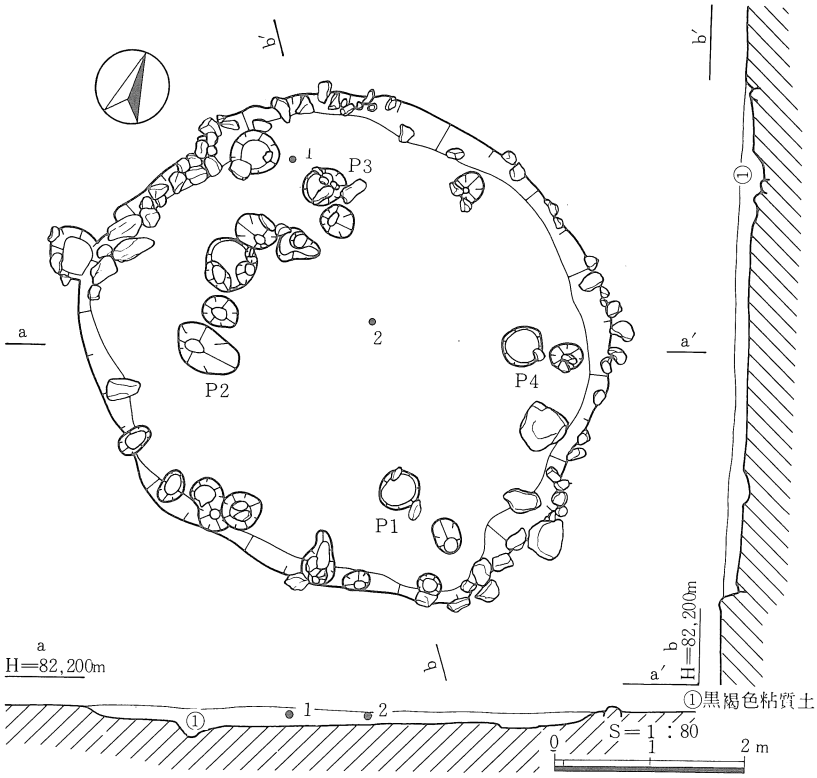
柱　穴　主柱穴４本（Ｐ１～Ｐ４）を確認した。主柱穴間はＰ１より、2.64m —2.24m — 2.76m — 2m、各主柱穴の規模はＰ１より、(0.45×0.4—0.05)（0.75×0.43—0.17）(0.45×0.38—0.13)（0.44×0.43—0.05）mを測る。

遺　物　埋土中より須恵器蓋（Po１）、甕（Po２）を検出した。

時　期　遺物より古墳～奈良時代と考えられる。



挿図206　ＳＩ14遺物図



挿図207　ＳＩ14遺構図

挿表32　竪穴住居一覧表

遺構名	平面形	規　模（m）	主柱穴数	主柱穴間距離（m）	時　期
01	隅丸方形	5.55×5.35	4	3.08－3.2－3.12－3.12	古墳時代前期中頃
02	隅丸方形	4.8×4.72	4	3.04－3.04－2.6－2.96	〃
07	隅丸五角形	6.52×6.52	5	3.6－2.96－3.0－3.68－2.92	〃
03	隅丸方形	4.8×4.68	4	3.0－2.5－3.0－2.5	〃
04	隅丸五角形	7.2×6.72	5	3.36－3.48－3.12－2.6－3.56	〃
05	隅丸五角形	8.0×7.55	5	3.6－3.44－2.96－3.32－3.38	〃
06	隅丸方形	4.72×4.6	4	2.2－2.48－2.65－3.28	〃
08	方　　形	8.5（推定）×7.7	2	1.88	〃
09	隅丸方形	3.44×2.8	2	2.04	〃
10	隅丸方形	—	2（推定）	—	〃
11	方　　形	6.4×5.84	4	3.4－3.24－3.31－3.52	〃
12	円　　形	4.8×4.8	4	2.6－2.7－2.5－2.7	〃
13	隅丸方形	5.04×4.8	4	3.1－2.8－3.2－2.7	〃
14	隅丸方形	4.9×4.6	4	2.64－2.24－2.76－2	古墳以降～奈良時代

挿表33　竪穴住居遺物観察表

SI－01

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 175 （Po1）	2711	甕	復元口径14.8cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は横につまみ出されシャープ。肩部以下欠損。	口縁部、内外面横ナデ。肩部内面頸部以下右方向ヘラ削り。外面ナデ。	胎土：小砂粒含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色
挿図 175 （Po2）	2724	甕	復元口径13.7cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜はシャープ。頸部は短かく肩部に続く。	口縁部内外面共に横ナデ。外面肩部櫛描きによる直線文。内面右方向のヘラ削り。	胎土：小砂粒含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・淡明褐色
挿図 175 （Po3）	2715 接合 (2704)	甕	復元口径　15cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部やや角ばる。頸部は短かく肩部につづく。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。外面胴部櫛描きによる不規則なハケ目、波状紋が施される。内面胴部左方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色
挿図 175 （Po4） 図版 79－1	172	甕	復元口径15.3cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部はわずかに外反し丸く終わる。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。外面肩部、胴部横方向のハケ目。内面右方向ヘラ削り。	胎土：石英を多量に含む 焼成：不良 色調：内・外 淡褐色
挿図 175 （Po5） 図版 79－2	2705	甕	復元口径　18cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。頸部は短かく、なだらかな肩部、胴部に続く。口縁端部は角ばる。	口縁部内外面共に横ナデ。外面肩部櫛描きによる直線文、その下キザミ目。胴部横方向ハケ目が少々見える。肩部、胴部内面横方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内・外 明茶褐色
挿図 175 （Po6）	2704	甕	復元口径15.6cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は横につまみ出されシャープ。肩部以下欠損。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。内面頸部以下右方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色
挿図 175 （Po7） 図版 79－3	2689	甕	復元口径16.2cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。口縁端部は角ばる。	口縁部内外面共に横ナデ。内面頸部以下より右方向ヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：不良 色調：内・外 黄灰褐色
挿図 175 （Po8）	3123	甕	復元口径16.6cm	口縁部外反気味に立ち上る複合口縁。端部は丸く終る。屈曲部の稜はやや鈍い。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。内面頸部下右方向ヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内・淡茶褐色 外・淡褐色
挿図 175 （Po9）	2690	甕	復元口径　19cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。口縁端部平坦。外に肥厚する。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。内面頸部以下左方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色
挿図 175 （Po10）	2563	甕	復元口径17.6cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は横につまみ出され鋭い。口縁端部は外側にカット気味。	口縁部、頸部内外面共に横ナデ。ナデによる凹凸がみられる。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内・外 明褐色
挿図 175 （Po11） 図版 79－4	2713	高坏	口径　　19.8cm	内湾気味に立ち上がる深い杯部。口縁端部は丸く終わる。	口縁部内外面横ナデ。以下外面縦ハケの後ナデ。内面縦方向のヘラ磨き。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 175 (Po12) 図版 79—6	2707 接合 (3125)	高坏 (坏部)	口径　22.7cm	内湾気味に開く浅い坏部。口縁端部は丸く終わる。	外面坏部横方向ヘラ磨き。内面口縁部横方向ヘラ磨き。以下縦方向ヘラ磨き。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕明褐色
挿図 175 (Po13) 図版 79—7	2709 接合 (2701・2703 2709・2721 2791)	高坏	口径　26.8cm 脚径　18.1cm 器高　20.8cm	外反気味に開く深い坏部と長い柱状部から「ハ」の字状に開く裾部をもつ脚部。口縁端部、脚端部は面を意識しながらもやや丸く終わる。	坏部外面横方向ヘラ磨き。内面横方向ハケ目の後放射状のヘラ磨き。外面柱状部脚縦方向ヘラ磨き。内面柱状部上半左方向ヘラ削り。裾部内面横方向ハケ目後ナデ。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 175 (Po14) 図版 79—5	2691	高坏	脚径　12.6cm	脚部は短かく「ハ」の字状に開く。脚端部は丸く終わる。	脚部内外面共に横ナデ。はげしいナデによる凹凸がみられる。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡赤褐色 内外面赤色塗彩
挿図 176 (S1) 図版 79—8	3126	砥石	長さ　33.3cm 幅　35.5cm 厚さ　7.2cm 重さ　14,968g	表面が擦り面。		(石材) 無斑晶安山岩
挿図 176 (S2) 図版 79—9	3128	砥石	長さ　26.9cm 幅　31.3cm 厚さ　7.3cm 重さ　10,300g	両面が擦り面		(石材) 両輝石安山岩

S I —02

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 178 (Po1)	2640	壺	復元口径10.4cm	口縁部は立ち上がり短くやや内傾している。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部4条櫛描き直線文。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：砂粒、石英含む 焼成：普通 色調：内・淡灰褐色 外・淡褐色
挿図 178 (Po2)	2642	壺	復元口径20.6cm	口縁部は外に開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面頸部以下縦のハケ目。内面頸部にしぼり。以下右方向のヘラ削り。	胎土：砂粒含む 焼成：良好 色調：内外〕淡茶褐色
挿図 178 (Po3) 図版 80—2	2039	壺	口径　19.5cm	口縁部は外に開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はわずかに内傾する。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部にヘラ状工具による刻み目が施される。内面頸部にしぼり。以下右方向のヘラ削り。	胎土：砂粒 0.5mmの石英含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 178 (Po4)	2644	甕	復元口径15.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。	口縁部内外面横ナデ。頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：石英粒、雲母を少量含む 焼成：良好 色調：内外〕灰褐色
挿図 178 (Po5)	2641	甕	復元口径　16cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はやや角ばる。	口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：長石、石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡黄灰褐色
挿図 178 (Po6)	2038 接合 (2498)	甕	復元口径17.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。口縁端部は丸い。	口縁内外面横ナデ。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：1～2mmの長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・乳白色 外・スス付着
挿図 178 (Po7)	2635	甕	復元口径17.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：1～2mmの石英含む 焼成：普通 色調：内外〕乳白色
挿図 178 (Po8)	2044	甕	復元口径17.5cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：石英粒を含む 焼成：良好 色調：内・淡灰褐色 外・淡茶褐色
挿図 178 (Po9)	2644	甕	復元口径19.2cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：石英粒を含む 焼成：良好 色調：内・暗茶褐色 外・暗黒灰色
挿図 178 (Po10)	2042	甕	復元口径　19cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部は強いナデによる凹凸がみられる。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部6～7条櫛描き直線文。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mmの長石、石英含む 焼成：良好 色調：内・暗黒灰褐色 外・スス付着

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 178 (Po11)	2057	甕	復元口径　19cm	口縁部は外に開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に縦のハケ目。内面頸部以下ヘラ削り。	胎土：砂粒 0.5mmの石英含む 焼成：良好 色調：内 外 淡褐色
挿図 178 (Po12)	2040	甕	復元口径19.7cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。口縁端部は丸い。	口縁頸部内外面横ナデ。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：石英、砂粒を含む 焼成：普通 色調：内 外 淡黄灰褐色
挿図 178 (Po13) 図版 80—2	2638 接合 (2922)	高坏 (坏部)	復元口径28.3cm	外方に開くやや浅めの坏部。口縁端部は、さらに外反しやや平坦。坏底部外面に小孔をもつ。	外面口縁部縦方向のヘラ磨き、中位から下にかけて縦方向のハケ目後縦方向のヘラ磨き、内面縦方向のヘラ磨き。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内 外 淡褐色
挿図 178 (Po14) 図版 80—3	2045 接合 (2058)	鼓形器台	復元口径25.6cm	受部内湾気味に外方に開き、口縁端部は丸い。屈曲部の稜はやや鈍い。	外面受部横ナデ。中位に一部ヘラ状工具による文様が見られる。内面受部縦のヘラ磨き。端部横ヘラ磨き。筒部横方向ヘラ磨き。脚部右方向ヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内 外 淡褐色
挿図 178 (Po15)	2639 接合 (1859・2033 2028)	鉢	復元口径28.2cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。頸部は短かく肩部やや張る。口縁端部面を意識しながら外に肥厚する。	口縁部内外面共に横ナデ。外面肩部櫛描きによる直線文。波状紋を施す。胴部不規則なハケ目。内面右方向ヘラ削り。	胎土：石英粒を含む 焼成：不良 色調：内 外 黄白色
挿図 179 (Po16) 図版 80—4	2636 接合 (1811)	甑 型土器	復元口径40.5cm 残存 高62.6cm	ほぼ直線的に外方にむかって開く胴部は底部付近ですぼまる。	内面口縁部横ナデ。把手部右方向のヘラ削り。胴部上位上方向のヘラ削り後右方向のヘラ削り、下位上方向のヘラ削り、底部付近右方向のヘラ削りが見られる。外面口縁部から胴部上位ハケ目後横ナデ。下位縦方向のハケ目、底部付近には不規則なハケ目が見られる。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内 外 淡白褐色
挿図 179 (S1)	2029	有溝 石錘	長さ　8cm 幅　5.5cm 厚さ　4.9cm 重さ　329g	長軸に直角に溝を施したもの。		(石材) アプライト花崗岩
挿図 180 (S2) 図版 80—5	2660	磨石	長さ　41.7cm 幅　23.6cm 厚さ　14.9cm 重さ　24,450g	表面磨耗痕。		(石材) 無斑晶安山岩
挿図 180 (S3) 図版80-6	2669	磨石	重さ　1,145g	表面磨耗痕。一部欠損		(石材) 石英安山岩
挿図 180 (S4) 図版80-7	2668	磨石	長さ　23.5cm 幅　26.5cm 厚さ　9.6cm 重さ　8,223g	表面磨耗痕。		(石材) 無斑晶安山岩
挿図 180 (S7) 図版81-1	2667	磨石	重さ　3,781g	両面磨耗痕。		(石材) 無斑晶安山岩
挿図 180 (S5) 図版80-8	2662	砥石	長さ　20.4cm 幅　22.4cm 厚さ　15.1cm 重さ　9,870g	両面が擦り面。		(石材) 両輝石安山岩
挿図 180 (S6) 図版80-6	2651	砥石	重さ　723g	表面が擦り面。		(石材) 石英安山岩
挿図 180 (S8) 図版80-6	2649	砥石	重さ　393g	両面が擦り面。		(石材) 石英安山岩
挿図 179 (J1) 図版81-2	1833	玉	復元長径 2.1cm	半分欠損。	両側穿孔。	(石材) 滑石 色調：黒色

S I —03

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 183 (Po1) 図版81-3	2507	甕	口径　14.2cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に櫛描き波状紋。条数不明。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～2mm長石、 石英含む 焼成：普通 色調：内 外 暗茶褐色 一部スス付着

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 183 （Po2）	２５４８ 接合 （2600）	甕	復元口径17.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面はげしい横ナデにより凹凸が生じる。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～3mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色 外面スス付着
挿図 183 （Po3） 図版81-4	２５２２	甕	復元口径18.4cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mm石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色 一部スス付着
挿図 183 （Po4）	２５１６	甕	復元口径15.5cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。口縁端部はやや角ばる。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部縦のハケ目、内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：１～２mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色 一部スス付着
挿図 183 （Po5）	２５３８	甕	復元口径　14cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部は丸く、外に肥厚する。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に横方向のハケ目の後縦のハケ目。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～3mm石英多量に含む 焼成：不良 色調：内〕外〕暗茶灰褐色
挿図 183 （Po6）	２５２６ 接合 （2521･2525）	甕	復元口径15.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面口縁部はげしい横ナデにより小さな凹凸が生じている。肩部に6～7条の波状紋。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～2mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 183 （Po7）	２５２３	甕	復元口径19.1cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はやや丸い。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に6～7条の直線文。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mmの長石、石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色 黒斑あり
挿図 183 （Po8） 図版81-5	２５４７ 接合 （2542）	甕	口径　15.3cm 胴部最大径 21.5cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。頸部は短く胴部ははなだらかな肩をもつ縦長気味の球形。肩部に7条の平行沈線、6条の波状紋。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に縦のハケ目、胴部上半横のハケ目、以下不規則なハケ目。内面頸部以下胴部中位は右方向のヘラ削り。以下下から上方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色 一部スス付着
挿図 183 （Po9）	２５１４	高坏 （坏部）	復元口径24.8cm	外に開く浅めの坏部。口縁端部は丸味をもつ。	坏部外面剝離のため不明。内面縦のヘラ磨きの後横のヘラ磨き。	胎土：0.5～1mm長石含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・淡黄灰褐色
挿図 183 （Po10）	２５２４	高坏 （脚部）	脚径　12.9cm	「ハ」の字状に開く裾部をもつ脚部。脚端部はナデられ丸く終わる。	脚部外面縦のハケ目の後磨き。内面横方向のハケ目。	胎土：0.5～1mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡明褐色
挿図 183 （Po11） 図版81-6	２５５１	高坏	口径　18.4cm	内湾気味に開くやや深い坏部。口縁端部はやや外反し丸味をもつ。	外面坏部口縁横ナデ。以下横方向のヘラ磨きの後、縦方向のヘラ磨き。内面坏部口縁横方向のヘラ磨き以下縦方向のヘラ磨き。	胎土：0.5～1mm長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・明褐色 外・暗褐色
挿図 183 （Po12） 図版81-7	２７８８	低脚坏	口径　12.3cm 脚径　4cm 器高　6cm	内湾気味に開く深い坏部。	外面坏部ハケ目の後横のヘラ磨き。内面縦方向のヘラ磨き。	胎土：0.5～2mm程度の石英を少量含む。 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 183 （S1） 図版81-8	１８７３	軽石	長さ　5.9cm 巾　3.5cm 厚さ　2.5cm 重さ　10.1g	表面が擦り面。		（石材） 軽石
挿図 184 （S2） 図版81-9	２７９４	平石	重さ　6,977g	表面中央部付近が擦り面。一部欠損。		（石材） 無斑晶安山岩
挿図 184 （S3） 図版81-10	２９４２	平石	重さ　9,304g	両面が擦り面。裏面一部欠損。		（石材） 角閃石安山岩
挿図 184 （S4） 図版81-8	２６１２	砥石	重さ　1,612g	表面⅔が擦り面。		（石材） 輝石安山岩
挿図 184 （S5） 図版81-8	２６１４	砥石	重さ　751g	両面が擦り面。裏面一部欠損。		（石材） 角閃石安山岩（外輪山）
挿図 184 （S6） 図版81-8	２６１５	砥石	重さ　583g	両面が擦り面。一部欠損。		（石材） 黒雲母角閃石安山岩

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 184 （S 7） 図版82-1	8 7 3 5	砥石	重さ　9,711g	表面が擦り面。		（石材） 無斑晶安山岩
挿図 183 （J 1） 図版81-2	2 7 3 4	小玉	長さ　0.7cm 径　0.7cm		両側穿孔。	材質：ガラス 色調：青色

S I —04

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 186 （Po 1） 図版82-2	2 5 8 5 接合 （2595）	甑 型土器	復元口径42.2cm 残存高 6.2cm	ほぼ直線的に外方にむかって開く。胴部は底部付近ですぼまり筒状の形態をなす。口縁端部は平坦面をなす胴上部に縦位の環状把手を1対、下部に横位の環状把手を１対つける。	口縁部内外面横ナデ。外面縦方向の細かいハケ目、把手部分及び周辺は横方向のハケ目が見られる。内面胴部上位左方向のヘラ削り、底部付近左方向のヘラ削り。	胎土：１～２mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 188 （Po 2） 図版82-4	2 5 8 9 接合 （2587）	壺	復元口径20.4cm	口縁部は外反し屈曲部の稜はやや鈍く下向きにつまみ出されている。口縁端部はやや角ばる。肩部はなだらか。	口縁部内外面横ナデ。肩部外面に刻み目あり。頸部内面に絞目。肩部内面に右方向のヘラ削りが見られる。	胎土：0.5mmの石英、長石を含む 焼成：良好 色調：内・外：淡褐色
挿図 188 （Po 3）	2 5 8 6	甕	復元口径　18cm	口縁部は外反し屈曲部の稜は鋭く、口縁端部はややカットされている。	口縁部内外面横ナデ。外面頸部横方向のハケ目、内面頸部右方向のヘラ削り。	胎土：１mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 188 （Po 4） 図版82-5	2 5 8 8	高坏	復元口径17.3cm 復元脚径13.2cm 器高　12cm	深い碗状の坏部と短い柱状部から「ハ」の字に開く裾部をもつ脚部。口縁端部、脚端部はややカット気味。	坏部外面上半横ナデ後縦方向のヘラ磨き、中間に横方向のヘラ磨きが見られる。下半縦方向のハケの後縦方向のヘラ磨き。坏部内面縦方向のヘラ磨き、脚部外面横ナデ、脚部内面右方向のヘラ削り脚端部横にナデる、	胎土：１mmの石英を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 188 （Po 5） 図版82-3	2 5 9 3	高坏 （坏部）	口径　12cm	やや平坦な底部から外反気味に立ち上る浅い坏部。口縁端部は丸味をもつ。	坏部外面縦方向のハケの後横ナデ、やや指圧痕が見られる。坏部内面縦方向のヘラ磨き、口縁付近に横方向のヘラ磨き。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色

S I —05

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 190 （Po 1） 図版82-6	3 2 0 4 接合 （2485・2741）	甕	復元口径13.7cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭く、口縁端部は丸い。	口縁部、頸部内外面横ナデ。肩部外面縦方向のハケ目その下に波状文、その下に横方向のハケ目が見られる肩部内面は右方向のヘラ削り。	胎土：１～３mmの石英 0.5mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 190 （Po 2）	2 7 4 0	甕	復元口径18.1cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部はややカットされている。	内外面横ナデ。	胎土：１mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 190 （Po 3）	2 7 4 6	甕	復元口径17.6cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭く、口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：0.5mmの石英を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色 外面スス付着
挿図 190 （Po 4） 図版82-7	2 7 4 1 接合 （2485・2756 3203・3204）	甕	口径　16.3cm	口縁部は外反し屈曲部の稜は鋭く、口縁端部はやや丸い。頸部短く、なだらかな肩部をもつ。	口縁部、頸部内外面横ナデ。肩部外面やや粗い縦方向のハケの後横方向の細かいハケが見られ、そのハケの上に刻目が施されている。内面胴部右方向のヘラ刻り。	胎土：0.5mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色 外面全体にスス付着
挿図 190 （Po 5）	2 7 5 0 接合 （2751）	甕	復元口径24.6cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍く、口縁端部はナデにより平坦。	口縁部内外面横ナデ。頸部内面右方向のヘラ削り。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図 190 （Po 6）	2 7 3 8	甕	復元口径21.6cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍く、口縁端部は外へ肥厚し丸く終わる。	口縁部内外面横ナデ。頸部内面右方向のヘラ削り。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 190 (Po7)	2740	高坏	復元口径17.4cm	外方に開くやや浅い坏部。口縁端部は丸い。	坏部内外面横ナデ。	胎土：0.5mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・淡灰褐色
挿図 190 (Po8)	2750	高坏 (坏部)	復元口径21.2cm	内湾気味に立ち上る坏部。口縁端部はさらに外反しやや丸い。	坏部内面縦方向のヘラ磨き、内面口縁部横方向のヘラ磨きがみられる。坏部外面縦方向のハケの後横方向のヘラ磨き、外面口縁部横ナデ。	胎土：0.5mmの石英を含む 焼成：普通 色調：内〕淡褐色 外
挿図 190 (Po9) 図版83-1	2743	高坏	口径　26.3cm 脚径　15.8cm 器高　18.8cm	外方に開く浅めの坏部と長い柱状部からゆるやかに「ハ」の字状に開く裾部をもつ脚部。口縁端部は丸く終る。脚端部に一条の凹線が見られる。	坏部外面上半横方向のヘラ磨き、下半不規則なハケの後縦方向のヘラ磨き、坏部内面縦方向のヘラ磨き、柱状部外面縦方向のヘラ磨き、下半にややハケ目が見られる。脚部から更に縦方向のヘラ磨き、柱状部内面右方向のヘラ削り、脚部横方向のハケ目。	胎土：0.5mmの長石、石英を含む 焼成：良好 色調：内〕淡明褐色 外
挿図 190 (Po10) 図版83-2	2747	高坏 (坏)	口径　25.3cm	平坦な底部から内湾気味に立ち上がる坏部。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸く終わる。	外面坏部口縁上半横方向ヘラ磨き。底部縦方向ハケ目。内面口縁部横方向ヘラ磨き、坏部縦方向ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕淡褐色 外
挿図 190 (Po11)	2140 接合 (3205)	高坏 (脚部)	復元脚径16.1cm	「ハ」の字状に開く脚部。	脚部外面縦方向のヘラ磨き、脚部内面横方向のハケ目後横ナデ。	胎土：小砂を含む 焼成：良好 色調：内〕淡褐色 外
挿図 190 (Po12)	2748	鼓形器台	――――	受部上位、脚部欠損。受部の稜は鋭くつまみ出されている。	受部外面横ナデ。受部内面縦方向のヘラ磨き、筒部右方向のヘラ削り。	胎土：0.5mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内〕暗灰褐色 外
挿図 190 (Po13) 図版83-3	2745	鼓形器台	復元口径21.5cm 脚径　18.4cm 器高　13.9cm	受部、脚部ともゆるやかに外反し、端部は丸く終わる。受部、脚部の稜は鈍い。	外面受部、脚部横ナデ。受部中位直線文を施す。内面受部横方向のヘラ磨き、脚部右方向のヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・淡灰茶褐色
挿図 190 (S1)	1843	円礫石錘	重さ　145g	楕円円礫の長軸の両端を打ち欠いている。		(石材) 安山岩質凝灰岩
挿図 190 (S2)	2432	円礫石錘	重さ　113g	楕円円礫の長軸の両端を打ち欠いている。		(石材) 角閃石安山岩

S I —06

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 192 (Po1)	3218	甕	復元口径15.2cm	口縁部は外反し屈曲部の稜は鋭く、口縁端部は丸く終わる。	口縁部、頸部内外面横にナデる。肩部外面に5条以上の直線文。その下に4条以上の波状文が施されている。肩部内面は右方向のヘラ削り。	胎土：1mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内〕淡明灰褐色 外
挿図 192 (Po2)	3214	甕	復元口径15.4cm	口縁部は外反し屈曲部の稜はやや鋭く、口縁端部は丸い。	口縁部、頸部内外面横にナデる。肩部外面に9条以上の波状文が見られる。肩部内面は右方向のヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色 外面スス付着
挿図 192 (Po3)	3211	低脚坏	――――	浅めの坏部と「ハ」の字に開く脚部。	外面縦方向のハケ目その後に指圧痕が見られる。坏部下位縦方向のハケの後横ナデ。外面脚部横ナデ。内面坏部縦方向のヘラ磨き、脚部右方向のヘラ削り。	胎土：0.5mmの石英、長石を含む 焼成：良好 色調：内〕灰褐色 外 内面に黒斑あり、外面脚部にやや赤色塗彩がみられる

S I —08

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 194 (Po1)	Pit—3 3418	甕	復元口径16.1cm	口縁部は外反し屈曲部の稜は鈍く、下向きにつまみ出されている。口縁端部はやや角ばり、外へ肥厚する。	口縁部内外面横ナデ。肩部内面右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mmの石英を含む 焼成：普通 色調：内〕淡褐色 外 外面スス付着

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 194 (Po2) 図版83-4	252 (6トレンチ)	高坏	口径　11.8cm 器高　8.8cm 脚径　12cm	深い碗状の坏部と短い柱状部から大きく広がる裾部をもつ脚部。口縁、脚端部は丸い。	坏部外面横方向のヘラ磨き、その下から脚部にかけて縦方向のハケの後横方向のヘラ磨き。脚部中位不規則なハケ目、その下横方向のハケ目。	胎土：0.5mmの長石、石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 194 (Po3)	3591	高坏 (脚部)	脚径　13cm	「ハ」の字状に開く裾部をもつ。脚端部カット後ナデ。	脚部外面縦方向のヘラ磨き後横方向のヘラ磨き。脚部内面上から下方向のヘラ削り、裾部横にナデる。	胎土：1mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内外〕暗灰茶褐色

S I —09

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 197 (Po1)	3474 接合 (3314)	甕	復元口径31.2cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部は外に肥厚しやや丸く終わる。	口縁部内外面共に横にナデる。外面肩部縦方向ハケ目。内面右方向ヘラ削り。	胎土：長石を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 196 (S1) 図版83-5	3473	磨石	重さ　245g	全面に磨耗痕。		(石材) 角閃石安山岩
挿図 198 (S2) 図版83-6	3470·3471	砥石	重さ　10,645g	表面中央部付近に砥面が見られその周辺に擦り面。		(石材) 無斑晶安山岩
挿図 198 (S3) 図版83-7	3467	平石	重さ　18,682g	表面が擦り面。		(石材) 中生代火山岩類
挿図 198 (S4)	3466	平石	重さ　17,694g	両面が擦り面。		(石材) 角閃石安山岩（古期）

S I —10

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 200 (Po1)	4214	甕	復元口径17.6cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。頸部は短かくなだらかな肩部、胴部に続く。	口縁部内外面共に横にナデる。外面はげしいナデによる凹凸がみられる。肩部櫛描き直線文。胴部斜めのハケ目、内面右方向ヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色 外面スス付着
挿図 200 (Po2)	4214	高坏 (坏部)	復元口径22.4cm	平坦な底部から外に開く坏部。坏部口縁端部丸い。	外面口縁部横にナデる。底部縦方向ハケ目。内面放射条ヘラ磨き。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 200 (Po3) 図版83-8	4214	低脚坏	復元口径21.8cm 脚径　6.5cm 器高　5.4cm	浅めの坏部に「ハ」の字状に開く脚部をもつ。口縁端部はカット。脚端部は丸く終わる。	外面口縁部縦方向ハケ目その下縦方向ヘラ磨き。内面不規則なハケの後縦方向ヘラ磨き。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕明褐色

S I —11

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 203 (Po1)	4427	壺	復元口径35.4cm	口縁部内傾して立ち上がる複合口縁。長めの頸部をもつ。器壁は厚い。口縁端部は面を意識しながら外に肥厚する。	口縁部外面剥離しているため不明。頸部縦方向ハケ目を施す。内面口縁部ナデ。頸部横方向ハケ目を施す。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡黄褐色 口縁端部にやや赤色塗彩が見られる。
挿図 203 (Po2) 図版84-1	4424	小型 丸底壺	口径　7.2cm 器高　9.4cm 最大径　9.8cm	口縁部ほぼ直立に立ち上がる「く」の字状口縁。口縁端部は丸く終わる。胴部球形。最大径は胴部中位にある。	外面横方向のヘラ磨き。内面口縁部横ナデ。胴部上半削り後ナデ。下半より底部ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外〕淡褐色
挿図 203 (Po3)	4423	甕	復元口径15.7cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。頸部はやや長め。	口縁部内外面共に横ナデ。外面肩部縦方向ハケ目。内面右方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外〕灰褐色

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 203 (Po5)	4426 接合 (4421)	甕	復元口径　28cm	口縁部外反気味に立ち上がる複合口縁。屈曲部の稜は横につまみ出されやや鈍い。口縁端部の面はカット気味で外に肥厚する。	口縁部内外面共に横ナデ。	胎土：石英を含む 焼成：良好 色調：内・外 明褐色 口縁部黒斑あり
挿図 202 (S1) 図版84-2	4429	平石	重さ　12,248g	表面が擦り面。		(石材) 角閃石安山岩

S I —12・13

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 205 (Po1) 図版84-3	4584	壺	復元口径　13cm	口縁部内湾気味にやや長く立ち上る複合口縁。屈曲部の稜は退化気味でわずかに横につまみ出す。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。頸部以下左方向のヘラ削り。	胎土：0.5～1mmの石英含む 焼成：不良 色調：内・外 淡褐色
挿図 205 (Po2)	4593	甕	復元口径15.6cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。口縁端部は外方につまみ出し丸く終る。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部に縦方向のハケ目。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～2mmの長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・褐色
挿図 205 (Po3)	4589	甕	復元口径16.3cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや鋭い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：0.5～2mmの長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色 一部スス付着
挿図 205 (Po4)	4595	甕	復元口径17.5cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部はやや角ばる。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部縦ハケの後横ハケ。内面頸部に指圧痕。以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～2mmの長石、石英含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色 一部スス付着
挿図 205 (Po5)	4597 接合 (4588·4602)	甕	復元口径16.8cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜はやや横につまみ出されて鋭い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：0.5mmの長石少量、砂粒含む 焼成：普通 色調：内・外 淡黄灰褐色 外面スス付着
挿図 205 (Po6) 図版84-4	4590	甕	復元口径　16cm	口縁部は外へ開く複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下右方向のヘラ削り。	胎土：0.5～2mmの長石、石英含む 焼成：不良 色調：内・外 淡褐色
挿図 205 (Po7)	4594	甕	復元底径 4.2cm	わずかに平底の底部から、外方へ大きく開き、胴部へつづく。	外面縦方向のハケ目。内面下から上へのヘラ削り。指圧痕あり。	胎土：0.5mmの石英砂粒含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色 一部スス付着
挿図 205 (Po8)	4587	高坏 (坏部)	復元口径19.2cm	斜めにひらく坏部。口縁端部は丸味をもつ。	坏部外面横方向のヘラ磨き。底部にハケ目が見られる。内面口縁部横のヘラ磨き後、縦のヘラ磨き。	胎土：砂粒含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色
挿図 205 (Po9) 図版84-5	4596	低脚坏	口径　12.6cm 脚径　5cm 器高　4.8cm	浅い坏部に短く「ハ」の字状に開く脚部。口縁端部は丸味をもつ。	口縁部近くの外面は横ナデ調整によってハケ目がナデ消されている。坏部不規則なハケ目。坏部内面は横ナデの後ヘラ磨き。脚部内外面ナデている。	胎土：0.2mmの石英多量に含む 焼成：不良 色調：内・外 明褐色
挿図 205 (Po10) 図版84-6	4598	鼓形器台	復元口径　24cm	受部、脚部ともゆるやかに外反している。筒部上下の稜はやや鋭い。受端部は丸味をもつ。脚端部欠損。	外面受部、脚部横ナデ。内面受部ヘラ削り後ていねいに横方向のヘラ磨きを施す。脚部ヘラ削り後ややあらくヘラ磨きを施す。	胎土：0.2～4mm石英含む 焼成：良好 色調：内・外 淡褐色
挿図 205 (Po11)	4598	鼓形器台 (受部)	復元口径　25cm	受部内湾気味に外方に開く。屈曲部の稜は鋭い。口縁端部に1条の凹みをもつ。	受部外面横ナデ。受部内面横方向のヘラ磨き。頸部左方向のヘラ削り。	胎土：砂粒含む 焼成：普通 色調：内・外 淡黄褐色
挿図 205 (Po12)	4591	鼓形器台 (受部)	復元口径21.8cm	受部内湾気味に外方に開き、口縁端部でさらに外方向に開く。口縁端部丸い。受部の稜はやや鋭い。	受部外面横ナデ。受部内面横方向のヘラ磨き。頸部ヘラ削り。	胎土：0.2～0.5mm石英含む 焼成：普通 色調：内・明褐色 外・淡褐色

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 205 (Po13)	4596	鼓形器台 (脚部)	復元脚径21.8cm	脚部の稜はやや鋭い。脚端部は丸い。	脚部外面は横ナデ。内面右方向のヘラ削り。脚端部横ナデ。	胎土：0.5～5mmの石英含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色 黒斑あり
挿図 205 (S1)	4582	砥石	重さ　461g	表面が擦り面。		(石材) 凝灰質砂岩

S I —14

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 206 (Po1)	83	蓋 (須恵器)	復元口径17.2cm	口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：緻密 焼成：良 色調：内・淡青灰色 外・青灰色
挿図 206 (Po2)	78	甕	――	口縁端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。	胎土：0.5mm程度の石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内・外 淡褐色 外面スス付着

2　掘立柱建物（ＳＢ）（挿図208～231、挿表34・35、図版69～74・84）

掘立柱建物はＡ区で18棟、Ｂ区で２棟、計20棟検出した。そのうち古墳時代のもの４棟、奈良時代のもの２棟、古墳～室町時代のもの３棟、時期不明のもの11棟を確認した。時期不明のもののうち、１棟は束柱をもつ総柱の建物である。

ＳＢ－01（挿図208、挿表34、図版69）

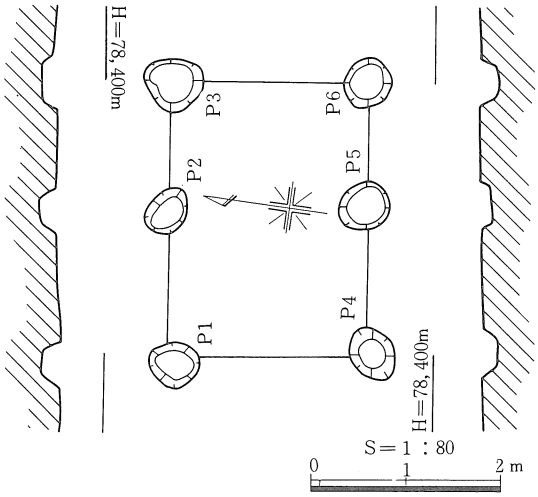
位　置　12Ｈグリッドの北西隅に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３－3.0m・Ｐ４～Ｐ６－2.88m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４－2.08m・Ｐ３～Ｐ６－2.08m）の建物で、主軸はＮ－83°－Ｅである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.56×0.48－0.2)(0.56×0.4－0.18)(0.64×0.56－0.18)(0.6×0.46－0.16)(0.56×0.48－0.12)(0.52×0.48－0.21)ｍを測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図208　ＳＢ01遺構図

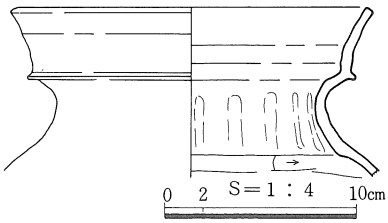
ＳＢ－02（挿図209・210、挿表34・35、図版69）

位　置　８Ｆグリッドのほぼ中央に位置する。

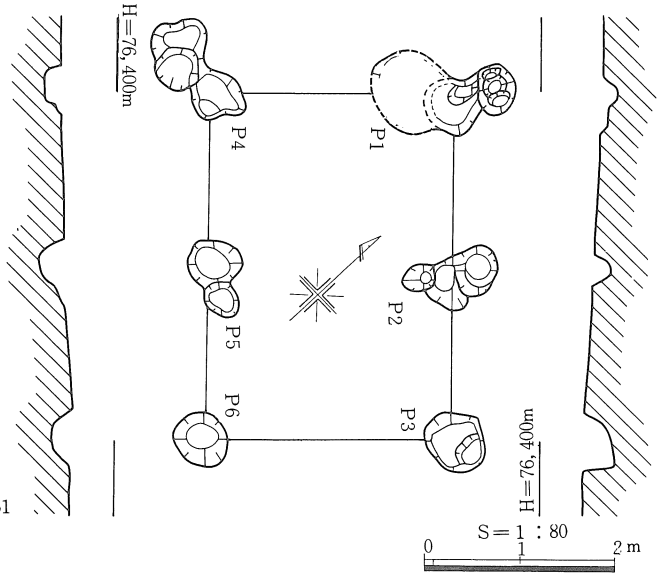
形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３－3.65m・Ｐ４～Ｐ６－3.65m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４・2.55m・Ｐ３～Ｐ６－2.55m）の建物である。主軸はＮ－46°－Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.55×0.6－0.2)(0.6×0.55－0.21)(0.6×0.6－0.35)(0.52×0.52－0.18)(0.6×0.58－0.28)(0.55×0.55－0.21)ｍを測る。

特筆事項　建物内にＳＫ－04が位置している。



挿図209　ＳＢ02遺物図



挿図210　ＳＢ02遺構図

遺　物　Ｐ１より、壺（Po１）が出土した。

時　期　遺物より、古墳時代の建物と考える。

ＳＢ—03（挿図211、挿表34、図版70）

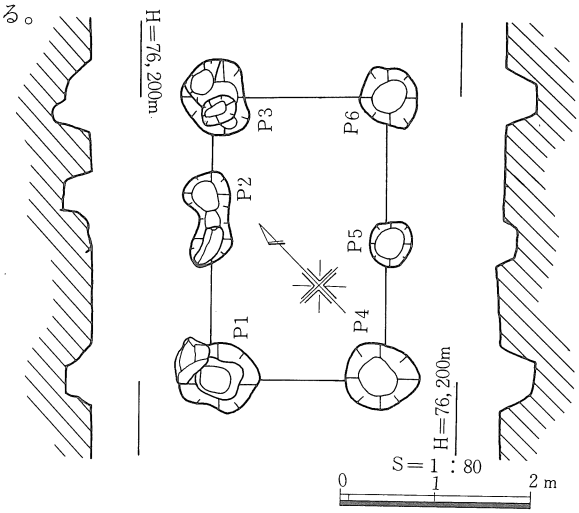
位　置　７Ｆグリッドの南西部に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—2.86ｍ・Ｐ４～Ｐ６—2.98ｍ）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—1.76ｍ・Ｐ３～Ｐ６—1.8ｍ）の建物で、主軸はＮ—45°—Ｅである。

柱　穴　規模はＰ１より、(0.85×0.72—0.28)(0.6×0.5—0.3)(0.8×0.72—0.4)(0.8×0.7—0.38)(0.48×0.44—0.2)(0.68×0.56—0.33) ｍを測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図211　ＳＢ03遺構図

ＳＢ—04（挿図212、挿表34、図版70）

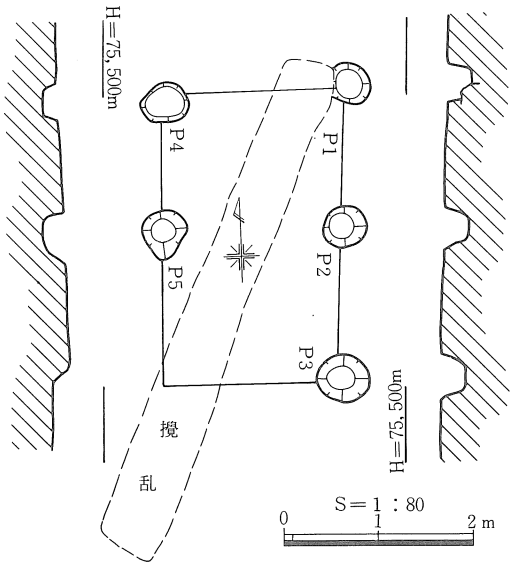
位　置　６Ｆグリッドの北東に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—3.15ｍ・Ｐ４～Ｐ６推定3.0ｍ）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—1.95ｍ・Ｐ３～Ｐ６推定1.85ｍ）の建物である。主軸はＮ—3°—Ｅである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.43×0.4—0.26)(0.43×0.42—0.26)(0.48×0.43—0.27)(0.49×0.38—0.17)(0.51×0.47—0.25)（—×—）ｍを測る。Ｐ６は攪乱により消失している。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図212　ＳＢ04遺構図

ＳＢ—05（挿図213・214、挿表34・35、図版70）

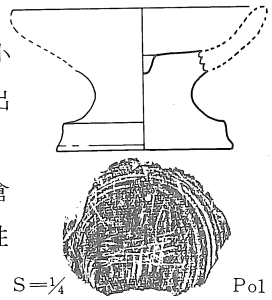
位　置　５Ｆグリッドの中央部やや東寄りに位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—3.1ｍ・Ｐ４～Ｐ６—2.9ｍ）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—1.85ｍ・Ｐ３～Ｐ６—2.2ｍ）の建物である。主軸はＮ—83°—Ｗである。

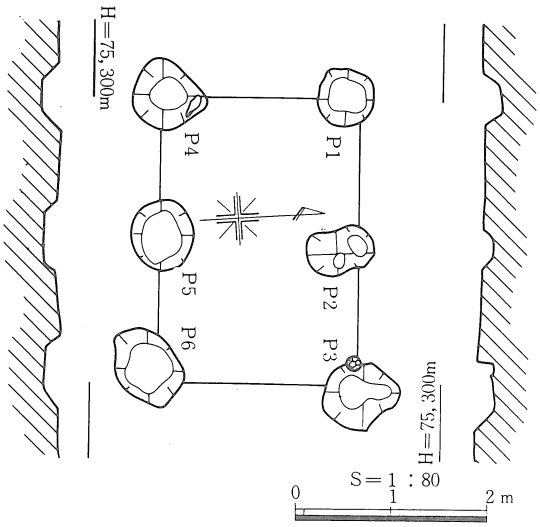
柱　穴　Ｐ１より、(0.6×0.58−0.2) (0.71×0.48−0.12) (0.8×0.7−0.2) (0.77×0.75−0.2) (0.72×0.66−0.13) (0.9×0.65−0.16) m を測る。

遺　物　Ｐ１より有脚小坏（Po1）を検出した。

時　期　遺物より、鎌倉時代迄下る可能性がある。



挿図213　ＳＢ05遺物図



挿図214　ＳＢ05遺構図

ＳＢ−06（挿図215、挿表34、図版70）

位　置　９Ｇグリッドの北西部に位置する。

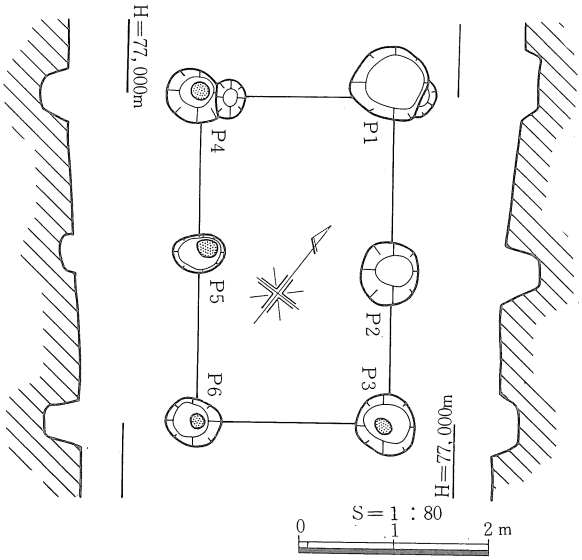
形　態　桁行２間（Ｐ１〜Ｐ３−3.6m・Ｐ４〜Ｐ６−3.48m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ４−2.12m・Ｐ３〜Ｐ６−2.16m）の建物で、主軸はＮ−37°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.84×0.8−0.16) (0.64×0.6−0.44) (0.64×0.6−0.28) (0.6×0.52−0.29) (0.52×0.36−0.16) (0.56×0.48−0.4) m を測る。
Ｐ３〜Ｐ６で柱痕が認められた。

特筆事項　位置関係から、ＳＩ−05に伴う建物と推測できる。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図215　ＳＢ06遺構図

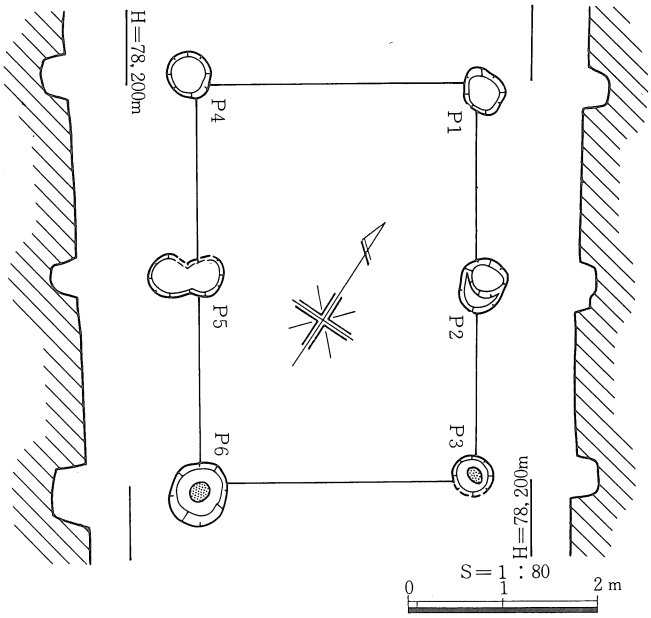
ＳＢ−07（挿図216、挿表34、図版71）

位　置　11Ｈグリッドの北東隅に位置する。

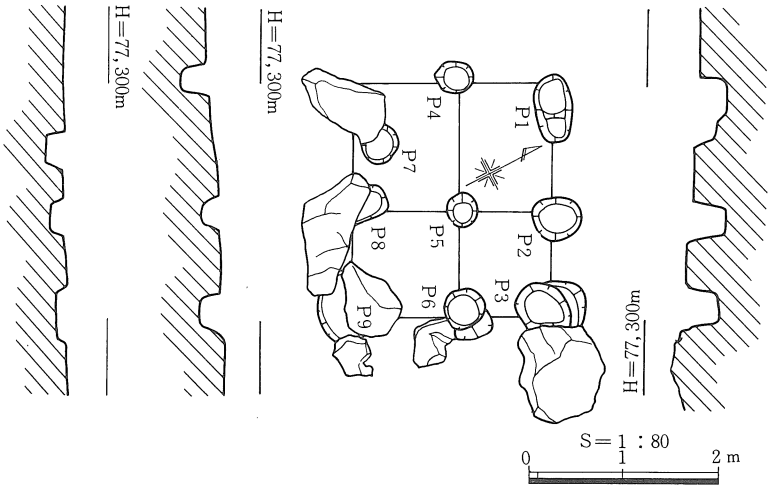
形　態　桁行２間（Ｐ１〜Ｐ３−4.08m・Ｐ４〜Ｐ６−4.4m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ４−3.12m・Ｐ３〜Ｐ６−2.96m）の建物で、主軸はＮ−34°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.52×0.44−0.27) (0.56×0.48−0.17) (0.4×0.4−0.29) (0.48×0.47−0.28) (0.42×0.4−0.29) (0.68×0.6−0.4) m を測る。Ｐ３・Ｐ６では柱痕が認められた。

特筆事項　位置関係から、ＳＩ−03に伴う建物と推測できる。



挿図216　ＳＢ07遺構図



挿図217　ＳＢ08遺構図

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。

ＳＢ—08（挿図217、挿表34、図版71）

位　　置　９Ｈグリッドの北西隅に位置する。

形　　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３－2.28m・Ｐ４～Ｐ６－2.48m・Ｐ７～Ｐ９－1.8m）・梁行２間（Ｐ１～Ｐ７－1.8m・Ｐ２～Ｐ８－2.0m・Ｐ３～Ｐ９－2.2m）の建物で、主軸はＮ－63°－Ｗである。

柱　　穴　Ｐ１より、(0.72×0.4－0.33)(0.52×0.48－0.42)(0.56×0.44－0.41)(0.39×0.33－0.34)(0.36×0.32－0.19)(0.44×0.42－0.24)(0.4×0.34－0.2)(0.4×0.25－0.14)

(0.76×0.32−0.13) m を測る。

特筆事項　位置関係から、ＳＩ−01に伴う建物と推測できる。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。

ＳＢ−09（挿図218、挿表34、図版71）

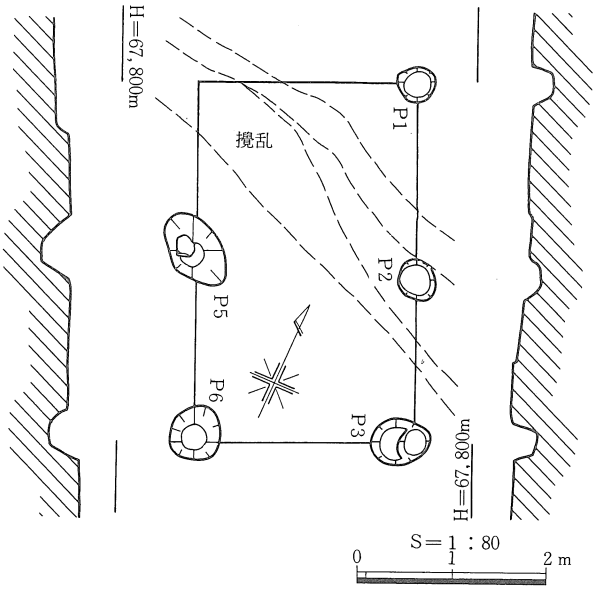
位　置　11Ｆグリッドの東に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１〜Ｐ３−3.8m・Ｐ４〜Ｐ６−推定3.8m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ４−推定2.3m・Ｐ３〜Ｐ６−2.3m）の建物で、主軸はＮ−22°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.36×0.35−0.22) (0.47×0.4−0.17) (0.6×0.5−0.25) (−×−) (0.9×0.55−0.3) (0.65×0.55−0.34) m を測る。Ｐ４は攪乱により消失している。

遺　物　Ｐ２より土師器片が出土しているが、図化できなかった。

時　期　遺物より、古墳時代の建物と考えられる。



挿図218　ＳＢ09遺構図

ＳＢ−10（挿図219、挿表34、図版71）

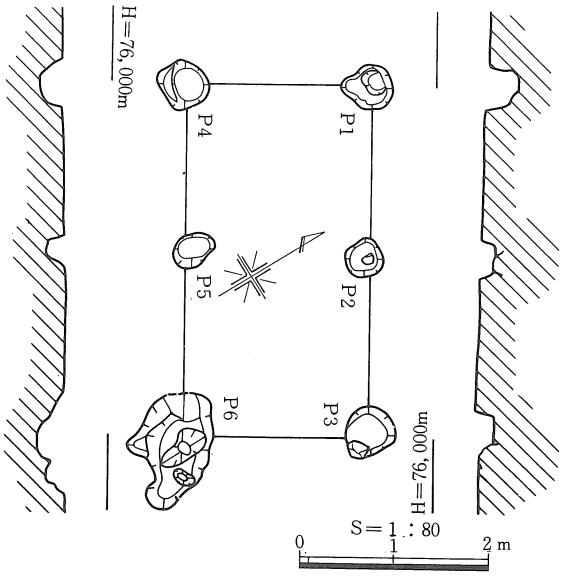
位　置　７Ｅグリッドの南東部に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１〜Ｐ３−3.74m・Ｐ４〜Ｐ６−3.86m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ４−2.0m・Ｐ３〜Ｐ６−1.96m）の建物で、主軸はＮ−58°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.53×0.46−0.34) (0.41×0.4−0.15) (0.56×0.52−0.22) (0.54×0.54−0.24) (0.46×0.36−0.22) (1.2×0.88−0.3) m を測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図219　ＳＢ10遺構図

ＳＢ—11（挿図220、挿表34、図版72）

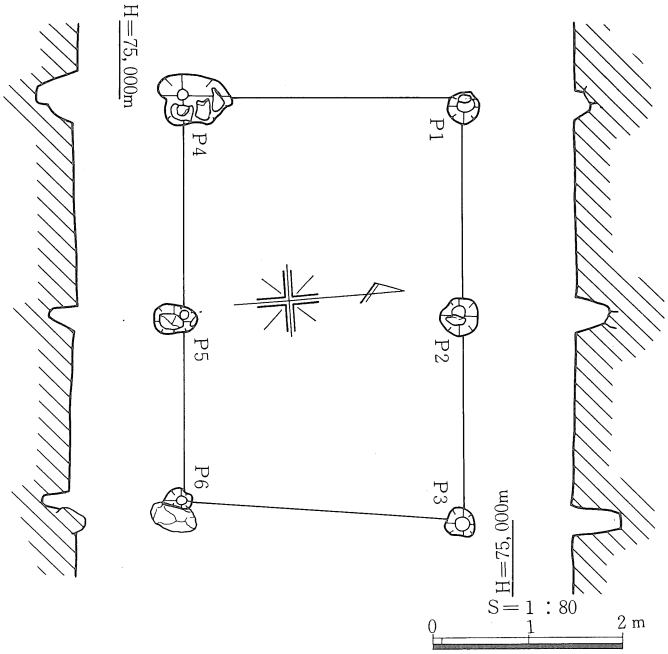
位　置　５Ｄグリッドの西に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—4.4m・Ｐ４～Ｐ６—4.3ｍ）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—2.95m・Ｐ３～Ｐ６—2.95m）の建物で、主軸はＮ—85°—Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.32×0.32—0.18)(0.41×0.38—0.35)(0.32×0.3—0.55)(0.68×0.63—0.43)(0.45×0.32—0.3)(0.3×0.2—0.33) m を測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図220　ＳＢ11遺構図

ＳＢ—12（挿図221、挿表34、図版72）

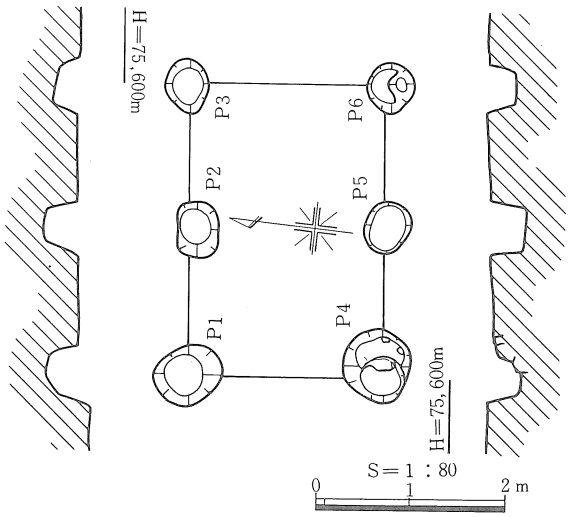
位　置　５Ｄグリッドに位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—3.1ｍ・Ｐ４～Ｐ６—3.1m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—2.1m・Ｐ３～Ｐ６—2.1m）の建物で、主軸はＮ—85°—Ｅである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.72×0.63—0.48)(0.57×0.43—0.37)(0.47×0.45—0.29)(0.75×0.7—0.35)(0.55×0.45—0.4)(0.5×0.5—0.3) m を測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図221　ＳＢ12遺構図

ＳＢ—13（挿図222、挿表34、図版72）

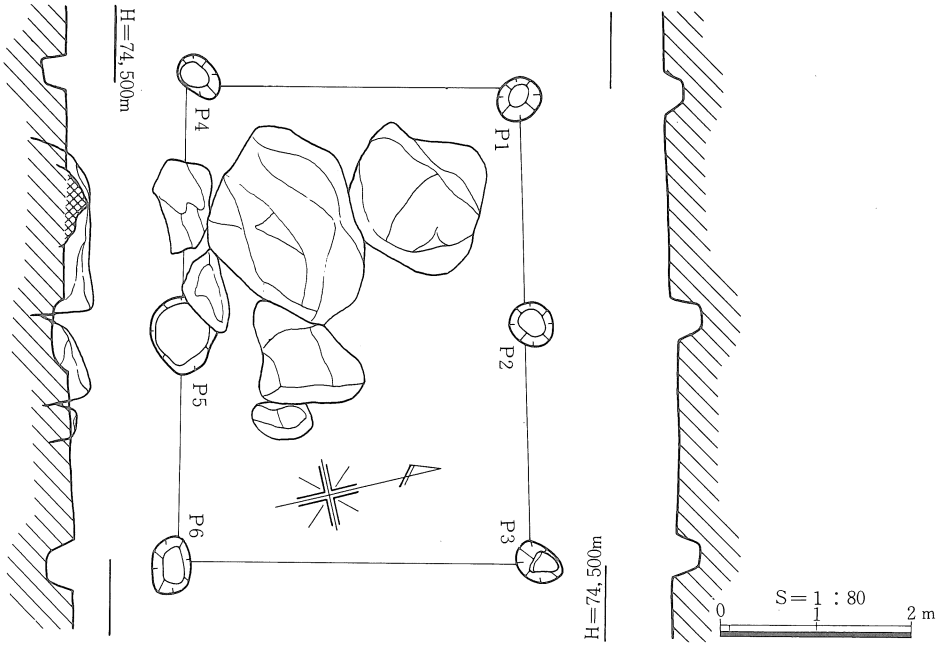
位　置　４Ｄグリッドのほぼ中央に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—4.9m・Ｐ４～Ｐ６—5.2m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—3.4m・Ｐ４～Ｐ６—3.9m）の建物で、主軸はＮ—77°—Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.5×0.42—0.2)(0.47×0.45—0.31)(0.42×0.35—0.3)(0.5×0.35—0.28)(0.82×0.7—0.2)(0.55×0.4—0.3) m を測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



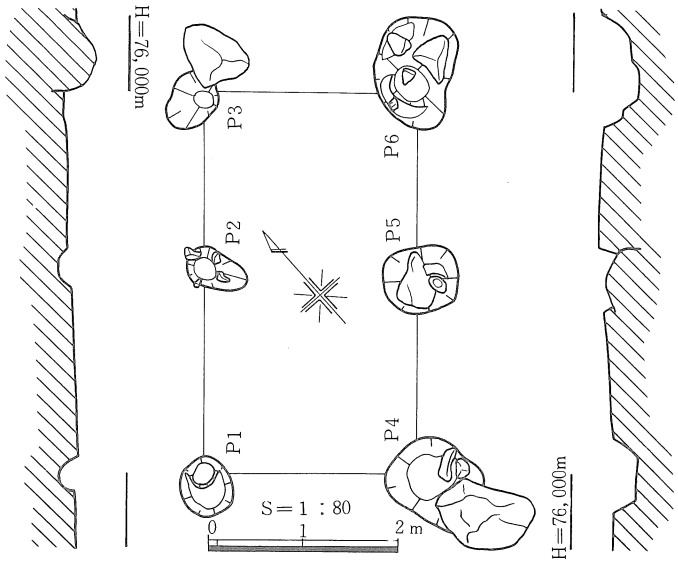
挿図222　ＳＢ13遺構図

ＳＢ—14（挿図223、挿表34、図版72）

位　置　６Ｂグリッドの南東に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—3.95m・Ｐ４～Ｐ６—4.1m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—2.3m・Ｐ３～Ｐ６—2.2m）の建物で、主軸はＮ—42°—Ｅである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.63×0.55—0.2)(0.65×0.4—0.13)(0.63×0.55—0.05)(1.0×0.9—0.25)(0.77×0.7



挿図223　ＳＢ14遺構図

−0.3)(1.2×0.85−0.38) m を測る。

遺　物　Ｐ５、Ｐ６より土師器片が出土しているが、図化できなかった。

時　期　遺物より古墳時代の建物と考えられる。

ＳＢ−15（挿図224、挿表34、図版73）

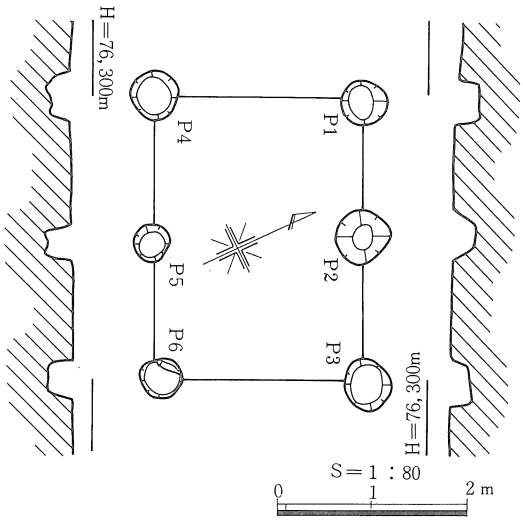
位　置　７Ｄグリッドの北西に位置する。

形　態　桁行２間（Ｐ１〜Ｐ３−3.04m・Ｐ４〜Ｐ６−3.02m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ４−2.18m・Ｐ３〜Ｐ６−2.14m）の建物で、主軸はＮ−66°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.53×0.46−0.34)(0.41×0.4−0.15)(0.56×0.52−0.22)(0.54×0.54−0.24)(0.46×0.36−0.22)(1.3×0.88−0.3) m を測る。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。



挿図224　ＳＢ15遺構図

ＳＢ−16（挿図225・226、挿表34・35、図版73）

位　置　９Ｂグリッドの北西に位置する。

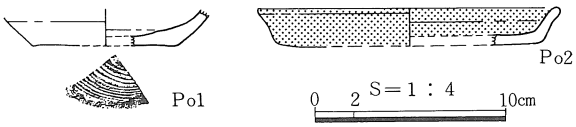
形　態　桁行３間（Ｐ１〜Ｐ４−6.6m・Ｐ７〜Ｐ10−6.52m）・梁行２間（Ｐ１〜Ｐ７−4.2m・Ｐ４〜Ｐ10−4.24m）の建物で、主軸はＮ−65°−Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.56×0.48−0.28)(0.64×0.52−0.28)(0.56×0.52−0.32)(−×−−0.28)(0.56×0.52−0.2)(0.48×−−0.44)(0.44×0.28−0.12)(0.44×0.44−0.2)(0.52×0.52−0.24)(0.52×0.6−0.4) m を測る。

Ｐ６で柱痕が認められた。

遺　物　Ｐ５より須恵器坏（Ｐｏ１）、Ｐ10より坏（Ｐｏ２）を検出した。

時　期　遺物より、奈良時代の建物と考えられる。



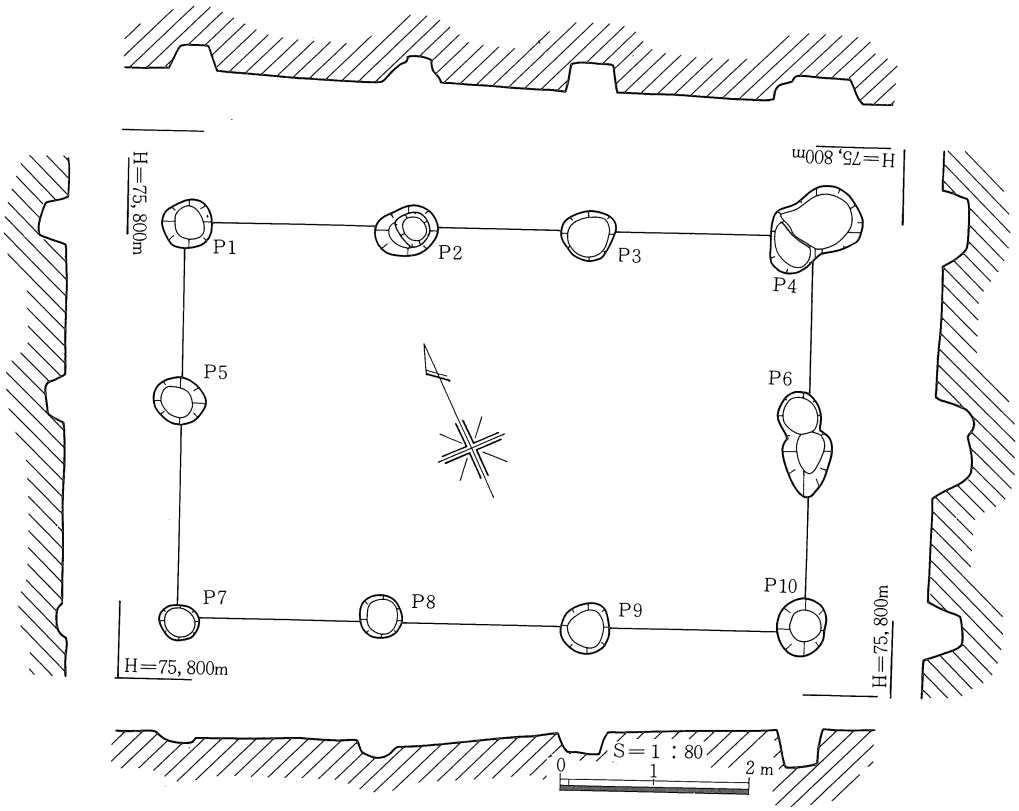
挿図225　ＳＢ16遺物図

ＳＢ−17（挿図227、挿表34、図版73）

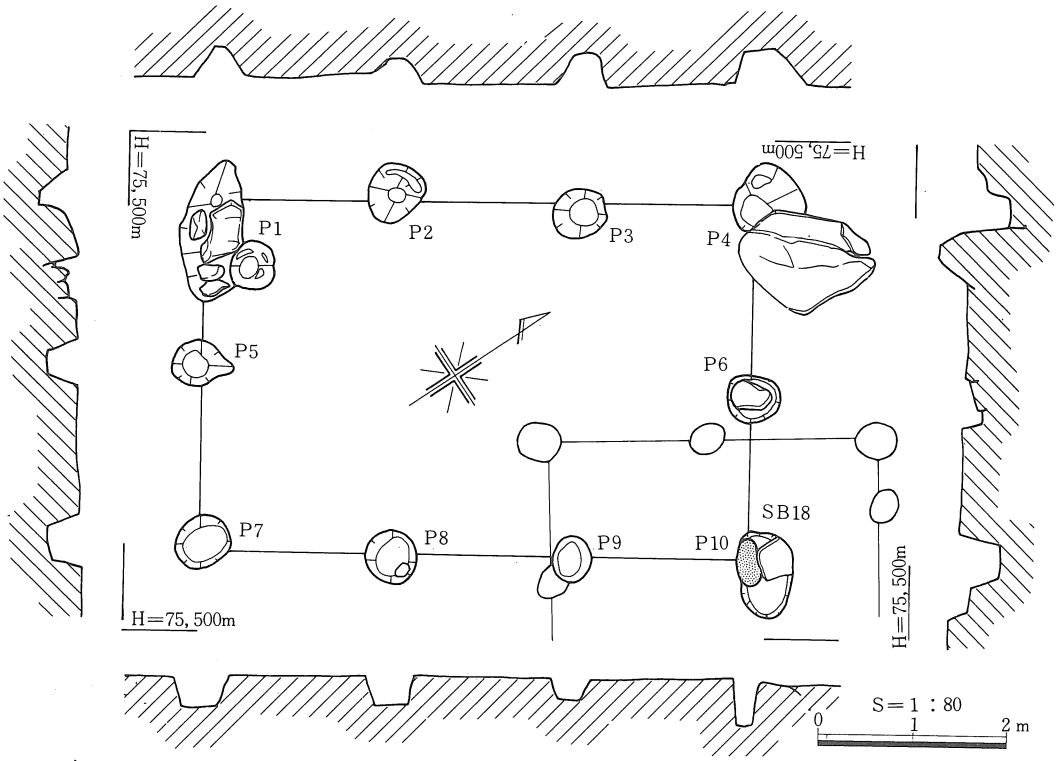
位　置　７Ｂグリッドの南東隅に位置する。

形　態　桁行３間（Ｐ１〜Ｐ４−5.68m・Ｐ７〜Ｐ10−5.76m）・梁行２間（Ｐ１〜Ｐ７−3.58m・Ｐ４〜Ｐ10−3.76m）の建物で、主軸はＮ−37°−Ｅである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.48×0.52−0.36)(0.64×0.6−0.28)(0.52×0.56−0.4)(0.4×0.76−0.4)(0.52×0.64−0.36)(0.52×0.56−0.24)(0.56×0.6−0.36)(0.56×0.52−0.36)(0.48×0.4−0.24)(0.92×0.6−0.52) m を測る。



挿図226　ＳＢ16遺構図



挿図227　ＳＢ17遺構図

P10で柱痕が認められた。

特筆事項　ＳＢ—17（Ｐ９）とＳＢ—18（Ｐ８）が切りあう。切り合い関係はＳＢ—18よりＳＢ—17の方が新しい。

遺　物　Ｐ３、Ｐ９で坏口縁片（赤色塗彩）を検出したが、小片のため図化できなかった。

時　期　ＳＢ—18との切り合い関係と、遺物より奈良時代の建物と考えられる。

ＳＢ—18（挿図228、挿表34）

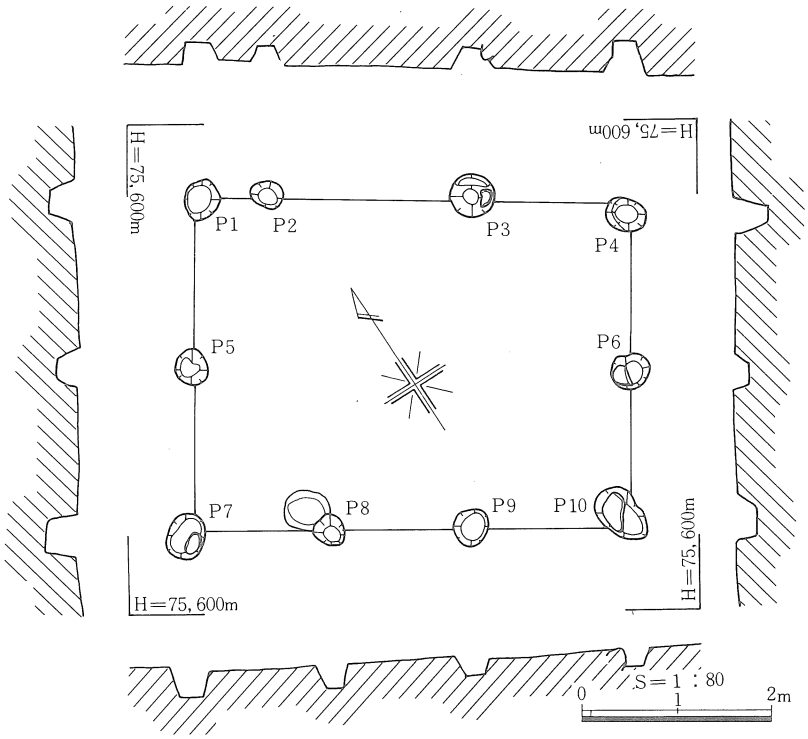
位　置　７Ｃグリッドの南西隅に位置する。

形　態　桁行３間（Ｐ１～Ｐ４—4.48m・Ｐ７～Ｐ10—4.68m）・梁行２間（Ｐ１～Ｐ７—3.52m・Ｐ４～Ｐ10—3.24m）の建物で、主軸はＮ—57°—Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.4×0.36—0.28)(0.28×0.36—0.2)(0.48×0.48—0.25)(0.4×0.36—0.28)(0.36×0.4—0.2)(0.44×0.4—0.36)(0.36×0.32—0.28)(0.36×0.36—0.24)(0.52×0.52—0.2) m を測る。

遺　物　Ｐ４で土師器片を検出したが、小片のため図化できなかった。

時　期　遺物より、古墳時代の建物と考えられる。



挿図228　ＳＢ18遺構図

ＳＢ—19（挿図229・230、挿表34・35、図版73・84）

位　置　26Ｋグリッドの南東隅に位置し、一部27Ｋグリッドにかかる。

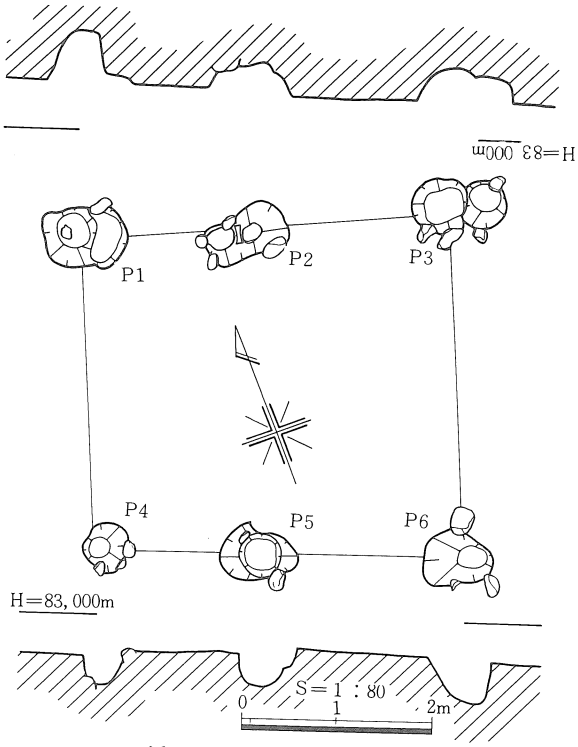
形　態　桁行２間（Ｐ１～Ｐ３—3.84m・Ｐ４～Ｐ６—3.88m）・梁行１間（Ｐ１～Ｐ４—3.32m・Ｐ３～Ｐ６—3.72m）の建物で、主軸はＮ—68°—Ｗである。

柱　穴　Ｐ１より、(0.87×0.6—0.55)(0.9×0.55—0.35)(0.57×0.6—0.32)(0.55×0.5—

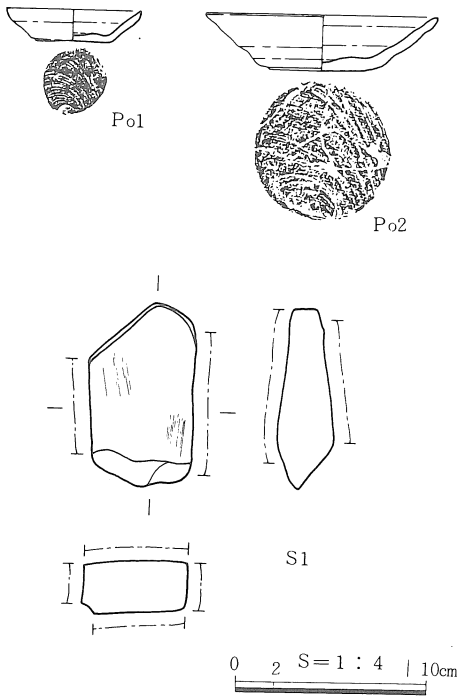
0.35)(0.82×0.6−0.4)(0.73×0.6−0.5) m を測る。

遺　　物　Ｐ１より坏（Po２）、Ｐ５より灯明皿（Po１）と砥石（Ｓ１）が出土した。

時　　期　遺物より、室町時代迄下る可能性がある。



挿図229　ＳＢ19遺構図



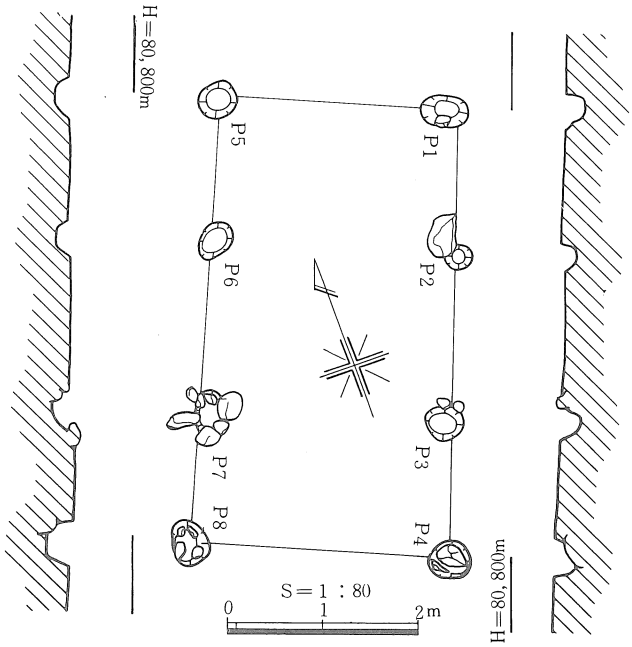
挿図230　ＳＢ19遺物図

ＳＢ−20（挿図231、挿表34、図版74）

位　　置　25Ｈグリッドの北東隅に位置し、一部24Ｈグリッドにかかる。

形　　態　桁行３間（Ｐ１〜Ｐ４−4.75m・Ｐ５〜Ｐ８−4.7m）・梁行１間（Ｐ１〜Ｐ５−2.4m・Ｐ４〜Ｐ８−2.75m）の建物で、主軸はＮ−24°−Ｅである。

柱　　穴　Ｐ１より、(0.49×0.34−0.2)(0.3×0.27−0.15)(0.4×0.36−0.22)(0.43×0.4−0.25)(0.4×0.4−0.17)(0.45×0.3−0.15)(0.5×0.3−0.23)(0.47×0.4−0.3)m を測る。



挿図231　ＳＢ20遺構図

遺　　物　　Ｐ３より須恵器片が出土しているが、図化できなかった。

時　　期　　遺物より、古墳時代以降と考えられる。

挿表34　掘立柱建物一覧表

遺構名	桁×梁(間)	桁　行(m)			梁　行(m)		長方形度	床面積(㎡)	主軸方向	時　　期
ＳＢ—01	２×１	3.0	2.88		2.08	2.08	1.44	6.17	Ｎ—83°—Ｅ	不　明
ＳＢ—02	２×１	3.65	3.65		2.55	2.55	1.43	9.30	Ｎ—46°—Ｗ	古墳時代
ＳＢ—03	２×１	2.86	2.98		1.76	1.8	1.66	5.19	Ｎ—45°—Ｅ	不　明
ＳＢ—04	２×１	3.15	3.0(推)		1.95	1.85(推)	1.62	5.84	Ｎ—３°—Ｅ	〃
ＳＢ—05	２×１	3.1	2.9		1.85	2.2	1.41	6.09	Ｎ—83°—Ｗ	古墳～鎌倉時代
ＳＢ—06	２×１	3.6	3.48		2.12	2.16	1.67	7.58	Ｎ—37°—Ｗ	不　明
ＳＢ—07	２×１	4.08	4.4		3.12	2.96	1.41	12.90	Ｎ—34°—Ｗ	〃
ＳＢ—08	２×２	2.28	2.48	1.8	1.8	2.0	2.2	1.13	4.41	Ｎ—63°—Ｗ	〃
ＳＢ—09	２×１	3.8	3.8(推)		2.3(推)	2.3	1.65	8.74	Ｎ—22°—Ｗ	古墳時代
ＳＢ—10	２×１	3.74	3.86		2.0	1.96	1.93	7.52	Ｎ—58°—Ｗ	不　明
ＳＢ—11	２×１	4.4	4.3		2.95	2.95	1.49	12.83	Ｎ—85°—Ｗ	〃
ＳＢ—12	２×１	3.1	3.1		2.1	2.1	1.48	6.51	Ｎ—85°—Ｅ	〃
ＳＢ—13	２×１	4.9	5.2		3.4	3.9	1.33	18.47	Ｎ—77°—Ｗ	〃
ＳＢ—14	２×１	3.95	4.1		2.3	2.2	1.78	9.06	Ｎ—42°—Ｅ	古墳時代
ＳＢ—15	２×１	3.04	3.02		2.18	2.14	1.39	6.54	Ｎ—66°—Ｗ	不　明
ＳＢ—16	３×２	6.6	6.52		4.2	4.24	1.54	27.68	Ｎ—65°—Ｗ	奈良時代
ＳＢ—17	３×２	5.68	5.76		3.58	3.76	1.53	20.99	Ｎ—37°—Ｅ	〃
ＳＢ—18	３×２	4.48	4.68		3.52	3.24	1.33	15.49	Ｎ—57°—Ｗ	古墳時代
ＳＢ—19	２×１	3.84	3.88		3.32	3.72	1.04	13.59	Ｎ—68°—Ｗ	古墳～室町時代
ＳＢ—20	３×１	4.75	4.7		2.4	2.75	1.73	12.17	Ｎ—24°—Ｅ	古墳時代以降

挿表35　掘立柱建物遺物観察表

ＳＢ—02

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 209 (Po1)	Pit—1 ３９２９	壺	復元口径18.2cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍い。頸部は長く肩部に続く。口縁端部は角ばる。	口縁部内外面共に横にナデる。内面頸部しぼり後ナデ。その下右方向ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：不良 色調：内外〕乳白色

ＳＢ—05

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 213 (Po1)	Pit—1 ３６１３	有脚小坏	脚径　6.3cm	短い脚で、坏部中央に凹を有す。	脚部外面横ナデ。底部に回転糸切り。	胎土：小砂粒を含む（スイヒ） 焼成：良好 色調：内外〕淡明褐色

ＳＢ—16

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 225 （Po1）	Pit—5 （旧Pit-10） ４４３７	坏 （底部） （須恵器）	復元底径 7.6cm	口縁部欠損。底部平ら。	内外面共に横ナデ。外面底部回転糸り。	胎土：長石を含む 焼成：良好 色調：内〕外〕青灰色
挿図 225 （Po2）	Pit—10 （旧Pit-6） ４４４１	坏	復元口径15.8cm 復元器高　2cm	口縁部外反する。口縁端部は丸く終わる。	内外面共に横ナデ。外面底部ヘラ削り後不整方向のナデ。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕赤褐色 赤色塗彩

ＳＢ—19

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 230 （Po１） 図版84-7	Pit—５ １８	灯明皿	復元口径　7cm 器高　1.7cm 底径　3.2cm	口縁部は外反し、口縁端部はやや丸い。	内外面共に横ナデ。外面底部回転糸切り。	胎土：３mm石英を含む 金雲母、砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕明褐色 外面一部スス付着
挿図 230 （Po２） 図版84-8	Pit—１ １５	坏	口径　12cm 器高　3cm 底径　5.6cm	口縁部はゆるやかに外反し、口縁端部は丸い。	内外面共に横ナデ。外面底部回転糸切り。	胎土：１mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡黄褐色
挿図 230 （Ｓ１） 図版84-9	Pit—５ ２０	砥石	———	四面擦り面。		

3　土坑・土壙（ＳＫ）（挿図232～252、挿表36、図版74～78・84・85）

土坑はＡ区で７基、Ｂ区で８基の計15基を検出した。そのうち古墳時代のもの２基、奈良時代のもの３基を確認し、うち１基より墨書土器を検出した。またＡ区で、埋葬施設と考えられる土壙１基を検出した。

ＳＫ―02（挿図232、図版74）

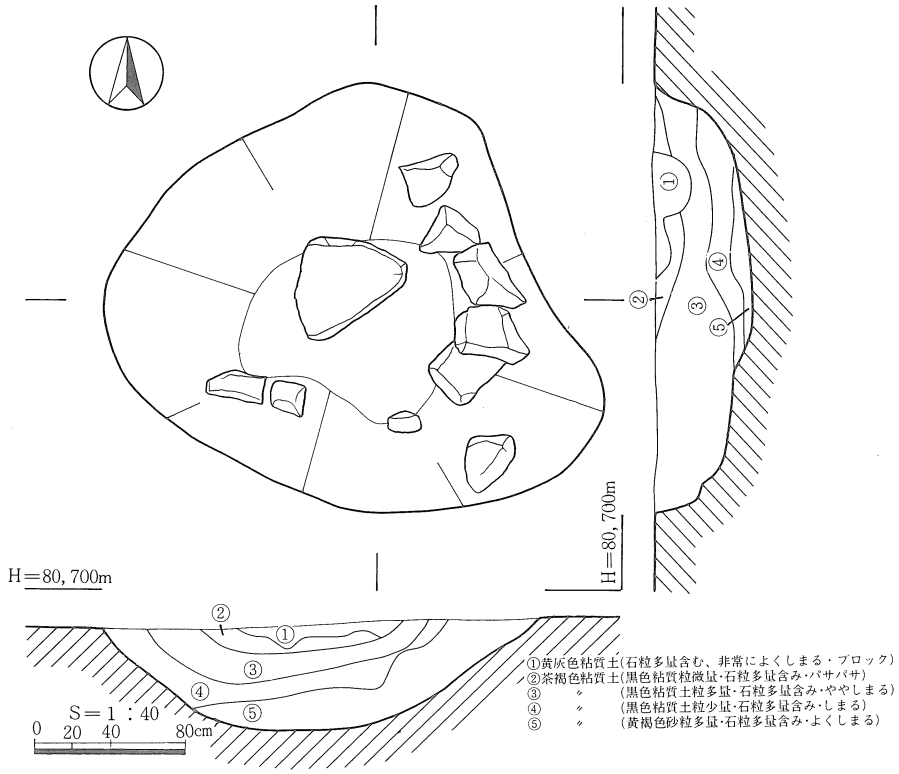
位　　置　15Ｈグリッドの北に位置する。

形　　態　平面形は楕円形（2.54×2.0―0.52）ｍである。

特筆事項　埋土がＳＫ―03と類似するが、他の土坑とは様相を異にし風倒木痕の可能性が強い

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　埋土より、古墳時代以降の土坑と考える。



挿図232　ＳＫ02遺構図

ＳＫ―03（挿図233、図版74）

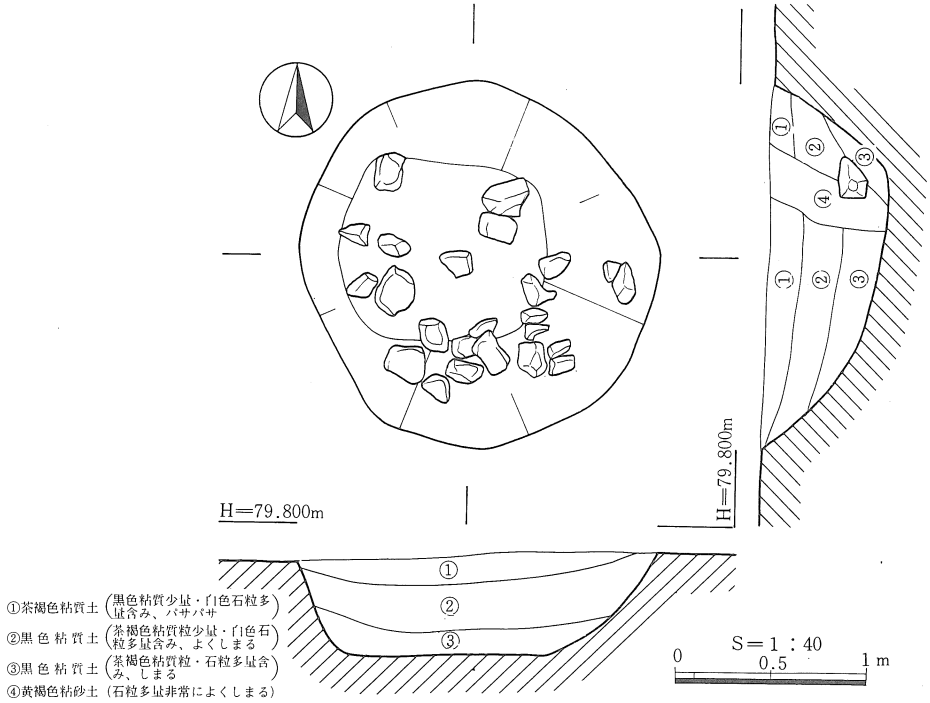
位　　置　16Ｈ・16Ｉグリッドにわたり位置する。

形　　態　平面形はほぼ円形（1.9×1.88―0.62）ｍである。

特筆事項　埋土の様相から、風倒木痕の可能性が強い。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　埋土より、古墳時代以降の土坑と考える。



挿図233　ＳＫ03遺構図

ＳＫ—04（挿図234、図版74）

位　置　８Ｆグリッドの北に位置する。

形　態　平面形は楕円形（1.9×0.76—0.14）ｍである。

特筆事項　主軸をほぼ同一にして、ＳＢ—02内につくられているように見受けられるが、関係は不明である。

遺　物　検出しなかった。

時　期　不明である。

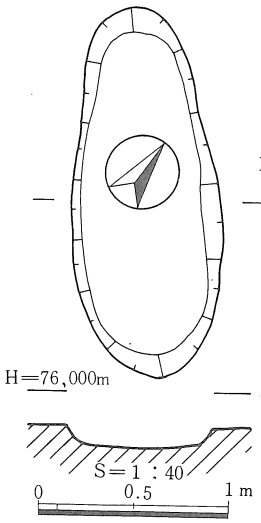
ＳＫ—05（挿図235・236、挿表36、図版75）

位　置　６Ｆグリッドの西に位置する。

形　態　平面形は楕円形（1.36×1.2）ｍを呈し、中央付近に浅い落ち込み（0.42×0.36—0.36）ｍを測る。

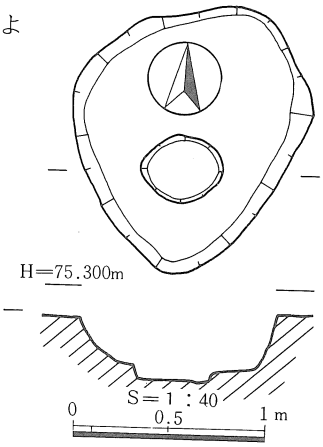
遺　物　埋土中より、甕（Po1）を検出した。

時　期　遺物より、古墳時代の土坑と考える。

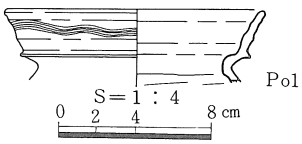


挿図234

ＳＫ04遺構図



挿図235　ＳＫ05遺構図



挿図236　ＳＫ05遺物図

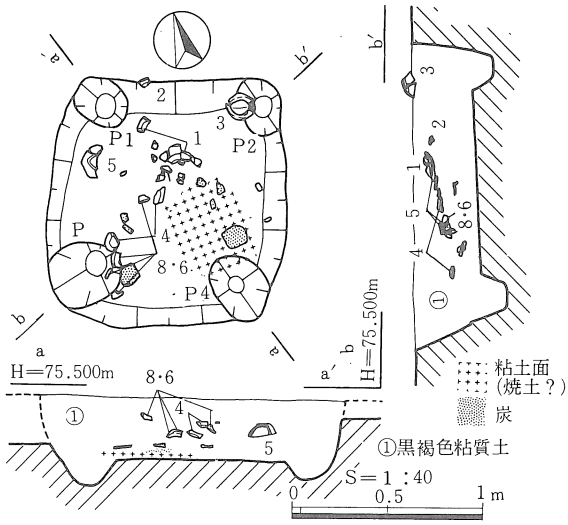
ＳＫ—06（挿図237・238、挿表36、図版75・84・85）

位　　置　６Ｇグリッドの中央に位置する。

形　　態　平面形は隅丸方形（1.3×1.22—0.35）ｍを呈し、四隅に柱穴をもつ。

柱　　穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱で、Ｐ１より（0.29×0.23—0.09）（0.38×0.27—0.15）（0.39×0.33—0.15）（0.13×0.32—0.12）ｍを測る。

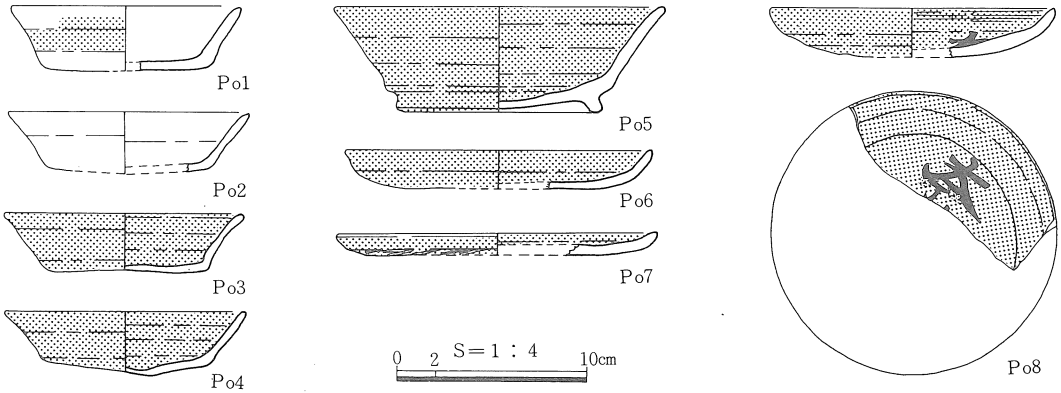
特筆事項　床面上に粘土面（焼土面か）の広がりと炭の広がりを確認した。埋土は黒色土一層しか確認できなかったが、断面の遺物の出土状況より、少なくとも二層には分層できるものと考えられる。



挿図237　ＳＫ06遺構図

遺　　物　坏（Po１～４）、高台付坏（Po５）、皿（Po６～８）を検出した。Po２以外はいずれも赤色塗彩が施され、Po８には『奈』の字の墨書がみられる。

時　　期　遺物より、奈良時代の土坑と考えられる。



挿図238　ＳＫ06遺物図

ＳＫ—07（挿図239、図版76）

位　　置　12Ｈグリッドの北東隅に位置する。

形　　態　平面形は隅丸長方形（1.92×0.7—0.34）ｍを呈し、長軸方向はＮ—65°—Ｅである。

特筆事項　土壙の形態、角礫・円礫の並び方から土壙墓と考えられる。また、南西側より北東側の方が、幅が広いことや礫の並びから、被葬者の頭部は、北東側に位置したと推察できる。土壙床面に接するのは北東側隅の礫のみであり、それ以外の礫は被葬者の上部を覆うものであろう。

遺　物　角礫・円礫を計16個検出した。内５個は全面磨耗痕がある。

時　期　遺物の出土はないが、遺構を検出した層より、古墳時代の土壙墓と考えられる。

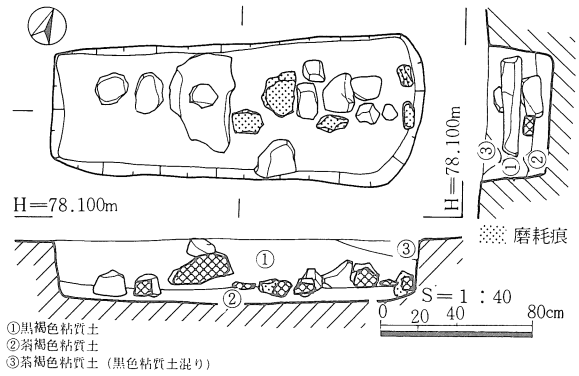
ＳＫ—09（挿図240・241、挿表36、図版76・85）

位　置　９Ｃグリッドの南東隅に位置する。

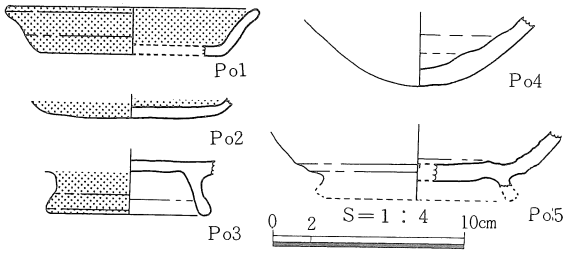
形　態　平面形は楕円形（0.97×0.67—0.3）ｍである。

遺　物　埋土中より坏（Po１・２）、高台付碗（Po３）、須恵器甕底部（Po４）、須恵器台付碗（Po５）を検出した。

時　期　遺物より、奈良時代の土坑と考えられる。



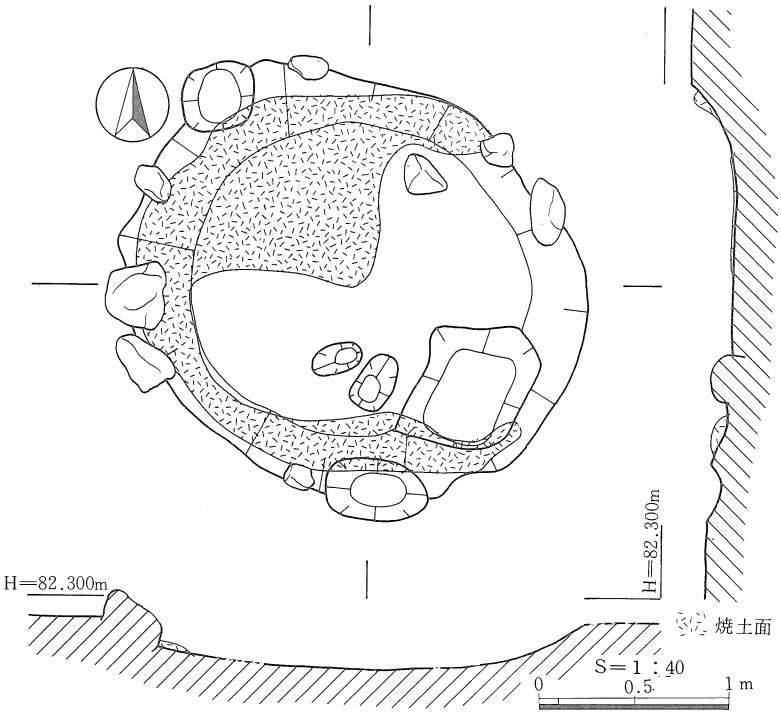
挿図239　ＳＫ07遺構図



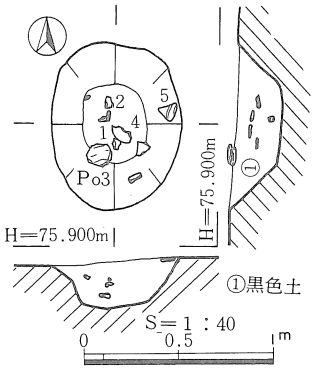
挿図240　ＳＫ09遺物図

ＳＫ—12（挿図242・243、挿表36、図版77）

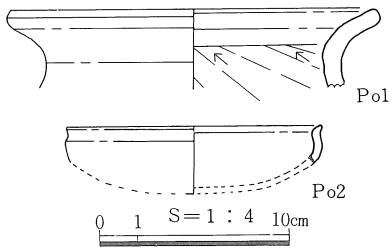
位　置　26Ｊグリッド中央のやや南寄りに位置する。



挿図243　ＳＫ12遺構図



挿図241　ＳＫ09遺構図



挿図242　ＳＫ12遺物図

形　　態　平面形は楕円形（2.45×2.16−0.26）m である。

特筆事項　床面、壁面の一部で焼土を検出した。床面で大小３基のピットを検出したが、石の抜き取り痕と考えられる。

遺　　物　甕（Po１）、須恵器坏（Po２）を検出した。

時　　期　遺物より、奈良時代の土坑と考えられる。

ＳＫ−13（挿図244、図版77）

位　　置　26Ｊグリッドの南西に位置する。

形　　態　平面形は楕円形（2.04×1.75−0.22）m である。

遺　　物　床面北側で坏を検出したが、小片のため図化できなかった。

時　　期　遺物より、古墳時代以降の土坑と考えられる。

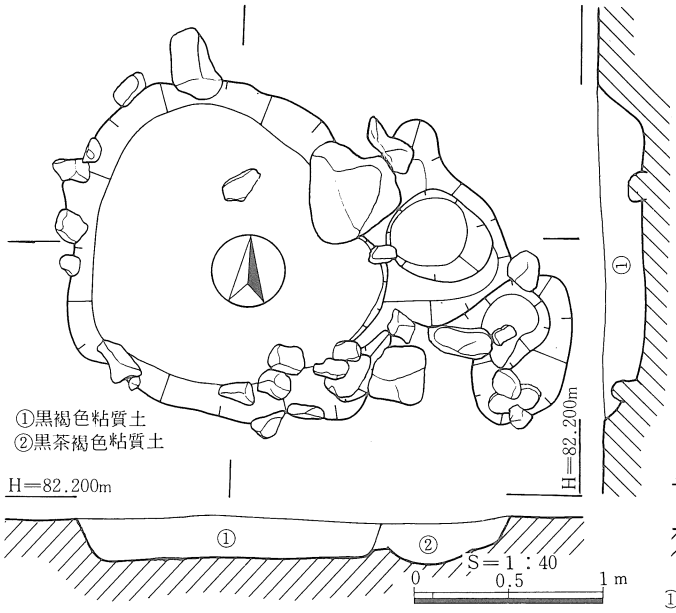
ＳＫ−14（挿図245、図版77）

位　　置　27Ｋグリッドの南西に位置する。

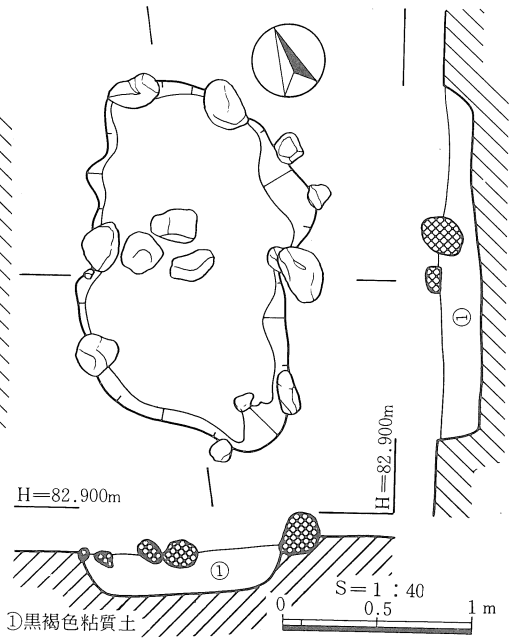
形　　態　平面形は楕円形（2.0×1.34−0.32）m である。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。



挿図244　ＳＫ13遺構図



挿図245　ＳＫ14遺構図

ＳＫ−15（挿図246、図版77）

位　　置　26Ｋグリッドの北東隅に位置する。北西側はピットによって切られている。

形　　態　平面形はほぼ円形（1.15×1.0−0.24）m である。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。

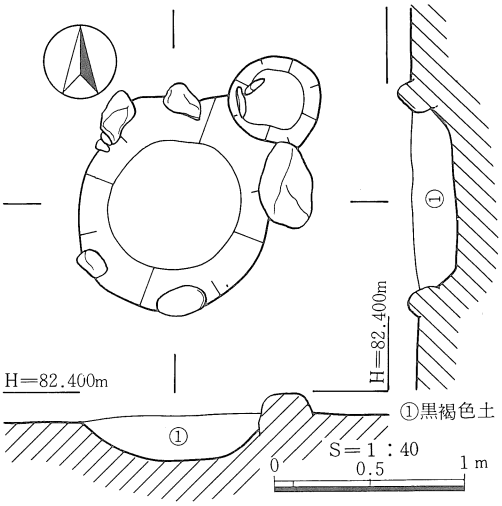
ＳＫ—16（挿図247、図版78）

位　　置　25Ｉグリッドの東に位置する。

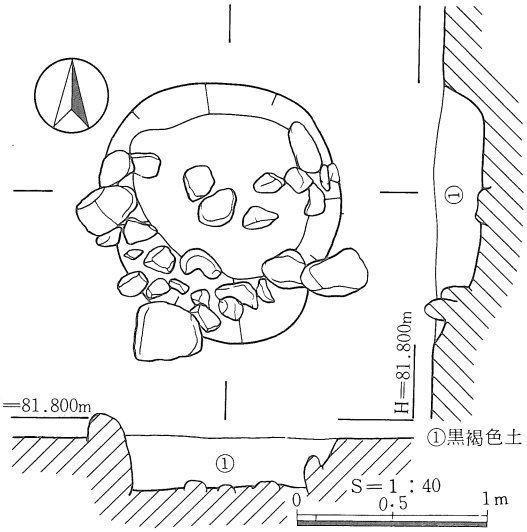
形　　態　平面形は楕円形（1.37×1.25—0.26）ｍである。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。



挿図246　ＳＫ15遺構図



挿図247　ＳＫ16遺構図

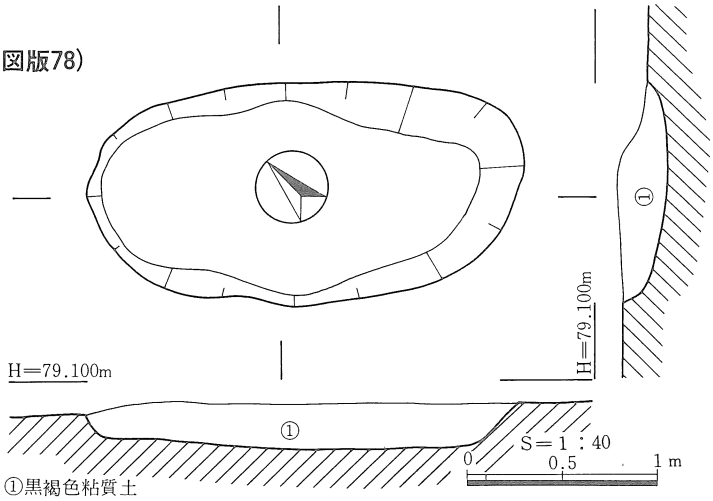
ＳＫ—17（挿図248、図版78）

位　　置　19Ｇグリッド中央のやや東寄りに位置する。

形　　態　平面形は楕円形（2.25×1.18—0.24）ｍである。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。



挿図248　ＳＫ17遺構図

ＳＫ—18（挿図249、図版78）

位　　置　22Ｉグリッドの北に位置する。

形　　態　平面形は楕円形（2.07×1.85—0.2）ｍである。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。

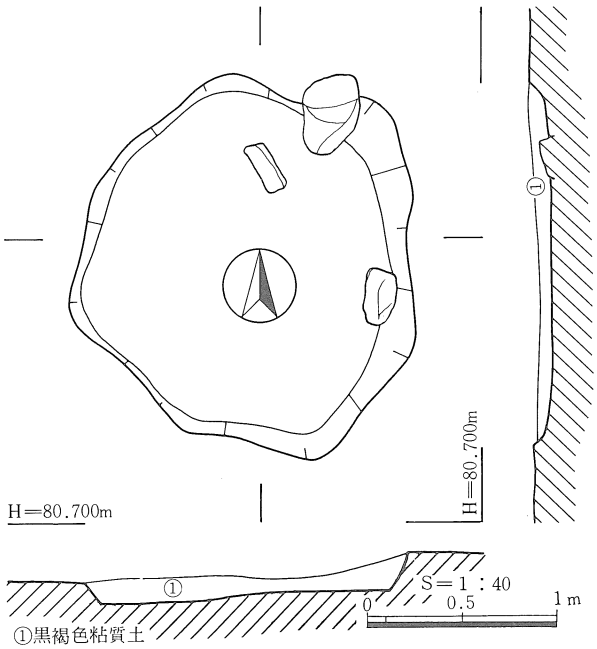
ＳＫ—19（挿図250、図版78）

位　　置　22Ｈグリッド中央のやや西寄りに位置する。

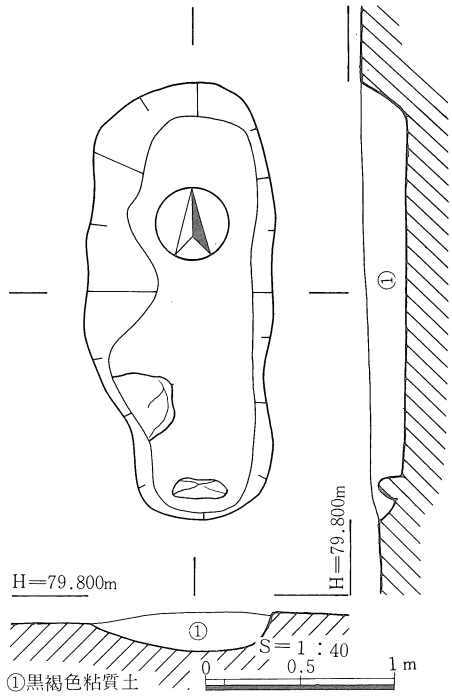
形　　態　平面形は楕円形（2.0×0.97—0.23）ｍである。

遺　　物　検出しなかった。

時　　期　不明である。



挿図249　ＳＫ18遺構図



挿図250　ＳＫ19遺構図

挿表36　土坑・土壙遺物観察表

ＳＫ—05

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 236 (Po1)	3397	甕	復元口径13.5cm	口縁部外反する複合口縁。屈曲部の稜はやや鈍い。頸部は短かい。	口縁部外面横ナデの後、ハケ状工具による施文。口縁内面横ナデ。頸部以下内面ヘラ削り。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内・淡褐色 外・暗褐色

ＳＫ—06

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 238 (Po1) 図版84-10	3287	坏	復元口径　12cm 器高　3.4cm 復元底径 8.7cm	平坦な底部から外方に開く坏部。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。	胎土：1～2mm大の石英、金雲母、小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕赤褐色 外〕 口縁部付近に黒斑有り。 外面赤色塗彩
挿図 238 (Po2)	3288	坏	復元口径12.8cm 器高　3.3cm	外方に開くやや深めの坏部。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。底部回転糸切り。	胎土：細砂粒、金雲母を含む 焼成：普通 色調：内・黄褐色 外・淡黄褐色 外面口縁部付近スス、炭化物の付着

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 238 (Po3) 図版85-1	3283	坏	口径　12.6cm 底部　8.2cm 器高　3cm	外方に開く坏部。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。外面底部ヘラおこしの後ナデ。口縁部にナデ上げて終る痕がみられる。	胎土：0.5mm～1mm大の砂粒 焼成：普通 色調：内外 赤褐色 内外面赤色塗彩
挿図 238 (Po4) 図版85-2	3286	坏	口径　12.7cm 底径　8.8cm 器高　3.2cm	ナデにより凹凸がはげしい底部から外方に開く坏部。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。外面底部ヘラおこし。中央に糸切りが見られる。口縁部にナデ上げて終る痕がみられる。	胎土：1mm大の石英を多く含む 色調：内外 赤褐色 内外面赤色塗彩
挿図 238 (Po5) 図版85-3	3284	高台付坏	口径　17.1cm 底径　10.7cm 器高　5.5cm	体部は外反し口縁端部は丸い。高台は短く外に開く。	内外面横ナデ。底部不規則なナデ。口縁部にナデ上げて終る痕がみられる。高台は貼付。	胎土：砂粒、金雲母を含む 焼成：良好 色調：内外 赤褐色 内外面赤色塗彩
挿図 238 (Po6) 図版85-4	3285	皿	復元口径　16cm 器高　2cm 復元底径　10cm	平坦な底部から内湾気味に外方へ開く。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。内面に繊維痕有り。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外 赤褐色 内外面赤色塗彩
挿図 238 (Po7)	3371	皿	復元口径16.9cm 器高　1.2cm 復元底径　6cm	やや平坦な底部から外反し、口縁端部は丸い。	外面横ナデ。底部付近磨き。内面横ナデ。	胎土：長石、石英、砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外 赤褐色 内面口縁部スス付着 内外面赤色塗彩
挿図 238 (Po8) 図版85-5	3285	皿	復元口径15.0cm 残存高　2.6cm 復元底径　6cm	坏部は内湾気味に外反し、口縁端部は丸い。	外面横ナデ。内面口縁部付近横方向のヘラ磨き以下横ナデ。内面底部に墨書の「奈」の字がみられる。	胎土：砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外 赤黄褐色 内外面赤色塗彩

SK—09

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 240 (Po1)	4419	坏	復元口径13.7cm 器高　2.6cm 復元底径 9.6cm	口縁部外反する。端部は丸く終わる。	内外面共に横ナデ。	胎土：小砂粒を含む 焼成：良好 色調：内外 赤褐色 内外赤色塗彩
挿図 240 (Po2)	4420	坏	底径　6.2cm	口縁部欠損。平坦な底部。	内面横ナデ。外面底部削り後ナデ。	胎土：小砂粒を含む 焼成：普通 色調：内外 赤褐色 内外赤色塗彩
挿図 240 (Po3) 図版85-6	4393	高台付碗	脚径　8.3cm	脚端部の丸い高台がやや「ハ」の字状につく。	高台内外面横ナデ。端部は丸い。碗部内面不規則な沈線が見られる。	胎土：石英を含む 焼成：普通 色調：内・明褐色 外・赤褐色 外面赤色塗彩
挿図 240 (Po4)	4417	甕底部 (須恵器)	――	底は丸く斜に立ち上る底部。外方へ広がりながら立ちあがる。	内外面横ナデ。	胎土：石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内外 青灰色
挿図 240 (Po5)	4394	高台付碗 (須恵器)	――	やや深めの坏部になると思われる。坏底部は平坦。高台がやや「ハ」の字状につく。	外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラ工具による削り。	胎土：長石を含む 焼成：良好 色調：内外 青灰色

SK—12

挿図番号 遺物番号 図版番号	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 242 (Po1)	90	甕	復元口径19.2cm	口縁部外反し、口縁端部はやや丸い。	外面横ナデ。内面口縁部横ナデ。口縁端部さらに強いナデ。頸部左上方向のヘラ削り。	胎土：1mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内外 淡明褐色
挿図 242 (Po2)	91	坏 (須恵器)	復元口径13.3cm	口縁部は内湾気味に外反し、口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。	胎土：小砂を含む 焼成：良好 色調：内外 淡青灰色

第６節　遺構外遺物

上福万調査地区（Ａ・Ｂ区）で検出した遺構外遺物のうち、土師器・須恵器・中世陶磁器等を紹介しておく。

土師器・須恵器・瓦・古銭（挿図253、挿表38、図版85）

Po１・２　　坏　Po２は外面に、細い棒状工具による記号らしきものがみられる。赤色塗彩。

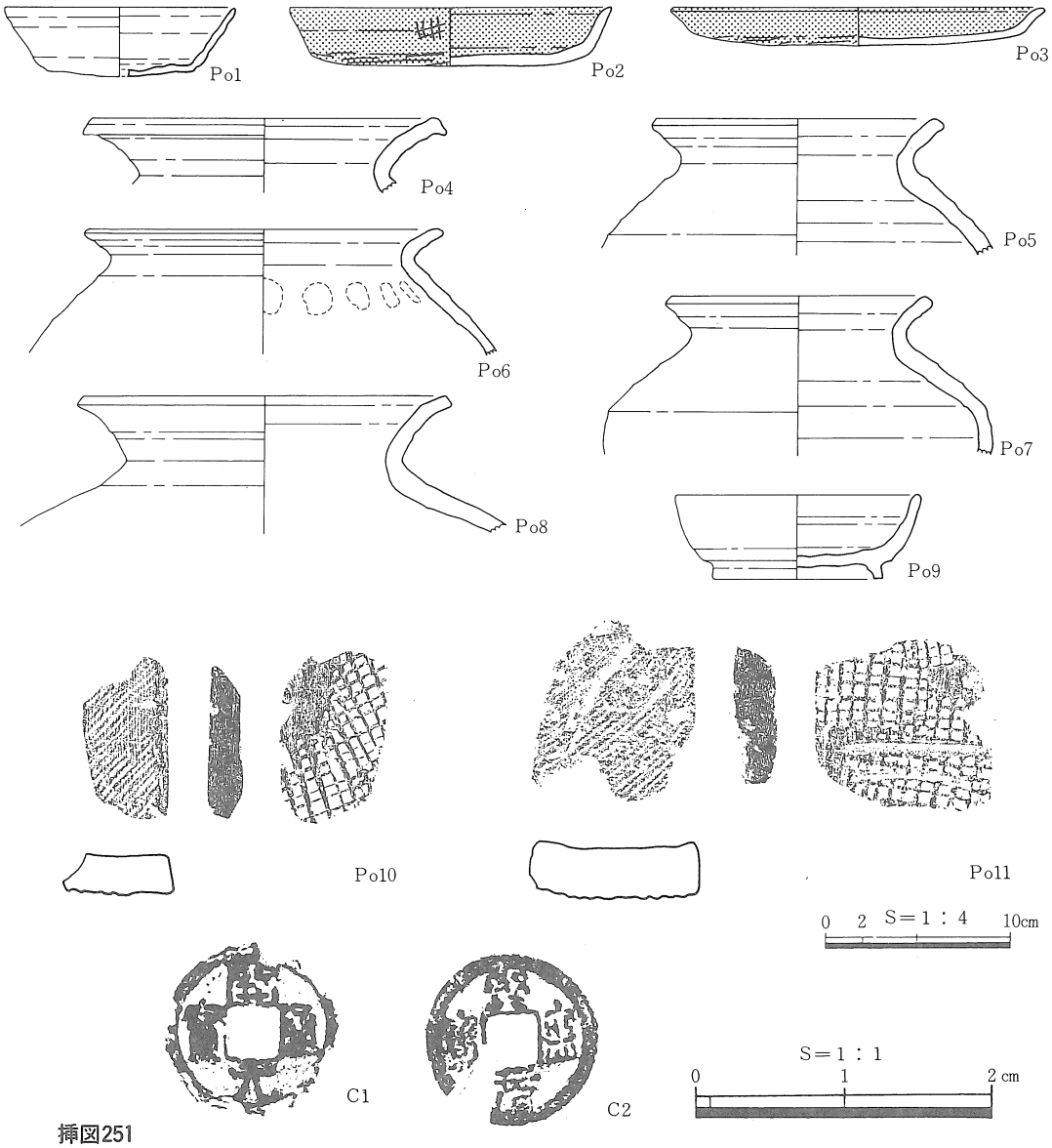
Po３　　皿　底部外面にヘラ削りを明瞭に残す。赤色塗彩。

Po４～８　須恵器・甕　いずれも口縁部分で、Po５～８は口縁端部を強くナデる。

Po９　　須恵器・坏　ハの字状の高台を貼り付ける。

Po10・11　平瓦

Ｃ１・２　　開元通宝・熙寧元宝。



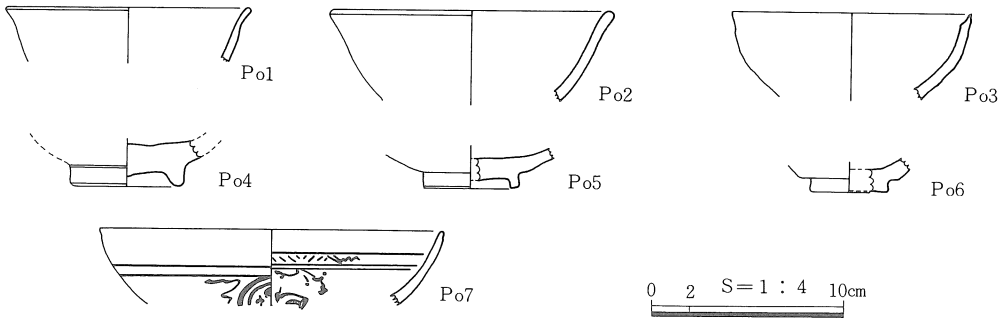
挿図251
土師器・須恵器・瓦実測図　古銭拓影

中世陶磁器（挿図254、挿表37・38、図版85）

Po 1・2・4・5　碗　中国青磁

Po 3・6　碗　天目、Po 6は輸入品

Po 7　碗　高麗青磁（象嵌青磁）



挿図252　中世陶磁器実測図

挿表37　中世陶磁器一覧表

遺構名	遺物番号	時期(世紀)	名称	産地	器種	取上番号
B区　南	Po 1	14～15	青磁	中国	碗	12
〃	Po 2	〃	〃	〃	〃	12
A区　4トレンチ	Po 3	〃	天目	日本	〃	19
B区　南	Po 4	〃	青磁	中国	〃	12
A区　10トレンチ		〃	〃	〃	〃	154
A区		〃	〃	〃	〃	2418
A区		〃	〃	〃	〃	3361
A区　2　D		〃	〃	〃	〃	4042
B区　南		〃	〃	〃	〃	12
B区　24　J	Po 7	〃	高麗青磁	朝鮮	〃	39
B区　北	Po 7	〃	高麗青磁	朝鮮	〃	4
A区　4トレンチ	Po 7	〃	高麗青磁	朝鮮	〃	19
A区　2　D		〃	白磁	中国	小皿	4042
A区　4　G		〃	〃	〃	〃	3184
A区　4　D	Po 6	〃	天目	〃	碗	3980
A区　16C		16	染付	〃	〃	314
A区　4トレンチ	Po 5	14～15	青磁	〃	〃	2418
A区　2　D		〃	瀬戸	日本(瀬戸)	〃	3666
A区　4　E		〃	〃	〃	〃	3361
B区　南		〃	〃	〃	〃	12
A区　5　G		〃	〃	〃	〃	1564
A区　4トレンチ		〃	〃	〃	〃	19
A区　13　H		15～16	備前	日本	甕	320
A区　7　G		〃	〃	〃	〃	3567
B区　南		〃	〃	〃	〃	12
A区　6　D		〃	〃	〃	すり鉢	3275
A区　12トレンチ		〃	〃	〃	〃	84
A区　4　F		〃	〃	〃	〃	3236
A区　7　G		〃	〃	〃	〃	1224

挿表38　遺構外遺物一覧表

土師器・須恵器・瓦・古銭

挿図番号 遺物番号 図版番号	出土場所	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 251 (Po 1)	A区 6 A	4801	坏	復元口径12.3cm 器高　3.8cm 復元底径 7.8cm	外方にゆるやかに開く坏部。底部はナデによる凹凸がみられる。	坏部内外面横ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラおこし。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内〕明茶褐色 外〕
挿図 251 (Po 2) 図版85-7	B区 6トレンチ	40	坏	復元口径17.2cm 器高　3.2cm 復元底径 11cm	底部は平底、体部は外反して上方へのびる。	内外面横ナデ。外面底部ヘラ削り。	胎土：砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕赤黄褐色 外〕 内外面赤色塗彩
挿図 251 (Po 3) 図版85-8	B区 6トレンチ 24 J	40	坏	復元口径　20cm 器高　2cm 復元底径　10cm	底部は平底、体部は外反し、上方へのびる。口縁端部は丸く、坏部は浅い。	内外面横ナデ。外面底部ヘラ削り。	胎土：砂粒を含む 焼成：普通 色調：内〕赤褐色 外〕 内外面赤色塗彩
挿図 251 (Po 4)	B区 29 L	(60 61 (接合)	甕 (須恵器)	復元口径18.4cm	口縁部外反し、口縁端部やや丸い。	内外面ともに横ナデ。	胎土：1～7mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内〕青灰色 外〕
挿図 251 (Po 5)	B区 西側	55	甕 (須恵器)	復元口径15.1cm	口縁部外反する「く」の字状口縁。口縁端部やや角ばる。	内外面ともに横ナデ。	胎土：1～3mmの長石を含む 焼成：普通 色調：内〕青灰色 外〕
挿図 251 (Po 6)	B区 29 L	61	甕 (須恵器)	復元口径19.2cm	口縁部外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くなだらかな肩をもつ。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部平行タタキ、内面肩部青海波。頸部に指圧痕がみられる。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内・暗褐色 外・暗灰黄褐色 内面口縁部、外面に自然釉がかかる。
挿図 251 (Po 7)	B区 西側	55	甕 (須恵器)	復元口径13.5cm	口縁端部はやや角ばる。頸部は短かく、なだらかな肩部から張り気味の胴部へつづく。	内外面とも横ナデ。	胎土：1～2mmの長石を含む 焼成：良好 色調：内〕青灰色 外〕
挿図 251 (Po 8)	B区 29 L	(60 61 (接合)	甕 (須恵器)	復元口径19.4cm	口縁部は大きく外反する「く」の字状口縁。口縁端部は角ばる。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部平行タタキ目、内面肩部青海波が見られる。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内・淡青灰色 外・淡黄青灰色 内面口縁〕自然釉がかかる 外面肩部〕
挿図 251 (Po 9)	B区 24 J	24	坏 (須恵器)	復元口径　13cm 復元底径 9.1cm 器高　4.5cm	体部は内湾気味に開き、口縁端部は丸い。高台は短く外に開く。	内外面横ナデ。底部は不規則なナデで高台は貼付。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内〕青灰色 外〕
挿図 251 (Po 10) 図版85-9·10	A区 7B·7C	——	瓦	————	平瓦	布目が見られる。	胎土：細砂粒、密 焼成：良好 色調：内〕淡黄灰色 外〕
挿図 251 (Po 11) 図版85-9·10	A区 7B·7C	——	瓦	————	平瓦	布目が見られる。	胎土：細砂粒、密 焼成：良好 色調：内〕淡黄灰色 外〕
挿図 251 (C 1)	KFA区 第12トレンチ	——	古銭	径　2.3cm	開元通宝		
挿図 251 (C 2)	KFA区 4 G	1709	古銭	径　2.3cm	熙寧元宝		

中世陶磁器

挿図番号 遺物番号 図版番号	出土場所	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図 252 (Po 1) 図版85-11	B区南	12	碗	復元口径　13cm	口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。	青磁
挿図 252 (Po 2) 図版85-11	B区南	12	碗	復元口径　15cm	体部はやや内湾気味に上方へ開き、口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。	青磁
挿図 252 (Po 3) 図版85-11	A区 第4トレンチ	19	碗	復元口径12.6cm	体部は内湾気味で、口縁端部はナデにより面をもち、丸く終る。	内外面横ナデ。	天目
挿図 252 (Po 4) 図版85-11	B区南	12	碗	復元底径　6cm	高台は短く、台形を呈する。端部は丸い。	内外面横ナデ。	青磁
挿図 252 (Po 5) 図版85-11	A区 第4トレンチ	2418	碗	復元底径　5cm	高台は短く、外傾気味の台形を呈する。端部は角ばる。	内外面横ナデ。	青磁
挿図 252 (Po 6) 図版85-11	A区 4 D	3980	碗	復元底径 4.2cm	平底の高台を貼り付ける。	内外面横ナデ。	天目
挿図 252 (Po 7) 図版85-11	B区24 J北 A区 第4トレンチ	39・4 19	碗	復元口径　18cm	体部は内湾気味に外方へのび、口縁端部はやや鋭い。	内外面横ナデ。	高麗青磁 (象嵌青磁)

第７節　古墳時代以降のまとめ

建築技術的な観点を導入して、本遺跡の竪穴住居・掘立柱建物群の分類を行い、竪穴住居では形態的な観点をこれに加味してその変遷を考え、最後にまとめとして、両者のセット関係を復元してみた。

１　竪穴住居（挿図253、挿表32・39、付図３）

本遺跡で検出された竪穴住居は、計14基で、ＳＩ14を除く残り13基は、古墳時代前期中頃に位置づけられるが、形態的相違（平面プラン・主柱穴数）と建築技術的相違が認められるため、若干の時期差が想定される。

因伯地方における古墳時代の竪穴住居の平面プランは、次の様に変遷すると考えられている。(註１)

前期前葉

多主柱構造の「円形」住居は減少するが、「多角形」・「隅丸多角形」住居は存続する。また、「隅丸方形」住居もみられるようになるが、「方形」住居はほとんどみられない。

前期中葉

「方形」・「長方形」住居が出現し、「円形」・「隅丸方形」・「隅丸多角形」住居は消滅する。

前期後葉

「方形」・「長方形」住居のみみられる。

本遺跡内における、竪穴住居の分類を挿表39に示す。

建築技術的な観点として、補助柱・調和性(註２)という項目を加えた。これらの意味するところは次の通りである。住居と地傾斜との関係は、即、住居の安定性に関ってくる。つまり、地傾斜に調和させれば、柱頭を揃え易いため住居は安定するが、調和させないと不安定になるのである。しかし、建築技術の発達に伴って、この問題が解消されるのは当然であろう。

挿表39中の（補助柱・調和性）のあり方について、次の様に説明できる。

（○・×）

ＳＩ05にのみみられる。ＳＩ05は、補助柱だけでなく、上部を支えたと考えられる側溝内の小ピット群が存在している。建築技術が稚拙で、地傾斜の利用も知らない。

（○・○）

ＳＩ01、ＳＩ03、ＳＩ04でみられる。建築技術はまだ稚拙だが、地傾斜の利用を知っている。

（×・○）

ＳＩ06、ＳＩ09、ＳＩ12、ＳＩ13でみられる。建築技術が発達し補助柱は不用になったが、地傾斜を利用している。

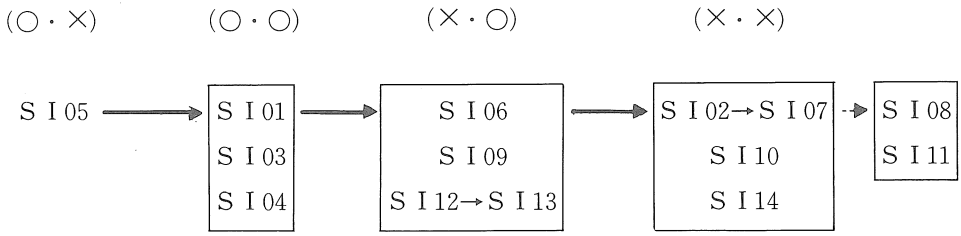
（×・×）

ＳＩ02、ＳＩ07、ＳＩ08、ＳＩ10、ＳＩ11、ＳＩ14でみられる。建築技術がさらに発達し地傾斜を無視している。

これは生活における自然発達的事項と考えられ、よって、（○・×）→（○・○）→（×・○）→（×・×）という建築技術的変遷は、各竪穴住居の変遷を意味しているといえる。

この変遷に、前述の形態的な変遷を加味すると、「方形」住居のＳＩ08、ＳＩ11が、(×・×)の中から、もう１段階新しくなる。これは、ＳＩ08、ＳＩ11の両者ともに、中央特殊ピットの他に、炉跡と考えられるピット又は土坑を持つという点で、他の住居とは様相を異にしている、ということと一致する。

以上述べてきたことのまとめを、挿図253で示す。



挿図253　竪穴住居の変遷図（推定）

平面プラン	主柱穴	補助柱	調和性	遺構名
隅丸五角形	5	○	×	05
		○	○	04
		×	○	07
円　　形	4	×	○	12
隅丸方形	4	○	○	01、03
		×	○	06、13
		×	×	02、14
	2	×	○	09
		×	×	10
方　　形	4	×	×	11
	2	×	×	08

挿表39　竪穴住居の分類

2　掘立柱建物（挿図254、挿表34、付図３）

本遺跡内で検出された掘立柱建物は、計20棟で、内訳は、古墳時代のもの４棟（ＳＢ02、ＳＢ09、ＳＢ14、ＳＢ18)、奈良時代のもの２棟（ＳＢ16、ＳＢ17)、古墳～室町時代のもの３棟（ＳＢ05、ＳＢ19、ＳＢ20)、時期不明のもの11棟である。掘立柱建物群の特徴を捉えるため、調和性(註２)、長方形度、床面積について調べてみた。長方形度と床面積の相関関係を、挿図254に示す。

調和性

- 調和するもの
  - ２×１間…SB02、SB03、SB07、SB09、SB11、SB12、SB13
  - ２×２間…SB08
  - ３×２間…SB16
- 調和しないもの
  - ２×１間…SB01、SB04、SB05、SB06、SB10、SB14、SB15、SB19
  - ３×１間…SB20
  - ３×２間…SB17、SB18

古墳時代の建物のうち、調和するものはＳＢ02、ＳＢ09、調和しないものはＳＢ14、ＳＢ18であり、前述の建築技術的変遷を当てはめると、前者の方が後者よりも古いといえる。奈良時代の

建物は、調和するもの（SB16）、調和しないもの（SB17）の両方を持つが、建築技術の発達によって調和性にこだわる必要がなかったためで、古墳時代のそれとは、含まれる意味が異なる。

また、古墳時代と奈良時代の建物は、挿図254中の十字で区切られた、それぞれ第２・３・４象限、第１象限に含まれると考えられる。ＳＢ08、ＳＢ19については、両者とも他と比べて長方形度が小さい（１に近い）ため、「倉庫」であろうと考えられる。長方形度、床面積の差、調和性の違いから、前者の方が後者よりも古いと推測される。

3　まとめ

以上述べたことと、竪穴住居と掘立柱建物の全体配置から、両者のセット関係は、次の様に推定される。（古墳時代）

- 掘立柱建物の時期の判明しているもの

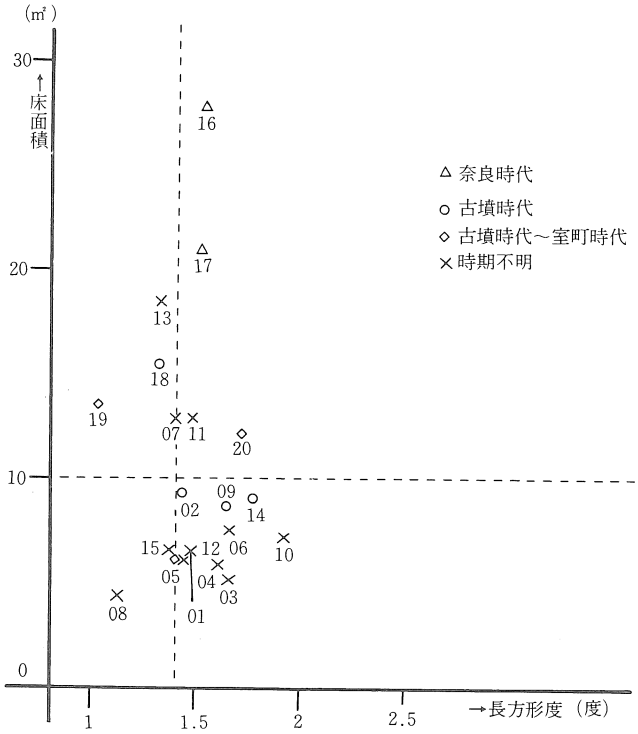
  ＳＩ04―ＳＢ09、ＳＩ06―ＳＢ02（Ｌ字状に配される03は02とセットと推定される）

  ＳＩ11―ＳＢ18

- 掘立柱建物の時期の判明していないもの（不明も含む）

  ＳＩ01―ＳＢ08、ＳＩ02・07―ＳＢ10、ＳＩ03―ＳＢ07

- 配置的にＳＩ05―ＳＢ06が考えられるが、両者の調和性は一致していない



挿図254
掘立柱建物の長方形度と床面積の相関図

註１　「寺内京南遺跡発掘調査報告―ほ場整備に伴う調査―」1982、鹿野町教育委員会、関西大学文学部考古学研究室
　　ここでは、青木Ⅳ期を古墳時代前期前葉、青木Ⅴ・Ⅵ期を同前期中葉、青木Ⅶ期を同後期後葉としている。
註２　調和性　竪穴住居……地傾斜方向と、下に示す「線」が一致するかどうか。
　　（隅丸五角形……五角形の頂点（上流側）と、これに対応する下辺の中点を結ぶ線
　　隅丸方形・方形……１辺と、これに対応する下辺とを結ぶ中線
　　円形……ＳＩ12はＳＩ13に建て替えてあるため、隅丸方形に準ずる）
　　掘立柱建物……地傾斜方向と、長軸又は短軸が一致するかどうか。

参考文献

「青木遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅲ」	青木遺跡発掘調査団	昭和51～53年
「福市遺跡」	米子市福市遺跡調査団	昭和43年
「向野遺跡・後ろ谷遺跡発掘調査報告書」	大栄町教育委員会	1984・3
「上種西古墳群発掘調査報告」	大栄町教育委員会	1984・3
「長瀬高浜遺跡Ⅲ～Ⅵ」	鳥取県教育文化財団	1981～1983
「伯耆国庁跡発掘調査概報（第５・６次）」	倉吉市教育委員会	昭和53年度

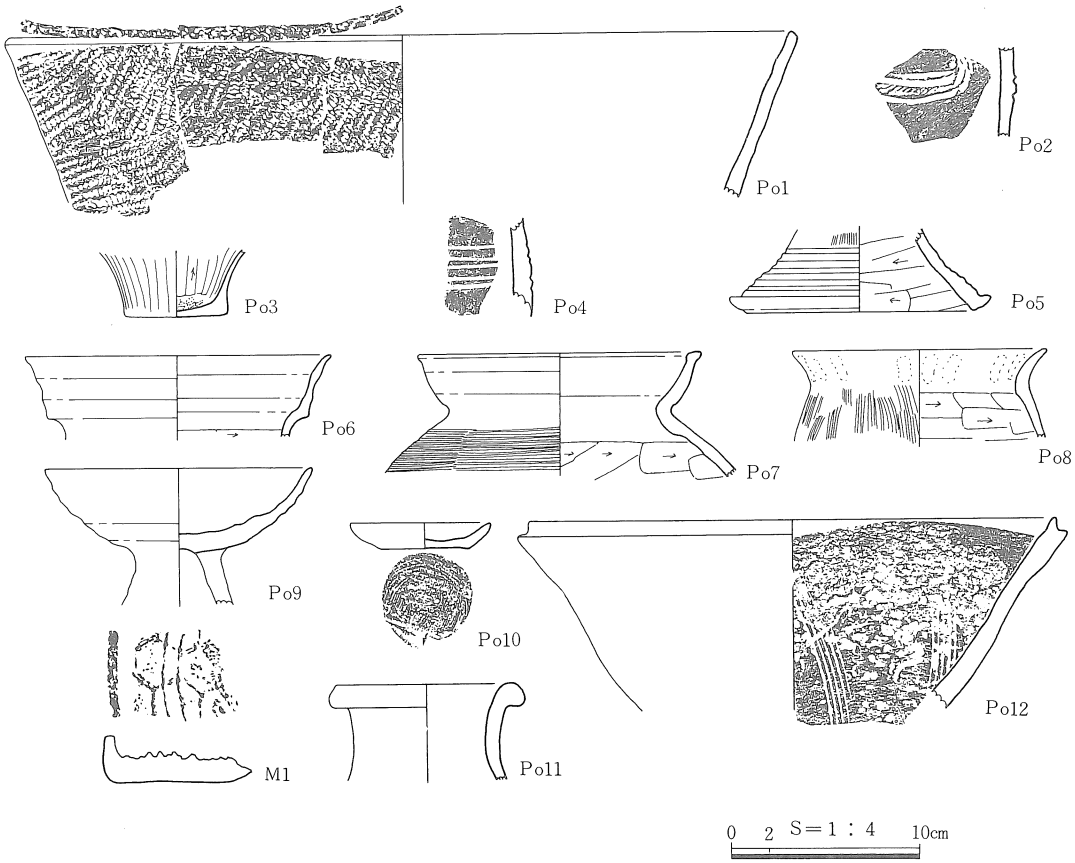
第４章　日下遺跡

日下遺跡（挿図１～４、挿表１、図版86・87）

現佐陀川の右岸にあり、水田・畑地として利用されている。第１・２・４・５トレンチでは、第Ⅰ～Ⅳ層まで砂層で、第Ⅴ層は礫層であったため調査を終了した。遺物は土師器片を表採した。

用悪水路を隔て北側に入れた第３・６トレンチでは、第Ⅳ層で佐陀川の氾濫を確認した。第Ⅶ層では黒褐色粘質土（遺物包含層と考えていた土層）を検出したため、さらに第Ⅷ層まで掘り下げたが、礫層であったため調査を終了した。第３・６トレンチでは各層で土器片を検出した。特に第Ⅶ層では、土師器・須恵器片を多量に検出した。（第６トレンチで和鏡を検出した。）

日下遺跡で検出した土器類等は土層観察の結果、佐陀川の移動や氾濫によって運ばれたものと考えられる。



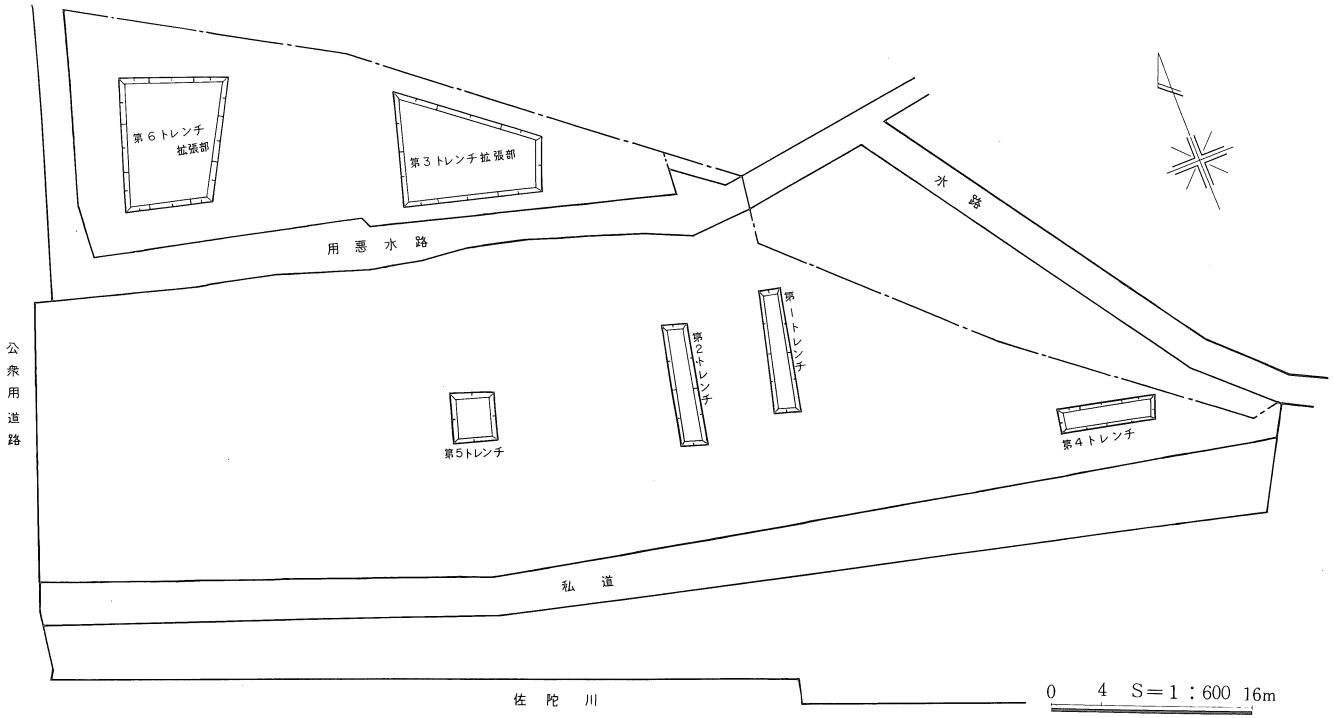
挿図１　第３・６トレンチ出土遺物図（和鏡Ｓ＝½）

挿表1　日下遺跡遺物観察表

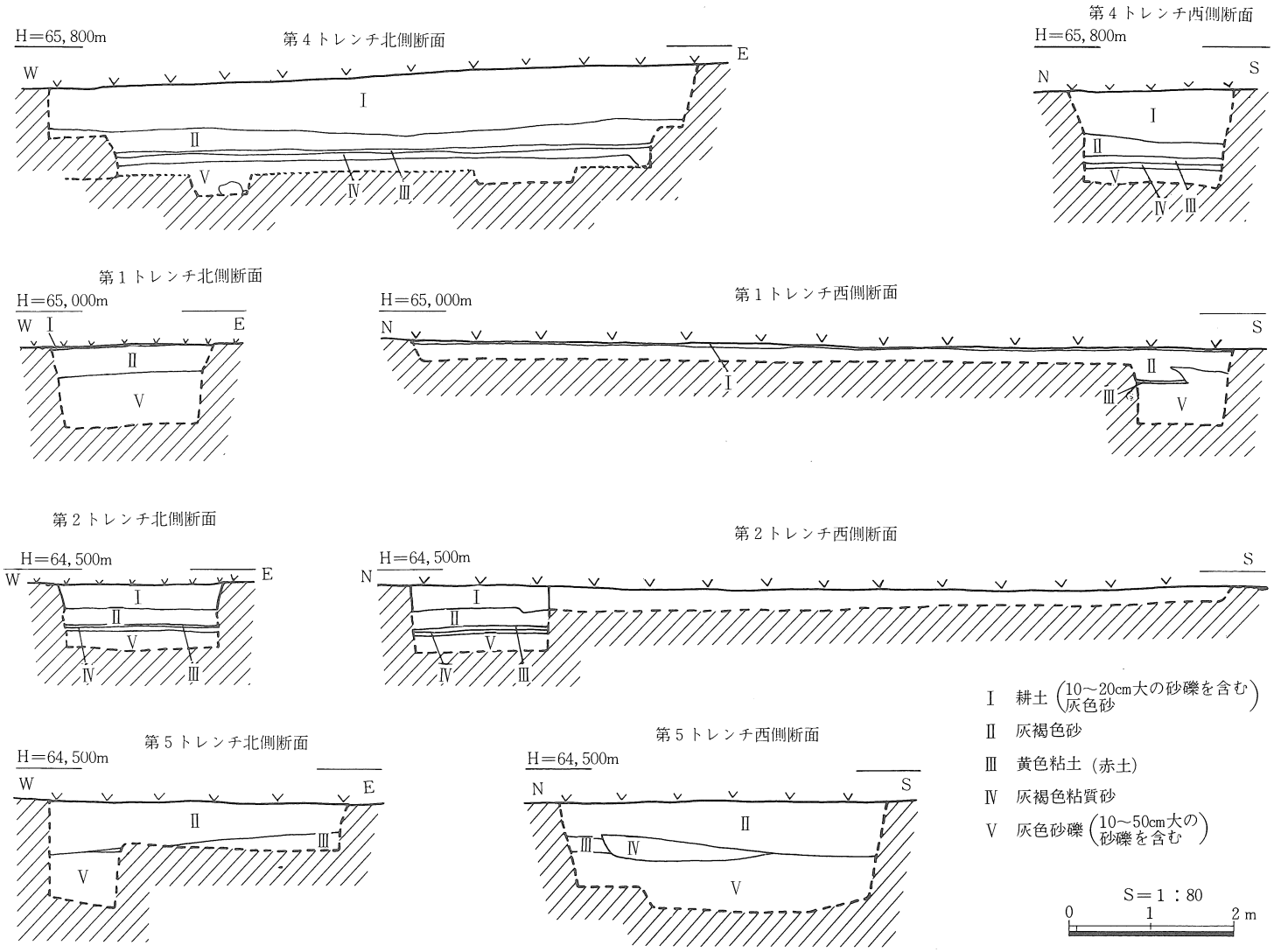
第3・第6トレンチ

挿図番号 遺物番号	出土場所	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図1 (Po 1)	第3トレンチ	125 69 71 (接合)	深鉢 (縄文中期)	復元口径　42cm	口縁部は外反し、口縁端部は角ばり、丸く終る。	外面｛撚：LR 施文方向：斜位に施文する。 特徴：結節がみられる｝ 内面｛ナデ：1ヶ所のみ撚紐の押圧痕がみられる。 口縁部、縄文が施される。	胎土：1～1.5mm大の砂粒を多量に含む 金雲母を含む 色調：内・黄灰褐色 外・黒灰色 外面にスス付着
挿図1 (Po 2)	第3トレンチ	43	甕 (縄文後期)	――		外面はヘラ磨きが施され、その中位に縄文が施される。内面はヘラ磨き。	胎土：1mm大の砂粒、石英を多く含む 色調：内・黒 外・黄褐色
挿図1 (Po 3)	第3トレンチ	19	甕 (底部) (弥生)	底径　5.5cm	底部は平底。	内面は下から上方向のヘラ削り。底部に指圧痕が見られる。外面は縦方向のヘラ磨き。	胎土：砂粒を含む 焼成：良好 色調：内・黄灰色 外・黄灰褐色 外面にスス付着
挿図1 (Po 4)	第3トレンチ	157	甕 (弥生)	――		外面、ナデの後に5条の沈線が施される。内面ナデ。	胎土：1mm大の砂粒、石英を多く含む 焼成：良好 色調：内〕外〕黄橙色
挿図1 (Po 5)	第3トレンチ	157	器台 (脚部) (弥生)	復元底径　12cm	脚部は「ハ」の字状に開く。	外面は縦方向のハケ目後、8条の凹線が施されている。内面は左方向のヘラ削り。	胎土：石粒、石英を含む 焼成：良好 色調：内〕外〕黄橙色
挿図1 (Po 6)	第6トレンチ	117	甕	復元口径16.2cm	口縁部は外反する複合口縁。屈曲部の稜は鈍く、口縁端部はやや鋭い。	内外面横ナデ。	胎土：砂粒、石英を含む 焼成：良好 色調：内〕外〕黄褐色 外面スス付着
挿図1 (Po 7)	第3トレンチ	115	甕	復元口径　15cm	口縁部は外反する「く」の字状口縁。口縁端部強くナデられわずかに外方へ肥厚する。	口縁部内外面横ナデ。外面肩部ハケ状工具による施文がみられる。内面肩部右方向のヘラ削り。	胎土：1mm大の砂粒、石英を含む 焼成：良好 色調：鉄分付着のため色調不明
挿図1 (Po 8)	第6トレンチ	154	甕	復元口径13.4cm	口縁部は外反し、口縁端部は丸く終る。	口縁部内外面ともに指おさえの後ナデ。外面胴部粗いハケ目、内面胴部右方向のヘラ削り。	胎土：砂粒を含む 焼成：良好 色調：鉄分付着のため色調不明
挿図1 (Po 9)	第3トレンチ 拡張部 第7層	114	高坏 (須恵器)	復元口径12.2cm	平坦な底部から外方に開く浅い坏部。口縁端部は丸い。脚部に2方透し。	外面横ナデ。内面坏部横ナデ。脚部横ナデ。	胎土：緻密 焼成：良好 色調：内〕外〕青灰色
挿図1 (Po 10)	第6トレンチ	28	灯明皿	口径　7.4cm 器高　1.4cm 底径　4.8cm	平坦な底部から外反する口縁部。口縁端部は丸い。	内外面横ナデ。底部は回転糸切り。	胎土：密（スイヒ） 焼成：良好 色調：内〕外〕茶褐色
挿図1 (Po 11)	第3トレンチ	11	壺 (白磁)	復元口径　9.4cm	口縁部は外反しながら長くのびる。口縁端部はさらに外反し、外に肥厚する。	内外面横ナデ。	胎土：密 焼成：良好 色調：淡青白色
挿図1 (Po 12)	第3トレンチ	36	すり鉢 (瓦質陶器)	復元口径27.8cm	口縁部は外反し、口縁端部は強いナデにより凹む。	外面横ナデ。内面5条を一単位とするおろし目。内外面ともに風化大。	胎土：0.5～1mm大の砂粒を含む 金雲母、石英を含む 焼成：良好 色調：黄褐色
挿図1 (M 1)	第6トレンチ 第5層	21	和鏡	復元径　13.2cm	二重圏線縁。地文は亀甲文。		室町時代後半

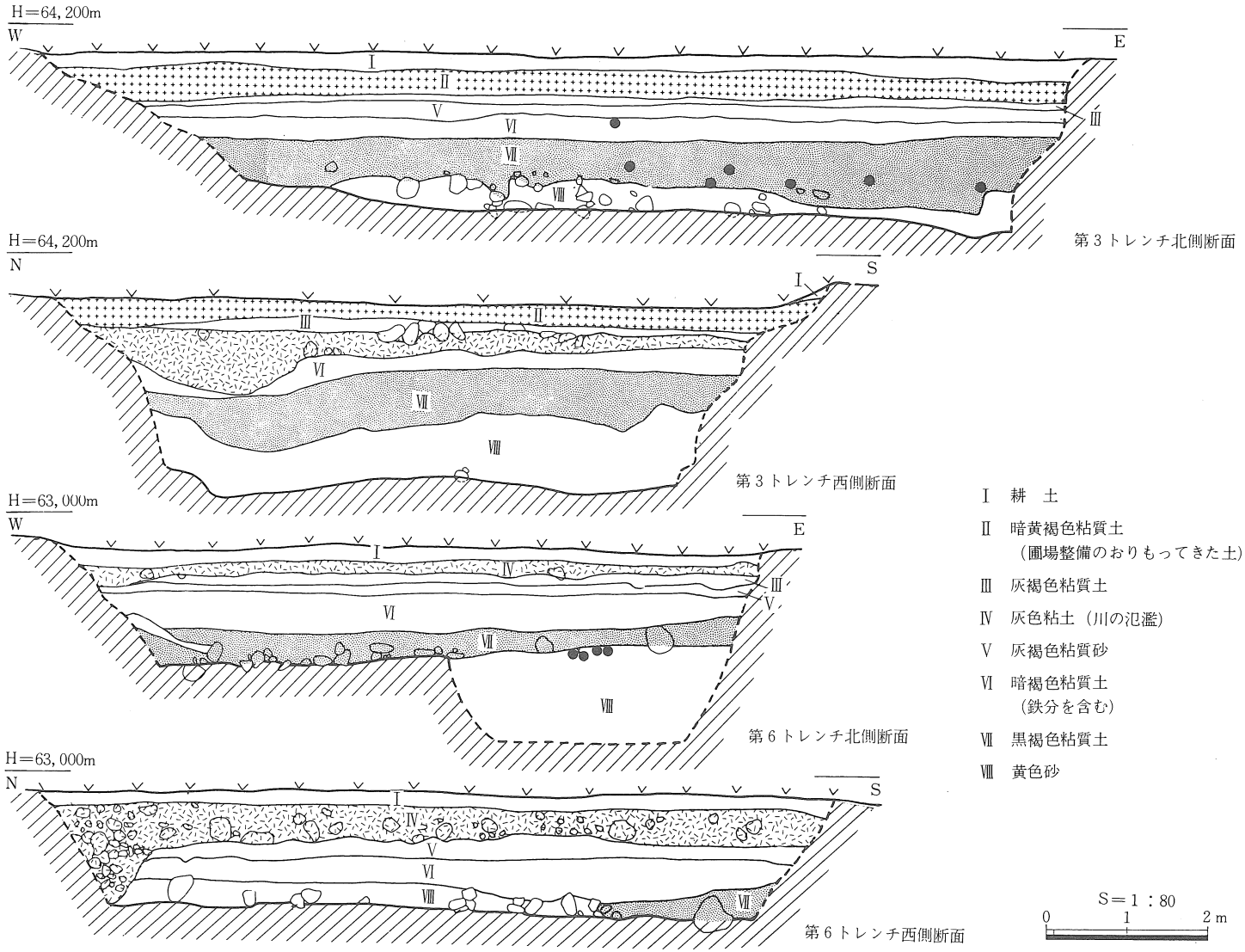
参照　挿図156、図版58、分冊編観察表P46



挿図２　日下遺跡トレンチ位置図



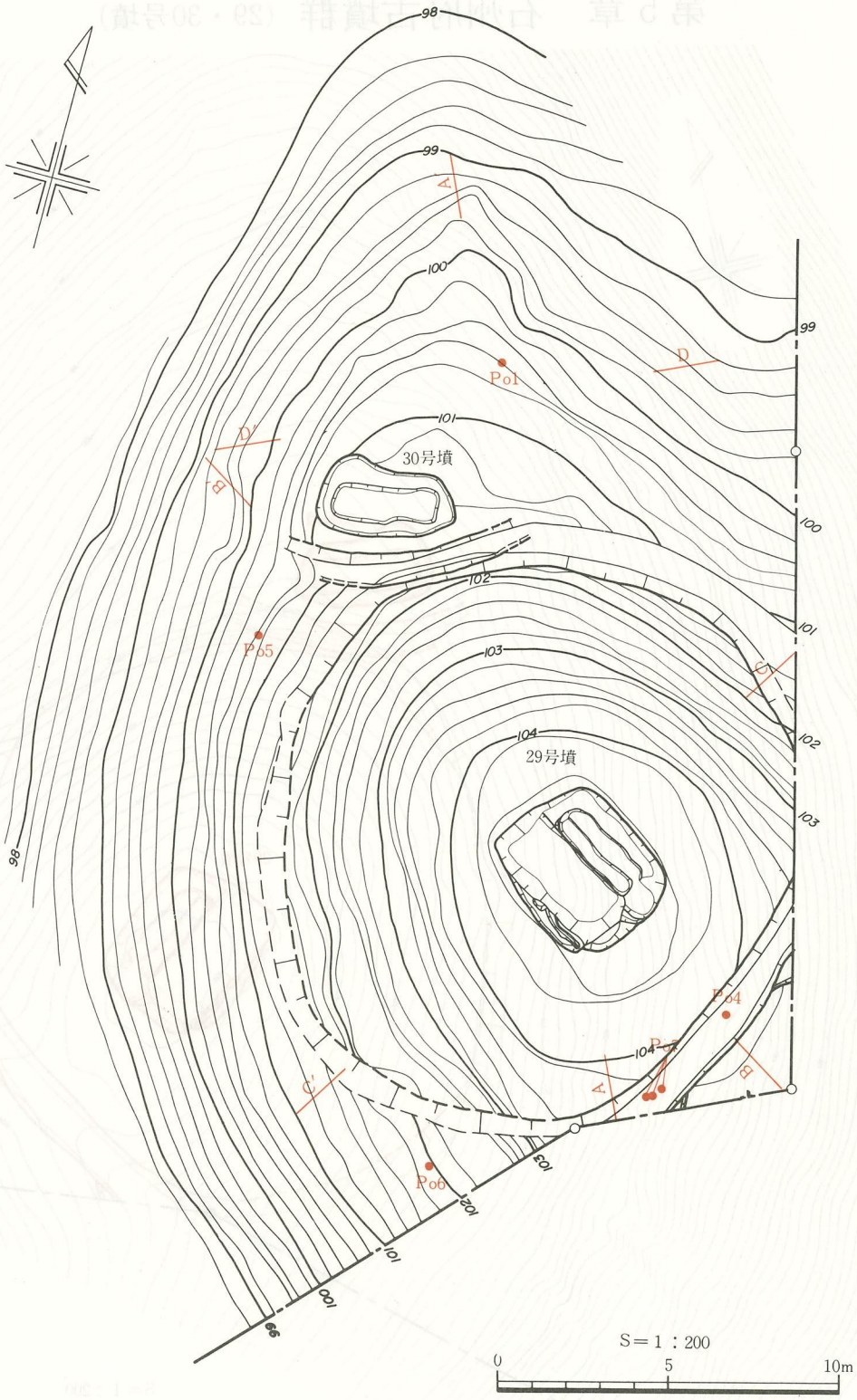
挿図3　第1・2・4・5トレンチ断面図



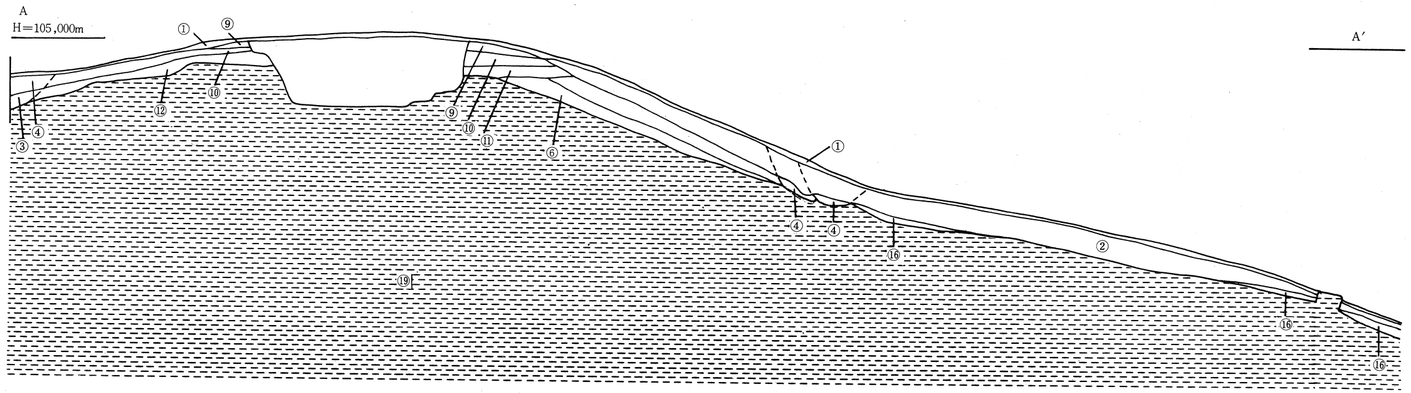
挿図4 第3・6トレンチ断面図

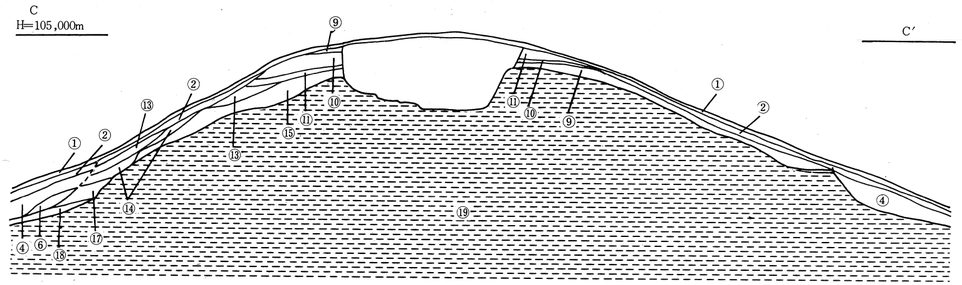
第５章　石州府古墳群（29・30号墳）

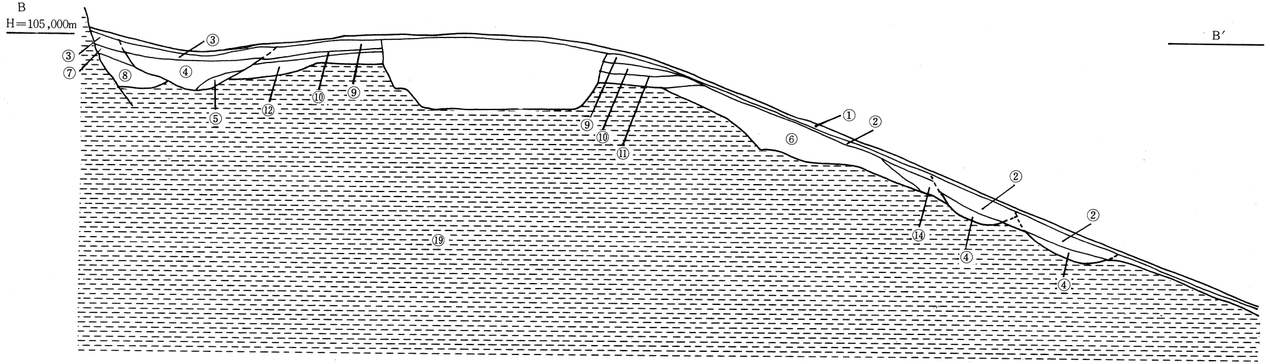
挿図１　調査前墳丘地形図

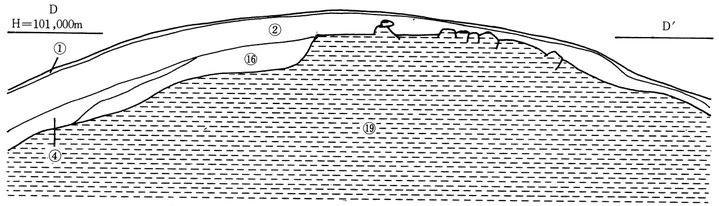


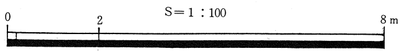
挿図２　調査後墳丘地形図











	①	表　土
周溝埋土	②	黄褐色砂質粘質土（5㎜程度の礫を含む）
	③	赤黄褐色砂質粘土
	④	黒色土をブロック状に含む暗赤褐色粘土
	⑤	黄赤褐色粘質土
	⑥	黄褐色砂質粘土
上部古墳の周溝埋土	⑦	暗赤黄褐色砂質粘土
	⑧	黄赤褐色砂質粘質土混じりの2～5㎜の角礫層
	⑲	地山岩（流紋岩質凝灰角礫岩）
盛　土	⑨	米粒～こぶし大程度の礫混じり明黄褐色砂質粘土
	⑩	暗茶黄色粘質土
	⑪	2～3㎜の礫混じり黄褐色砂質粘土
	⑫	黄褐色砂混じり角礫層（しまる）
	⑬	黒褐色粘土混じり明黄褐色砂質粘土
	⑭	礫混じり黄褐色砂質粘土
地山土	⑮	黒褐色粘土混じり暗赤褐色砂質粘土
	⑯	暗赤黄褐色砂質粘質土
	⑰	ピンク色粘土混じり赤褐色粘土
	⑱	ピンク色粘土

挿図3　29・30号墳墳丘断面図

第１節　石州府29号墳

１　墳丘（挿図１～３、図版88・89）

土砂の流出及び削平のため、頂部がやや平坦になっていたが、遺存度は良かった。調査前の規模は、ほぼ円形（長径16.0m ・短径15.0m ）を呈し、高さは約3.0m を測った。調査後の規模は、径16.0m の円墳で、周溝底から墳頂までの高さは北西側で3.30m 南東側で1.20m を測る。墳頂の標高は約105.0m である。墳丘は、原地形を利用して築かれているが、盛土によって整地が行なわれており、頂部では、旧表土（暗赤褐色粘質土）及び地山（岩盤）をほぼ水平に削った後、また斜面では直接、それぞれ盛土が行なわれている。

２　周溝（挿図１～３・10）

北側と南側斜面において肩部が流されており、遺存度は悪かった。調査区域外については不明だが、墳丘を完周すると推測する。規模は、幅1.20～1.50m 、深さ0.20～0.60m を測る。断面は「Ｕ」字状を呈し、埋土は３層よりなる。なお、この周溝は、本古墳の南東上部に在ると推測される古墳の周溝を切っている。

遺物の、図化できるものは周溝内より壺（Po４）、高坏脚部（Po５）、周溝外より坏蓋（Po６）、坏（Po７）がある。

３　主体部（挿図４～９、挿表１、図版89・90）

墳丘中央やや東寄りのほぼ同位置において、主体部を３基検出した。埋葬は、土層断面より、第１、第２、第３の順序で行なわれたと考える。

第１主体部

埋葬施設　埋葬形態は、箱式石棺である。第２・３主体部によって破壊され、東側石の一部及びその抜き取り跡が残るだけだったので、詳細は不明だが、残存する深さは0.30m を測る。長軸方向は、Ｎ―55°―Ｗをとると推定される。

遺　　物　掘り方内の北西側において、切先を北側に向けた刀子を１本（Ｆ１）検出した。

第２主体部

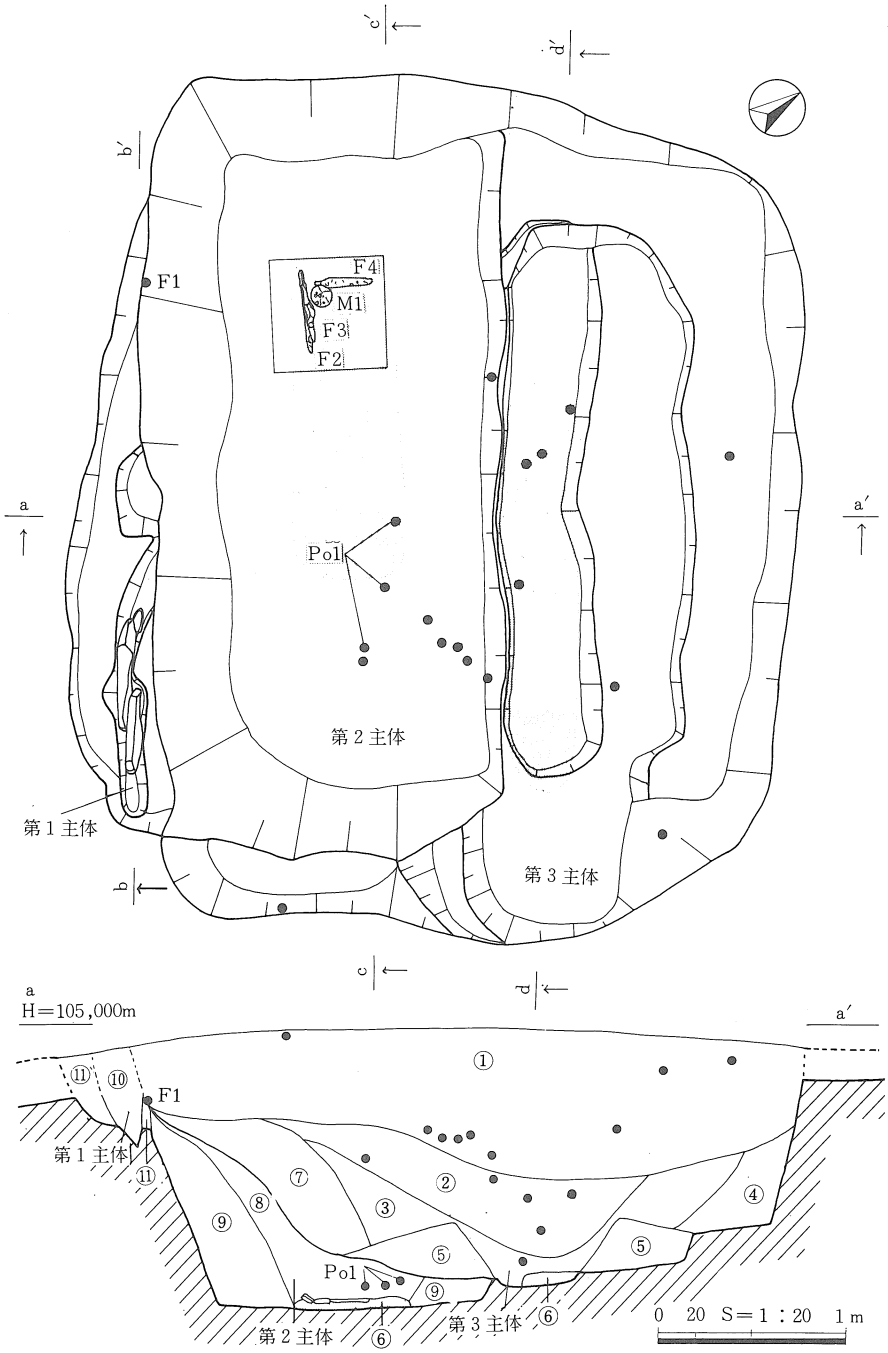
埋葬施設　埋葬形態は木棺であろうと推定される。規模は、長さ3.0m 、幅0.80m 前後であろうと考えられ、長軸方向は、Ｎ―60°―Ｗをとる。また、床面直上に、長さ2.0m 、幅0.60m 、厚さ0.06～0.08m の規模で、赤色粘土が遺存していた。

掘り方は第３主体部によって破壊されているが、長径4.50m 、短径2.20m 前後の隅丸長方形を呈すると推定される。残存する深さは1.50m を測る。

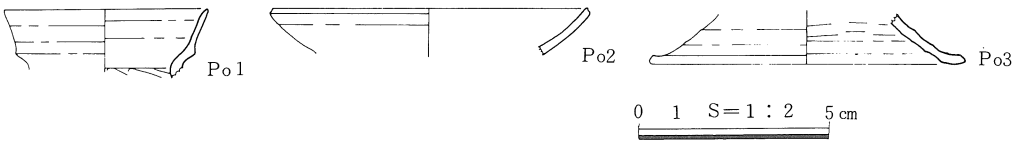
遺　　物　木棺内北端において、切先を南側に向けた鉄剣を２本（Ｆ２・３）、切先を東側に向けた鉄剣を１本（Ｆ４）、鏡面を上に向けた銅鏡を一面（Ｍ１）検出した。これらの出土状況より、頭位は西向きであろうと推測される。また埋土中より、甕（Po１）を検出した。

第３主体部

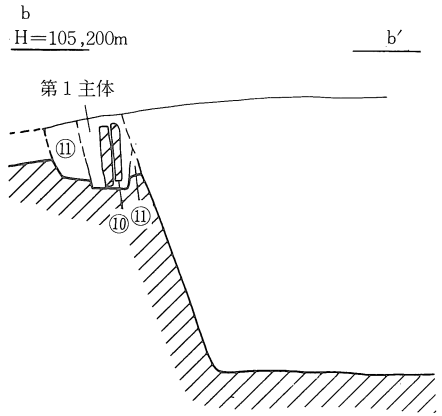
埋葬施設　木棺は遺存していなかったが、土層を観察すると、木棺痕と思われる横断面が「Ｕ」字状を呈しており、埋葬形態は割竹形木棺であると推定される。規模は、長さ3.20m 、

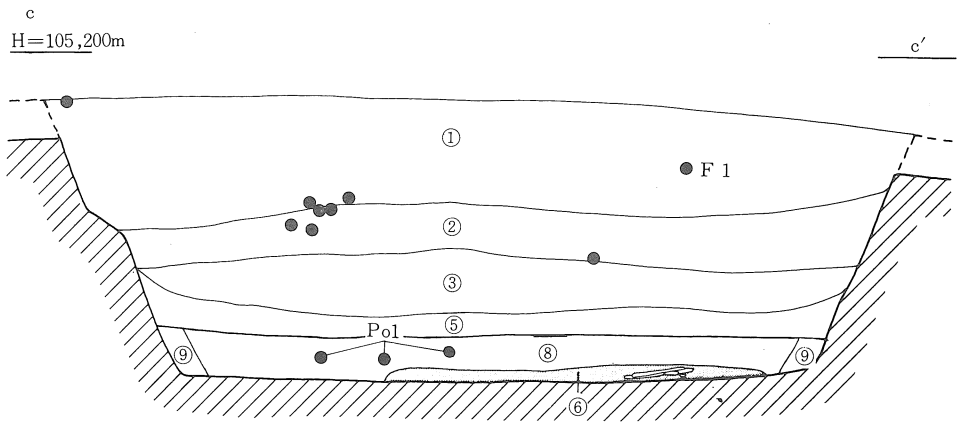


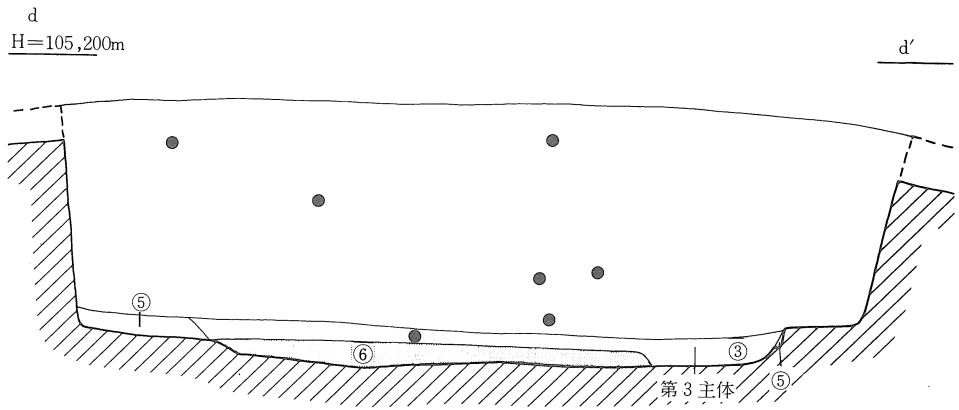
挿図4　29号墳第1～3主体部遺構図



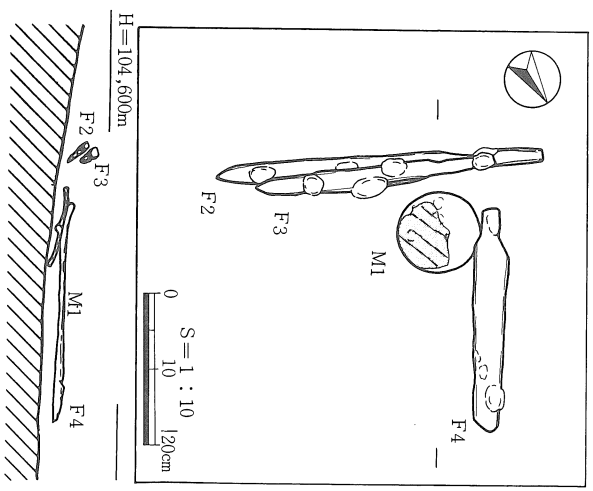
挿図5　29号墳第2・3主体部遺物図1







① 暗赤黄褐色砂質粘土．角礫混じりの黄褐色粘質土
② 暗茶灰色砂質粘土
③ 角礫混じり暗黄褐色砂
④ 黄褐色砂質粘土
⑤ 黄褐色砂含みの角礫層（しまる）
⑥ 暗赤色粘土
⑦ 角礫含み暗黄褐色粘質砂
⑧ 黄褐色砂含みの角礫層
⑨ 角礫含み黄褐色妙質粘土
⑩ 暗黄褐色砂質粘土
⑪ 暗赤黄色粘質土



挿図6　第2主体部遺物出土状況拡大図

幅0.80m前後であろうと考えられ、長軸方向は、N—60°—Wをとる。また、床面直上に、長さ2.40m、幅0.30m、厚さ0.10mの規模で、赤色粘土が遺存していた。

掘り方は隅丸長方形を呈する3段掘りで、規模は1段目より（4.40×3.60—1.00）（4.10×2.40—0.14）（3.00×0.45—0.08）mを測る。

遺　物　埋土中より土師器片を検出したが、図化できたものとして、高坏坏部（Po 2）、器台脚部（Po 3）がある。

時　期　古墳時代前期後半（青木Ⅶ古）に位置づけられる。

4　29号墳第1・2主体部内遺物（刀子・剣・鏡）について

刀子〔F 1〕（挿図7、図版91）

刃部・茎部が欠損しており、茎尻は折れ曲がっている。残存長7.0cmを測る。長さ・幅・厚さは刃部が3.3—2.1—0.38cm、茎部が3.7—1.1—0.28cmである。刃部に木片が付着している。

鉄剣〔F 2・F 3・F 4〕（挿図7・8、図版91）

F 2は全長43.0cmを測る。長さ・幅・厚さは、刃部が30.0—2.5—0.48cm、茎部が13.0—1.6—0.5cmを測る。

F 3は全長32.2cmを測る。長さ・幅・厚さは、刃部が21.8—2.9—0.75cm、茎部が10.4—1.3—0.4cmを測る。

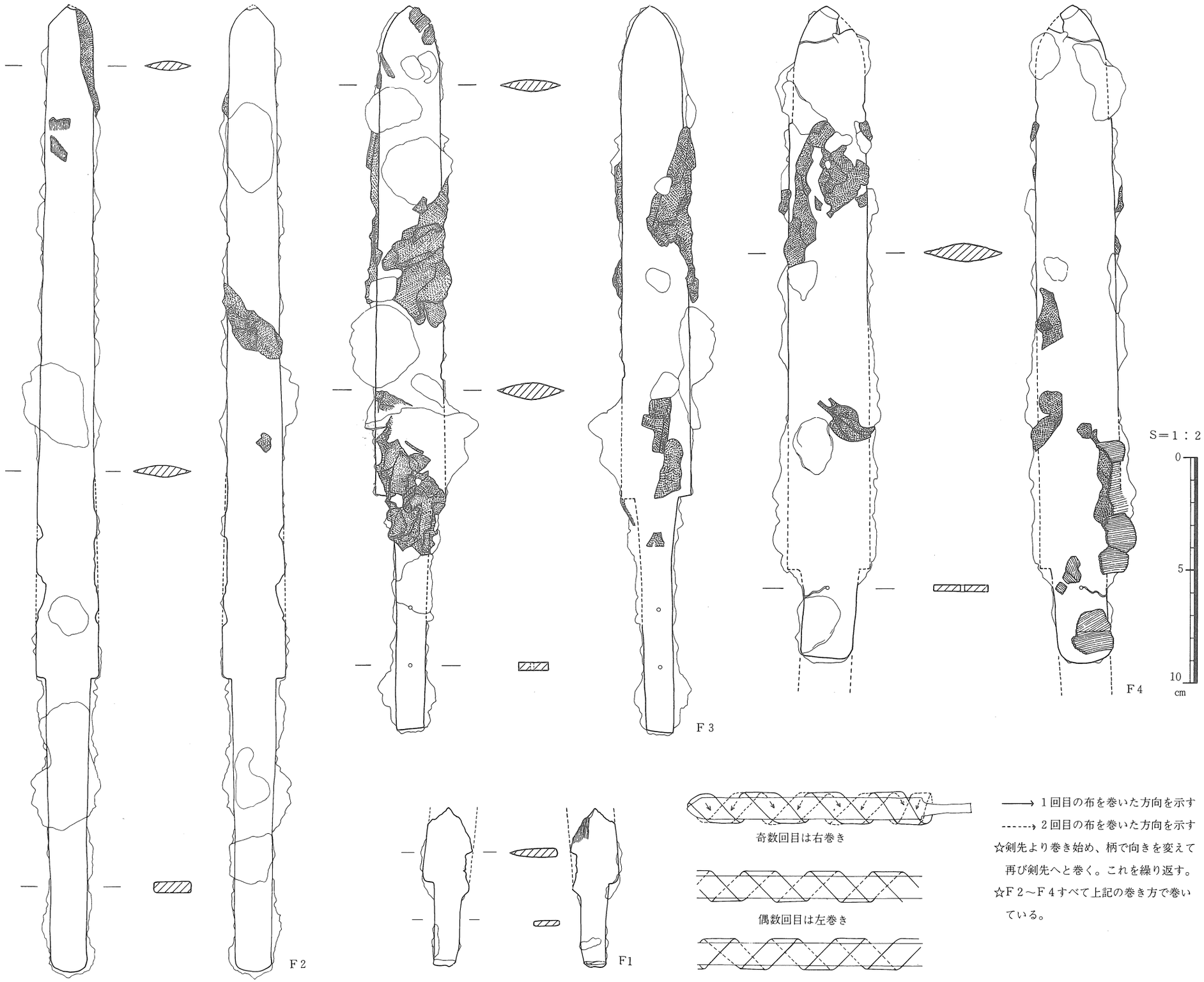
F 4は関部で折れ曲がり、茎尻は欠損している。また切先部も破損している。全長29.2cmを測る。長さ・幅・厚さは、刃部が25.0—3.5—0.7cm、茎部が4.2—2.4—0.3cmを測る。

F 2～F 4の3本とも、絹製の織物が巻かれている。観察によると、切先の方から巻き始め、奇数回目が右巻き、偶数回目が左巻きとなっており、3本とも同じ巻き方が行なわれている。なお、巻き数はF 2より、4回・5回・4回を数えた。また、3本とも木片が付着していたが、いずれも木目方向が剣先方向と合致しないこと、また、木片がF 2（裏側）、F 3（表側）、F 4（裏側）に付着する状態で検出されたことなどから、F 2とF 3はセットで、F 4は個別で、それぞれ木箱に納められていた可能性が考えられる。

銅鏡〔M 1〕（挿図6・9、図版91）

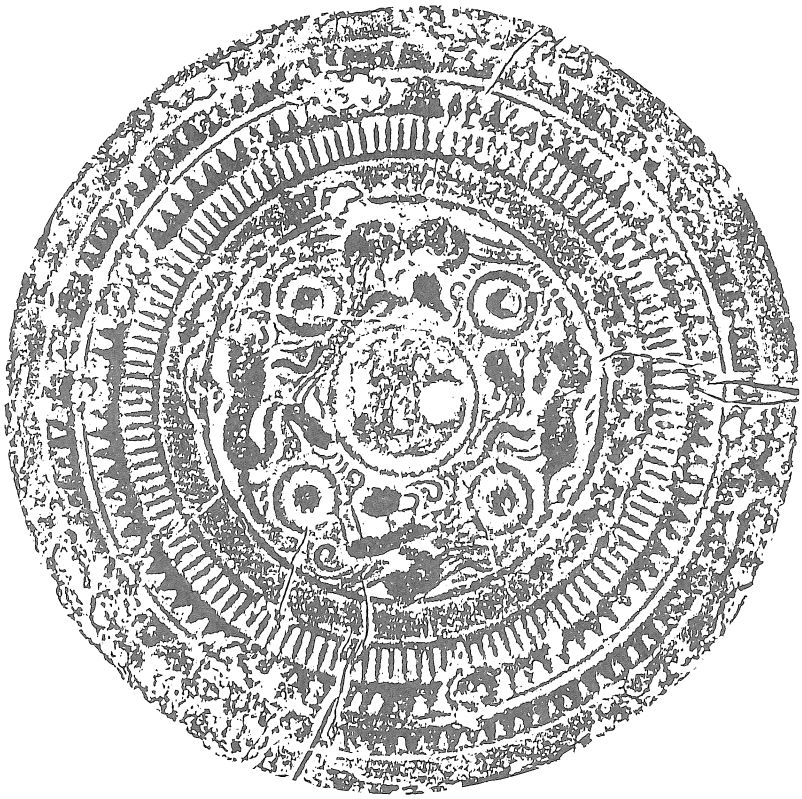
獣帯鏡（舶載）で、径10.8cm・厚さ（縁部）0.65cmを測る。鏡面に赤色顔料が付着した状態（挿図6のスクリントーン）で検出された。鏡背は、外区に外向鋸歯文、櫛歯文が施されている。斜縁式で、内区には乳を挟んで四像が配されている。鈕孔方向では、獣像が2体点対称に配され、もう一方では、獣像は、神像を上側に置くと、右側に右を向いた青龍（角あり）、左側に右を向いた白虎（角あり）、下側に左を向いた鹿（角があり二股に分かれている）が認められる。

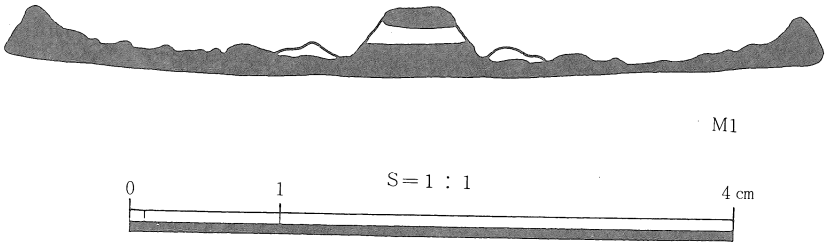
神像は左を向いており、冠を被っている。また鏡全体にわたって、数本の亀裂が認められる。銘帯に銘が入っているが、彫りの浅さと錆の付着で、全文は解読できなかった。解読できた4文字の配置から、銘文は右回りで、それは次の通りである。「□□□竟真・・・宜子・・」。



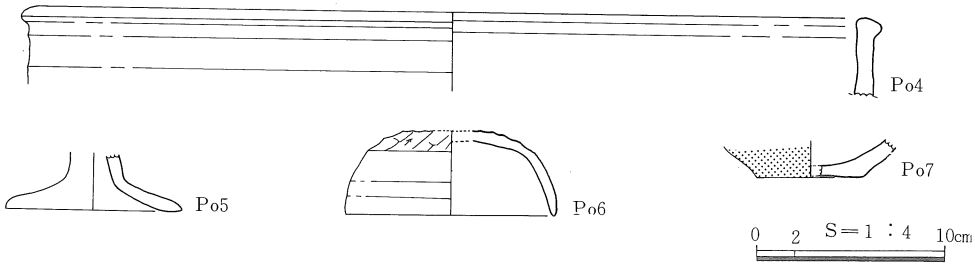
挿図 7　29号墳第 2 主体部遺物図 2

挿図 8　布の巻き方の模式図





挿図９　第２主体部遺物図３



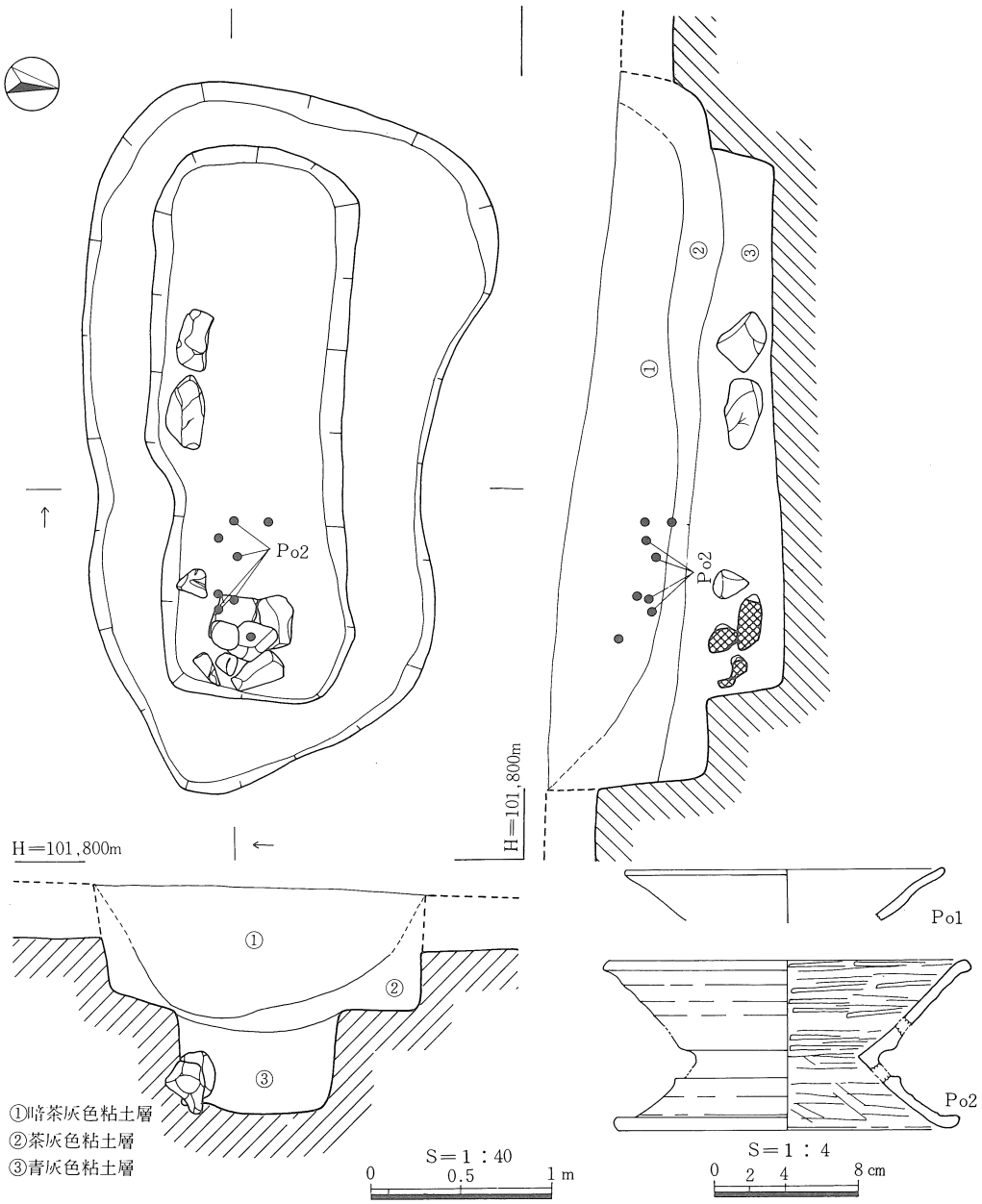
挿図10　29号墳周溝内・外遺物図

第２節　石州府30号墳

１　墳丘（挿図１・２、図版88・89）

土砂の流出及び削平によると考えられるが、調査前は台地状地形を呈していた。規模は不明である。南側で、周溝底から墳頂までの高さ1.0m を測る。なお、墳頂と思われる部分の標高は、約101.00m である。

遺物として、高坏坏部（Po１）を検出した。



挿図11　30号墳第１主体部遺構・遺物図

2　周溝（挿図１・２）

29号墳の周溝を切って、又は一部共有する形で存在するが、完周はしていない。規模は幅1.50ｍ、深さ0.80m 前後であろうと推測する。断面は「U」字状を呈し、埋土は１層よりなる。

3　主体部（挿図11、挿表１、図版90）

台地状地形中央の南東寄りに位置する。

埋葬施設　木棺痕跡は確認できなかったが、掘り方内の南側に並ぶ二個の石が、木棺の側板の固定に使用されたと考えられることから、埋葬形態は木棺であろうと推定される。掘り方は、ほぼ隅丸長方形を呈する二段掘りで、規模は１段目より（4.0×1.80～2.20－0.50～0.90）(3.10×0.94～1.10－0.40～0.60）ｍを測る。長軸方向は、N－80°－Eをとる。掘り方内の東側に石が集中しており、枕であろうと考えられる。

遺　　物　埋土中より、土師器片を検出したが、図化できたものとして鼓形器台（Po２）がある。

時　　期　古墳時代前期後半（青木Ⅶ古）に位置づけられるが、切り合い関係から29号墳よりも新しい。

第３節　まとめ

本地域周辺における古墳時代前期の古墳として、普段寺１号墳・２号墳、日原６号墳、青木遺跡古墳群等が知られているが、本調査によって石州府29号墳・30号墳の両方とも、古墳時代前期後半の古墳であることが確認された。特に、石州府29号墳が、舶載鏡を伴う小さな円墳であるということは注目すべきであろう。石州府古墳群は、従来古墳時代後期の群集墳と考えられてきたが、(註１)本調査によって、前期古墳の存在が明らかとなった今、本地域及び周辺（特に日野川右岸）に所在する古墳群について、再検討する必要があるのではないかと考える。今後の調査・研究に期待する。

註１　「米子市　石州府遺跡群発掘調査報告書Ⅰ　国営大山山麓開拓建設事業に伴う埋蔵文化財試掘調査」1983・３　米子市教育委員会

「米子市　石州府遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　国営大山山麓開拓建設事業・県道米子環状線道路改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査」1984・３　米子市教育委員会

挿表１　石州府古墳群遺物観察表

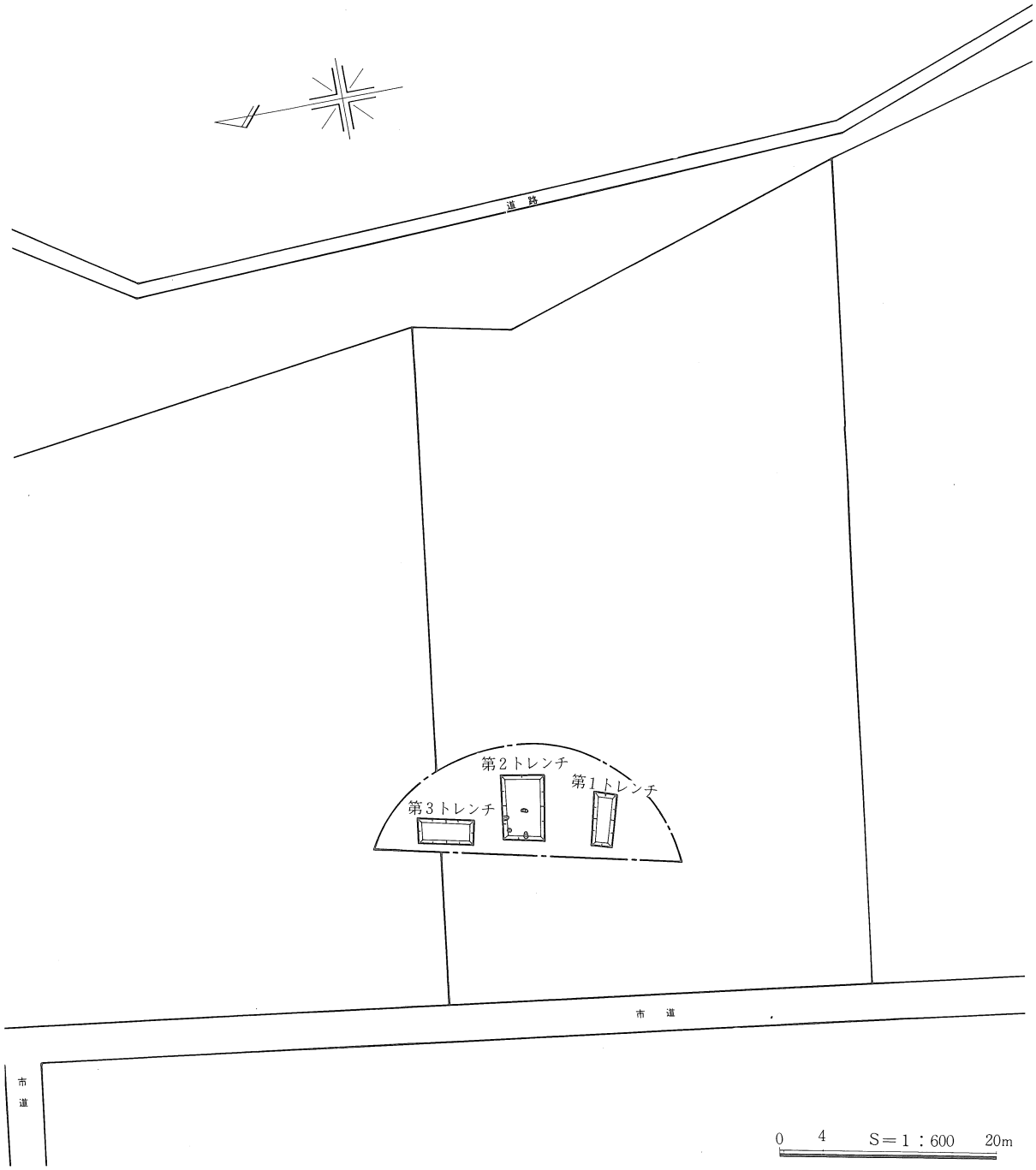
石州府29号墳

挿図番号 遺物番号	出土場所	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図５1 (Po１)	第２主体部	９３	甕	復元口径10.7cm	口縁部は外反し、口縁端部はつまみあげて、丸く終わる。	口縁部内外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り頸部外面横ナデ。	胎土：１mmの石英、長石を含む 焼成：良好 色調：内〕外〕淡黄褐色
挿図５ (Po2)	第３主体部	５２	高坏 (坏部)	復元口径16.5cm	体部はやや内湾気味に外反し口縁端部にやや凹みが見られる。	内外面横ナデ。	胎土：１mm大の石英、長石を含む 焼成：良好 色調：内〕外〕淡黄褐色
挿図５ (Po3)	第３主体部	５１	鼓形器台 (脚部)	復元底径16.7cm	「ハ」の字状に開く裾部をもつ。	内面脚端部横ナデ。脚部ヘラ削り。外面横ナデ。	胎土：雲母、小砂を多く含む 焼成：良好 色調：内〕外〕淡黄褐色
挿図10 (Po4)	周溝内	６８	壺	復元口径45.6cm	口縁部上方へやや直立気味にのび、口縁端部は外へ肥厚し丸い。	内外面横ナデ。	胎土：小砂を含む 焼成：不良 色調：内〕外〕淡褐色 内面スス付着
挿図10 (Po5)	周溝外	８０	高坏 (脚部)	復元底径 9.3cm	「ハ」の字状に開く裾部をもつ脚部。	外面横ナデ。内面脚部は横ナデ。柱状部に絞りが見られる。	胎土：砂粒、石英を多く含む 焼成：良好 色調：内〕外〕黄褐色
挿図10 (Po6)	周溝外	７５	蓋 (須恵器)	復元口径　11cm 復元器高 4.4cm	口縁部は外傾し、口縁端部は丸い。なだらかなカーブを描き天井部へつづく。	内面横ナデ。外面横ナデ、天井部不規則なヘラ削り。	胎土：小砂を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕淡褐色
挿図10 (Po7)	周溝内	１３	坏	復元底径 5.6cm	平底の底部から外方へ開くようにたちあがる坏部。	内外面剝離のため不明。底部回転糸切り。	胎土：砂粒を多く含む 金雲母を含む 焼成：良好 色調：内・明黄褐色 外・赤褐色 外面赤色塗彩

石州府30号墳

挿図番号 遺物番号	出土場所	取上げNo	器種	法　量	形態の特徴	手法の特徴	備　考
挿図11 (Po1)	墳丘	７８	高坏 (坏部)	復元口径17.6cm	外方に開く坏部。口縁端部は面を意識して丸く終わる。	内外面横ナデ。	胎土：0.5mmの石英、長石を含む 焼成：普通 色調：内〕外〕明茶褐色
挿図11 (Po2)	主体部	62・91 81・64 60・65 59 (接合)	鼓形器台	復元口径20.2cm 復元底径　19cm 復元器高 9.3cm	受部外方に大きく開く。口縁端部は下方へ肥厚して丸く終わる。受部の稜は鈍い。脚部「ハ」の字状に大きく開く。脚部の稜は鈍い。脚端部上方へ肥厚して丸く終わる。	受部内面ヘラ磨き。受部外面横ナデ。脚部内面ヘラ削り。脚部外面横ナデ。	胎土：砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：内〕外〕赤橙褐色

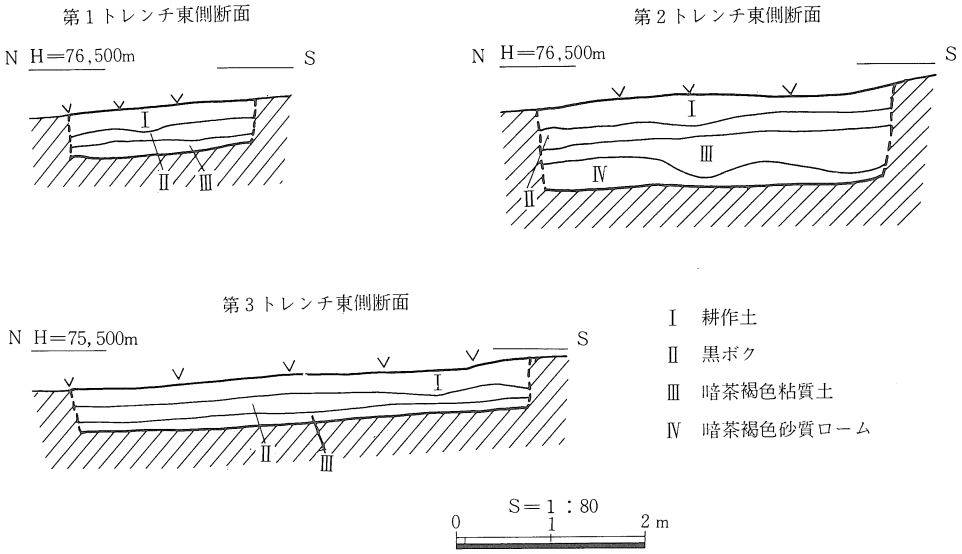
第６章　石州府第１遺跡



挿図１　石州府第１遺跡トレンチ位置図

石州府第１遺跡（挿図１・２、図版92）

日野川右岸の河岸段丘上に立地し、現在は、畑地、桑畑として利用されている。試掘トレンチ（Ｔ１～Ｔ３）を入れたが、Ｔ２より土師器１片（実測不可）を検出したのみで、遺構は確認しなかったため、調査を終了した。



挿図２　石州府第１遺跡断面図

調 査 関 係 者 名 簿

財団法人鳥取県教育文化財団

理　事　長　　西尾　邑次

副 理 事 長　　坂田　昭三

常任理事兼事務局長　　平木　安市

埋蔵文化財センター

次　　長　　田中幸次郎

庶 務 係 長　　竹内　　茂

西部埋蔵文化財調査事務所

所　　長　　永原　　功

調　査　員　　長岡　充展、松本　琢己、笹尾千恵子、太田　正康

調査補助員　　野崎　正美

発掘調査・室内整理作業従事者

飯塚露子、飯塚富吉、大塚和子、幸形勝男、幸形さえこ、幸形貞枝、川上弓子、西村武夫
原珖子、立花靖子、松岡かづ子、松原孝雄、松原君枝、松原昇、山崎巧枝、井沢牧子
井上佳代、井上みのり、内田千登世、仲田茂子、長井千歳世、野坂綾子、野坂貞子、野坂真
野坂好夫、福田崎枝、渡辺由美枝、渡辺義行、遠藤和子、岡本恵美子、岡本千鶴子、影山誠
米山喜美枝、下村君子、下村磨理枝、畠繁秋、森田重晴、森田美津枝、仲田茂、山本邦丈
鈴木茂雄、森下秀夫、吉岡幹江、上田千恵子、林原由美子、石本茂雄、大塚夏枝、村上美之
渡辺文江、泉清朗、井上幸恵、井上千歳、大谷淑江、奥田末子、加川都、加川節子、加藤智恵子
加藤美津子、加藤充代、河本寿恵子、小杉久美子、佐藤節子、高木八代枝、田中貞代、田中専治
中曽由美、野々村恵美子、福島栄、矢田貝真澄、山上勝子、山根由喜枝、植田玉枝、柏崎恵子
木下道代、針田百合子、船岡幹子、前田節子、前田衛、松井嘉子、松波綾子、松本堅、松本良子
山口富美江、山村節子、金山勢津子、石崎麻子、奥田蔦子、上坂良治、梶原弘、宗政久和子
濱田直美、松下恵美子

（敬称略）

鳥取県教育文化財団報告書17

中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

上福万遺跡・日下遺跡
石州府第1遺跡・石州府古墳群

（本文編）

発　行　1985・10
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
〒680 鳥取県社会教育福祉会館内
TEL (0857) 26—0920
印　刷　谷　岡　印　刷
TEL (0857) 26—2001